

1855

第一〇

現品別送

陸軍省受第 三〇 五月七日

參密第二八號

書類送付、件通牒

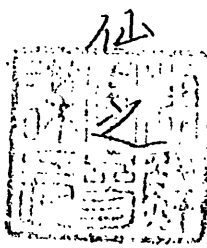
大正十五年五月三日 朝鮮軍參謀長林

陸軍省副官中村孝太郎殿

左記書類送付ス

左記

間島出兵史 二部



1856

秘

間島出兵史

朝鮮軍司令部

目次

第一章	出兵前ノ情況	一
第一節	間島地方不逞鮮人ノ概況	一
第二節	間島地方不逞鮮人取締ニ關スル日支交渉ノ經過	五
第三節	間島地方不逞鮮人剿討計畫	三
第四節	吉林督軍顧問一行ノ入間ト支那側ノ不逞鮮人取締情況	三
第五節	間島地方ニ於ケル支那軍隊	四
第六節	二回ニ亘ル馬賊ノ輝春襲撃	五
第七節	輝春及間島地方緊急出兵	三
其一	輝春方面	三
其二	間島方面	三
第八節	軍司令官ノ匪賊剿討ニ關スル意見具申	三
第九節	軍參謀ノ上京	三

第二章 作戰行動

第一節	剿討準備	三
第二節	剿討實施決定當時ニ於ケル琿春及間島方面不逞鮮人情況	三
第三節	作戰命令受領並軍命令ノ下達	三
第四節	日支協同討伐ニ關スル協定	三
第五節	第十九師團ノ剿討行動	三
其一	師團長ノ處置	三
其二	礮林支隊	六
其三	木村支隊	六
其四	東支隊	七
其五	國境守備隊	七
イ	惠山鎮方面	八
ロ	茂山方面	八
ハ	會寧下流地區	八
其六	航空隊	八

其七	通信	四
イ	有線電信電話	四
ロ	無線電信	六
ハ	鳩通信	六
其八	人衛生及馬衛生	七
イ	人衛生	七
ロ	馬衛生	七
其九	兵站	七
其十	憲兵	七
其十一	主力部隊ノ撤退	九
第六節	歩兵第二十八旅團ノ行動	一〇
第七節	第二十師團長ノ處置	一〇
第八節	第十九師團ニ策應スル浦潮派遣軍一部ノ行動概要	一〇
其一	土門子支隊	一〇
其二	羽入支隊	一〇
目次		三

其三	安西支隊	一一
第九節	間島事件ニ關聯スル警察官ノ行動概要	一一
第十節	西間島方面關東軍ノ示威行動概要	一二
第十一節	支那軍隊行動事項	一三
第三章	普傳及涉外事項	一四
第一節	外國人ノ批難中傷	一五
其一	英米人	一六
其二	支那人	一七
其三	上司ヨリノ注意事項	一八
第二節	間島宣傳班	一九
第三節	其他ノ宣傳並連絡	二〇
第四節	歸順者ノ取扱	二一
第五節	涉外事項ノ概要	二二
第四章	出兵ノ効果	二三
第一節	直接ノ効果	二四

1861

第二章	間接ノ効果	一四
第五章	主力撤退後ニ於ケル情況	一四
第一節	一般ノ情況	一四
第二節	間島派遣隊	一五
第三節	軍司令官張巡閱使ト會見協定事項	一五
	附日支國境會巡暫定辦法案	一五
第四節	支那軍隊	一六
第五節	胞胎山附近ニ於ケル馬賊討伐	一六
第六節	領事警察官ノ分置	一七
第七節	救恤	一七
第八節	殘置部隊ノ撤去	一七
第九節	間島連絡班ノ設置	一七
第六章	將來ニ對スル所見並參考事項	一七
第一節	編成裝備	一七
第二節	戰術	一八

目

次

五

第十三節	補遣	三〇
第十二節	憲兵及警察官	二八
第十一節	歸順	二六
第十節	宣傳	二四
第九節	人衛生、馬衛生	二二
第八節	補給及給養	二〇
第七節	兵器	一八
第六節	教育	一六
第五節	兵站	一四
第四節	通信	一二
第三節	諜報	一〇

間島出兵史

第一章 出兵前ノ情況

第一節 間島地方不逞鮮人ノ概況

日韓併合前後ニ於ケル時事問題ニ嫌ラサルノ徒ハ相率ヒテ國境外ニ亡命シ其多クハ彼等ノ根據地ヲ比較的鮮人移住者ノ數多キ接壤露支領土内ニ求メ我行政權ノ及ハサルヲ奇貨トシ該地方ニ散在セル嚙味ナル鮮人子弟ヲ集メテ獨立興韓ノ思想ヲ鼓吹シ或ハ外人宣教師後援ノ下ニ布教ノ美名ニ藉口シテ排日思想ノ宣傳ニ努メ或ハ世界各地殊ニ上海北京布哇米國等ニ於ケル同志ト氣脈ヲ通シ輿論ノ同情ヲ喚起シ第三國ノ援助ヲ得テ目的達成ヲ萬一ニ僥倖セント策シツツアリシカ偶々歐洲戰爭ノ結果民族自決小弱國獨立運動起ルヤ好機到レリトナシ總督政治ニ不滿ヲ懷ケル鮮内不良分子ト結ヒ内外相呼應シテ大正八年三月ニ於ケル獨立騷擾事件ヲ惹起スルニ至レリ

爾後鮮外殊ニ間島地方ノ不逞鮮人ハ漸次其勢ヲ加ヘ獨立光復ヲ標榜シテ盛ニ徒黨ヲ糾合シ所在鮮人ニ對シテ金穀ヲ強徵スルト共ニ一面百方手段ヲ講シテ排日思想ノ昂上ニ努メ韓國獨立ノ可能ヲ宣傳シタル爲時勢ニ暗キ一般鮮人ノ之ニ共鳴スルモノ多ク時日ノ經過ト共ニ其勢力頓ニ増大シ或ハ支那官憲ト妥協シ或ハ露國過激派ト提携シテ逐次武力ヲ蓄ヘ其行動ハ益々辛辣露骨ナルニ至レリ

大正九年ニ入リ一月上旬龍井村近郊ニ於テ朝鮮銀行券十五萬圓掠奪事件アリ遂ニ彼等ノ毒手ハ江岸地方鮮内地ニ進展シ來リ三月ヨリ穩城地方武裝不逞團ノ進入稍頻繁トナリ五月中旬輝春韓民會ノ一派金雲瑞ノ率ユル不逞鮮人十餘名ハ鮮内ニ侵入シ慶源西方雲霧嶺附近ニ於テ我郵便遞送人ヲ襲ヒ憲兵補ヲ殺害スルアリ第十九師團ハ兵ヲ出シテ之ヲ剿討シタルモ遂ニ之ヲ逸セリ六月上旬南陽對岸地方ヨリ武裝不逞鮮人二十餘名越江侵入シ我守備隊ハ之ヲ追撃シ對岸ニ進出シタルモ其後方ニハ稍有力ナル賊徒アリ小數部隊ノ孤立ハ危險ナルモノアリシヲ以テ第十九師團長ハ左記大正八年九月十二日朝參密第九〇六號訓令ノ主旨ニヨリ獨斷ヲ以テ直ニ羅南ヨリ安川少佐ノ指揮スル步兵二中隊ヲ基幹トスル追撃隊ヲ編成派遣シタルカ該隊ハ風梧洞附近ニ於テ約二百ノ賊ト衝突シ交戰約四時間ニ亘リ若干ノ死傷者ヲ

出シ遂ニ之ヲ難退セルカ如キ具體的顯著ナル事件ヲ惹起セリ
 斯ノ如ク彼等ノ武力的色彩ハ逐次濃厚トナリ其勢力侮ルヘカラサルモノアルニ至
 ヲ何等カノ方法ヲ以テ斷乎タル處置ニ出ツルニアラスンハ其禍害ハ頓ニ増大スヘ
 キノ狀態トナレリ
 其概況附圖第一ノ如シ
 朝鮮密第九〇六號

對不逞鮮人作戰ニ關スル訓令

一、不逞鮮人ハ國際聯盟會議ニ於ケル獨立運動ニ策應スル爲一面ニ於テ武器ヲ携
 帶シ江ヲ越ヘテ鮮内地ニ進入シ金ツルト同時ニ鮮内地ニモ騷擾ヲ惹起セント
 スルモノノ如シ
 二、鮮外ヨリ武力進入ヲ企圖スル不逞鮮人團ニ對シテハ之レニ殲滅的打撃ヲ加フ
 ヘシ

追撃ノ爲要スレハ鮮外ニ進出スルヲ得

鮮内ノ騷擾ニ際シテ軍隊ノ出動ヲ要スル場合ニアリテハ其初期ニ於テ迅速ニ
 鎮壓ノ目的ヲ達成スルニ努ムヘシ

第二章 出兵前ノ情況

四

三、第二十師團長ハ江岸方面ニ於ケル對不逞鮮人作戰及鮮内地騷擾鎮壓ノ初期ニ於テ歩兵三大隊騎兵一小隊ヲ龍山ニ殘置シ予ノ直轄タラシムル如ク計畫シ置クヘシ

歩兵第七十九聯隊ノ機關銃隊(六銃編成)ハ第十九師團長ノ使用ニ供シルノ準備ニアルヘシ其編成其ノ他ノ細部ニ關シテハ別ニ指示ス

四、豆滿江岸守備歩兵部隊ニ羅南部隊替備用彈藥ヲ以テ一銃ニツキ五十發ヲ増加スヘシ但シ在會軍守備隊ノ爲ニハ演習用彈藥ヲ一時使用スル如ク計畫シ置クヘシ

鴨綠江岸守備隊ニハ咸興及龍山部隊替備用彈藥ヲ以テ一銃ニツキ二百發ヲ増加スヘシ

右補充ハ追テ命令ス

五、師團長ハ江岸ヲ越エテ進入スル不逞鮮人ニ對スル作戰及鮮内地ニ於ケル騷擾鎮壓ニ關スル計畫ヲ立案シ速ニ本職ニ呈出スヘシ

大正八年九月十二日

軍司令官 宇都宮 太郎

第十九師團長 子爵高島友武殿
第二十師團長 淨法寺五郎殿

朝參密第九六四號

渡江追撃ニ關スル件通牒

大正八年九月二十六日

軍參謀長 大野 豊 四

第十九師團參謀長 白石 通則 殿
第二十師團參謀長 西田 友幸 殿

九月十二日朝參密第九〇六號訓令第二項中追撃ノ爲鮮外ニ進出スルヲ得ル場合ニ
鮮外ヨリ侵入ヲ企圖セル武裝暴徒ヲ擊攘シ直接之ニ尾シテ渡江シ得ル場合ニ
限ル意ナルヲ以テ一般ニ徹底セシメ置カレ度依命及通牒候也

第二節 間島地方不逞鮮人取締ニ關スル

日支交渉ノ經過

第一回ノ奉天會議並南滿洲地方搜查班ノ派遣

大正九年五月上旬奉天吉林兩省不逞鮮人檢舉ニ關スル用務ヲ帶ヒ奉天ニ到リ
朝鮮總督府赤池警務局長ノ一行ハ該地ニ於テ赤塚總領事齋藤吉林督軍顧問町野
奉天督軍顧問其他ノ關係者ト協定シ張巡閱使ニ要求ノ結果奉天省内及間島方面
ノ檢舉ヲ實施スルコトトナレリ

第一章 出兵前ノ情況

五

第二章 出兵前ノ情況

六

奉天省内ニ於テハ上田坂本兩警察顧問ヲ長トシ之ニ我憲兵及警察官並支那巡警及鮮人若干ヲナル搜查班ニ班ヲ以テ安東、寬甸、桓仁、輯安、臨江及撫順、興京、柳河、海龍方面ニ出動シ獨立團並韓族會ニ屬スル不逞者ノ檢舉ニ着手スルニ至レリ。

間島方面ニ於テモ亦搜查班ヲ編成シ町野督軍顧問ヲ派遣スルコトニ決定シ町野中佐ハ之カ打合ノ爲メ五月十七日吉林ニ至リ吉林省長徐鼎林ト會商セシカ省長ハ之ニ反對シ不逞鮮人ト稱スルモノハ何レモ政治犯人ナルカ故ニ支那ハ之ヲ剿討スヘキ理由ナク又間島方面ヨリノ報告ニ依レハ該地方ニハ大ナル騷擾ナキカ如ク殊ニ之カ取締ニ關シテハ既ニ規定ヲ設ケ道尹以下ヲシテ實施セシメツツアリトノ理由ヲ以テ之ニ應セス茲ニ於テ張巡閱使ハ此際強制的ニ搜查ヲナスコトヲ見合セ徐省長ヲシテ期限ヲ定メテ責任アル取締ヲ實行セシメ其結果希望ノ如クナラサル場合ニ於テ爾後ノ處置ヲ探ルヲ可トスヘシト申出タルヲ以テ間島方面ノ實行ハ一時行惱ノ姿トナレリ之カ善後策ニ關シ赤塚總領事ハ總督府警務局事務官及朝鮮軍參謀ノ來奉ヲ求メタリ。

第二回ノ奉天會議及其後ノ經過

五月二十九日赤塚總領事町野顧問、丸山總督府事務官、平松軍參謀等ハ奉天總領事

館ニ會同シ爾後ノ方針ニ關シ次ノ協定ヲナセリ

從來ノ行懸リモアリ今後約一ヶ月ヲ期シ吉林省長ヲシテ取締ヲ實施セシメ狀勢ヲ觀察シ其結果ニ基キ日支協同搜查(名義上日支協同搜查ト稱スルモ日本側カ主動ノ位置ニ立テ檢舉ヲ實施セントスルニアリ)ヲ實施ス即與ヘラレタル猶豫期間ニ於テ之ニ關スル諸準備ヲ完了シ搜查ヲ實施セントス
搜查實施ニ關スル細部ノ具体的方策ハ近ク町野中佐ノ來城ヲ求メ朝鮮總督府及朝鮮軍ト協議ノ上決定ス

六月七日町野顧問ハ京城ニ來リ軍及總督府ト協議ノ結果總督府ノ希望ニ依リ協同搜查ノ實施ニ關シ右協定ノ趣旨ヲ左ノ如ク若干變更スルニ至レリ

六月七日頃ヨリ七月七日頃ニ至ル一ヶ月間ヲ期限トシ徐省長ヲシテ取締ヲ實施セシメ其效果ヲ見サルニ於テハ赤塚總領事ヲ介シ張巡閱使ニ左ノ如ク交渉ス

當分ノ間江岸附近ニ於テ日支協同搜查ヲ實施シ得ル如クス之ト同時ニ支那側ヲシテ搜查班ヲ編成セシメ之ニ町野顧問其他我カ憲兵警察官若干ヲ附シ奧地方面ノ檢舉ヲ實施ス但此要求ハ稍長期ニ亘リ支那領土内ニ我カ權力ヲ行使ス

第一章 出兵前ノ情況

ルコトトナルヲ以テ若シ張巡閱使ニシテ之ニ應セザルトキハ前掲ノ如ク一時
的ノ日支協同搜查ヲ實施スル如ク交渉ス
爾後一箇月ヲ經過スルモ支那側ノ取締ハ依然不徹底ナルタメ間局方面不逞鮮
人ノ情況ハ益々惡化シ到底警察力ノミニ依リ徹底的掃蕩ヲ望ムヲ得ス結局兵
力ヲ以テスルニアラサレハ效果ヲ舉クルヲ得サルニ至リシヲ以テ此際既述セ
ル江岸附近ニ於ケル日支協同搜查ノ權利ヲ得ルト共ニ兵力ヲ以テスル徹底的
掃蕩ヲ實施スルニ必要ナル承認ヲ得ルノ要アルニ至レリ

又一方ニハ我カ外務大臣發小幡公使宛電訓ニ基キ森田吉林總領事ト徐吉林省
長トノ間ニ交渉中ナル日支協同調査(日支協同搜查)ノ意ニ關スル事情ヲモ聴取
スル爲メ第三回ノ奉天會議ヲ開催セリ

第三回ノ奉天會議及其後ノ經過

七月十六日大野朝鮮軍參謀長貴志關東軍參謀長代理齋藤町野兩顧問國友朝鮮總
督府警務課長平松朝鮮軍參謀相易總督府通譯官ハ赤塚領事ト奉天總領事館ニ會
同シ協議ノ結果左記覺書ノ如ク赤塚總領事ヲ通シ張巡閱使ニ交渉スルニ決セ

張督軍ニ要求書事項覺書

- 一、江岸ニ帶接壤地方ニ於ケル日支協同捜査ヲ隨時實施シ得ルコト
- 二、必要ノ時機某期間ヲ限リ支那軍隊ト協同ノ名義ノ下ニ我カ軍隊ヲ以テ掃蕩ヲナスコトノ承諾ヲ得ルコト

七月十六日夜赤塚領事張督軍ト會見ノ結果左ノ如シ

- 一、第一項ニ就テハ概ネ諒解ヲ得タルカ如キ狀況ナリシモ筆記セルモノ提出ヲ希望セリ

- 二、第二項ニ就テハ張督軍トシテハ諒解シアルモ事吉林省内ニ屬スルヲ以テ之ト談合(鮑督軍ハ當時奉天ニアリ)ノ上確タル回答ヲナスヘキニ付具體的案ノ筆記提出ヲ希望セリ

右具體的案ハ町野顧問、赤塚總領事ト協議ノ上左記事項ヲ蒐錄シ張督軍ニ提出スルコトトセリ

- 一、軍隊ヲ以テスル掃蕩期間ハ約二ヶ月トス
- 二、出動兵力ハ約一聯隊ヲ基幹トセルモノ
- 三、地域ハ間島及其附近(龍春及東寧ノ兩縣ヲ含ム)

第二章 出兵前ノ情況

七月二十四日赤塚總領事ハ張作霖ニ會見シ、交渉シタルカ結局彼ハ左ノ申出ヲナセリ

一、支那軍隊ニ吉林督軍顧問齋藤大佐ヲ附シ討伐ヲ實施シ若シ援助ヲ要スルニ至ラハ日本軍隊ノ來援ヲ乞フノ策ヲ至當トセン而シテ實施ノ時機ハ準備出來次第直ニ着手スルモ可ナリ

二、日支協同搜查ハ各地方毎ニ該地方官ト協議シ局地問題トシテ解決實施スルヲ穩當ナリトス之カ爲メ豫メ上司ヨリ各地方官ニ此旨諭達シ置ケハ可ナリ

三、以上ハ饒吉林督軍モ承知シアレハ右ノ方針ニ依リ着手セラレタシ
赤塚總領事ハ貴志少將ヲ通シ目下ノ狀況上右ノ方法ニヨル外講スヘキ手段ナキモノト認ムル旨通牒シ來レリ

八月十三日齋藤大佐ハ吉林督軍署參謀二名兵卒若干ヲ伴ヒ京城ニ到着セルモ饒吉林督軍顧問ニ與ヘタル任務ハ單ニ間島方面ノ情況ヲ調査シ取締ノ方針ヲ指導スルニ止マリ何等支那軍隊ヲ以テスル討伐ノ事ニ及ハス且吉林ニ於ケル總領事對省長ノ交渉モ進捗面白カラサルヲ以テ八月十五日次ノ協議ヲナセリ

京城會議

八月十五日大野軍參謀長赤池警務局長太田憲兵隊司令部高級副官其他ノ關係者
ヘ總督府ニ於テ齋藤顧問ト會同シ間島不逞鮮人掃蕩ニ關シ左ノ如ク決定セリ

一、支那官憲カ不逞鮮人ノ取締ヲ聲明セルニ付此際齋藤大佐監視ノ下ニ支那ヲ
シテ不逞鮮人ノ搜索討伐ヲ實行セシムルコト

若シ支那官憲ノ搜索取締ニシテ誠意ヲ缺キ又ハ其努力不充分ナリト認ムル
トキハ其都度警告ヲ與ヘ日支協同搜查ハ勿論必要ノ場合ニハ支那官憲ヲシ
テ日支協同討伐ノ實行ヲ請求セシムル事

二、江岸附近ニ於ケル日支協同搜查ニ關シテハ奉天方面ノ協商進捗ヲ圖ルト同
時ニ齋藤大佐ハ支那當該地方官ト交驩シ回滑ニ之カ實行ヲ妥協スル事

以上ノ如ク協定セルモ兵力ヲ以テスル日支協同討伐ハ其影響スル所大ナルヲ以
テ強制的ニ我ヨリ兵力ノ應援ヲ乞ハシムルハ適當ナラサルカ故ニ大勢ヲ之ニ導
クカ如クシ出先官憲相互ノ諒解ノ許ニ之ヲ實施シ累テ國交ニ及ホササル如クス
ルコトヲ以テ軍爾後ノ方針トセリ

右交渉ノ經過ハ逐次參謀長ヨリ上司ニ通牒スルト共ニ其諒解ヲ得ヘク努メタリ萬
一ノ場合ニ於ケル經費關係ニ於テモ亦然リ

第三節 間島地方不逞鮮人剿討計畫

大正九年七月第三回奉天會議以後軍ハ兵力出動ノ場合ヲ顧慮シ之カ剿討計畫(附錄第一參照)ノ立案ニ着手セリ八月二十日浦潮派遣軍ニ對シテ之カ實施ニ際シ草帽頂子土門子及三岔口羅子溝方面ニ各一部隊ヲ出シ我軍ト策應ノ件ヲ交渉シ其内諾ヲ得タリ又之ニ要スルノ兵器經費等ニ關シテハ陸軍省及參謀本部ニ内議申請ヲナセリ之カ總經費ハ二十八萬圓ト概算セリ

本計畫ノ發令ハ時恰モ軍司令官ノ交迭ニ會シタルヲ以テ計畫案トシ參謀長ヨリ九月二日隷下ニ内報シ經費ヲ要セサル範圍ニ於テ準備計畫スヘク通牒セリ

本計畫ニ關シ陸軍省軍務局當事者ハ其後上京中ナリシ神村軍參謀ニ對シ本計畫ニ關聯シ間島地方不逞鮮人剿討計畫並所要經費ハ中央部ニ於テ其必要ヲ認ムルニ至ラハ閣議ニ提出決定ノ上徹底的ニ實施スヘキ腹案ナルヲ以テ軍ニ於テモ十分慎重ニシ出先官憲相互ノ協定ノミニヨリテ實施スルカ如キコトハ之ヲ避クヘキ旨語ル所アリ

第四節 吉林督軍願問一行ノ入間及之ニ件フ

支那側ノ不逞鮮人取締狀況

吉林督軍願問齋藤大佐一行ハ八月十六日京城ニ於ケル協定ニ基キ先ツ支那側ヲシテ不逞鮮人ノ討伐ヲ實行セシメ要スレハ日支協同搜查ハ勿論進テ日支協同討伐ノ實行ヲ請求セシムル如ク指導ノ爲八月十七日京城發問島ニ向ヘキ軍ヨリモ之カ狀況視察ノ爲平松參謀ヲ同行セシメタリ

右一行ハ八月下旬局子街ニ到著シ齋藤大佐ハ陶延吉道尹孟團長ト會見交渉ノ結果當時在問島支那軍隊ノ多數ハ馬賊討伐ノ爲他ニ出動シアル關係上兵力不足スルカ故ニ齋藤大佐ノ名ヲ以テ吉林督軍及省長ニ步兵二大隊山砲四門ノ増加ヲ要求シ徹底底の剿討ヲ實施スヘク協定セルモ督軍ハ要求セル兵力ヲ増派セス在問島支那官憲亦不退團ノ存在ハ支那ノ國權ヲ侵入スモノナリト訓示ヲ出スモ裏面ニ於テハ日本側ノ交渉嚴重ニシテ已ムヲ得ス解散ヲ命スルモノナリト哀願的ニ不退團ニ交渉シテ其ノ根據地ヲ他ニ移轉セシメ然ル後軍隊ハ討伐ト稱シテ其地ニ至リ申譯的ニ

第一章 出兵前ノ情況

一四

彼等ノ殘セル兵營等ヲ破壊シ表面ヲ糊塗スルニ止リ一モ國際信義ノ認ムヘキモノ
ナク支那側ノ取締ハ其結果却テ益々不逞鮮人ニ排日思想ヲ注入セシムルモノニシ
テ不逞鮮人ノ取締ヲ之ニ一任スルハ全然失敗ニ終ルヘキコトヲ一層明確ナラシメ
我カ軍隊ヲ以テスル剿討ノ緊要已ムヘカラサルモノアルヲ確証スルニ至レリ

第五節 間島地方ニ於ケル支那軍隊

間島及琿春地方ニ於ケル支那軍隊ハ素質不良ノ集團ニシテ極言スレハ苦力ニ軍服
ヲ着セシメタルモノニ過キス

一、兵力 延琿春地方ニ駐屯スル總兵力ハ大正九年五月末ニ於テ歩兵四大隊、工兵

一大隊騎兵一小隊(八、九月ノ交一大隊トナレリ)ニシテ其一大隊(營)ハ五百ヲ定員
トスルモ實數三百ニ充タス一中隊(連)僅ニ六、七十名ニ過キサル現況ニアリ

二、配備 多クハ馬賊乃至地方鼠賊ニ對スル關係上分散配置ヲナシアルヲ以テ之
カ集結ハ至難ノ狀況ニアリ

三、素質 巡防隊ヲ改編シタルモノニシテ營長以上ノ將校ト雖軍事的素養ニ乏シ
ク其多クハ卒伍若クハ綠林出身ニシテ從テ其威令十分行ハレス

下士、兵卒ニ至リテハ殆ント苦力ト擇フ所ナク極端ナル彈藥節約ノ關係上彼等ハ一回ノ射撃演習スヲ行ハサル状態ナルヲ以テ其ノ實力ニ於テ或ハ不逞鮮人團ニ對抗スルモ殆ント勝算ナカルヘキ状態ニアリ

四、經費 軍隊出動スルモ之カ經費ハ上軍ヨリ支給スルコトナキヲ以テ兵卒ハ鴉片等ヲ沒收シテ自己ノ費ニ宛ツルヲ通常トス

五、宿營及給養 大ナル集團トナリテ行軍スルカ如キコトナク通常一連毎ニ各個ニ行動シ指揮官ノ概示セル地點ニ至リ隨意散宿ス從テ其ノ宿營一範圍ハ頗ル廣大ナリ而シテ之カ給養法ハ全ク現地掠奪ニ依ルヲ以テ寒村ニ於テハ到底永キ駐留ヲ許サス多クモ二、三日ニシテ轉宿ス

以上ノ如クナルヲ以テ人民ハ之ヲ兵匪ト稱シ内心頗ル之ヲ侮蔑シアルモ又一面之ヲ恐怖シアリ不逞鮮人ノ剿討ニ方リテモ其徹底的ナル能ハサルハ種々ノ理由アルヘシト雖モ自己軍隊ノ内情暴露ヲ恐ルルコトモ蓋シ其ノ一因タルヘク觀察セラル支那軍隊ノ兵力配置概ネ附圖第二ノ如シ

第六節 二回ニ亘ル馮賊ノ琿春襲撃

九月十二日午前五時頃支那馬賊約三百名ノ一團ハ瑛春市街ヲ襲ヒ掠奪ヲ行ヒ各所ニ放火シ市街目貫ノ場所ニ於テ家屋四十餘戸ヲ焼却シ人質ヲ拉去シ午前八時過キ東方ニ引揚ケタリ

當時支那軍隊ハ吳營長以下相當兵員駐屯シアリシモ毫モ擊攘的態度ニ出テサルノミナラス馬賊ノ引揚ヲ開始スルヤ支那工兵ハ直ニ市内ニ侵入シ掠奪ヲ敢テシ三四ノ日本人ハ銃ヲ携ヘ西門ニ到リ馬賊ヲ射撃セントスルヤ支那家屋中ニ在リシ一支那工兵卒ハ彼等ニ向ヒ「若シ馬賊ヲ射撃セハ予ハ汝ヲ射撃セン」ト威嚇セリト云フ此ノ一例ヲ以テスルモ居留民保護ノ爲メ支那軍隊ノ頼ムヘカラサルノミカ却テ馬賊ニ次テ危險ナル團體ナリト謂フヲ妨ケス

軍司令官ハ居留民將來ノ安危ヲ慮リ緊急ナル場合ニハ獨斷出兵ヲ以テ彼等ヲ保護スルニ決シ九月十二日第十九師團長ニ左ノ通り電訓スルト共ニ之ヲ中央部ニ報告セリ

瑛春領事ヨリ居留民保護ノ爲出兵ヲ請求シ來リ本職ノ命ヲ待ツノ暇ナキ情況ナリト判斷セハ貴官ハ機ヲ失セス之ニ應スル所要ノ兵力ヲ出動セシムヘシ
爾後馬賊瑛春再襲撃ノ噂高ク九月三十日ニ至リ約五十名ノ馬賊ハ瑛春西北方約八

里ノ大荒溝ニアル支那工兵營ヲ襲撃シ在隊者三十四名ノ大部ヲ拉去シ武器彈藥ノ全部ヲ奪取セル等ノコトアリ人心極メテ不安トナリシカ俄然十月二日午前四時頃馬賊約四百名(内露人數名鮮人約百名支那官兵數十名ヲ混ス)ハ彈春ヲ襲撃シ我カ帝國領事分館及之ニ屬スル官舎ニ放火シ館内各所ニ新式爆彈ヲ投シ支那製舊式三十七耗ノ輕砲三門ヲ附近ノ高地脚ニ布置シ漸次我居留地ヲ經テ支那街ニ向ヒ掠奪ヲ恣ニシ居留民家屋若干ト九月十二日ノ襲撃ニ於テ燒キ殘シタル支那家屋ノ殆ント大部ヲ烏有ニ歸シ此ノ間喇叭ヲ吹奏シ週傳的ニ警笛ヲ鳴ラシテ部隊ヲ指揮シ其行動ニ秩序アリ普通ノ馬戒トハ其類ヲ異ニシ午前八時日本人一名鮮支人數十名ヲ拉致シテ悠々退去セリ

本馬賊ハ殆ント日本人ノミヲ殺害シ其毒刀ニ罹リシ者死者十四名(内鮮人巡查一名ヲ含ム)重輕傷者三十餘名ニ達シ鮮支人ノ被害者ハ領事館拘禁中ノ鮮人三名支那人一名ニ過キス而シテ其慘虐ナル行爲ハ正ニ「バルテルザン」ト選フ所ナシ

初メ馬襲襲來ノ報頻リニ至ルヤ十月一日夜領事ハ急使ヲ訓戒ニ派シ應援ヲ請求セリ此使者ハ同夜十二時訓戒對岸ニ來リ發砲シテ急ヲ報スル所アリ茲ニ於テ慶源守備隊長ハ南部烏蘇里守備隊トノ連絡ニ關スル日支協定ヲ利用シ特務曹長以下十名

第一章

出兵前ノ情況

一八

ヲ二日午前五時五十分、理春ニ向ヒ出發セシメタリ。此連絡兵ノ理春ニ到着セシ時ハ既ニ賊團退却ニ就キタル後ナリシヲ以テ直接戦闘ヲ交ユルニ至ラザリキ。備考第二回ノ襲撃時ニ於テ馬賊中ニ露人鮮人竝支那官兵ヲ混シタルコトハ將來ノ交渉上極メテ重大ナル意義ヲナスヲ以テ之カ證跡ヲ捕捉スルニ努メタリ。當時蒐集シ得タル證跡左ノ如シ

一、露人ヲ混シタル證跡

イ、馬賊來襲當時門戸ヲ閉鎖シ屋內ニアリタル日支鮮人中ノ數名ハ革製露西亞服ヲ着セル露人二乃至五名ヲ目撃セリ

ロ、拉致セラレタル支鮮人中歸還者ハ何レモ賊團中ニ露人五乃至八名混在セル旨ヲ報セリ

ハ、琿春縣知事ハ賊團中ニ露人七、八名參加ノ旨語レリ

二、不逞鮮人ヲ混シタル證跡

イ、領事分館附近ニ遺棄セル死體ノ背囊中ニ鮮人獨立運動ニ關スル書類數枚ヲ發見ス

ロ、襲撃當時自家ニアリシ日本人數名ハ屋內ニ侵入セル數名ノ賊徒カ互ニ鮮語ヲ

以テ貨財ノ搜索掠奪ニ從事シツツアルヲ目撃セリ

ハ、信スヘキ一情報ハ賊中ニ小頭目金山黨ノ配下ノミニテモ鮮人三十餘アリタル旨齎セリ

ニ、被拉致者中歸還セル鮮人等ハ賊中ニ鮮人數十名アリタル旨ヲ報セリ

三、支那官兵ヲ混シタル證據

イ、領事分館内ニ遺棄セル賊ノ一死体ハ支那工兵ノ襟章ヲ附着セル上衣ヲ着シ又同表門前ニアリタル一死体ハ襟章ヲ有セル軍服ヲ着セリ

ロ、官服ノ儘日本人杉浦商店ニ闖入セル十數名ノ賊中二名ハ同店ニ於テ官服ヲ脱シ掠奪セル背廣服ヲ着替ヘ官服ヲ遺棄セリ除號ヲ附シタル襟章ヲ有スル上衣二枚ヲ領事分館ニ保管ス

ハ、賊團中ニ官服ヲ着用セル兵卒數十名混入セルコトハ日支鮮人共ニ之ヲ目撃セリ

ニ、支鮮人ノ被拉致者中ノ歸還者ハ何レモ賊團中ニ支那官兵ノ存在スルコトヲ語レリ

ホ、賊團中官服ヲ着用セルモノヲ混入シアリタルコトハ支那官憲之ヲ承認ス

第七節 瑯春及間島へ緊急出兵

其一、瑯春方面

賊團更ニ再襲ノ模様アルト支那軍隊ノ一部賊團ニ投セシ事實アルトニ鑑ミ高島第十九師團長ハ曩ニ瑯春第一回馬賊襲撃ノ際軍司令官ノ下セシ訓令ノ趣旨ニ基キ十月二日午後二時慶源守備隊ヨリ將校以下八十名ヲ瑯春ニ派遣シ居留民ヲ保護セシム然ルニ午後三時在瑯春秋洲副領事ヨリ歩兵一中隊ノ派遣ヲ請求シ來リタルモ師團長ハ前記部隊ノ出動後ナリシヲ以テ別ニ部隊ヲ派遣セス唯爾後狀況ノ變化ニ應スル爲メ豫メ支那側ノ不退鮮人討伐ヲ監視シ且ツ不退者ノ鮮内侵入ヲ防止スル目的ヲ以テ穩城附近ニ出動シテ安部大隊(歩兵三中隊機關銃一小隊ヨリ成ル)ニ命スルニ一中隊ヲ穩城ニ殘置シ主力ヲ以テ訓戒ニ至リ待命スヘキヲ以テセリ偶々北鮮部隊初度巡視中ナリシ大庭軍司令官ハ同日午後羅南ニ到着シ右師團長ノ處置ヲ承認セリ

羅南憲兵隊長ハ憲兵隊司令官ノ認可ヲ得軍隊ト共ニ慶源憲兵分隊長以下憲兵六ヲ瑯春ニ差遣セリ軍司令官亦之ヲ承認ス

右山動部隊ハ二日午後七時三十分琿春ニ到着シ直ニ警戒配備ニ就ケリ
 龔ニ齋藤督軍顧問一行ト共ニ間島ニ出張シアリシ平松參謀ハ軍司令官ニ狀況報告
 ノ爲メ歸鮮シテ偶々會臺ニ滞在シナリシカ軍司令官ハ同官ニ訓令スルニ琿春ニ急
 行シ狀況ニ應シ適宜ノ處置ヲ爲スヘキヲ以テセリ於茲同參謀ハ三日早朝會臺發琿
 春ニ向ヘリ

一旦退却シタル馬賊ハ琿春北方地區ニ止マリ襲撃ヲ反覆セントスルニ拘ラス支那
 官憲ノ實力ハ毫モ之ヲ防止スルニ足ラス事態容易ナラサルモノアルヲ以テ師團長
 ハ翌十月三日午前八時三十分在訓戎安部少佐ヲシテ所要ノ部隊ヲ率ヒ琿春ニ至リ
 善後ノ處置ヲ爲スヘキヲ命セリ次テ副領事ヨリ更ニ大隊長ノ指揮スル歩兵二中隊
 機關銃一小隊ノ派兵方ヲ正式ニ師團長ニ請求シ來レリ安部少佐ハ歩兵一中隊機關
 銃一小隊ヲ率ヒ同日午後四時琿春ニ到着シ居留民茲ニ始メテ蘇生ノ色アリ三日夜
 半安部少佐ハ更ニ訓戎ヨリ將校ノ指揮スル三十名ヲ琿春ニ招致セリ師團長ハ琿春
 ニ於ケル負傷者ノ救護並將來ノ必要ヲ顧慮シ龔ニ安部大隊ニ配屬セル軍醫ヲ急派
 セシメタルモ一衛生班ヲ羅南ニ於テ編成ノ上三日琿春ニ向ヒ急行セシム該衛生班
 ハ五日正午琿春ニ到着セリ

第一章 出兵前ノ情況

二二

琿春北方地區ニ止マリシ賊團ハ其數七八百名ニ増加シ其ノ斥候ハ絶ヘス我前哨線ニ出沒シ隨所ニ彼我ノ小衝突起リシカ十月五日午前四時在二道溝(琿春訓戎道上)我通信所ハ賊徒約百五十名ノ爲メ包圍セラレタルモ琿春ヨリ我兵ノ應援ニ依リ終ニ之ヲ擊退セリ此時我兵卒一名負傷シ賊ハ死休六ヲ遺棄セリ

爾後師團長ハ諸報告ヲ綜合シテ琿春方面ニ於ケル賊團ノ勢力輕視スヘカラサルモノアルヲ知リ帝國領事館(分館)並居留民ヲ保護シ且ツ禍根ヲ艾除スル爲メ更ニ兵力ヲ増加スルノ必要ヲ認メ不取敢會寧ヨリ步兵二中隊工兵一中隊ヲ派遣シ更ニ步兵第七十六聯隊ニ於テ第三大隊ヲ基幹トスル步兵一大隊ヲ編成シ之ニ騎砲兵各一中隊ヲ加ヘ鐵道輸送力ノ許ス限リ成ルヘク速ニ之ヲ會寧ニ輸送シ更ニ琿春ニ派遣スルニ決セリ又步兵第七十五聯隊長收大佐ヲ琿春ニ派遣シ該方面全般ノ指揮ニ任セシム然ルニ四日夜半ニ至リ師團長ハ鎮城守備隊長ヨリ同地方ニ不退鮮人武力侵襲ヲ企圖スルノ風説熾ニシテ民心頗ル恟々タルモノアルノ報ニ接シ該方面ノ警備亦忽ニスヘカラサルモノアルト將來間島ニ派兵ノ要アルヘキヲ察シ五日步兵第七十六聯隊第三大隊ノ出發ニ際シ大隊長ハ會寧到着後二中隊ヲ該地ニ殘置シ其ノ他ヲ以テ北蒼坪ニ到リ該方面江岸守備隊ヲ併セ指揮シテ警備ヲ擔任シ情況之ヲ許サハ

收大佐ノ要求ニ應スヘキコトヲ命シタリ

其二、間島方面

第十九師團長ハ琿春事件ノ發展ニ伴ヒ間島方面出動ノ場合ヲ顧慮シ步兵第七十三聯隊長ニ命シ步兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ノ出動準備ヲ整備セシメ且ツ汪清方面ノ賊情ニ稍ヘ琿春ニ到ルヘキ步兵第七十六聯隊第三大隊ノ各半部ヲ北蒼坪及會寧ニ在リテ姑ク情況ノ推移ヲ待タシメタリシカ偶々十月六日午前九時在間島平松朝鮮總督府警視ヨリ間島方面ノ形勢危殆ニ頻シ在留民舉テ徹宵警戒ニ努ムル電報ニ接シ引キ續キ界間島總領事代理ヨリ局子街頭道溝及龍井村ノ形勢ハ甚タ危險ニ頻セリ居留民保護ノ爲メ右三個所ニ步兵各一中隊宛至急出兵アリタシトノ電報ニ接ス依テ師團長ハ間島出兵ノ緊急ナルヲ認メ軍司令官ノ認可ヲ受ケ步兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ派遣スルニ決シ先ツ昨五日會寧ニ到着シ待機ノ姿勢ニ在ル步兵第七十六聯隊ノ二中隊ヲ龍井村ニ急行セシメ次テ步兵第七十三聯隊附近藤中佐ヲシテ步兵第七十三聯隊ノ二中隊ヲ率キ六七日兩日ニ亘リ羅南出發龍井村ニ向ヒ急行セシム又當時琿春ニ向ヒ急行ノ途ニ在リシ伊東師團參謀ヲシテ龍井村ニ到リ機宜ノ處置ヲ爲スヘキコトヲ命ス同參謀ハ會寧ニ於テ本命令ヲ受領シ琿春ニ到ルヘキ

第一章 出兵前ノ情況

二四

任務ヲ以テ會寧ニ下車シタル騎兵半小隊ヲ獨斷ヲ以テ龍井村ニ急行セシム此ノ騎兵部隊ハ七日午前二時步兵部隊ハ午前七時ヨリ全九時ノ間ニ何レモ龍井村ニ到着シテ警備ニ任シ居留民初メテ安堵ス近藤中佐ハ龍井村到着後領事ノ懇請竝全般ノ情勢上夜半一中隊ヲ頭道溝ニ急派セリ爾後師團長ハ全般ノ情勢ヲ判斷シ時局ノ發展ニ伴ヒ更ニ間島方面ニ増兵ノ必要アルヘキヲ顧慮シ步兵第七十三聯隊第二大隊(二中隊缺キ機關銃一小隊及特種砲隊ヲ附ス)ヲ會寧ニ進メテ待機ノ姿勢ニ在ラシメ更ニ在咸興步兵第七十四聯隊ヨリ一大隊ニ所要ノ機關ヲ附シテ之ヲ羅南ニ招致スルニ決セリ而シテ師團長ハ龍井村方面ノ治安ヲ維持スルニハ少クモ步兵二大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ派遣スルノ必要アルヲ認メ更ニ步兵第七十三聯隊ヨリ一大隊並騎兵一中隊ヲ龍井村ニ急派シ步兵第七十三聯隊長山田大佐ヲ龍井村ニ派遣シ該方面全般ノ指揮ニ任セシメ次テ騎兵聯隊ノ主力並野砲兵一中隊ヲ同方面ニ派遣セリ

山田大佐ハ情報ニ依リ三道溝附近ニ約六百柳洞附近ニ約七百ノ匪賊アルヲ知り十月十二日行動ヲ起シ翌十三日三道溝附近ヲ剿討セシモ該地附近ニアリシ金佐鎮ノ率ユル部隊ハ既ニ西方森林地帯ニ退却シタル後ナルヲ以テ目的ヲ達スルヲ得ス

彼等ノ居宅七棟ヲ燒キ拂ヒ一先ツ頭道溝ニ歸還セリ

第八節 軍司令官ノ剿討ニ關スル意見具申

(附錄第一ノ附圖參照)

十月二日以來羅南ニ於テ情況ヲ觀察シ隱忍自重出兵ハ緊急必要ナル最少限ニ止メ累ヲ國交ニ及ホササル如ク深ク者慮シアリシ軍司令官ハ諸情報ヲ綜合判斷シ瑯春及間島地方ニ在ル居留民ヲ保護シ併セテ該地方ニ於ケル匪賊ヲ徹底的ニ剿討スルノ己ムヘカラサルヲ認メ十月六日左ノ如ク陸軍大臣及ヒ參謀總長ニ意見ヲ具申セリ

意見具申

瑯春事件ニ徴スルニ賊ノ行動ハ從來ノ馬賊ト其趣ヲ異ニシ頗ル過激派ニ類似シ之ニ與セシ露國人、支那人、朝鮮人ノ加入セルハ否定スヘカラス最近鏡城附近ニテ捕ヘタル不逞鮮人ハ西伯利ニテ戰死セル我兵卒ノ遺品ヲ所持セルモノアリテ間島一帶ニ此等ノ徒已ニ入り込メリト信セサルヲ得ス且ツ我兵ニ對シ屢々襲撃ヲ試ムル等戰闘ニ實驗アルモノノ加入セルヲ思ハシメ其ノ裝備モ輕砲新式爆彈ヲ見ルニ至リ圖們江對岸一般ノ兇徒ハ面目ヲ一新セルノ觀アリ結氷後武力侵入ヲ

第一章 出兵前ノ情况

二六

爲ストノ風説モ強チ輕視スヘカラスサレハ彈春ニ既ニ成功セル賊徒カ間島所在ノ我領事館ヲ襲フ如キハ有リ得ヘキコトニシテ江岸ニ來襲シ憲兵警察ノ孤立寡弱ナルヲ塵殺スルカ如キハ殆ント期シテ待ツヘク事茲ニ至レハ禍ハ鮮内ニ及ヒ大ニ武力ヲ用ヒ鮮内ヲ鎮撫セサルヘカラサル情况ニ陷ルハ昭々トシテ明ナリ今ニ於テ對岸ノ賊ヲ剿討スルハ獨リ軍事上策ノ得タルモノノミニアラサルヘシ曩ニ軍ヨリ上申セル剿討計畫モ或ハ飯上ノ蠅ヲ追フニ終ルコトアランモ今春決行セル越江追撃ノ効果ニ鑑ムレハ我武威ヲ示シ不退ノ心ヲ制壓シ禍害ヲ鮮内ニ及ホサシメサル上ニ於テ効力偉大ナルモアラン決行セシメラレンコトヲ乞フ長白山頭已ニ雪ヲ見ル嚴寒ノ襲來ニ先チ兵ヲ凱スニハ遅クモ十一月十日ニ行動ヲ終ルヲ要ス至急御指示ヲ乞フ

賊ニ輕砲アリ我無益ノ損害ヲ避クル爲山砲八門及之ニ要スル駄鞍器具一切ノ貸與ヲ望ム編成ハ當地ニテ爲ス過日支給セラレタル狙撃砲中不具合ノモノアリ是亦二三門貸與アリタシ

右意見具申ヲ爲スト共ニ豫テノ剿討計畫ニ基キ左ノ如ク行動計畫ヲ立案シ第十九師團ニ内報ス

一、瑯春ヲ根據トスル歩兵二大隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ以テ瑯春方面ノ賊ヲ剿討ス此際浦潮軍ニ「バラバシ」方面ヨリ策應方ヲ要求ス

二、穩城ヲ根據トスル歩兵一大隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ以テ鳳梧洞附近一帯ノ剿討ヲ爲シ百草溝ニ向ヘシム

三、局子街、龍井村ヲ根據トスル歩兵三大隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ以テ百草溝ニ向ヒ剿討シ「ニ」ノ支隊ト合セシム但シ一部ヲ以テ頭道溝方面ノ賊ヲ剿討セシム

四、此ノ計畫ハ賊ノ情況明瞭ナルニ從ヒ多少ノ變更ヲ加フヘキモ概シテ計畫通り實施シ得ヘシ

右計畫實施ニ際シテハ第十九師團ノ使用シ得ル兵力不足スルカ故ニ第二十師團ヨリ歩兵一大隊ヲ増派スルノ避クヘカラサルモノアリシヲ以テ直ニ左記ノ如ク命令ヲ發シ尙參謀長ヨリ其細件ニ就テ通牒スル所アリ

右増派大隊ハ歩兵第七十八聯隊第三大隊ニシテ同大隊ハ六日午後之カ命令ヲ受領シ急遽出發準備ヲ完了シ七日早朝屯營出發同日午後元山乘船八日清津上陸第十九師團長ノ隷下ニ入レリ

事件勃發前ニ於ケル朝鮮軍ノ配置附圖第三ノ如シ

朝鮮密第一〇〇八號

第十九師團ニ兵力増加ノ件命令

大正九年十月六日

朝鮮軍司令官

第二十師團長宛

一、琿春及間島地方ノ現況ニ鑑ミ其師團ヨリ歩兵一大隊及衛生班一個ヲ編成シ第十

九師團長ノ指揮ニ屬セシムヘシ

前記部隊ハ清津上陸ノ日ヲ以テ第十九師團長ノ隸下ニ屬ス

二、鐵道輸送ニ關シテハ第二十師團長之ヲ擔任スヘシ

元山到着ノ日時ニ就テハ追テ示ス

三、船舶輸送ハ軍司令部ニ於テ擔任ス

四、師團長ハ派遣部隊號編成等決定セハ速ニ報告スヘシ

朝鮮第一〇〇九號

第十九師團ニ兵力増加ニ關スル件通牒

大正九年十月六日

軍參謀長

第二十師團參謀長宛

今般貴師團ヨリ歩兵一大隊ヲ編成シ第十九師團長ニ増加配屬セラルルコトニ相成候ニ就テハ其細件ニ關シ左ノ通被定候條及通牒候也

左記

一、大隊ハ成ルヘク建制トシ各中隊ノ人員ハ平時ノ編制ニ方リ殘留人員ヲ少ナカラシム

二、隊附衛生部員ハ之ヲ定員ニ充實シ且衛生班(軍醫一、看護長一、看護卒四、擔架卒一二)要員トシ龍山衛戍病院ヨリ看護長一、看護卒四ヲ配屬ス

三、彈藥ハ一銃百二十發ヲ標準トス

四、携帶口糧ハ陣中要務令ノ規定ノ通り

五、防寒用被服ハ適宜携行ス

六、各自認識票ヲ携行ス

七、衛生班所要ノ衛生材料ハ左ノ通り携行ス

藥劑行李二個、擔架四個、陸軍倉庫ヨリ公用行李一個、厚毛布十枚、師團ニ於テ右ノ外幕營用天幕若干

尙藥劑行李定規内容品以外ニ必要ト認ムル衛生材料ヲ携行スルヲ得

第一章 出兵前ノ情況

朝鮮參密第一〇一〇號

命令

大正九年十月六日

朝鮮軍司令官

第二十師團長宛

一、十月六日朝鮮參密第一〇〇八號命令ニ依リ其ノ師團ニ於テ編成セシ大隊ハ明七日午前出發元山ニ至リ同日午後四時同港出帆ノ安平丸ニ乗船清津ニ至ラシムヘシ衛生班ハ已ムヲ得サレハ次ノ便船ニテ出發セシムルヲ得

二、梱包其他ニ時日ヲ要スル荷物ハ追送スルモ妨ナシ

第九節 軍參謀ノ上京

十月七日夜參謀本部總務部長ヨリ討伐打合ノ爲參謀一名至急上京セシメラレタシトノ電報ニ接シ天野軍參謀ヲ十月八日發上京セシム同參謀ハ十月十一日陸軍省及參謀本部ニ出頭同日打合ヲ終リ十四日着歸任セリ打合ニ際シ受ケタル指示附錄第二其一共二ノ如シ

尙浦湖派遣軍ニ於テ海林ヨリ一部隊ヲ蛤蟆塘附近ニ派遣シ軍ノ討伐行動ニ策應セ

シムヘキ件ハ參謀總長ノ訓令ニハ指示セラレサルモ其筋ニ於テ默認セラレタル旨ヲ傳ヘタリ

第二章 出兵前ノ情況

第二章 作戰行動

第一節 剿討準備

十月七日夜十一時參謀次長ヨリ間島方面ノ討伐ヲ實施スルコトニ決定シ第十九師團長ノ指揮スル歩兵六大隊騎兵一中隊半山砲八門工兵二中隊飛行機四ヲ以テ不日討伐ヲ開始シ右討伐ニ策應セシムル爲メ浦潮派遣軍ヲシテ一部隊ヲ三岔口(東寧)方面ニ進出セシメ又示威ノ目的ヲ以テ第十四師團ノ歩兵一旅團ヲ「ボセツ」海ニ上陸セシメ國境ニ近ク輝春附近ヲ經テ會寧ニ到ラシメ暫ク軍ノ推移ヲ觀察セシムヘキ旨ノ内報ニ接シ續テ同夜一時陸軍大臣ヨリ間島方面ノ情況ニ基キ政府ハ間島ニ於ケル日本臣民及其利益保護並警備ノ爲軍隊ヲ派遣シ直ニ支那側ニ通告シ日支協同討伐ノ實行ヲ承諾セシメ支那側ニシテ若シ聞キ入レサルトキハ日本側ニ於テ自衛上已ムヲ得ス單獨ニ不逞鮮人討伐ヲ實行スルニ決セルコト而シテ其出兵ハ即時之ヲ決行シ機ヲ失セサル様閣議決定セル旨ノ通報ニ接シ直ニ第十九師團ニ通報シ之カ準備ヲ命シ且浦潮派遣軍ト出動部隊ノ兵力出動方面期日給養方法等ニ關シ所要ノ協議ヲナセリ

第二章 作戰行動

三四

第十九師團長ノ之カ爲探リタル處置概ネ左ノ如シ

一、歩兵第三十七旅團長東少將ニ更ニ咸興ヨリ歩兵一大隊(二中隊欠)機關銃一小隊ヲ羅南ニ派遣セシメ旅團長ハ所要ノ機關ヲ從ヘ羅南ニ到ラシム

二、歩兵第三十八旅團長磯林少將ニ十日羅南出發彈春ニ到リ該方面全般ノ指揮ニ任セシム

三、第二十師團ヨリ増派セル歩兵第七十八聯隊第三大隊ヲ磯林少將ハ指揮ニ屬シ九日羅南發會軍ヲ經テ羅春ニ到ラシム

四、歩兵第七十六聯隊長木村大佐ニ十一日羅南出發穩城ニ到リ左記部隊ヲ指揮シ大江清方面ノ剿討準備ヲナサシム

歩兵第七十六聯隊第一大隊(二中隊欠)「局子街方面ニアルモノ」

歩兵第七十六聯隊第三大隊(二中隊欠)「北蒼坪附近ニアルモノ」

機關銃隊(四銃編成内二銃ハ岩橋大隊ニ屬シアリ)

特種砲一隊 配屬ノ時機ヲ追テ示ス

騎兵一小隊

山砲兵一中隊 配屬ノ時期ハ追テ示ス

第二節 剿討實施決定當時ニ於ケル

琿春及間島方面ノ賊情

一、琿春方面

琿春河谷及其附近ニ跳梁セシ不逞鮮人ノ大部ハ我軍隊ノ入琿後露領竝琿春河谷北方ノ山地深ク遁入シタルモノ如クナルモ其通信員及一部ノモノハ良民ヲ裝ヒ三々伍々所在ノ部落ニ出沒シテ我軍ノ情況ヲ偵察シ若クハ軍資金ト稱シ金錢ヲ強徴シ或ハ流言蜚語ヲ放チテ人心ヲ惑亂シツツアリ此方面鮮人子弟ノ多クハ所謂國民學校ニ於テ根底深ク排日思想ヲ教養セラレアルカ如シ又十月二日琿春ヲ襲ヒタル馬賊占東万順等ノ一團ハ老黑山方面ニ遁竄シ該地附近ニアルモノ如シ諸賊團中ニ混入セシ鮮人ハ露國ニ歸化セルモノナリトノ説アリ

二、汪清方面

西大坡附近ニ根據ヲ有セル軍政署ノ不逞鮮人ハ支那軍隊ノ討伐ニ際シ一時大坎子方面ニ引揚ケタルモ九月末ニ至リ其約二百名ハ同地ニ歸還シ約三百名ハ茂山間島ニ向ヘリト謂フ西大坡附近ハ彼等ノ警戒頗嚴ニシテ我密偵ノ進入困難ナリ

鳳梧洞ニアリシ大韓北路督軍府崔明錄ハ孟圍長ノ要請ニヨリ綏芬大甸子(羅子溝トモ稱ス)ニ移動シタルカ如シ
 彼等ノ所謂通信員ナルモノ及良民ヲ裝フ不逞鮮人ハ所在ニ出沒シ或ハ附近ノ山林中ニ潜伏シテ支那軍隊ノ行動竝我軍ノ進出狀況ヲ調査シ羅子溝ニ通知シツツアルコト確實ナルカ如ク又軍政署及督軍府ハ馬賊團ト協同スヘク約定シアリトモ稱セラレタリ

三、龍井村方面

延吉縣地方局子街東方約四里花領村附近ニハ國民會系統梁道憲ノ率キル約二百五十名ノ部隊アリ

一兩溝附近ニハ國民會長具春先及現在部隊行動ヲ探ラサル國民會員若干アリ
 明月溝(魏聲朝子東北大小廟溝ノ谷地)ニハ光復團其他不逞團ノ殘黨約百五十名アリ

二道溝(頭道溝西方)奥地ニハ洪範圖ノ率キル約三百ノ一團アリ

天寶山及銅佛寺ノ奥地亦時々數十名ノ團體出沒ス和龍縣地方三道溝附近ニハ軍政署金佐鎮ノ率キル部隊約六百名アリテ機關銃三挺彈約五百ヲ有ス蜂密溝附近

亦數百ノ不退鮮人團アルカ如シ

柳洞(茂山對岸)ニハ獨立軍洪範圖ノ部下國民會幹部ノ率キル一團及義軍團新民團等約九百名アルカ如シ

四、圖們江對岸附近

我軍隊ノ出動ニ伴ヒ不退鮮人ノ一部ハ其安全地帶ヲ江岸諸部落ニ發見シ兵器ヲ陰匿シ良民ヲ裝ヒ時々出沒シ咸ハ鮮内地ニ侵襲スヘク揚言スルアリ

第三節 作戰命令ノ受領並軍命令ノ下達

十月九日午後九時剿討實施ニ關スル左記參部本部作命第五七號訓令(附錄第三其二)ヲ翌十日日本訓令ニ基ク參謀總長(附錄第三其二)陸軍大臣(附錄第三其三)ノ指示ヲ受領ス軍司令官ハ右訓令並指示ニ基キ第十九第二十師團長ニ左ノ如ク訓令及指示ヲナセリ

朝軍作命第三號第十九師團長ニ與フル軍訓令 十月十一日 龍山

一、軍ハ珲春及間島地方ニ在ル帝國臣民ヲ保護シ併セテ該地方ニ於ケル不退鮮人及之ニ加擔スル馬賊其他ノ勢力ヲ剿討セントス

第二章 作戰行動

三八

二、浦潮派遣軍ハ當軍ノ行動ニ策應スル爲メ步兵二三中隊ノ一部隊ヲ海林(東支東線鐵道上ノ一驛)ヨリ蛤蟆塘(大江清北方約六里)附近ニ步兵約一大隊、騎兵約一聯隊、狙擊砲山砲各二門、工兵一小隊ヨリ成ル一部隊ヲ三岔口ヨリ綏芬大甸子附近ニ又步兵約一大隊、騎兵砲兵若干ヨリ成ル一部隊ヲ土門子附近ニ進メ且東支鐵道東線及南部烏蘇里地方ノ守備ヲ嚴ニスルト共ニ三岔口方面ノ部隊ト連絡シ機宜ノ處置ヲ執リ得ル準備ニアル筈

三、第十四師團ノ步兵第二十八旅團ハ本月下旬「ボセツト」ニ上陸後余ノ指揮下ニ入り爾後琿春、間島地方ニ於ケル不逞鮮人ニ對スル示威ノ目的ヲ以テ琿春、凉水、泉子、局子街附近ヲ經テ會寧ニ向ヒ行動セシム

四、貴官ハ其隸下步兵約六大隊ヲ基幹トスル諸兵連合ノ部隊ヲ以テ概ネ剿討計畫ニ準シ琿春、汪清、延吉、和龍ノ諸縣ニ亘リ賊ヲ索メテ剿討スヘシ

賊ノ安圖又ハ敦化地方ニ逃竄スルコトヲ願慮シ其企圖ヲ挫滅スルニ努ムヘシ又本剿討ノ餘勢圖們江及鴨綠江上流地方及守備管區内ニ波及スヘキコトアルヘキヲ願慮シ必要ナル處置ヲナスヘシ

山砲及飛行機ヲ増加スル筈

五、貴官ハ行動開始期日ヲ豫報スヘシ
但シ準備完了ニ先テ情況ニ依リ討伐ヲ要スルモノアルトキハ機ヲ逸セス實行ス
ヘシ

尙參謀本部作命第五七號訓令ニ基ク參謀總長ノ指示ニ依ル使用兵力ハ步兵約六大隊、騎兵約一中隊、山砲八門、工兵二中队、飛行機四ト指定セラレタルモ既ニ出動セル兵力ハ此限度以上ニ達スルモノアリシヲ以テ十月十二日軍參謀長ヨリ第十九師團參謀長ニ左ノ通り通牒ス

作命第二號訓令ノ四ニ依リ貴師團長ノ瓊春、間島方面ニ於テ使用スヘキ兵力ハ步兵約六大隊、騎兵約一中隊、山砲八門、工兵二中队、飛行機四ト指定シ來レリ然レトモ既ニ該方面ニ出動シタル兵力ハ軍司令官責任ヲ帶ヒ默認セラルル筈ニ付此ノ上兵力ノ増加ナキ様配慮アリタシ

第二十師團長ニ與フル軍訓令於十月十二日

一、軍ハ瓊春及間島地方ニ在ル帝國臣民ヲ保護シ併テ該地方ニ於ケテ不逞鮮人及之ニ加擔スル馬賊其ノ他ノ勢力ヲ剿討セントス

浦潮派遣軍ハ當軍ノ行動ニ策應スル爲メ各一部隊ヲ海林三岔口ヨリ蛤蟆塘大汪

第二章 作戰行動

四〇

清北方約六里及綏芬大甸子方向ニ又別ニ一部隊ヲ土門子附近ニ進メ且東支鐵道東線及南部烏蘇地方ノ守備ヲ嚴ニスルト共ニ三岔口方面ノ部隊ト連絡シ機宜ノ處置ヲ執リ得ル準備ニ在ル筈

歩兵第二十八旅團ハ本月下旬「ボセツト」ニ上陸後予ノ指揮下ニ入り不逞鮮人ニ對スル示威ノ目的ヲ以テ瑯春局子街ヲ經テ會寧ニ向ヒ行動ス

第十九師團長ハ其隸下歩兵約六大隊ヲ基幹トスル諸兵連合ノ部隊ヲ以テ瑯春、汪清、延吉、和龍ノ諸縣ニ亘リ賊ヲ索メテ剿討ス

二、貴官ハ右剿討ノ進捗ニ伴ヒ其餘勢ノ鴨綠江沿岸地方竝其ノ守備管區内ニ波及スヘキコトアルヲ顧慮シ必要ナル處置ヲ執ルヘシ

朝參密第一〇六〇號

瑯春竝間島方面剿討ニ關スル指示

作命第二號ニ基キ左ノ通指示ス

第一經理

一、經理ハ特ニ指示スルモノノ外大正八年三月初經計第一三三號騷擾事件ニ關スル

經總領に據るべし

二、本事件に關する經費ハ特ニ鮮外ヨリ派遣セラレタル部隊及鮮外ヨリ差遣又ハ臨時に配屬セラルル者ニ應ズル經費及陸海軍部隊中本事件に關する要スル經費に
限リ臨時軍事費ノ支辨トス

三、前項所要ノ臨時軍費ハ軍經理部ニ請願スルべし

四、前項所要ノ給養ハ總務部陸海軍臨時給養規則細則第一條第三條ノ規定ヲ遵據シテ費支辨トス

増給ハ同第一條規定額(加増品ヲ除ク)迄付クニ以テ内トシ實費ノ増減ニ應ジテ之ヲ給
シ加給品ハ一カ月酒烟給附品百二十匁紙巻煙草百六匁片煙ノ標準ヲ以テ之ヲ給
スルコトヲ得

第十四師團ノ派遣旅團ニ對スル加給額ハ之ヲ當該旅團長ニ委任ス

給養品ハ努力ヲ現地物資ヲ利用シ現地ニ於テ調辨シ得ケル程度ハ總務部團長ヨリ
追送ヲ倉庫ニ請求スルベシトス

五、馬匹ハ防務用トシテ藥政ハ其ノ代用品ヲ客馬ニ用ニ貫久以內ヲ給スルコトヲ得
六、獸藥用薪炭ノ旋置ハ薪一カ月六百匁計及ハシ木炭四百匁ヲ標準トス

第三條 陸海軍

附則

第二章 作戰行動

四二

- 七、露營用木炭ノ定量ハ一人一日木炭一貫匁二貫匁ヲ標準トス
- 八、被服ハ自隊常用品ヲ使用シ所要ニ應シ原隊ヨリ追送スルモノトス自隊ニ於テ補給シ得サルモノハ師團ニ於テ取纏メ速ニ軍經理部ニ請求スルモノトス
- 九、師團經理部長竝陸軍倉庫長ハ軍ヨリ特ニ要求スルモノノ外戰時經理部勤務令其ノ六ニ準シ諸報告ヲ軍經理部長ニ提出スヘシ

第二 人衛生

- 一、衛生班ヨリ傷病者ヲ後送入院セシムル場合ハ會寧衛戍病院及羅南衛戍病院茂山分院之カ收容ニ任スルモノトス其ノ際衛生班ハ必ス病床日誌及必要書類ヲ添付スルモノトス
- 二、前項衛戍病(分)院ハ傷病者收容ノ緩急ニ應シ適時之ヲ羅南衛戍病院へ後送スヘシ
- 三、羅南衛戍病院長ハ傷病者收療上支障ヲ來ス場合ハ軍軍醫部長ノ區處ヲ受クルモノトス
- 四、山助部隊ノ衛生材料ハ會寧衛戍病院及羅南衛戍病院茂山分院ニ於テ所要部隊ノ請求ニ應シ之ヲ補給スルモノトス
- 五、前項補給擔任衛戍病(分)院ハ剿討期間常ニ所要部隊ノ要求ニ應シ得ル如ク衛生材

料ヲ準備シ置クヘシ之カ爲補給上急ヲ要スル場合ハ朝鮮陸軍倉庫羅南支庫ニ直接請求受領スルコトヲ得

六、陸軍倉庫長ハ剿討部隊所要衛生材料補給ノ爲豫メ羅南支庫ニ該材料ヲ準備シ補給擔任衛戍病(分)院ノ要求ニ應シ之ヲ交付スヘシ

七、師團軍醫部長ハ左記諸報告ヲ取纏メ軍軍醫部長ニ報告スヘシ

一、患者日報 附表第一、第二 (衛生班)

二、部隊患者旬報 附表第六(各隊) (戰時衛生勤務令 軍醫部及部隊附衛生部員ノ部)

三、衛生旬報 同第六十三ニ依ル (各隊及衛生班)

四、部隊患者月報 同表第七ニ依ル (各隊)

五、收容患者月報 右ニ準ス (衛生班)

六、衛生材料月報 附表第三 (各隊衛生班)

八、陸軍倉庫長及病院長ハ衛生材料補給月報ヲ前項第六ノ衛生材料月報ニ準シ軍軍醫部長ニ提出スルモノトス

九、師團軍醫部長ハ剿討終了後一ヶ月以内ニ於テ衛生一般ノ概況及衛生材料消費表ニ意見ヲ附シ軍軍醫部長ニ提出スルモノトス

第二章 作戰行動

第三 馬衛生

四

一 第十九師團獸醫部長ハ、則討期間應急補給ニ必要ナル獸醫材料蹄鐵ヲ準備スルコトヲ得

二 陸軍倉庫長ハ、則討部隊所要獸醫材料蹄鐵補給ノ爲豫メ羅南支庫ニ該材料ヲ準備シ所要部隊ノ請求ニ應シ之ヲ交付スヘシ

三 現地調辦ヲ爲シ得ル藥物消耗品ハ努メテ現地調辦ニ依ルモノトス

四 鮮馬用蹄鐵(花來ノ蹄鐵)及牛用蹄鐵ハ主トシテ現地調辦ニ依ルヘシ

五 師團獸醫部長ハ、則討各部隊ヨリ提出スル病馬旬報ヲ取り纏メタル師團病馬旬報部隊病馬月報、獸醫材料月報及蹄鐵月報(以上各様式ハ戰時獸醫部勤務令附表各様式ニ準ス鮮馬及牛ニ在リテハ見易カラシムル如ク区分標示スルモノトス)

ニ必要ノ意見ヲ附シ各二通ヲ軍獸醫部長ニ提出シ又則討終了後一ヶ月以内ニ軍馬衛生一般ノ概況及獸醫材料蹄鐵消費表ヲ提出スヘシ

六 陸軍倉庫ハ獸醫材料蹄鐵ノ交付旬報(本庫支庫長ニ区分シ殘高ヲ示スヲ要ス)ヲ軍獸醫部長ニ提出スヘシ

師團獸醫部長ハ、第一項ニヨリ準備シタル場合亦同シ

大正九年十月二十日

朝鮮軍司令官 大 塚 三 郎

1906T

附表第一

大正年月日收容患者日報(甲)										地名及 班名
傷病名	舊患	新患	計	復原 歸隊 轉 歸屯 還營	入院	死亡	事故	後遺	患者累計	
脚氣										
急性氣管支炎										
足關節捻挫										
、、、、										
病名未定										
計										

備考

調製上ノ注意

一本日報ハ衛生班ニ收容シタル患者ニ就キ前日ノ事實ヲ毎日午前中ニ調製スベシ

第二章 作戰行動

四五

第二章 作戰行動

四六

二、病名ノ順序ハ第四表病類別患者表ノ例ニ依ル

三、病名未定患者ニシテ病名決定シタルトキハ決定當日ノ相當病名各舊患欄ニ朱書別記スヘシ

四、戦傷患者ニ係ル事實ハ各相當欄ニ「アラビア」數字ヲ以テ別記スヘシ

五、准士官以上及戦傷患者ハ其ノ病名及隊號官等級氏名ヲ備考ニ記載スヘシ

六、患者ノ診療ヲ施シタルモ收容ノ程度ニ至ラス原隊ニ復歸セシモノハ本表ニ計上スルコトナク其ノ員數ヲ備考ニ記載スヘシ

七、事故欄記載ノモノハ其ノ内譯ヲ備考ニ記載スヘシ

八、軍人以外ノ患者ハ括弧ヲ以テ別記スヘシ

九、備考ニハ單簡ニ討伐ノ概況等ヲ記スルモノトス

附表第二

[illegible]

調製上ノ注意

一、收容患者日報(甲)調製上ノ注意ニ準シ調製スヘシ

第二章
作戰行動

細

部
隊
名

[illegible]

一、品目記載ノ順序ハ器械、藥物、消耗品トシ各別紙ニ認ルコト

二、衛生病院(分院)あり、受領シタルトキハ、受入料ニ受領衛生病院(分院)ノ費ヲ設け、配入

ルモノトス

三部隊渡ニハ附近剿討部隊ニ補給セシモノ又消費盡ニハ自隊(自院)ニ於テ使用セシモノヲ記入スヘシ

四、器械中破損セシモノハ別表トシテ記載スルロト
配布區分案

第十九師團			
師團司令部	一〇	第二十師團司令部	三〇
旅團司令部	二	憲兵隊司令部	一〇
各聯隊本部	八	倉庫、支庫、出張所共	一〇
各大隊本部	一〇	會軍、羅南病院	各一
各步兵中隊	四〇	平松少佐	一
各兵站司令部	一〇	計	五三
各特科特種部隊	二〇		
計	一〇〇		

第二章 作戰行動

五〇

尙十月十六日「ボセツト」ニ上陸スヘキ歩兵第二十八旅團第一梯團タル歩兵第十五聯隊(第一大隊欠)ニ先ツ輝春ニ向ヒ前進スヘキ命令ヲ與ヘ其後礮林支隊ノ老黑山及羅子溝方面剿討ノ關係上該支隊ノ後方連絡線及輝春ノ警備ニ必要ナル兵力ノ不足ニ基キ該隊ハ十月二十一日第十九師團長ノ指揮下ニ入ラシメタリ

次ヲ十月二十二日歩兵第二十八旅團長山田少將ニ對シ旅團歩兵第十五聯隊本部及二大隊欠ハ「ボセツト」上陸後第十九師團長ノ指揮ヲ受クヘキヲ命シ全時ニ第十九師團長ニ左ノ如ク訓令セリ

軍訓令

一、歩兵第二十八旅團歩兵第十五聯隊本部及二大隊欠ハ「ボセツト」上陸後貴官ノ指揮ニ屬セシム

二、貴官ハ歩兵第十五聯隊(一大隊欠)ヲ併セ不逞鮮人威壓ノ目的ヲ以テ輝春、凉水泉子局子街ヲ經テ會峯ニ至ラシムヘシ
但シ狀況已ムヲ得サレハ一時他ノ目的ニ使用スルヲ得

大正九年十月二十二日

朝鮮軍司令官 大庭 二郎

第十九師團長 子爵 高島友武殿

第四節 日支協同討伐ニ關スル協定

附錄第四、間島出兵ト國際聯盟トノ關係

附錄第五、珲春間島事件ニ關スル國際法ノ研究參照

間島出兵ニ關シ我カ政府ハ支那側ニ對シ之カ承認ヲ求メ且日支協同討伐ヲ懲慫セ
ルモ結局之ニ應スルニ至ラサリシヲ以テ政府ハ之ニ關セス自衛上ノ手段トシテ既
定ノ計畫ヲ實施スヘキコトヲ聲明シ尙此際更ニ日支協同シテ剿討ニ從事センコト
ヲ勸告シタリ茲ニ於テ軍ハ上司ノ意圖ニ基キ十月十六日堺間島總領事代理ヲ介シ
延吉道尹ニ十月十七日午前零時ヨリ行動ヲ起スヘキニ付協同セラレタシトノ通告
ヲ與ヘ同時ニ行動ノ開始ヲ命セリ
然ルニ恰モ同日奉天ニ於テ左ノ協定ヲ見ルニ至レリ

日支協同討伐ニ關スル協定事項（原文通）

日本側代表佐藤貴志兩少將ト吉林總督軍代表町野中佐ト奉天ニ於テ兩者間ニ誤解
ヲ生セサラシムル爲協定セル事項左ノ如シ

一、日本軍隊ト睦誼ヲ敷クスル爲左ノ通協同討伐ス

二、東寧縣ハ東支鐵道以南二十里(支那里)以外ノ地區及庫春延吉汪清和龍五縣ノ全馬賊匪賊討伐ノコトハ日本軍隊之ニ任ス

但シ縣城ニハ支那軍隊一、二中隊並巡警ヲ殘留シテ秩序ノ維持ニ任セシム

三、前記五縣以外ノ地ニ於ケル匪類ハ支那軍隊ヲ以テ之ヲ討伐ス

四、日本軍隊ノ行動區域内ハ双方當該各長官ヨリ訓飭シ相互厚意ヲ以テ相導シ以テ誤解ヲ生セサシム

五、吉林ヨリ特ニ連絡及情報蒐集上ノ必要要員ヲ日本軍司令部ニ派シ又支那側ニテ總督軍力必要アリト認メタル際ハ日本軍ヨリ此委員ヲ派遣スルモノトス

六、日本軍隊ハ短少時日ニ於テ軍事行動ノ終了ヲ努ムルモノトス

七、日本軍隊ハ所定區域外ニ出ツルコトヲ得ス即チ匪徒ヲ追伐スルノ關係ト雖境ヲ越ユヘカラス以テ誤解ヲ免カレ紛擾ヲ生セサシム

八、日本軍隊ハ其行動區域内ニ於テ正ニ一般民ノ生命財産ヲ尊重シ毫モ傷害又ハ損失セシムルコトヲ得ス以テ兩國人ノ感情ヲ傷フコトヲ免カレシム又支那國ノ各種機關トハ全然無關係トシテ毫モ強制的行爲ニ出ツルコトヲ得ス

追記 海林方面ヨリ日本軍隊行動區域内ニ前進スル日本軍ハ寧安縣ヲ通過ス

第五節 第十九師團ノ剿討行動 (附圖第十二參照)

其一、師團長ノ處置

第十九師團長ハ軍司令官ノ訓令ニヨリ豫メ立案シアル剿討計畫ニ基キ概ネ二期ニ分チテ實施スルニ決シ左ノ如ク剿討方針ヲ定メタリ

一第一期註討伐開始後約一ヶ月ノ豫定ナリシカ實施ノ結果約一ヶ月半トナレリ
本期間ニ於ケル討伐ハ賊ノ武裝團隊ヲ索メテ之ヲ殲滅スルニ在リ即左ノ如シ

剿 討 方 針

本討伐ハ對岸ニ於ケル匪賊ヲ徹底的ニ剿討センコトヲ期ス之カ爲各支隊ハ賊ヲ索メテ反覆討伐ヲ實施シ搜索ヲ周密ニシテ賊ノ檢舉ヲ全ウシ其資源ヲ覆滅スルコトニ努ムルモノトス

各江岸守備隊ハ討伐隊ノ行動ニ連繫シ憲兵警察官ト協同シ對岸近クニアル賊ノ根據地ヲ剿討シ徹底的ニ檢舉搜索ヲナス但シ夜間ハ各守備地ニ歸還スルモ

二、第二期第一期終了後約一ヶ月

本期間ノ討伐ハ賊殘黨ノ所在部落ニ潜伏シアル者或ハ附近山地ニ遁竄シアル者ヲ覆滅スルニ在リ即左ノ如シ

剿討方針

各支隊ハ成ルヘク速ニ概ネ附圖(附圖第四)ニ示ス配置ニ移リ附近諸部落竝山地帶ノ周密搜查ヲ爲シ賊ノ殘黨ヲ索メテ之ヲ剿討ス
江岸各守備隊(惠山鎮方面ヲ除ク)ハ必要ニ應シ對岸近クノ諸部落ヲ剿討スル外隨時示威行軍ヲ實施ス航空隊ハ準備完成セハ速ニ飛行ヲ開始シ威嚇及連絡ニ任ス

右方針ニ基キ

第一期剿討ノ爲メ師團長ハ左ノ訓令ヲ下セリ

軍隊區分

礮林支隊

長陸軍少將礮林直明

歩兵第三十八旅團司令部

歩兵第七十五聯隊

第一、第三大隊ノ各二中隊及第二大隊欠
機關銃二小隊特種砲隊通信班、丙衛生班ヲ附ス

歩兵第七十八聯隊第三大隊

機關銃一小隊通信班四分一
戊衛生班ヲ附ス

騎兵第二十七聯隊第三中隊(半小隊欠)

野砲兵第二十五聯隊第二大隊

野砲一中隊(山砲ハ追テ編成ノ上配屬ス)
山砲一小隊

工兵第十九大隊第二中隊

憲兵若干

木村支隊

長陸軍歩兵大佐木村益三

歩兵第七十六聯隊

第一、第三大隊ノ各二中隊及第二大隊欠
機關銃二小隊、特種砲隊、通信班甲衛生班ヲ附ス

騎兵第二十七聯隊第二中隊ノ一小隊

山砲兵第一中隊(一小隊欠)(追テ編成ノ上配屬ス)

工兵第十九大隊第一中隊ノ一小隊

憲兵若干

東支隊

2161

第二章 作戰行動

長陸軍少將東正彦

歩兵第三十七旅團司令部

歩兵第七十三聯隊 第一大隊及第十中隊欠
特種部隊乙衛生班ヲ附ス

歩兵第七十四聯隊 第二大隊 機銃二小隊通信班
丁衛生班ヲ附ス

騎兵第二十七聯隊(第二中隊ノ一小隊及第三中隊欠)

野砲兵第二十五聯隊 第一大隊 野砲兵一中隊(山砲六迫ヲ編成
山砲兵一中隊ノ上配屬ス)

工兵第十九大隊 第三中隊

憲兵若干

師團直轄部隊

歩兵第七十四聯隊 第一大隊本部並第三中隊

飛行機班

無線電信班

鳩通信班

第十九師團訓令

於十月十三日
羅南

五六

一、珣春間島方面匪賊ノ情況附圖(略ス)ノ如シ

二、師團ハ珣春間島地方一帯ノ不退鮮人及之ニ加擔スル馬賊等ヲ索メテ之ヲ剿討セントス

浦潮派遣軍ヨリ師團ノ討伐行動ニ策應スル爲第十一師團ノ一部隊ヲ「バラバシ」ヨリ土門子方面ニ第十三師團ノ一部ヲ三岔口ヨリ老黑山及綏芬大甸子(羅子溝)方面ニ行動セシメラル筈ニシテ行動開始ハ二十頃トス

第十四師團歩兵第二十八旅團ハ本月下旬「ボセツト」海ニ上陸シ爾後朝鮮軍司令官ノ指揮下ニアリテ示威ノ目的ヲ以テ珣春、凉水泉子、局子街附近ヲ經テ會寧ニ向ヒ行動スル筈

三、礮林支隊ハ甲區域内ノ賊ヲ剿討スヘシ

四、木村支隊ハ乙區域内ノ賊ヲ剿討スヘシ

賊ヲシテ西方特ニ北方、寧古塔道上ニ脱出セシメサル様注意スルヲ要ス

五、東支隊ハ丙區域内ノ賊ヲ剿討スヘシ

賊ヲシテ敦化及安圖縣方面ニ脱出セシメサル様特ニ注意スルヲ要ス

六、討伐開始ノ時機ハ追テ示ス

第二章 作戰行動

五八

情況ニ依リ江岸守備隊ノ一部ヲシテ本行動ニ策應セシムルコトアルヘシ

七師團直轄部隊ノ行動ニ就テハ後命ス

八、余ハ十六日出發會嶽ニ至ル

第十九師團長 子爵 高 島 友 武

十月十四日師團長ハ内地ヨリノ増加部隊ノ到着ヲ待ツコトナク概ネ十月十七日浦潮派遣軍ニ關係ナキ方面ヨリ逐次討伐ヲ實施スルニ決シ之ニ關スル命令ヲ下セリ
十月十七日師團長ハ木村支隊ヲシテ汪清方面ノ剿討ヲ開始セシムルニ決シ之カ準備完了ト共ニ直ニ討伐實施ヲ命シ又磯林支隊ニ屬スル歩兵第七十五聯隊第三大隊(三中隊欠)ヲ木村大佐ノ指揮ニ入ラシム因ニ各支隊ニ配屬スヘキ山砲兵隊ヲ十月二十日其編成ヲ終リ二十二日會津發各支隊ニ追及セリ十月二十日師團長ハ諸情報ヲ綜合シ馬賊及不逞鮮人ヨリ成ル集團老黑山及其附近谷地ニ蟠居シ尙王八脖子(土門子北方約十五里)ノ谷地ニモ有力ナル馬賊ノ一團アリテ近ク三岔口ヲ襲ハントスルノ風説熾ナルモノアルヲ以テ第十一、第十三師團派遣部隊ト策應シ老黑山羅子溝方面ノ賊徒ヲ剿討スル爲該地附近迄一部隊ヲ前進セシムルニ決シ前記師團ト協議シ磯林、木村兩支隊ニ左ノ要旨ノ命令ヲ下セリ

磯林支隊ハ二十二日ヨリ行動ヲ起シ土門子―老黒山道及琿春―大荒溝―羅子溝道上ニ各一部隊ヲ進メシム

木村支隊ハ二十日夕稔城ヨリ行動ヲ起シ先ツ西大坡大坎子方面ノ賊ヲ剿討シ羅子溝附近ニ進出スヘキ第十三師團羽入支隊ト策應シ且一部隊ヲ百草溝附近羅子溝ニ通スル要路ヲ扼守セシム

十月二十二日ニ於ケル第十九師團事變使用部隊附表第一ノ如シ

十月二十七日師團長ハ左ノ理由ニヨリ東支隊方面ニ獨斷兵力ヲ増派セル件ニ就キ軍司令官ニ爾後承認ヲ申請シ其認可ヲ得タリ

東支隊ハ日下蜂密溝西方奥地深ク遁入セル不逞團ノ主力ヲ包圍殲滅セント企圖シツツアルモ兵力著シク寡少ニシテ或ハ賊ノ大部ヲ脱逸セシムルノ虞アリ本職ハ東支隊前面ノ賊ヲ以テ在間島彼等不逞團ノ主力ト認メ之ヲ殲滅スルハ即チ全死命ヲ制スル所以ナルニ稽ヘ茂山方面ヨリ大隊長ノ指揮スル歩兵二中隊ヲ老嶺方面ニ進メテ賊ノ背後ヲ遮斷セシメ更ニ會寧ニアル歩兵第七十四聯隊第一大隊(三中隊欠)ヲ本二十七日朝會寧出發戦場ニ急行セシメタリ豫メ認可ヲ受クル暇ナカリシヲ以テ獨斷處置セリ

第二章 作戰行動

六〇

十一月二十日師團長ハ當時迄ノ剿討ノ結果賊ノ武裝團體ハ最早之ヲ認メサルニ至リタルヲ以テ分散配置ヲ採リ第二期剿討ヲ實施スルニ決シ左ノ如ク命令セリ

第十九師團命令

十一月二十日
於會 寧

- 一、諸情報ヲ綜合スルニ洪範圖及金佐鎮ノ一團ハ既ニ露領及安圖縣方面ニ遁竄シタルモノ如キモ其殘黨ハ猶未タ所在ニ出沒シ或ハ深ク密林内ニ蟠居シテ暴舉ヲ逞クシツツアリ又所々ニ兵器彈藥其他ノ軍需品ヲ陰匿シアルモノノ如シ
 - 二、師團ハ賊ノ殘黨ヲ覆滅スルタメ分散配置ヲ採ラントス
 - 三、各支隊ハ可成速ニ概ネ附圖(附圖第五)ニ示ス配置ニ移リ附近諸部落竝山地帯ノ周密搜查ヲナシ賊ノ殘黨ヲ索メテ之ヲ剿討スヘシ
- 狀況ニ依リ兵力及其位置ハ多少變更スルコトヲ得ルモ此場合ニ在リテハ直ニ報告スヘシ

- 四、歩兵第七十五聯隊第三大隊本部及第十一中隊ハ依然木村支隊ニ配屬ス
- 五、磯林少將ハ要スレハ慶源守備隊ノ一部ヲ使用スルコトヲ得但シ此場合ハ豫メ認可ヲ受クヘシ

六、江岸各守備隊(恵山鎮方面ヲ除ク)ハ必要ニ應シ對岸近ク諸部落ヲ剿討スル外隨時示威行軍ヲ實施スヘシ

七、航空隊準備完成セハ速ニ飛行ヲ開始シ威嚇及連絡ニ任スヘシ

八、通信網ノ構成ニ關シテハ別ニ示ス

九、兵站部隊ハ給養補給及衛生並警備ニ關スル計畫ヲ立案實施スヘシ
十、余ハ會軍ニ在リ

其二、礮林支隊

礮林支隊ハ先ツ其全力ヲ以テ三個ノ討伐隊ヲ編成シ十月十四日夜半ヨリ行動ヲ起シ二日乃至四日ノ間瓊春河谷ノ平地及附近諸部落ノ第一回剿討ヲ實施セルモ該地方ニハ不逞鮮人及馬賊ノ集團ヲ認メス諸部隊ニ潜伏セル一部ノ不逞者ヲ逮捕シ彼等ノ隱匿セル小銃五十餘彈藥六百餘ヲ鹵獲セリ

次テ第十一師團土門子支隊ノ十月二十日前後土門子附近ニ進出スヘキヲ知リ之ト直接連絡ノタメ十月十八日上坂大隊(一中隊欠)ヲ派遣セルカ十月二十日師團命令ニ基キ十月二十二日ヨリ收討伐隊(前記上坂大隊ヲ含ム支隊ノ主力)ヲ以テ土門子支隊ト協力シテ老黑山方面ニ安部大隊(歩兵二中隊ヲ基幹トス)ヲ以テ羅子溝方面ニ進出

シ第十三師團羽入支隊ト策應該方面ノ討伐ヲ實施セシム
 收討伐隊ハ十月廿四日土門子支隊ト連絡シ二十六日老黒山ニ到着シタルモ時既ニ
 羽入支隊ノ同地ヲ經テ羅子溝ニ前進シタル後ナリシヲ以テ同支隊兵站部隊ト連絡
 シ歸還ノ途ニ就ケリ老黒山附近ニアリシ馬賊ハ占東隊約四百萬順隊約百七十ニシ
 テ露人十名内外ヲ混シ十月十七日頃迄同地附近ニアリシカ其後西北方ニ退却シタ
 ルカ如ク討伐隊ハ彼等ノ築設セル高地上ノ土窟(約十名ヲ收容シ得)九個ヲ破壊燒却
 セルニ過キス討伐隊ノ該地ニ於テ得タル感想左ノ如シ

參考

老黒山ノ馬賊根據地トシテ價值。老黒山ハ北方三岔口或ハ東支沿線方面ヘノ要
 路ニ衝リ東方露領方面ヘノ進出亦自由ニシテ西方羅子溝ヲ經テ物資豐富ナル琿
 春及嘎呀河河谷ヲ觀フコト容易ナルヘク南方ニハ老爺嶺ノ天險アリ地形展望自
 在射界廣濶到ル處防禦陣地トシテ恰適ノ高地アリ彼等ノ根據地トシテ眞ニ屈
 ノ地點タルヲ失ハス

收討伐隊ハ歸路再ヒ琿春河谷ヲ剿討シ若干ノ効果ヲ收メ一部ヲ四道溝附近ニ殘置
 シ十一月二日琿春ニ歸還セリ

四道溝殘置部隊タル上坂大隊ハ爾後支隊長ノ直轄トシテ附近諸部落ノ剿討ニ從事セシカ十一月四日三道溝(北)北方約三里ノ地點ニ於テ約三十名ノ賊ト交戦シタルモ賊ハ密林深ク遁入シタルト時偶々夜ニ入りタル爲メ追撃中止ノ餘儀ナキニ至レリ此ノ戦鬪ニ於テ歩兵少尉井田君平及兵卒四名負傷ス賊ノ損害詳ナラサルモ遺棄セル死体三アリ元韓民會長李明淳亦其一名ナリシカ如シ羅子溝方面ニ向ヒタル阿部大隊ハ十月二十五日羅子溝ニ進出シ附近諸部落ノ剿討ニ從事ス十月二十七日田代騎兵少尉ノ率キル歩騎兵約三十名ノ剿討班ハ午後二時五十分老母猪河ニ於テ約百五十名ノ賊ト衝突交戦ス此時偶同地ニ進出セシ羽入支隊ノ歩兵一中隊機關銃一小隊ノ増援ヲ得交戦約二時間ノ後賊ヲ北方ニ擊退シ若干時追撃セルモ賊ハ森林中ニ入り且時漸ク黄昏トナレルヲ以テ追撃ヲ中止ス我ニ損害ナシ賊ハ在羅子溝大義甸議事會ニ屬スル崔正國ノ率キル義軍隊ニシテ本戦鬪ニ於テ死体五ヲ遺棄セリ大隊長ハ本戦鬪ノ結果竝住民ノ訊問等ニ依リ老母猪河北方山中ニハ崔明錄ノ北路督軍府外各地ヨリ逃避シ來レル匪賊約六百名アルヲ知リ羽入支隊ト協同シテ翌二十八日ヨリ連日賊ヲ索メテ剿討ニ努メタルモ賊團ハ其居所ヲ轉々シタル爲メ遂ニ得ル處ナシ十一月十二日大隊ハ支隊命令ニヨリ羅子溝出發途中一中隊ヲ大荒溝附近ニ止

メ主力ヲ以テ十五日輝春ニ歸還セリ
參考

羅子溝ノ情況 羅子溝ハ支那名ヲ綏芬大甸子ト稱シ一名大義甸ナル別名アリ東西約四里南北約五里ノ一大盆地(岡阜地)ノ總稱ニシテ十四部落ヲ包容ス大綏芬河ハ其源ヲ火燒舖附近ノ森林地帯ニ發シ羅子溝東側地區ヲ北於ニ流レ漸次諸川ヲ合シ黑龍溝ニ注ク羅子溝附近ノ河幅ハ約五十米内外トス

同地ハ約四十年前鮮人ヨリ開拓セラレ一時相當ノ部落ヲ構成セシモ馬賊ノ爲蹂躪セラレテ廢村トナリシカ約二十年前ヨリ再移住者ヲ見以テ現在ニ至ル鮮人戶數五百九十八人口三千百六十一外ニ支那人家屋五十餘アリ是等移住鮮人ノ多クハ穩城及慶源郡ヨリ來レルモノニシテ慶興、鍾城、鏡城各郡ノモノ之ニ次ク移住ノ動機ハ大別シテ二種トナスヲ得ヘク一ハ朝鮮併合ノ前後時事ニ憤慨シ鮮外ニ亡命セルモノニシテ相場ノ財産ト勢力トヲ有ス一ハ生計ノ窮迫ニ因ルモノニシテ凡テ貧民階級ニ屬ス

羅子溝ハ地味肥沃ニシテ粟稗、大豆、小豆ノ產額多ク近時若干ノ米ヲ產スルニ至レリ而シテ是等ノ穀類ハ主トシテ三岔口商人ニ依リ取引セラル同地ノ周圍約十里

間ハ雜木繁茂セル山岳重疊シ交通不便ニシテ汪清、琿春、三岔口、寧古塔ニ通スル小徑アルモ牛馬車ノ通過ニ適ヤス但シ三岔道ハ羽入支隊工兵ノ加修ニ依ニ辛ウシテ牛車ヲ通スルニ至レリ

以上ノ如キヲ以テ獨立運動者ノ爲ニハ他ノ干涉ヲ受ケサル好個ノ策源地タルヘク貧民ノ爲ニハ食料燃料共ニ豊富ナル恰適ノ移住地トシテ目セラルルハ自然ノ勢ナリ

學校ハ太平溝ニ新興學校、三道河ニ泰興學校アリ共ニ明治四十四年前逃亡命者ニヨリ設立セラレ前者ハ金光健後者ハ全錫奎ヲ校長トシ共ニ七歳乃至十六歳ノ生徒四十名内外ヲ收容シ獨立思想ノ涵養ニ努ム

不逞團トシテ大義旬議事會ナルモノアリ義勇隊員百七十三名露式五連發小銃約二百挺ヲ有シ會長全錫奎、副會長吳琦淵、總務全天甫、義勇隊長李春範、崔正國等ヲ其有力者トシ鳳梧洞大韓北路督軍府及大荒溝韓民會トハ相當ノ連繫ヲ有シタルカ如シ

十一月上旬支隊長ハ冒險隊長金雲瑞一派ノ武裝團遼泰東北方山林中ニ在ルヲ偵知シ十時步兵中佐ノ指揮スル步兵二中隊ヲ基幹トスル討伐隊ヲ出シ之ヲ剿討セシム

該隊ハ十一月七日連春ヲ發シ九日午後四時三十分牛頭山南麓ニ於テ約三十名ノ賊團ト衝突シ交戰約一時間ノ後之ヲ擊退シ其兵舍二棟ヲ破毀燒却セリ此戰鬪ニ於テカ死傷兵卒二賊ノ損害不明ナルモ死体一ヲ遺棄シ密林内ニ四散セリ

四道溝殘置部隊タル上坂大隊ハ十一月十八日五道溝西北谷地ニ韓民會軍務部長崔慶天ノ賊團約百五十潛伏セルノ報ニヨリ之ヲ剿討セシモ遠ニ之ヲ發見セス隱匿銃器二十餘彈藥約四百ヲ鹵獲シ歸還セリ

十一月二十三日ヨリ開始スヘキ木村支隊ノ小三岔口附近ノ討伐ニ策應セシムルタメ再ヒ阿部大隊(歩兵二中隊ヲ基幹トス)ヲ羅子溝ニ進ム

爾後當支隊方面ニ於テハ賊ノ殘黨ノ附近諸部落ニ潛伏シアルモノヲ檢舉搜查シ且屢々討伐隊ヲ各地ニ派遣シ我軍出動ノ本ヲ普ク鮮支人ニ宣傳シ以テ有形無形ノ效果ヲ獲得スルニ努メ相當ノ成績ヲ收メ十一月二十日師團命令ニ依ル分散配置ニ移リ更ニ附近諸部落ノ檢舉搜查ヲ周密ニシテ彼等ヲシテ潛伏ノ餘地ナカラシメ併テ親日宣傳ニ努メタリ此間冒險隊長金雲瑞等ノ連春東北約一里駱駝河子附近ニ潛伏セルヲ知リ十一月三十日夜海村中尉ノ歩兵約一小隊ヲ以テ該部落ヲ包圍シ金雲瑞外一名ヲ射殺ス他ノ賊數名ハ夜暗ヲ利用シ四散セリ此時我カ兵卒一名戰死ス

十一月二十八日支隊司令部ニ出頭シ歸順ヲ願出テタル琿春縣韓民會長尹東詰陳述
中東會ノ内容ニ關スルモノハ若干ノ參考資料タルヘキモノアルヲ以テ左ニ之ヲ摘
録ス

參考

尹東詰自白ノ一節

韓民會該立ノ目的 獨立ノ宣言、募兵ノ實行、教育ノ普及ヲ三大綱領トシ大ニナス
アラントセシモ經費ノ關係竝支那官憲壓迫ニヨリ企圖意ノ如クナラ本年陰曆七
月解散ノ止ムナキニ至レリ

本部ノ位置、編成及幹部 本部ハ之ヲ四道溝小黃溝(黃溝北方約一里半)ニ置キ會長
尹東詰、副會長張學年、參事猛正、國書記若干、軍務部長崔慶天、財務部長金文弢、警護部
長韓昌傑、教育部長金昌勳、通信部長百奎南ヲ幹部トス

募兵及武器ノ購入 當時ノ募集兵概ネ二百名ニシテ主トシテ四道溝兵營ニ收容
教育セシカ支那軍隊ノ爲メ兵舍ヲ燒却セラレ是亦解散セリ

兵器ハ主トシテ露領ヨリ購入セルモノニシテ小銃約二百五十挺、機關銃三ヲ有セ
シモ内機關銃一ハ部下ニ於テ幹部ノ制止ヲ背ンセス間島方面ニ持去レリ

募捐金額及之カ費消方法 珥春縣下ニ於テ約四萬圓ヲ得タルモ要ハ獨立ノ憧憬
ト武器ノ購入トヲ急キシ結果慢然無計畫ニ之ニ費消セリ

他方面トノ連絡 上海假政府トハ昨年ハ連絡セシモ本年ハ未タ實施ノ運ニ至ラ
ス間島方面ノ獨立軍トハ連絡センコトナシ

日本軍出動後ノ情況 全ク團隊的ノ行動不可能トナリ自己ノ生命不安ノクメ一
部ノモノヲ除クノ外全部四分五裂シ姿ヲ晦セリ幹部相互間ノ通信ハ縦前ニ於テ
ハ例令幾十里ヲ隔ツモ自由確實ナリシカ今ヤ全然不可能トナリ隣村ニ伏在スル
モノスラ之ヲ知リ得サル狀態トナレリ云々

其三 木村支隊

木村支隊ニ屬スヘキ岩橋大隊(三中隊欠)ハ十月十七日以來百草溝ニ於テ支隊主力ノ
西大浦附近剿討ニ協カスヘキ準備ニアリ

十月十九日在珥春磯林支隊ノ隸下ニアリシ横田大隊(歩兵第七十五聯隊第三大隊本
部並二中隊)ハ穩城ニ到着シ支隊長ノ隸下ニ入ル十月二十日夜支隊ハ主力ヲ以テ穩
城附近ニ於テ岡們江ヲ渡河シ二十二日軍政署ノ根據地タル西大浦十萬分一チンコ
ーヅ十里坪ヲ剿討シ彼等ノ武官學校其他ノ建物ヲ燒却シ十里坪ヲシテ再ヒ彼等ニ

根據地タラシメサル如ク徹底的ニ其資源ヲ覆滅ス此日賊ノ東北ニ脱逸スルヲ扼止スヘク派遣シアリシ蘆田高畑兩中尉ノ小隊ハ十里坪東北密林中ニ於テ賊ノ小部隊ト衝突シ交戦約三十分ノ後之ヲ撃退セリ此小戦ニ於テ我兵卒戰死一、負傷二、賊ノ損害不明ナルモ遺棄セル死体六ヲ發見ス

十月二十三日支隊主力ハ汪清ニ到着シ岩橋大隊ハ荒溝口子ニ進出シテ汪清方面ニ對シ賊ノ退路ヲ遮斷ス爾後支隊長ハ岩橋大隊ヲ合セ指揮シ汪清蛤蟆塘附近部落ヲ剿討シ相當ノ成績ヲ收メタリ此間十月二十六日岩尾少佐ノ指揮スル歩兵二中隊ヲ基幹トスル部隊ヲ羅子溝ニ派遣ス該隊ハ大荒溝張家店間ニ於テ二回賊ノ小群ト衝突シ其一名ヲ殲シタルノ外顯著ナル情況ニ遭遇セス二十七日羅子溝着羽入支隊及阿部大隊ト連絡シ十一月二日百草溝ニ歸還シ支隊主力ニ合セリ

斯ノ如ク木村支隊ハ其主力ヲ汪清及百草溝附近ニ集結セルモ當時此方面ノ賊狀ハ大ナル顧慮ナキ狀態ニアリ之ニ反シ東支隊方面ニ於テハ青山里方面ニ不退圍ノ集團アルノ外天寶山銅佛寺奥地ニモ三々伍々賊徒彷徨シアルモ同支隊ハ直ニ之ヲ剿討ニ着手シ得サル情況ニ鑑ミ師團ハ木村支隊ニ一部ヲ百草溝ニ殘シ主力ヲ以テ北一兩溝附近谷地ヨリ朝陽河谷ニ移シ同地附近一帯ノ剿討ヲ命シタルヲ以テ支隊主

第二章 作戰行動

七〇

力ハ十一月三日百草溝ヨリ行動ヲ起シ同十三日ニ亘ル間ニ於テ所命ノ地域ヲ剿討シタリ一兩溝一帶ノ谷地ハ朴萬弘ヲ長トスル義軍團山砲隊ノ根據地タリシ所ニシテ逮捕セル同隊有力者ニ就キ調査セル概要左ノ如シ

參考

義軍團ノ内容 義軍團ハ大正九年舊三月鳳梧洞ニ於テ組織シ許公旭之レヲ統率シ統軍部ト募捐部トニ區分ス外ニ前記山砲隊ナルモノアリ六月中許公旭ハ部下二百餘ノ武裝團ヲ率キ一時一兩溝ニアリシカ若干日ノ後一旦歸來根據地ヲ明月溝ニ移セリ義軍團ノ總兵力ハ約四百名ニシテ武器ハ其約半數ナリ募捐部ハ各地方ニ理政局長ヲ置キ一等五十圓ヨリ七等一圓ニ至ル賦課金ヲ定メ徵稅區長(百戸ニ付一名宛)之ヲ徵收山砲隊ハ本年五月露領ヨリ趙喜春ナルモノ部下四十名餘名ヲ率キ太陽村(北一兩溝附近)ニ來リ朴萬弘ヲ説キ同地ニ於テ組織スルニ至レルモノニシテ同隊ハ狩獵ヲ業トシ銃ノ取扱ニ巧ナルモノヲ選拔募集シ名簿上ノ隊員百七十餘名ヲ有スルモ平時六十餘名ヲ集合シ得ルニ過キス該隊ハ九月上旬支那軍隊ノ討伐時武器被服ヲ土中ニ埋藏四散セリ

(備考)

間島地方鮮支人ノ所謂山砲隊ナルモノハ決シテ山砲ヲ有スルノ意ニアラスシテ
本例ノ如ク山野ニ狩獵スル銃夫ヲ以テ組織セル隊ヲ云フモノナルヲ以テ誤解ナ
キヲ要ス

本剿討間山木中隊ハ五日北一兩溝(西)―屯田營道上支那人家屋ヨリ遁走スル鮮人十
名ヲ射殺シタルカ其所持品(職印四個)ニ依リ大韓義軍府ノ賊主要人物タルヲ發見セ
リ

十一月十五日支隊ハ主力ヲ八道溝ニ集結シ二十日百草溝ニ歸還セリ此間百草溝殘
置部隊亦附近諸部落ヲ剿討シ殊ニ小百草溝ニ於テハ密告者ノ言ニ依リ隱匿セル小
銃十八彈藥千六百餘ヲ發見鹵獲セリ

參考

銃器ノ隱匿法 稍多數ノ兵器ハ家屋内ニ隱匿スルコト頗ル稀ニシテ通常厚キ木
製ノ箱ニ收メ土中ニ埋藏ス其位置ハ宅地附近ノ畑地河中ノ砂洲林空等一定セス
甚シキハ墓地内ニ新墓ヲ裝ヒ隱匿セルカ如キ例アリ

次テ軍政署徐一ノ一派二百餘名ハ蛤蟆塘北方約八里轉角樓神仙洞附近ニアルヲ知
リ支隊長ハ主力ヲ以テ該方面ノ剿討ヲ實施スヘク十一月二十六日其根據地ニ至リ

タルモ賊ハ既ニ前日東北方山地ニ遁走ノ後ナリシヲ以テ該地附近ヲ搜查シ若干ノ武器彈藥ヲ押收シ二十九日主力ヲ以テ百草澤ニ歸還シ爾後分散配置ニ移リ賊殘黨ノ周密搜查竝親日宣傳ヲナス

此間歸順者ニヨリ取調ヘタル軍政署ノ兵器概要左ノ如シ

參考

軍政署ノ兵器數 軍政署ハ最初小銃七十ヲ有スルニ過キサリシカ大正九年陰曆一月中旬露領ヨリ更ニ小銃七十、拳銃二十、機關銃二、爆彈六百餘ヲ購入シ一旦大坎子ニ次テ十里坪ニ運搬ス當時人夫約百三十名ヲ使用セリ彈藥ハ四、五萬發ニシテ其後陰曆六月中旬約百八十名ヲ使用シ六、七萬發ヲ携行セルヲ以テ彈藥總數十萬乃至十二萬發ナリ而シテ軍政署司令官金佐鎮ノ陰八月十里坪ヨリ大坎子ヲ經テ西方ニ移動セル際小銃攜帶者ハ五百五名ニシテ其他ニ機關銃手彈藥運搬手等約四百名ヲ引率セリ是等ノ兵器ハ六月以降ノ調辨ニ係ルモ其數詳ナラス

十二月十四日蛤蟆塘西北谷地ニ武裝鮮人潜伏ノ密告ニ接シ剿討ヲ命セラレタル島田少尉ノ三十餘名ハ同夜蛤蟆塘ヲ發シ該谷地ヲ前進スルコト約五里ニシテ翌拂曉稍前目的地ニ達シ家屋ニヨリ防禦ヒル賊ト交戦ス射殺五、俘虜二、小銃八、彈藥千八百

餘ヲ鹵獲ス此小戦ニ於テ我兵卒三名負傷ス

其四 東支隊

十月十五日歩兵第三十七旅團長東少將ハ龍井村ニ到着シ茲ニ東支隊ヲ編成ス支隊長ハ師團ノ訓令ト當時ノ情況トニ鑑ミ局子街及天寶山ニ各一部隊ヲ派遣セリ十月十六日ニ於ケル支隊ノ兵力配置概ネ左ノ如シ

局子街方面 歩兵第七十四聯隊第二大隊(二中隊欠)機關銃一小隊(石塚大隊)

天寶山方面 歩兵第七十三聯隊第二大隊(二中隊欠)機關銃一小隊(飯野大隊)

頭道溝方面 歩兵第七十三聯隊第三大隊(二中隊欠)(中村大隊)

龍井村方面 支隊司令部

歩兵第七十三聯隊本部並三中隊機關銃一小隊特種砲隊通信班

歩兵第七十四聯隊第二大隊ノ二中隊機關銃一小隊通信班半部

騎兵第二十七聯隊(一中隊半欠)

野砲兵一中隊

工兵一中隊

十月十七日夜半支隊長ハ機關銃ヲ有スル約五六百ノ賊徒尙頭道溝西南約十里青山

里附近谷地ニ停止アルノ情報ヲ得左ノ部署ヲナセリ

一、山田討伐隊歩兵第七十三聯隊長ノ指揮スル歩兵五中隊ヲ基幹トスハ可成速ニ有力ナル一部ヲ以テ賊ノ西方地區ニ逸出スヘキ退路ヲ扼シ主力ハ賊ヲ索メテ討伐ス

二、騎兵聯隊(長加納大佐)ハ主力ヲ以テ後車廠溝前車廠溝外平嶺方面ヨリ迂回シ老嶺方面賊ノ退路ヲ遮斷スルニ努ム

三、歩兵第七十四聯隊ノ二中隊機關銃一小隊野砲兵一小隊ハ頭道溝ニ到リ待機ノ姿勢ニ在ラシム(支隊豫備隊)

四、其他ノ諸隊ハ現在地附近ニ在リテ該地附近ノ剿討ニ從事ス

五、支隊長ハ頭道溝ニ移ル

山田討伐隊ハ二縱隊トナリ青山里樹干梁西方一吉米ニ向ヒ前進ス其右縱隊(中村大隊)ハ十八日頭道溝發蜂蜜溝ヲ經テ青山里ニ向ヒ前進中十九日蜂蜜溝西南約三千米ノ谷地ニ於テ約四十ノ支那馬賊ト衝突シ之ヲ擊退賊二名負傷シ爾後險峻ナル山地ヲ行進シ十月二十一日青山里附近ニ於テ支隊主力ニ合ス

山田討伐隊ハ十月十八日龍井村發頭道溝南方八家子三道溝ヲ經テ十月二十日青山

里ニ達シ同日未明約六百ノ賊徒ハ同地ヲ發シ奥地ニ遁入シタルヲ知り之ヲ搜索ニ努メ同地ニ宿營ス翌二十一日討伐隊ハ主力ヲ以テ密林中ニ遁入シタル賊徒ヲ索メ且附近諸部落ヲ剿討シ安川少佐ノ指揮スル選抜歩兵一中隊ヲ以テ老嶺ニ向ヒ追撃セシム追撃隊ハ宿營地出發約一里ニシテ賊ノ前夜ノ露營地ヲ發見ス該露營地ハ二個ノ集團トナリ六十ヶ所ニ殘火尙存シ約六百名ノ露營セル跡ナルヲ知ル即警戒ヲ嚴ニシ進ムコト約七八百米ニシテ忽チ賊ノ射撃ヲ受ク追撃隊ハ之ニ應シ攻撃ニ移リ交戰約三十分ニシテ賊ハ逐次退却ヲ始ム追撃隊ハ討伐隊主力ヨリ増援セラル部隊ヲ併セ老嶺ニ向ヒ追撃シタルモ賊ハ其大部ヲ以テ老嶺東南谷地密林中ニ一部ヲ以テ安圖縣方面ニ退却シ全ク觸接ヲ絶ツニ至リタルヲ以テ一先ツ隊伍ヲ整頓シ主力ノ位置ニ撤退ス此戰鬪ニ於テ我カ戰死兵卒四負傷下士一兵卒二賊ハ死休十六ヲ遺棄ス討伐隊ハ爾後該地附近ヲ剿討シ主力ヲ以テ三道溝附近ニ集結ス

支隊長ハ十月十八日夕迄ニ得タル情報ニ依リ洪範圖ノ率キル約五百ノ賊徒ハ頭道溝西方約六里ノ山中ニ占據シアルヲ知り之ヲ攻撃スル爲メ十九日支隊豫備隊ニ主力ヲ以テ先ツ二道溝口子ニ前進セシムルト共ニ天寶山ニアル飯野大隊ニ其一中隊ヲ現在地ニ止メ其他ヲ以テ十九日中ニ二道溝口子ニ到ルヘキヲ命セリ支隊豫備隊

ハ爾後二道溝口子、蜂蜜溝附近ヲ搜索シタルモ、賊團ヲ發見セス。二十一日、漁朗村東北約一里ノ臥龍洞ニ宿營セリ。飯野大隊ハ二十日支隊豫備隊ニ合シ、二十一日以鷄嶺其東南地區ヲ剿討シ、南部漁朗村ニ到リ宿營スヘキ命ヲ受ケシモ、密林中ニ道ヲ失シ、南陽村(臥龍洞西方約九吉米)ニ到リ宿營セリ。

騎兵聯隊ハ昇平嶺方面ヘノ前進路險惡加フルニ、濕地多ク行動不能ナリシヲ以テ支隊豫備隊ノ行動ニ策應スル爲メ、五道陽岔ニ轉進シ、賊情ヲ搜索シツツ、漁朗村(蜂蜜溝下)東北約六吉米)ニ達シ宿營ス。翌二十二日午前五時三十分頃、金佐鎮配下ノ士官生徒隊ヲ基幹トセル約三百ノ賊ハ騎兵聯隊ノ小碯ニ襲來ス。聯隊ハ直ニ之ニ應シ、交戦シ支隊豫隊亦此方面ニ急行ス。賊ハ標高八七四高地南側ヲ占領シ、地ノ利ニ據リ頑強ナル抵抗ヲ爲シ、交戦約五時間ニ及ヘリ。午後零時三十分飯野大隊亦戦線ニ加ハリ、遂ニ之ニ撃退ス。此戦鬪ニ於テ我カ戦死下士一、兵卒二、負傷兵卒十二名ニシテ、賊ノ死傷詳カラサルモ、約六十名ニ達スヘク、俘虜五、小銃二十二、彈藥二千二百及輕機關銃一ヲ鹵獲セリ。敗退セル賊徒ハ其ノ西南方山地密林地帯ニ四散シ、其後退却方面判明セス。支隊豫備隊ハ二十三日夜ニ至ル迄現在陣地ニ在リテ、賊ノ退却方向ノ搜索竝爾後ノ追撃ヲ準備シ、騎兵聯隊ハ漁朗村五道揚岔道ヲ封鎖ス。支隊長ハ徹底的ニ賊ヲ撃滅スル

ノ企圖ヲ以テ兵力ノ集結ニ努メシモ交通ノ不便ト一般配備ノ關係上集結意ノ如クナラス然レトモ賊ハ逐次北方ニ遁走スルノ微アルヲ以テ二十四日自ラ歩兵百五十機關銃三ヲ率キ漁朗村出發蜂蜜溝北方約二千米ノ小流ニ沿ヒ西進午後四時賊ノ前夜ニ於ケル露營地ヲ發見シ住民ニ詰問シテ賊ノ退却方向ヲ知リ或ハ足跡ヲ索メ或ハ樹枝ニ存セル賊銃照星頂ノ傷眼等ニ依リ判斷シ密林中ヲ彷徨シ古洞川ニ沿ヒ溯ルコト約六里ニシテ二十五日午後十時頃前方森林中ニ薄キ煤烟ノ揚ルヲ見ル次テ近ク賊徒ノ露營セルノ報告ニ接シ夜十二時夜襲ヲ敢行之ヲ聲退スト雖賊ハ尙近ク各所散在シ諸方面ニ對シ亂射ヲ繼續スルヲ以テ無益ノ損害ヲ避クヘク附近ノ最高峯一七四三高地ニ兵力ヲ集結ス此戰鬪ニ於テ我ニ損害ナシ賊ノ死傷約三十小銃十彈藥約一萬ヲ鹵獲ス其後俘虜ノ糾問ニ依リ此賊團ハ洪範圖指揮スル約三百(内執銃者二百五十)金佐鎮部下約三十ナリシヲ知ル該隊兵力ノ不足ハ遠ニ之カ徹底的剿討ニ由ナク二十六日蜂蜜溝ニ歸還セリ此隊ハ二十四日午後三時ヨリ二十六日午後四時ニ至ル四十九時間全ク密林中ニ行動セルモノニシテ其勞苦ヤ多大ナリ

以上山田討伐隊青山里附近ノ戰鬪騎兵聯隊及支隊豫備ノ漁朗村附近ノ戰鬪竝古洞河谷支隊豫備隊夜襲ノ概況附屬第六ノ如シ

天寶山守備部隊歩兵第七十三聯隊第六中隊ハ十月二十四日夜八時約四十名同夜三時約十五名ノ賊徒來襲之ヲ擊退シ其二名ヲ殪セルモ遂ニ之カ踪跡ヲ失ヒ追撃ヲ中止ス此賊團ハ二十二日漁朗村附近ニ於テ我ト交戦セル一團ナルヘク判斷セラル依テ局子街ニ在リシ石塚大隊ニ一中隊ヲ該地ニ止メ殘餘ヲ以テ天寶山ニ到リ同地ニアル中隊ヲ合セ此方面賊徒ノ剿討ヲ實施セシム此大隊ハ殆ント支隊主力ノ徹退直前迄該地附近一帯^{明月溝及敦化街道附近}ノ剿討ニ從事セリ

支隊長ハ前項諸戰鬪ノ結果ヲ綜合判斷シ賊徒ノ大部ハ尙未タ老山領附近ヲ去ラサルモノト判斷シ各分屯諸隊ヨリ集合セシメタル兵力及師團命令ニ依リ會軍ヨリ急進セル兵力ヲ合シ概ネ後車廠溝漁朗村三道溝青山里ニ亘ル包圍線ヲ形成シ索敵並陰匿若クハ遺棄セル兵器材料ノ發見ニ努メ若干ノ兵器彈藥ヲ鹵獲シタルモ遂ニ賊團ト遭遇スルニ至ラス

十一月中旬支隊長ハ安圖利龍縣界密林地帶ニ賊ノ一團潜伏シアルヲ諜知シ山田討伐隊ヲシテ十一月十八日青山里發之カ剿討ニ任セシム同討伐隊ハ積雪深キ密林中ニ迷没スルコト十日具ニ辛酸ヲ嘗メ賊ヲ索メタルモ賊ハ安圖縣奥地深ク遁入シ遂ニ何等得ル處ナク二十七日青山里ニ歸還セリ

此間加納討伐隊ハ銅佛寺方面ノ剿討ニ任シ設方面ニ暴威ヲ振ヒタル國民會ノ金剛以下幹部數名ヲ捕ヘ頭道溝警備隊ハ二道溝奥地ニ於テ賊ノ隱匿セル機關銃ニヲ押收シ石塚大隊ハ小潮溝附近ニ於テ小銃三十五彈藥約三千五百ヲ發見押收セリ

參考

イ、賊ノ變裝及潜伏法 賊ノ武裝ヲ解キ良民ヲ裝フハ易々タルノミナラス甚シキハ婦人ヲ裝ヒ我カ將士ニ危害ヲ加ヘントシタルモノアリ又彼等ハ常ニ支那地アルノ關係上支那語ヲ能クスルモノ多ク是等ハ支那人ニ變裝シ之カ識別ヲ困難ナラシムルコト屢々ナリ又我カ包圍ヲ受ケタル際ノ潜伏法ニ苦慮シ金剛ノ如キハ鮮人家屋側ノ野菜貯藏ノ穴倉内ニ潜伏シ其倉上ニ藥ヲ堆積セシメ而モ該堆藥上ニハ殘雪ヲ存セルカ如キ搜查ノ苦心亦察スルニ足ルヘシ

ロ、賊ノ行軍法 賊ハ行軍ニ際シ村民ヲ利用シ指定スル隣村迄ノ嚮導竝途中ノ斥候ニ任セシメ該村ニ達セハ村端ノ民家ニ就キ我軍ノ在否ヲ確メ家人ヲシテ嚮導タラシム逐次斯ノ如クシ夜間ヲ利用シ巧ニ其團體ヲ移動セリ又退却ニ際シテハ斥候ヲシテ主力ト反對方向ニ我ヲ誘致スルカ如シ

ハ、兵器隱匿法 常方面ノ賊ハ密林地帶行動中之ヲ陰匿セルカ故ニ他方面ト稍其

越ヲ異ニシ多クハ大枯木ノ倒壊セル下ヲ選ヒ銃ハ遊底ヲ脱シ各「カツバ」ニ包ミ落葉ヲ以テ約五寸位ヲ覆フ手榴彈ハ「カツバ」ニ包ミ或ハ背囊ニ入レテ前同様ノ處置ヲ採レリ彈藥亦右ニ準ス

二、密林中ニ於ケル賊退却ノ一法 賊退却ニ際シ密林ニ放火シ我追撃ヲ阻止スルコトアリ青山里ニ於ケル安川追撃隊ノ如キハ之カ爲若干苦心セリ

爾後支隊ハ分散配置ニ就キ附近諸部落ノ周密搜查ヲ行ヒ且同時ニ親日の宣傳ニ努メタル結果賊殘黨ノ歸順スルモノ日ニ其數ヲ増シ隱匿兵器竝不逞行動ニ關スル重要書類ノ發見セラレシモノ亦尠シトセス

其五 國境守備隊

イ、惠山鎮方面

惠山鎮方面ノ守備隊ハ他ノ第十九師團管下國境守備隊ト異ナリ其對岸ハ日支協同討伐隊協定ニ依ル我軍ノ擔任區域外ニシテ對岸地方ノ剿討ヲ實施スルヲ得サリシカ間島方面剿討ノ伸展ニ伴ヒ對岸地方ノ不逞鮮人漸次活動ノ兆アリテ爲メニ地方ノ民心競々タリ守備隊亦警戒ヲ嚴ニシ之ニ備フル所アリシカ十一月六日地形偵察ノ爲仁連堡ニ派遣セル我カ將校斥候ハ歸還ノ途同地東方約一里ノ森林地帶通過中

不意ニ對岸支那地ニアル六七名ノ不退鮮人ヨリ對擊ヲ受ケタルヲ以テ對岸ニ進出
追擊ヲ敢行セルモ賊ハ奥地深ク遁入シテ其踪跡ヲ晦セリ該斥候ハ師團長ノ命ニヨ
リ八日鮮内ニ引揚ケタリ十一月七日約二十名ノ不退鮮人ハ大坪里寶泰洞西北二里
ニ來襲シ我カ憲兵及警察官ハ之ト交戦シ賊一名ヲ殞シ憲兵亦一名貨傷ス普天堡ヨ
リ將校以下十餘名ヲ派遣シ之ヲ追擊セシメタリ
以上ノ情況ニ鑑ミ步兵第七十四聯隊長ハ步兵一中隊ヲ十一月八日咸興發此方面ニ
増派セルモ爾後情況ニ大ナル變化ナク經過セリ

ロ、茂山方面

十月六日第十九師團長ハ茂山對岸方面ノ賊情ニ鑑ミ且將來ノ必要ヲ顧慮シ步兵第
七十三聯隊ヨリ大隊長ノ指揮スル步兵一中隊(松崎大隊)ヲ後更ニ一中隊ヲ該方面ニ
増派シ警備ニ任セシム

此大隊ハ十月十三日ヨリ十八日ニ亘ル間對岸ニ進出シ諸部落ノ剿討ニ從事シ同地
方ニアル義軍團安鎬ノ率キル百五十名(銃數約百)ノ賊團ヲ索メタルモ遂ニ之ヲ逸セ
リ又十月十九日農事洞上流約一里仲坪附近ニ侵入シ内地人二名ヲ殺傷シタル不退
鮮入約七十名ニ對シ交戦セル憲警援助ノ爲一部隊ヲ派遣ス

第二章 作戰行動

八二

十月下旬東支隊青山里附近討伐ニ際シテハ一部ヲ石人溝附近ニ進メ之ヲ策應シ則討ニ徒事シ十一月二十日師團命令ニ依ル分散配置ニ移リ附近諸部落ノ周密搜查ニ從事センカ十二月十七日全部鮮内ニ引揚ケタリ

ハ、會寧下流地區

我カ軍隊ノ出動以來不逞鮮人ノ一部ハ其安全地帶ヲ江岸附近ノ諸部落ニ發見シ盛ニ流言蜚語ヲ放チテ民心ヲ動搖セシメ且時ニ我カ後方連絡線ヲ脅威セントスル狀態ナシヲ以テ會寧及其下流上三峯、鍾城、南陽、穩城、訓戎、慶源、新乾原、新阿山、慶興、古邑ノ各守備隊ハ所在地ノ憲兵及警察ト連絡シ時ニ對岸附近諸部落ヲ剿討シ不逞者ノ殘黨ヲ檢舉シ武器ノ押收、資源ノ覆滅等ニ從事シ一方親日ノ普傳ヲ行ヒタリ

其六 航空隊

航空隊要員及器材(約半數)ハ十月十四日乃至十九日ニ亘リ内地出發十月二十二日清津ニ到着ス之カ揚陸ハ同地運輸部ニ於テ擔任セシカ其實施要領概ネ左ノ如シ但シ搭載船投錨地ハ離岸約五百米ノ位置ニアリ

1944

十月二十三日要員及器材ハ會寧ニ到着シ長尾工兵大隊ヲ長トスル第十九師團航空隊ヲ編成ス同時豫テ工兵大隊ニ於テ偵察セル所ニ基キ飛行場ヲ會寧西南俗稱六本松東側畑地ニ選定シ之カ地均工事及格納庫ノ建設ニ着手スルト共ニ琿春、穆城、局子街、羅南方面臨時着陸場ヲ偵察ス

十一月十四日諸準備完成シ第一回ノ飛行ヲ開始シ其一機ハ琿春ニ至リ局子街ヲ經

第二章 作戰行動

八三

揚陸順序	揚陸材料（個數）	使用人員	使用材料	所要時間
一	兵員（三〇名） 自働貨車（二輛） 自働自動車（二輛） 自働二輪車（二輛）	内地人三五七	汽艇一	自午後二時二十分至午後二時四十分二十分間
二	器具材料箱（三九個）	内地人五五	解舟一	自午後五時一時間至午後六時一時間
三	揮發油（四五〇箱）	内地人二〇〇	解舟一	自午後三時十分至午後二時五十分間
四	サルスン飛行機（鐵製梱包箱收納）（二機）	内地人二〇〇	解舟二	自午後二時五十分至午後五時三十分間

第二章 作戰行動

八四

テ歸還ノ途中濃霧ノ爲メ方向ヲ失シ茂山上流約十六里楡坪ニ不時著陸ノ止ムナキニ至リ爾後遂ニ之カ使用不能トナレリ十一月十七日追送飛行機二機到着同十九日之カ組立ヲ完了セリ爾後三機ヲ以テ連絡ヲ以テ連絡並示威ノ爲メ間島地方及鮮内ノ飛行ニ任シ未タ嘗テ飛行機ヲ見タルコトナキ鮮支人ニ對シ多大ノ效果ヲ收メ十二月二十日ヲ以テ作戰行動ヲ中止シ寒地飛行試験班ニ合スル準備ニ着手シ翌年一月六日該試験班ニ合セリ

飛行開始前第十九師團ノ各隊及地方官憲ニ與ヘタル指示附錄第五ノ如シ

其七 通信

イ、有線電信電話

十月二日琿春ニ兵力ヲ出動セシメタ以來琿春ニ最近キ訓戒ハ戰術上ノ要衝ト化シ通信ノ焦点トナリシヲ以テ中央部ヨリ朝鮮總督府ニ依託シ慶源訓戒間遞信局電柱ニ軍用電信線一線ヲ添架シ清津郵便局ニ西伯利事件ノ爲特ニ勤務シアル陸軍通信技手二名ヲ臨時訓戒守備隊ニ派遣シ通信事務ヲ執ラシメタリ爾後軍ハ兵力ノ出動ニ伴ヒ剿討計畫ニ基キ龍山兵器支廠出張所在庫ノ作戰用半永久通信器材ヲ認可ヲ得テ第十九師團ニ交付シタリ第十九師團ハ之ヲ以テ電話線ヲ訓戒―琿春間ニ新設

シ會寧―龍井村―間遞局電柱ニ添架作業ニ著手シ次テ龍井村―局子街間―龍井村―頭道溝間支那電話公司電柱ニ添架ヲ行フト共ニ慶源―龍井村間ノ電話新設ヲ命セリ十月十四日軍參謀天野少佐ハ陸軍省ヨリ細部ノ指示(附錄第二參照)ヲ受ケテ歸來セシヲ以テ軍ハ次ノ如ク遞信局ト協定セリ

一、建築要領左ノ如シ

第一期 慶源―龍井村間 電信一線新設

會寧―龍井村―局子街間及鎮城―龍井村間電信一線添架及新設

龍井村―頭道溝間 電話複線新設

第二期 會寧―清津―羅南間 電信一線添架

第三期 會寧―北蒼坪―慶源間及北蒼坪―穩城間 電信一線添架

第四期 古茂山―茂山―西江間 電信一線添架及新設

本線ハ經費ノ關係上之ヲ中
シ遞信局ノ依託ヲ解ケリ

但シ第一期作業ト同時ニ既設軍用線ノ補修ヲナシ遞信局會寧―羅南線ヲ直通トナス

二、遞信局ニ於テ現ニ著手セル作業ハ自今本協定ニ依ル

三、第十九師團ニ於テ現ニ著手セル作業ハ本協定ニヨリ遞信局ニ引繼ヲナス

第二章 作戰行動

八六

但シ要スレハ遞信局當事者ヨリ第十九師團ニ兵力ヲ以テスル作業ノ援助ヲ請求スルコトヲ得

四、作戰用器材ヲ使用セントスル場合ハ軍司令部ニ請求スルコト

五、遞信局出先當事者ハ第十九師團ト更ニ細部ニ就キ協議ス

以上ノ協定ニ基キ軍ハ第十九師團ニ命シ從來ノ計畫及作業ヲ其使用材料及經費トモ一切遞信局ニ引継カシム但シ急ヲ要スル作業ハ師團ニ於テ著々實施セシムルコトトセリ

陸軍省指示ト軍對遞信局協定トノ間若干ノ相違アル點左ノ如シ

一、清津以北鮮内ノ電信ヲ單線トナセシハ遞信局ノ作業力乏シキ結果ニシテ緊急ヲ要スル線路完成ヲ待テ更ニ遞信局ニ要求ス

二、清津―茂山線ヲ古茂山―茂山線ニ變更セシハ地理上及保線上後者有利ナリト認メタルニ依ル

三、會寧―局子街間電話被覆線ヲ電信ニ變更セシハ電信トスルモ添架ナルヲ以テ作業速度可ナリ大ナルノミナラス經費モ大差ナク電話被覆線トナスノ必要ナシト認メタルニ依ル

四其他ノ電話被覆線ハ遞信局作業力ノ關係上已ムヲ得ス第十九師團ヲシテ實施セシメ遞信局ニ要求セス

五龍井村―頭道溝間ノ電話線ハ作戰上必要ニシテ電信通信員不足ノ爲電話トナシ從テ復線トナセリ

右ハ軍參謀長ヨリ軍務局長宛通牒ヲ以テ上司ノ諒解ヲ求メタリ

朝鮮總督府遞信局ハ前記協定ニヨリ有ユル手段ヲ盡シテ工事ノ進捗ニ努ムル所アリシモ工夫ノ人數少ナルト正規ノ材料殊ニ電柱ノ蒐集ニ時日ヲ要スル爲活潑ナル軍隊ノ行動ニ隨從スルコト到底不可能ノ狀態ナリシヲ以テ師團ハ工兵ヲ各支隊トモ一小隊宛ニ減シ其他ノ主力ヲ大隊長指揮ニ屬セシメ之ヲ以テ裸線ヲ遞信局若クハ支那側ノ電柱ニ添架セシメ若クハ脆弱ナル樹枝ヲ以テ眞ニ一時ノ應急的電話網ヲ構成セシメタリ之ニ使用セル作戰用器材竝經費附表第二、第三ノ如ク總督府依託工事費竝維持費附表第四ノ如シ

又第十九師團ノ最モ分散セル配置ヲ探レル場合ニ於ケル通信網ノ概況ハ附圖第七ニ主力撤退直後ニ於ケル通信網ハ附圖第八ニ示セルカ如シ

事件終結後處理方法附圖第九ノ如シ

大正九年一月廿六日京城陸軍無線電信所開設通信ヲ始ム其主要通信系路左ノ如シ

京城無線電信所主要通信系路表

發信方面	著信方面	送來所	送先所
北支那	内地	秦皇島	京城局又ハ金澤
同	西伯利、北滿	同	京城局
同	浦潮	同	京城局
中支那、山東	内地	濟南	京城局又ハ金澤
西伯利北滿	内地	公主嶺	全右
京城	旅順		旅順又ハ秦皇島

間島事件ノ發生ニ伴ヒ移動式無線ノ該方面開設ニ先テ軍ハ在浦潮野戰交通部ト協
定シ浦潮對京城及浦潮對間島方面ノ交信時間ヲ定メタリ

移動式無線電信要員及器材(二基)ハ十月十九日夕會寧ニ到着シ同時野砲兵第二十五
聯隊ヨリ無線電信輸送員及馬匹ヲ受領シ二十日其編成ヲ終リ會寧及薺春ニ通信所

ヲ開設ス其通信最況左ノ如シ

會寧 十月二十日 設

哈爾賓及三岔口間通信概シテ良好

浦潮及琿春間通信良好

京城間通信連絡ニ努メタルモ結果良好ナラス

琿春 十月二十五日 設

三岔口間通信概シテ良好

以上ノ如キヲ以テ間島方面對京城ノ無線連絡ハ浦潮ニテ中繼セリ次テ十一月十七

日琿春無線ヲ撤シ之ヲ龍井村ニ移セリ

龍井村 十一月二十七日 設

三岔口間連絡概シテ困難浦潮中繼

浦潮實用通信可能 三笠艦(在浦潮)通信良好

哈爾賓連絡シ得

十二月三日第十九師團司令部ノ羅南移轉ト共ニ會寧無線ヲ撤シ羅南ニ移セリ

羅南 十二月七日 設

龍井村間 感度低キモ實用ニ適ス

浦潮間 實用通信可能 三笠艦(在浦潮)通信良好

金澤 概シテ良好 羅南京城間中繼

京城 夜間ハ直接連絡シ得

第二章 作戰行動

九〇

因ニ羅南及龍井村ニ於テハ其位置ノ關係上通信能力ノ増大竝冬季定式電柱ノ保存ヲ願慮シ高サ百五十尺ノ應用木柱ヲ建設セリ

ハ、鳩通信

十月二十日軍用鳩使用班ニ屬スル人員器材會率ニ到着セルモ今回携行セル軍用鳩ハ何レモ本年四月乃至六月孵化セル幼鳩ニシテ地勢其他ノ環境一變セル北鮮及間島地方ニ於テハ少クモ二ヶ月ノ諸訓練ヲ經ルモ必要トセル爲此鳩班ハ十二月下旬主力撤退時ニ於テ漸ク四十吉米ノ放鳩試験ヲ行ヒタルノミニシテ殆ント實用ノ域ニ達セスシテ止ミタリ

其八、人衛生、馬衛生

イ、人衛生

出動部隊傷病者ノ收容後送ニ任セシムル爲メ概ネ軍剿討計畫ニ基キ出動各步兵聯隊步兵第七十四聯隊及步兵第七十八聯隊ヲ含ムハ十月四日乃至十月十一日ノ間ニ於テ各一個ノ衛生班ヲ編成シ各支隊ニ分屬セリ其編制概ネ左ノ如シ

人員

軍醫(軍醫正)二、看護長一、看護卒四、内一名ハ上等看護卒トス兵卒十二、内少クモ八名ハ擔計十八架衛修業兵トス

一名尙軍醫ニハ乘馬一ヲ附ス

材 料

藥劑行李二、擔架二、醫療囊二、紮帶囊一、患者用毛布五〇、赤十字旗、國旗、赤十字燈各一等

爾後討伐行動ノ進捗ニ伴ヒ戰線延長ノ結果是等衛生班ノミニテハ傷病者ノ後送不可能ノ狀態トナレルヲ以テ概ネ兵站末地ヨリ後方ヘノ輸送機關トシテ十月十二日(十月十八日)龍井村(龍春)ニ於テ各一個ノ患者輸送班ヲ編成シ第十九師團長ノ直轄トシ當該方面ニ配置セリ而シテ本輸送班ハ必要ニ應シ患者療養所並患者集合所ヲ設置スルモノトス其編制左ノ如シ括弧内ハ單者ヲ示ス

人 員

軍醫一(一)看護長二(一)看護卒八(四)全部看護學修業兵ヲ以テ充當ス

材 料

藥劑行李二(一)擔架八(二)軍醫攜帶囊二(一)醫療囊二(一)紮帶囊八(四)患者用毛布五〇

(五〇)等

輸送材料ハ徵備ニ依ルモノトス

尙各兵站司令部(龍井村、局子街、凉水泉子、龍泰)及上三峯兵站支部ニハ各軍醫一、看護長一、看護學修業兵四ヲ屬シ之ニ藥劑行李、醫療囊各一、綑帶囊四、擔架概ネ五乃至十ヲ附シ患者療養所ヲ開設セシメタリ

衛生材料ノ補給追送ニ關シテハ軍刺計計畫ニ基キ大正九年九月材料ノ一部ヲ羅南支庫ニ集積シ爾後行動開始ニ當リテ陸軍倉庫ヲシテ漸次羅南支庫ノ材料充實ニ努メシメシカ十月下旬陸軍衛生材料廠ヨリ羅南支庫及羅南並會寧衛戍病院へ所要ノ器械藥物ノ追送ヲ受ケ之カ業務ハ概シテ敏速圓滑ニ行ハルヲ得タリ

主力部隊ノ撤退ニ伴ヒ琿春及龍井村ニ患者療養班各一個ヲ殘置シ其他ハ鮮内ニ歸還セリ

出動部隊患者表、各特設機關收容患者表及戰死傷者病名別部隊別一覽表附表第五乃至第七ノ如シ

ロ、馬衛生

出動部隊傷病馬ノ收容並治療ニ任セシムルタメ九年十月十二日野砲兵第二十五聯隊ニ於テ病馬收容班二個ヲ編成シ磯林支隊及東支隊ニ配屬セリ其ノ編制概ネ左ノ如シ

人員

獸醫一、下士一、蹄鐵工長一、上等兵一、二等卒五(内蹄鐵工卒ハ少ナクヤ一名ヲ含ム)計九名獸醫及下士ニハ乘馬各一ヲ附ス

材料

獸醫行李甲、乙各一、獸醫携養一、馬療養一、野戰蹄鐵工具一、携帶蹄鐵工具一、馬繫杭五、馬繫索二、公用行李尋常蹄鐵(釘共)二五、班旗一、標壁章九、提灯二

而シテ之カ要員ノ不足ハ朝鮮軍司令部及第二十師團ヨリ臨時配屬セリ兩病馬收容班ハ十月二十日、二十一日瓊春及龍井村ニ開設シ病馬ノ收容及治療ニ任シ後兵站部ニ配屬セラレシカ主力部隊ノ撤退ニ伴ヒ十二月下旬之ヲ閉鎖シテ羅南ニ歸還シ解散セリ

獸醫材料及蹄鐵ノ補給追送ハ羅南支庫在庫ノモノヲ以テ充當セシモ尙之カ充實ニ努メンカタメ陸軍衛生材料廠ヨリ追送ヲ受ケ後行動ノ進捗ト共ニ之ヲ會寧ニ集積シ之カ業務ハ概テ敏速圓滿ニ實施スルコトヲ得タリ

歩兵第廿八旅團ニ屬スル内地歸還軍馬ニ對シテハ羅南ニ於テ出動部隊ノ軍馬ニ對シテハ會寧ニ於テ檢疫ヲ實施セルニ其成績良好ニシテ傳染病ノ疑アルモノナカリキ

第二章 作戦行動

九四

出動部隊病馬表、馬匹、獸醫材料、軍馬衛生機關配屬表、病馬收容班病馬表、附表第八乃至第十ノ如シ

其九、兵 站

緊急出兵時ニ於ケル兵站

十月三日第十九師團ハ安部大隊ヲ琺春ニ出動セシムルト共ニ同大隊ヲシテ琺春慶源間ニ兵站線ノ設置ヲ命シ次テ逐次ノ増加ニ伴ヒ十月五日歩兵第七十五聯隊長ヲシテ岸和田少佐ニ所要ノ機關ヲ附シ慶源ニ到リ出動部隊ノ爲兵站業務ヲ實施セシム

十月六日羅南及會寧ニ停車場司令部ヲ設置シ輸送業務ニ從事セシムルト共ニ翌七日熊倉少佐ニ所要員ヲ率キ會寧ニ到リ會寧鍾城間及會寧龍井村間ノ兵站業務ヲ實施セシメタリ

師團ハ爾後ノ作戰ヲ顧慮シ十月十二日更ニ穩城及龍井村ニ兵站司令部ノ設置ヲ命シ慶源兵站司令部ハ之ヲ琺春ニ移シ師團參謀長ハ兵站部長ヲ師團各部長ハ兵站各部長ヲ兼任セシムルコトトセリ

當時兵站ニ充當スヘキ要員將校ノ不足ハ之ヲ咸興、元山、春川ノ各部隊ヨリ差出ツシ

タタリニ於ケル兵站司令部ノ編制附表第十一ノ如ク其施設附圖第十ノ如シ
 當時ニ於ケル兵站司令部ノ編制附表第十一ノ如ク其施設附圖第十ノ如シ
 師團主力出動後ノ兵站

十月十四日軍ハ兵站業務ヲ實施ニ關シ師團ニ對シ次ノ如ク指示セリ、
 補給輸送業務ニ就テハ剿討計畫ニ依ル慶源、穩城ニハ軍倉庫ヲ設ケ鮮内ハ倉庫ニ
 於テ實施セシム情況ノ推移ニ伴ヒ順泰及龍井村ニ倉庫ヲ設置シ得ル如ク準備シ
 アリ倉庫長及經理部員ヲ貴地ニ出張セシム詳細ハ該官等ト協議スヘシ
 十月十六日松信倉庫長鈴木軍經理部々員ハ會峯ニ到着シ鮮内輸送業務ニ關シ松浦
 第十九師團經理部長松井主任參謀ト協議シ次ノ如ク決定セリ

鮮内輸送業務引繼ニ關スル打合事項

今回ノ出動ニ關シ自今慶源、穩城、上三峰ニ軍倉庫開設ニ付鮮内輸送業務ニ關シ左
 ノ通打合ヲナス

- 一、鮮内ニ於ケル軍需品全部ノ輸送ハ軍倉庫ニ於テ之ヲ擔任ス
- 二、人馬及之ニ附屬スル物件ノ輸送ハ從來ノ通師團ニ於テ取扱フモノトス但所要
 ノ車輛ハ軍倉庫ヨリ供給シ之ニ要スル賃金ハ當該部隊ニ於テ仕拂フモノトス

三、軍需品輸送ニ關スル所要ノ監視兵並倉庫衛兵ハ最小限度ニ於テ倉庫ノ請求ニ應シ配屬スルモノトス

四、師團所要軍需品ノ追送ハ其品目數量、輸送期日及順序等總テ師團ノ要求ニ應シ取扱フモノトス

五、會寧兵站司令部集積ノ軍需品ハ現場ノ儘之ヲ軍倉庫ニ引繼キ又慶源、穩城、上三峯集積糧秣ハ軍倉庫員到着ノ時ヲ以テ引繼ヲナスモノトス

六、輸送途中ノ糧秣ハ到着ノ際總テ軍倉庫ニ於テ受入ルモノトス

七、羅南ヨリ發送スル軍需品ニ關シテハ從來ノ通停車場司令部ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

八、現在師團借上ノ貨物自働車ハ軍倉庫ニ引繼クモノトス

右協定ノ結果會寧兵站司令部ハ之ヲ局子街ニ穩城兵站司令部ハ之ヲ凉水泉水ニ進メ步兵第二十八旅團ノ示威行軍終了後大拉子兵站支部ハ之ヲ撤去セリ

又各地兵站守備隊ハ屢々附近諸部落ノ剿討ニ任シ相當ノ成績ヲ收メタリ

師團分散配置當時ニ於ケル兵站施設附圖第十一ノ如シ

其後十二月七日凉水泉水兵站司令部ハ之ヲ撤シ木村隊ノ補給線ハ局子街、百草溝、大

注清道ニ之ヲ變換セリ軍倉庫亦之ニ伴ヒ十二月二十日ヲ以テ撤去シ主力撤兵時ニ到レリ

其十、憲兵

出兵ニ伴ヒ憲兵ハ軍司令官ノ承認ヲ經テ各方面出動部隊ニ配屬シ左ノ如ク出動セリ

磯林支隊小原大尉以下十五名(小原大尉ハ後野呂大尉ト交代ス)

木村支隊特務曹長以下十名

東支隊渡邊大尉以下八名

茂山大隊下士以下八名

龍井兵站司令部下士以下二十名

參考

憲兵出動ヲ憲兵司令官ノ責任トセスシテ軍司令官ノ責任トセル理由

今回ノ出動ハ居留民保護ニアリト雖不逞鮮人ヲ討伐スル情況トナラハ明ニ朝鮮防衛ニ屬ス然ルニ朝鮮防衛ト雖軍司令官ハ朝鮮憲兵隊ヲ使用スルコト能ハス故ニ憲兵ノ出動ハ憲兵隊司令官ノ責任ナラサルヘカラス鮮内ニ於ケル軍事

第二章 作戰行動

九八

警察及國境監視ノミハ軍司令官ニ隸スルモ國外出動ハ軍司令官ノ任務外ナレハ憲兵ヲ使用スル權ナレ

以上ニ依レハ軍司令官ニ於テ之ヲ命令シ能ハサルカ如シト雖元來國外出兵ハ大權ニ對スル非常ナル獨斷專行ナルヲ以テ軍司令官ハ全部ニ對シ責任ヲ負フヲ可トス又憲兵隊司令官ハ鮮内ヨリ出ツル憲兵ニ關シテハ軍司令官ノ認可ヲ得サルヘカラサルヲ以テ結局軍司令官カ國外出動ヲ承認スルコトナル故ニ條例ノ字句ニノミ拘泥スルコトナク大局ヨリ論スレハ軍司令官其責ニ任スルヲ至當トス

十月八日陸密第二〇二號ヲ以テ朝鮮憲兵隊定員外トシテ憲兵尉官二下士三十名上等兵二百名乘馬三十頭ヲ増加配屬セラレ之カ到着ニ伴ヒ十月二十一日左ノ如ク其配屬ヲ變更セリ

第十九師團司令部

下士以下 三名

礮林支隊、木村支隊

從前ノ通

東支隊

將校以下 二十六名

穩城、龍井村、龍春兵站司令部

各下士以下 五名

羅南會寧停車場司令部

各上等兵

三名

十一月中旬以降各部隊ノ分散配置ヲ採リ剿討ニ從事スルニ到リ一層憲兵ノ必要ヲ感スルニ至リタルヲ以テ更ニ二十名ヲ増加出動セシメ中小隊ニマテ一、二名ノ憲兵補ヲ分屬シ剿討目的ノ達成ニ努メタリ

又警備ノ爲メ江岸ニアル各隊所ニモ夫々憲兵ヲ増員シ備フル所アリシガ江岸守備隊ノ越境シテ附近諸部落ヲ剿討スルヤ江岸四十餘個所ニ分駐セル憲兵將校以下三百六十二名ハ時々是等部隊ニ屬シ剿討行動ニ參加シ主トシテ不逞鮮人ノ逮捕家宅搜索等ニ任シ軍隊ノ行動ヲ容易ナラシメタリ

其他師團ニ於ケル歸順者取扱業務ノ開始セララルヤ憲兵ハ龍井村、局子街、頭道溝各委員ノ下ニ計二十名ヲ出動セシメ主トシテ歸順者ノ取締及宣傳業務ノ補助並通譯ニ任シ多大ノ便宜ヲ與ヘタリ

其十一、主力部隊ノ撤退

間島方面出兵善後策ハ十一月六日閣議決定シ外務省ヨリ北京及奉天ニ於テ外交上ノ交渉ヲ開始スルハキ旨訓令アリタリ

從テ外交上ノ交渉ハ北京及奉天ニ於テ開始セラルヘキヲ以テ能ク之等機關ト連絡

シ適時適法のニ撤兵ヲ行フコトニ配慮セラレタキ旨陸軍次官ノ通牒アリ又第十九師團ノ剿討行動モ十一月末ニ於テ略完了スヘキ情況トナレルヲ以テ十一月十六日軍ハ軍司令官限リニテ承認出動シタル部隊參謀本部作命第五七號以外ノ部隊ヲ成ルヘク速ニ鮮内ニ歸還セシムヘク命令セリ是等ノ部隊ハ十二月二十日迄ニ全部鮮内ニ引揚ケヲ了セリ

十二月十日主力撤兵ニ關スル作命第六一號訓令及之ニ基ク陸軍大臣及參謀總長ノ指示ヲ附錄第六其一二乃至其三ヲ受領シ軍司令官ハ右訓令及指示ニ基キ左ノ訓令ヲ下セリ

朝鮮作命第一七號

第十九第二十師團長ニ與フル訓令 (十二月十六日於龍山)

一、軍ハ琿春及間島地方ニ一部ヲ殘置シ爾餘ノ部隊ヲ鮮内ニ歸還セシメントス

浦潮派遣軍ヨリ東寧及琿春地方ニ派遣シアル部隊ハ適時該軍行動地域タル露

支國境線ニ歸還スル等

二、第十九師團長ハ其隸下部隊ヲ以テ步兵隊本部一個ヲ編成シ其他二大隊各大隊ハ師團内ニ於テ適宜之ヲ集成シ且各中隊ノ編成ハ爲シ得ル限リ平時編制ニ近

似セシメ且所要機關銃及特種砲ヲ配屬スヲ旅團長ノ指揮ニ屬シ璦春及間島地方ニ在ル帝國臣民ノ保護ニ任セシムヘシ

傳令トシテ騎兵下士以下一〇騎ヲ司令部ニ配屬ス此部隊ヲ間島派遣隊ト稱シ第十九師團長ノ直轄トス

三、間島派遣隊ハ左ノ如ク配置スヘシ

璦春 歩兵大隊本部及二中隊

局子街 歩兵隊本部及一中隊

百草溝 歩兵一中隊

右部隊ハ局子街歩兵隊長ノ指揮ニ屬ス

龍井村 派遣隊司令部歩兵大隊本部及三中隊

頭道溝 歩兵一中隊

右部隊ハ龍井村歩兵大隊長ノ指揮ニ屬ス

四、歩兵第七十八聯隊第三大隊ハ成ルヘク速ニ原所屬ニ復歸セシムヘシ

右大隊會津、清津、元山間ノ鐵道及船舶輸送ハ第十九師團長、元山、龍山間ノ鐵道輸送ハ第二十師團長之ヲ擔任スヘシ

五、爾餘ノ隷下部隊並臨時編成部隊ハ大正十年一月十五日迄ニ逐次鮮内ニ歸還ノ
後原所屬ニ復歸セシムヘシ

六、其他ニ關シテハ璦春及間島ニ派遣シアル部隊ノ殘置並歸還ニ關スル指示及別
紙間島派遣隊ニ關スル細部ノ指示ニ據ルヘシ

間島派遣隊ニ關スル細部ノ指示

一、間島派遣隊ノ編成ニ關シテハ陸密第二七二號ノ外左ノ各項ニ據ルモノトス

1、朝軍作命第一七號訓令第二項ニ依ル步兵隊本部要員トシテ步兵聯隊附中(少
佐一名大(中)尉一名ヲ充當シ之ヲ局子街ニ配置スルモノトス

2、間島派遣隊要員トシテ左ノ人員ヲ第十九師團ニ臨時配屬ス

參謀要員トシテ佐官 一(乘馬一ヲ附ス)

主 計 三 計 手 五

軍 醫 二 看護長 三 看護卒 一〇

二、間島派遣隊ハ該地方支那官憲及軍隊カ確實ニ同地方ノ治安ノ維持殊ニ在任帝
國官民ヲ保護シ且不退鮮人等ノ討伐ヲ實行シ累ヲ帝國領土内ノ治安維持ニ及
ホササルニ至ル迄一時駐屯セシメラレタルモノナルヲ以テ同派遣隊ハ帝國官

説明ターゲッ

次の原稿破損

1964, 1965

7 年 8 月 10 日

主務者又は

撮影立会者

坂根嘉和



民ノ保護ノ爲必要已ムヲ得サル場合ノ外妄ニ討伐行動ヲ取ラサルヲメトヘシ

三、不逞鮮人ヲ懷柔シ親日鮮人ヲ善導スルハ帝國官民ノ保護ノ爲必要ナルノミナラス朝鮮ノ内治ニ利スルコト多キニ稽エ常ト適切ナル方法ヲ以テ其ノ効果ヲ舉クルニ努ムルヲ要ス

四、支那軍及官民ニ對シテハ努メテ和親ヲ保ツヘシト雖其ノ特徴ト近來ノ傾向トヲ顧慮シ寬嚴宜シキニ適スルヲ要ス

五、派遣隊各部隊間竝該隊ト朝鮮内トノ連絡ヲ確保シ且浦潮軍及關東軍所屬關係諸部隊竝派遣地方ニ在ル帝國外交官憲ト緊密ナル連絡ヲ保持スルヲ要ス

六、間島派遣隊ノ爲其ノ駐屯地ニ集積スヘキ軍需品及防禦設備ハ不時ノ事變ニ際シ縱令孤立ニ陥ルモ其任務ノ達成ニ遺憾ナカラシメ就中糧秣ハ瓊春ニ在リテハ兵員ニ對スル一ヶ月分其ノ他ニアリテハ各二ヶ月分竝各地在留内地人ニ對ス十日分ヲ標準トスルヲ要ス

軍司令官ハ右訓令ヲ下シタル翌十七日出動部隊一般ニ對シ附錄第七ノ訓示ヲ與フ第十九師團長ハ右訓令及指示ニ基キ十二月二十日各支隊ノ編成ヲ解キ歩兵第三十

第二章 作戰行動

一〇四

八旅團長ノ指揮スル歩兵二大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ班春及間島地方ニ殘置シ十二月下旬ヨリ撤兵ヲ開始シ翌大正十年一月十五日迄ニ全部原所屬ニ復歸シ殘置部隊ハ十二月三十一日其ノ編成ヲ完了シ左ノ如ク配置セリ

班 春

歩兵第七十六聯隊第三大隊本部ト第三第十二中隊

機關銃二 狙撃砲迫撃砲各一

患者療養班一

龍 井 村

歩兵第三十八旅團司令部

歩兵第七十三聯隊第二大隊本隊ト第六第十一中隊

歩兵第七十四聯隊第五中隊(一小隊欠)

機關銃四狙撃砲迫撃砲各二

患者療養班一

頭 道 溝

歩兵第七十三聯隊第十中隊

機關銃二

局子街

歩兵隊本部歩兵第七十四聯隊第二中隊

機關銃二

中一兩溝

歩兵第七十四聯隊第五中隊ノ一小隊

百草溝

歩兵第七十五聯隊第十一中隊

機關銃二 狙撃砲二

憲兵亦概ネ師團ノ行動ニ準シ其大部ヲ鮮内ニ歸還センメ一部ヲ間島派遣隊司令官ノ指揮ニ屬シ左ノ如ク配置セリ

局子街憲兵長(大尉)

局子街憲兵班 下士以下十七名乘馬四

百草溝憲兵班 下士以下九名乘馬二

龜春憲兵班 准士官以下十一名乘馬四

龍井村憲兵長(大尉)

龍井村憲兵班 下士以下十六名乘馬四

頭道溝憲兵班 下士以下九名乘馬二

第六節 歩兵第二十八旅團ノ行動

歩兵第二十八旅團ハ三梯團トナリ浦潮ニ於テ乗船シ其ノ先頭梯團タル歩兵第十五聯隊(一大隊欠)ハ十月十六日「ボセツト」ニ上陸シ十九日瓊春ニ到着シ軍ノ直轄トシテ同地ニアリテ旅團主力ノ來著ヲ待チツツアリシカ二十一日軍命令ニ依リ第十九師團長ノ指揮下ニ入レリ當時瓊春方面ニアリシ磯林支隊ハ二十二日ヨリ全力ヲ舉ケテ老黒山及羅子溝方面ノ討伐ヲ實施スル爲メ後方警備ノ兵力ニ不足ヲ感シ又龍井村方面ニ在リシ東支隊ハ洪範岡及金佐鎮ノ賊團ヲ擊滅スル爲メ漁郎村方面ニ成ルハク多クノ兵力ヲ集結スル必要ヲ認メ是亦後方警備ニ兵力ノ不足ヲ訴ヘタルノミナラス爾後ノ情況ノ推移亦豫則スヘカヲサルモノアリシヲ以テ師團長ハ歩兵第十五聯隊(第一大隊欠)ノ主力ヲ瓊春方面ニ置キ磯林支隊長ノ指揮下ニ入レ瓊春警備竝ニ該支隊ノ老黒山及羅子溝方面ヘノ行動間其ノ後方連絡線ノ掩護ニ任セシムルト共ニ大隊長ノ指揮スル二中隊ヲ龍井村ニ派遣シ且其一中隊ヲ會寧ニ招致シ共ニ師團長ノ直轄トシテ當該地方ノ警備ニ任セシメタリ龍井村派遣部隊ハ二十九日及三十日ニ亘リ龍井村南方水七溝及獐巖洞附近ニ於テ屢々我カ連絡線ヲ脅威スル賊徒

ヲ剿討シ獐巖洞ニ於テハ其ノ二十餘名ヲ射殺シ家屋十二戸ヲ燒却セリ(第三章第一節參照)

旅團主力ハ二十二日ヨリ三十日ニ亘ル間「ボセツト」ニ上陸シ十一月三日其ノ先頭ヲ以テ輝春ヲ出發シ凉水泉水ヲ經テ局子街ニ入レリ。當時東支隊ハ主力ヲ以テ銅佛寺、天寶山、三道溝、青山里方面ノ剿討ニ任シ木村支隊亦之ニ策應シテ朝陽河谷ノ剿討中ナリシヲ以テ該方面情況ノ變化ニ應セシムル爲メ旅團主力ヲ局子街及嘎呀河間ニ暫ク待機ノ姿勢ニアラシメシカ四圍ノ情勢ハ最早之ヲ必要トセサルニ至リタルヲ以テ龍井村ヲ經テ示威行軍ヲ實施シ會寧ニ入り十一月二十二日悉ク之ヲ羅南ニ集結セリ。

十一月二十日參謀本部作命第六〇號(附錄第八)ニ依リ内地ニ歸還セシムルコトナリ軍司令官ハ第十九師團長及歩兵第二十八旅團長ニ對シ左ノ命令ヲ下セリ。

第十九師團長ニ與フル命令 (十一月二十一日發)

一、貴官ハ歩兵第二十八旅團ヲシテ内地ヘ歸還セシムル爲メ十一月二十五乃至二十

六日清津ニ於テ乗船セシムヘシ

二、同旅團ノ船舶輸送ハ陸軍運輸部本部長ヲシテ實施セシメラル

第二章 作戰行動

108

其ノ細部ニ就テハ後ニ示ス

三、同旅團ハ清津乗船ノ時ヲ以テ予ノ指揮下ニ復歸ス

歩兵第二十八旅團長ニ與フル命令

(十一月二十二日發)

一、歩兵第二十八旅團ハ清津乗船後予ノ指揮下ニ復歸シ宇品ヲ經テ内地ニ歸還ス
ヘシ

二、旅團ハ宇品上陸ノ時ヲ以テ予ノ指揮ヲ脱ス

三、内地ニ於ケル鐵道輸送ニ關シテハ陸軍運輸部出張員之ヲ區處ス

右命令ニ依リ同旅團ハ二十五、二十六ノ兩日ニ亘リ清津乗船二十九、三十日ニ亘リ宇品ニ上陸原所屬ニ復歸セリ

第七節 第二十師團長ノ處置

第二十師團長ハ十月十二日朝軍作命第三號軍訓令ニ基キ鴨綠江岸ノ守備ヲ嚴ニスル爲メ軍司令官ノ承認ヲ經テ機動演習參加途中ニアル部隊ニ對シ左如ク處置セリ

一、豫テ二年兵滿期除隊後ノ減員ヲ顧慮シ計畫シアリタル成川、熙川、徳川ニアル高定員守備中隊ヨリ各約五十名計約百五十名ヲ中江鎮方面ニ増加ス

二平壤歩兵第七十七聯隊ヨリ約百名ノ一中隊ヲ集成シ之ヲ江界守備隊ニ増加ス
爾後之ヲ適時所要方面ニ増加スルコトハ歩兵第三十九旅團長ノ區署ニ委ス
三、昌城義州、新義州ニ在ル二年兵退營後ノ減員ヲ補填スル爲メ平壤聯隊ヨリ所要
ノ人員ヲ該方面ニ増加ス

四、以上ニ依ル平壤聯隊ノ減員ハ其儘トシ必要ニ應シ龍山部隊ヨリ應援セシム

第八節 第十九師團ニ策應スル浦潮派遣軍

一部ノ行動概要

我カ軍ノ剿討ニ策應スル爲メ浦潮派遣軍ハ三岔口附近ヨリ以直ボセツト「琿春道間
ニ亘ル露支國境要路ヲ扼守シ次テ一部ヲ綏芬大甸子附近ニ他ノ一部ヲ土門子附近
ニ進メ又北滿洲派遣隊ノ一部ヲ海林ニ派遣セリ而シテ其國境扼守ハ十月十八日迄
ニ之ヲ實施セリ

其一 土門子支隊

第十一師團秀島少佐ノ指揮スル歩兵一大隊機關銃一隊騎兵一小隊工兵半中隊ヨリ
成ル土門子支隊ハ十月十九日「バラバシ」發國境ヲ通過シ二十日以後礮林支隊ト策應

シ草帽頂子土門子附近竝其北方地區ノ剿討ニ從事シ次テ礮林支隊トノ剿討區域ノ境界ヲ五道溝(含ム)以東地區ニ定メラルヤ一部ヲ杜荒子ニ出シ主力ヲ以テ璦春河谷及其附近諸部落ニ潜在スル匪徒ヲ索メテ討伐ニ從事シ相當ノ成績ヲ收メ再ヒ兵ヲ北方ニ進メテ草帽頂子蘭家窪子王八脖子一帶ヲ剿討シ不逞鮮人幹部六名ヲ逮捕シ小銃百彈藥三千餘ヲ押收セリ

十二月ニ入り不逞鮮人討伐モ略一段落ヲ告クルニ到リ九日軍命令ニ基キ一部ヲ原所屬ニ復歸セシメ歩兵二中隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ依然土門子附近ニアリシカ十二月十五日悉ク露領ニ引揚ケタリ

其二 羽入支隊

第十三師團羽入大佐ノ指揮スル歩兵一大隊騎兵一聯隊(二小隊)砲兵一中隊工兵一中隊ヨリ成ル支隊ハ十月十九日其騎兵ヲ以テ二十日主力ヲ以テ國境線ヲ通過シ二十日老黑山附近ニ前進シタルモ該地方ニアリシ琿春襲撃參加ノ馬賊ハ既ニ遁竄シタル後ナリシヲ以テ更ニ綏芬大甸子ニ向ヒ前進シ十月二十七日同地着礮林支隊ニ屬スル安部討伐隊及木村支隊ニ屬スル岩尾大隊ト連絡ス此日支隊ノ同地ニ到着スルヤ會ニ安部討伐隊ノ一部ハ老母猪河附近ニ於テ賊ト交戦中ナルヲ知リ一部ヲ

以テ之ニ増援戰鬪ニ參加セシメ賊團ヲ擊退セリ次テ安部討伐隊ト連繫シ綏芬大甸子南北地區ノ剿討ニ從事シ同討伐隊琿春歸還後モ一時同地及其附近ニ止リアリシカ十一月十二日師團命令ニヨリ二道溝ヲ經テ二十八道河子ニ前進シ安西支隊ニ策應シ大小綏芬河谷ノ剿討ニ從事セリ十二月九日軍命令ニ基キ支隊ノ編制ヲ角キ歩兵二中隊ヲ基幹トスル部隊ヲ三岔口ニ止メアリシカ此部隊モ十二月二十日前後全部露領ニ引揚クルニ至レリ

其三 安西支隊

北滿洲派遣隊安西少佐ノ指揮スル步兵三中隊機關銃四騎兵一小隊騎兵ハ第十三師團ヨリ配屬ノ支隊ハ軍命令ニ基キ十月十六日迄ニ海林ニ集合ヲ終レルモ浦潮派遣軍ハ中央部ノ意圖ニ基キ之ヲ蛤蟆塘方面ニ派遣スヘキ計畫ヲ中止シ當分現在ノ姿勢ヲ保持セシメアリシカ十一月九日小綏芬河南方地區情況偵察中ナリシ村田中尉ノ將校斥候五名ハ八家子ニ於テ全部戰死セルト金廠以南小綏芬河谷ニ多數ノ匪徒潜伏セルカ如キ狀況トニ依リ同支隊ハ一部ヲ海林ニ止メ主力ヲ以テ金廠方面ノ討伐ヲ命セラレ支隊主力ハ小綏芬河(地名)ニ到リ爾後金廠ヨリ沙河子附近並果菜營附近ニ亘リ剿討ニ從事セルモ遂ニ賊團ト遭遇スルニ至ラスシテ十一月二十日小綏

芬河ニ歸還シ二十四日一部ヲ同地ニ止メ海林ニ引揚ゲタルニ二十八日北滿派遣隊司令官ノ命ニヨリ支隊ノ編成ヲ解キ歩兵隊ノ一部ヲ東支沿線ニ止メ騎兵ハ厄市ニ歩兵ハ哈爾濱ニ歸還セリ

以上第十九師團並浦潮派遣軍一部ノ行動概要附圖第十二ノ如シ

第九節 間島事件ニ關聯スル警察官ノ行動概要

資料不充分ノ爲メ省略ス

第十節 西間島方面關東軍ノ示威行動

間島及琿春方面騷擾ノ波動ハ西間島地方ニ及ヒ同地方ノ不逞鮮人亦活動ノ兆アリ茲ニ於テ我カ政府ハ奉天省內剿討ノ必要ヲ認メ張作霖ニ交渉セシムル處アリシモ其承認スル所トナラサリシカ十月十七日ニ至リ彼ハ漸ク佐藤少將ヨリ提出セル左ノ覺書ヲ承認スルニ至レリ

一、諸情報ニ依ルニ通化輯安懷仁等奉天東邊ノ諸地方ニモ不逞鮮人數多潜在シ頻リニ隱謀ヲ企テアルハ事實ナルカ如シ

二、今回延吉方面ニ於テ日支兩國軍隊協同出兵不逞鮮人及匪賊ノ剿討ヲ行フコト
トナリタルニ就テハ其徒輩西へ逃ケ奉天省界ヲ越へ通化懷仁等ニ潛入シ是等
地方ノ匪民ト合シ一大騷擾ヲ來スヘキハ必然ノ勢ナリ

三、依テ奉天方面ニ於テハ日支兩國協同左ノ二件ヲ實施スルヲ目下ノ急務トス

甲、支那側ハ通化方面ニ出兵シ同地方一帯ヲ警備シ殊ニ東ヨリ逃ケ來ル匪民ノ
搜索逮捕ニ任スルコト

乙、日本ハ所在不逞鮮人ヲ威嚇ノ目的ヲ以テ滿洲駐屯軍ノ一部ヲシテ當該不穩
地方ニ行軍巡回スルコト

右ニ依リ關東軍ハ其ノ一部ヲ以テ該地方ニ於ケル不逞鮮人及之ニ加擔スル馬賊ヲ
討滅スヘク(狀況己ムル得サル場合ハ亂徒ヲ威壓驅逐シテ之レヲ屏息セシムルニ止
ム)十月二十三日ヨリ之カ行動ヲ開始セリ而シテ本行動ハ奉天省長タル張作霖ノ体
面保持上南滿洲東邊ニ示威行軍ノ名義ヲ以テスルコトトセリ其ノ兵力及剿討經路
ノ概要ハ左ノ如シ

一、歩兵第十九聯隊長杉山大佐ノ指揮スル歩兵一大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ撫
順ヨリ興京ヲ經テ通化ニ至リ十一月十五日通化發桓仁大平哨寬甸ヲ經テ十三

第二章 作戰行動

二四

月三日安東着鐵嶺に歸還セリ
 二騎兵第二十聯隊生力山公主嶺より海龍三源浦を經テ十一月七日通化着爾後與
 京英額城商家台ヲ經テ十一月二十七日開原着公主嶺ニ歸還セリ

第十一節 支那軍隊ノ行動

附安圖方面剿討意見ト之カ中止ニ關スル經緯

間島事件ニ關聯シ各方面ニ行動セル支那軍隊ノ情況概ネ左ノ如シ
 東支東線方面

間島及琿春地方ノ情況ニ鑑ミ張作霖ハ衛隊旅及暫編混成第一旅並第二十師ノ
 騎兵一團ヲ中將關朝璽ノ指揮ニ屬シ「ボクラン」ニチナヤ」方面ヨリ間島ニ派遣シ討伐
 ニ從事セシムルニ決シ其先頭梯團タル衛隊旅ハ十月六日夜ヨリ奉天發東支線ニ
 向ヘリ其後逐次兵力ヲ此ノ方面ニ増加シタルモ日支協同討伐ニ關スル協定ニ基
 キ其兵ヲ間島方面ニ進ムルコトヲ中止シ概ネ事件終了頃迄東支沿線附近ニアリ
 テ馬賊討伐ニ從事セリト雖不逞鮮人ニ對シテハ何等顧慮スルコトナク該協定ニ

就テハ殆ント賊意ノ認ムヘキモノナカリキ

間島及琿春方面

我カ軍隊間島方面ニ出動スルヤ微力ナル該地方ノ支那軍隊ハ全ク屏息シ心平カ
ナラス暗ニ不逞鮮人ヲ煽動シ彼等ノ行動ニ便定ヲ與ヘ我カ軍隊ニ衝ラシメント
裏面ニ於テ畫策スルカ如キ小策ヲ弄スルモノアリシカ如ク一般支鮮人等ハ遠カ
ラス日支軍隊ノ衝突ヲ生スヘシト危惧スルニ至レリ

十月十二日不逞鮮人討伐不徹底ナリシ孟團長ハ革職セラレ其部下若干勳搖ノ微
アリ之カ交代ノ爲メ歩兵二營砲兵一連機關銃一連ハ團長揚金聲之ヲ率キ敦化方
面ヨリ間島ニ向ヒ又吉林混成第二旅長ヨリ延吉鎮守使ニ任セラレタル張九卿ハ
浦潮經山琿春ヲ經テ十一月下旬相前後シテ局子街ニ到着セリ

以上ニヨリ當方面ノ支那軍總兵力ハ歩兵五大隊半機關銃一隊騎兵一大隊一中隊
欠砲兵一中隊工兵一大隊トナレリ而シテ此等増加軍隊ハ一般ニ態度不遜ニシテ
或ハ我カ保線兵ニ對シテハ暴言ヲ吐キ歩哨ニ侮辱ヲ與ヘ若クハ我カ軍備役支那
人ヲ脅迫シ作業ヲ妨碍スル等暴狀甚シキモノアリ第十九師團長ハ在局子街小出
中佐ヲシテ支那側ニ對シ強硬ニ抗議セシメ彼亦之ヲ陳謝シ情況緩和スルニ至リ

幸ニ不祥事ノ發生ヲ見スシテ經過セリ(第三章第五節參照)

安圖縣方面

間島方面剿討ノ進捗ニ伴ヒ不逞者ノ此方面ニ遁竄スルモノアリ軍ニ於テハ之ガ取締ニ關シ佐藤貴志兩少將ニ通報シ張作霖ニ要來セシムル所アリ
又一方軍司令官ハ十月二十五日陸軍大臣參謀總長ニ對シ安圖縣剿討ニ關スル意見具申ヲナセルモノ認可セララルニ至ラス之カ事情ニ關シ參謀本部總務部長ノ通牒左ノ如シ

奉天省内不逞鮮人日支協同討伐ニ關シテハ曩ニ帝國政府ニ於テ張作霖ニ對シ提議スル所アリシモ張ハ北京政府及南方ニ對スル彼ノ面目上朝鮮軍ノ奉天省内ニ行動スルコトハ絶對ニ同意セス又關東軍ト雖討伐行動ヲ採ルコトハ不同意ナリシヲ以テ我カ政府ニ於テモ張ノ面目ヲ潰シテ迄モ討伐ヲ強行スルコトハ政略上有利ナラサルヲ思ヒ奉天省内ノ不逞鮮人ハ張自ラ之ヲ討伐スヘク我トシテハ關東軍ノ一部ヲ以テ示威行軍ヲ行フコトトナレル次第ナリ依テ朝鮮軍カ作戰ノ推移ニ伴ヒ安圖方面ニ行動スルコトハ必要ノ事ナルモ前記ノ事情ヨリ目下之カ實行ハ困難ナルコトト承知アリタシ故ニ此際張ヲシテ安圖縣方

面ニ所要ノ處置ヲ探ラシムルコトニ取計フ

張作霖ハ我カ交渉ニ對シ支那側ノ報告ニ依ルモ匪賊ノ此方面ニ遁入セルコトヲ肯定シ十月下旬海龍城附近ニアリシ混成第五旅長齊思銘ニ命シ新ニ編成セル警備隊三大隊ヲ屬シ安圖縣ニ派遣シ警戒ニ任セシム然レトモ之カ取締ハ終始不徹底ニシテ顯著ナル成績ヲ舉クルニ至ラス

其他敦化方面ニ於テモ不退者竄入ノ報アリ支那側ニ之カ討伐ヲ督促スル所アリシモ遂ニ其實現ヲ見スシテ終レリ

之ヲ要スルニ支那軍隊ハ本事件間僅ニ東支沿線附近ニ於テ馬賊ノ討伐ヲ行ヒタルノ外不退鮮人ニ關シテハ殆ント無關心ノ狀態ヲ以テ終始セリ

第三章 普傳及涉外事項

第一節 外國人ノ批難中傷

間島出兵ニ決スルヤ軍司令官ハ隸下一般ニ對シ訓示(附錄第九)ヲ下シ其行動ヲ慎重ニシ外人ノ惡感著クハ誤解ヲ受クルカ如キ言行ナキ様特ニ戒ムル所アリ又軍ニ於テハ別冊兵卒ノ心得ナル小冊子(附錄第十)ヲ印刷配布シテ兵卒ニ對シ注意ヲ促シ出動地方支那人及鮮人ニ對シテハ日支協同討伐ノ本義ニ關シ告示(附錄第十一)ヲ發シ諭示スル所アリ第十九師團亦屢々其隸下ニ對シ適時訓示若クハ指示等ヲ與ヘテ軍司令官意圖ノ徹底ニ努メタルモ討伐行動ノ進捗ニ伴ヒ彼等外國人ハ各々自己ノ立場ヨリ針小棒大誇張ノ言辨ヲ弄シテ我行動ヲ批難中傷シ甚シキハ荒唐無稽ノ謠言ヲ流布シテ一般民心ノ動搖ヲ策スルモノアリ特ニ英人宣教師並排日支那人等ノ爲ニスル宣傳ハ相當熾烈ヲ極メ終始我行動ニ反對シ勉メテ我ヲ窮地ニ陷レントスルノ情況ヲ望セリ以下項ヲ分チテ其概況ヲ述ヘントス

其一 英米人

英米人ノ宣傳ハ大別シテ二種トスルコトヲ得ヘシ曰ク政略的曰ク宗教的是ナリ前

者ハ主トシテ日本人勢力驅逐ノ手段トシテ之ヲ利用シ主權侵犯、人道破壞、利權強要等ノ言ヲ提ケテ支那人ヲ煽動セントスルモノニシテ後者ハ宣教師ノ動モスレハ萎靡セントスル教勢ノ保持ニ焦慮スルノ餘宗教人、道等ノ美名ニ隠レテ自己ノ非ヲ掩ヒ我ヲ誣ヒ内外ノ輿論ヲ喚起シテ其信望ヲ獲得セント策セルモノニシテ熟レモ下劣ナル排他主義ニ因スルモノトス

前者ニ關シテハ單ニ一例ヲ掲ケテ參考ニ資セントス

十一月六日北京「リデー」紙ハ間島侵入ト題シ間島ニ於ケル日本兵ノ行動顛末ヲ記述シ終リニ左ノ如ク論結セリ

吾人ハ日露ノ協定ニヨリ「ボセツ」海地方ノ問題ヲ解決セラル迄日本ハ間島ヨリ撤退スルコトナク又支那ハ日本軍ノ間島撤兵代償トシテ協同警察權ヲ承諾セサルヘカヲサルナラント疑フ現時日本ノ採リツツアル手段ハ朝鮮及其國境ニ於ケル政治的不安ヲ鎮定スルノ道ニアラサルヤ明ナリ朝鮮ノ政治的不安ヲ一掃セント欲セハ近頃某日本政治家カ宣言セシ如ク鮮人自治ノ機關ヲ擴張スルニアリ云々ト

後者ニ關スル宣傳ノ張本人ハ間島龍井村居住加奈陀長老派ニ屬スル英人宣教師ニ

シテ是等ノモノハ京城奉天東京等ノ同志及利害關係アル米人宣教師等ト結ヒ惡宣
傳ノ根源ヲナセリ其氏名左ノ如シ

スコット

(鮮名 徐高道)

バトカー

(鮮名 朴 傑)

フート

(鮮名 富斗二) 恩真中學校 鮮人青年教育長トス

カース

(鮮名 奇愛時) 女子宣教師ニシテ鮮人女子教育ノ明信片女學校長タリ

ペールソープ

(鮮名 裴義道) 女子宣教師 濟昌病院看護婦主任

マーチン

(鮮名 閔山海) 濟昌病院長

是等ノ宣教師ハ其朝鮮名ヲ有スル如ク專ラ鮮人ニ對スル布教ニ從事シタルモノニ
シテ排日ヲ以テ鮮人ニ迎合シアリシカ今回ノ討伐ニヨリ其信徒及教會堂區々タル茅
屋ニ過キサ
ルモ彼等ハ
カク稱セリ學校ノ殺戮燒却等ニ遭ヒタルニヨリ反感ヲ懼キ此舉ニ出テタルカ如シ
左ニ數例ヲ摘記シテ參考ニ資セン

十月二十九日附北京英國代理公使ヨリ我小幡公使宛ノ私信

一、十月十二日武裝セル一名ノ日本兵龍井村英國長老教會敷地内ノ通路ヲ行キツ
虞リツシ居リ漸クノ事ニテ退去シタルコト

第三章 普傳及海外事項

二二

二、同日機關銃隊同敷地内ニテ行動シ教會主管ヨリ請求ノ後通過退去シタルコト
 三、日本軍隊ハ一般人民ニ干涉シ支那官憲ノ發行セル護照ヲ取り上ケ之ヲ破棄シ
 夜間旅行ヲ禁シツツアルコト

四、日本軍隊ハ間島全般ニ亘リ寺院學校其他ノ家屋ヲ燒キツツアリトノ報告アリ
 右ノ内一及二ニ對シテハ教會側ヨリ日本領事ニ照會ノ結果軍隊側ヨリ陳謝シテ
 結了シアリ云々

本私信ニ對シ取調ノ結果左ノ事情判明セリ

一、十月十六日(日)次確實ナラス(逃走セル馬ヲ搜索スルタメ耶蘇教會敷地構内ニア
 ル道路ヲ通過セルモノアリ

二、特種砲隊カ耶蘇教構内(柵外)ノ空地(一般人ノ通行シアル空地)ニ於テ教練ヲナシ
 タルモノニシテ當時ノ指揮官ハ其空地ノ誰ノ所有タルカハ固ヨリ知ラサリシ
 ナリ

三、我軍隊ハ出兵後界領事ト龍井村ニ於ケル警戒ニ關スル協議ヲナシ夜間歩哨ヲ
 シテ一般通行者ヲ取調ヘ來レリ之カタメ領事ハ支那商埠分局長トノ協定ニ基
 キ夜間通行券ヲ發行スルコトトシ朝鮮人ニハ我領事ヨリ之ヲ交付スルコトト

定メタルニ拘ハラス商埠分局長ノ發行セル通行券ヲ所持セシ鮮人アリシヲ以テ領事ハ之ヲ取上ケシメタルモノニシテ破棄セル事實ナシ而シテ領事ハ商埠分局長ニ對シ其不都合ヲ責メ再發行セサルコトヲ約セリ

四、我討伐隊ハ其隊長ニ於テ過去現在ニ於ケル不逞鮮人トノ關係如何ヲ嚴密ニ調査シ將來ノ禍根ヲ殘スト認メタル場合ニ限リ教會堂學校其他ノ民家ヲ燒却シタルモノナリ

右ノ内一及二ニ對シテ教會側ヨリ我領事ニ照會ノ結果軍隊ヨリ陳謝シタリ云々ハ全然無根ニシテ只某機會ニ於テ渡邊憲兵大尉ヨリ英人宣教師ニ對シ其實狀ヲ説明シタルニ過キス

十一月下旬以降加奈陀東部地方ニ於テ我間島出動部隊ニ對スル批難攻撃最甚シク爲ニ我務省ハ疑ニ在、オタワ帝國總領事ニ訓令シテ右ニ對スル辯駁ノ措置ヲ執ラシメタルニ在、トロント市加奈陀長老派傳導本部ハ更ニ我總領事ニ右ノ辯駁ニ對シ參考ノタメ送付ストテ附錄第十二甲乙丙丁號ノ通り送り越シタリ右四通ノ報告書ハ何レモ在間島宣教師ノ發セルモノニシテ一々事件ノ時日場所ヲ指摘シ居リ之ニ對シテ一般抽象的辯明ヲ試ムルハ却テ不利益ナリト認メ之ニ必要ナル適確ノ具體的

第三章 井傳及砂外事項

三四

事實ヲ調査報告スヘク軍務局長ノ照會アリ

右本文及之ニ對スル辯駁資料ヲ調製ス(附録第十三)又獐巖洞事件ノ真相附録第十四ノ如シ殊ニ獐巖洞事件ハ内外各地ニ於テ廣ク宣傳セラレ輿論稍喧シカリシモノナリ

其二 支那人

今回ノ事件ニ伴フ支那人ノ宣傳ニハ種々複雑ナル理由存在スヘシト雖之ヲ大別スレハ概ネ左ノ如シ

イ 國土蹂躪ヲ憤慨セルモノ

ロ 個人的怨恨ニ對スル復讐の意味ヲ以テセルモノ

ハ 排日ト同時ニ排張ヲ唱ヘ張作霖ノ失脚ヲ策セルモノ

ニ 利慾若クハ因縁關係ヨリ不逞鮮人ト結ヒアリタルニ依ルモノ

ホ 地方官吏特派調査員等自己ノ勉強振ヲ發揮セントスルカ或ハ具無智ノ爲人民

ノ誣言ニ惑ハサレタルニ因ルモノ

ヘ 新聞等營業擴張ノ方策ニ因ルモノ等

而シテ是等ハ單一ニ若クハ相關聯シテ其原因ヲナセルモノニシテ右ノ中政略的意味ヲ含メルモノニアリテハ其背後ニ英米人ノ潜在シタルハ蓋シ察スルニ難カサナ

以下項ヲ分チテ之ヲ概説セントス

イ、國土ノ蹂躪ヲ憤慨セルモノ

此種ノモノハ多クハ眞ニ愛國ノ至誠ニヨルニアラスシテ他ノ煽動ニヨリ盲動スル青年ノ一時的動作ニ過キサルカ如シ

北京學生連合會十月二十二日左ノ發表ヲナセリ

一、日本ハ我國ヲ窺フヤ機トシテ乘セサルナク即泰事件起ルヤ誇張シテ兵ヲ出シ東支線ニ蟠居シテ其毒牙ヲ延サントス東北ノ地山及々トシテ危シ

二、鮮人ハ百折不撓ノ勇ヲ鼓シテ獨立ヲ圖ル吾等ハ宜シク義ニ依リテ之ヲ助ケサルヘカラス

三、張巡閱使ニ對シ日本ノ橫暴ニ對シ將ニ正當防衛ノ策ヲ執ルヘキコトヲ電ス吉林全省學生連合會十一月四日吉林省議會ニ開催シ各地代表者ノ會スルモノ百餘名ニ達シ左ノ趣意書ヲ大總統及張巡閱使ニ電報シ更ニ北京各學校ニ送致シテ一致ノ行動ヲ慫慂セリ

日本ノ常ニ中國ニ對シ野心ヲ懷クハ中外ノ共ニ憤ル所ナリ近時彼ハ居留民

第三章 普傳及涉外事項

二二六

保護ヲ口實トシテ恣ニ兵ヲ延吉ノ間ニ進メ永駐ノ計ヲナス我領域主權ヲ侵犯スルノ行爲ハ舉國ノ憤懣スル所ナリ吉林ハ其痛恨ヲ感スル最深シ今ヤ群衆激昂シテ日人ノ舉ヲ以テ公法ニ背反スルモノトス夫レ暴動ノ起因ハ辜韓民ニアリ韓ハ日ノ屬國ナルヲ以テ其我國ヲ擾亂スルニ於テハ我ヨリ賠償ヲ要求スヘキナリ然ルニ日人却テ兵ヲ以テ我領土ヲ侵ス宇宙ノ間何ソ此理アラシヤ又之ヲ以テ馬賊ノ所爲トセハ是レ我内政ニ關スルモノニシテ他國ノ干涉ヲ容ルルノ理ナシ日人ハ口ニ親善ヲ唱ヘ以テ侵略ノ要トナス安危ノ繫ル所何ソ甘ンシテ之ヲ受ケンヤ大總統(巡閱使)既ニ兵ヲ派シ使ヲ遣シテ交渉ニ從事セラル素ヨリ成竹アラシモ國家ノ興亡ニハ匹夫モ責アリ學生亦之ヲ默過スル能ハス之ヲ以テ大總統(巡閱使)外交部ニ切望ス速ニ日人ニ嚴重交渉シ即時撤兵セシメラレヨ云々

尙之ニ關聯シ日貨排斥日人ノ家屋租用禁止日本貨幣排斥並學生ノ公開演說等ヲ企畫セルモ森田總領事ノ注意ニ基キ教育廳長ノ禁止ニヨリ中止スルニ至レリ

奉天ニ於テハ學生等ノ激烈ナル排日檄文ヲ配布シ隊伍ヲ組ミテ排日示威運

動ヲ惹起セルモ支那官憲ノ取締ニヨリ大事ニ至ラスシテ鎮壓スルヲ得タリ
 個人的怨恨ニ對スル復讐の意味ヲ以テセルモノ

此種ノモノハ日本乃至日本人ヲ怨ミ機會アル毎ニ惡宣傳ヲ試ミントスル亦自
 然ノ勢ナリ

不逞鮮人討伐不徹底ノタメ職サレタル團長孟富德ハ督軍ニ書ヲ遣リテ日
 本軍ノ行爲ヲ誇大ニ吹聴シテ慘トシテ人道ナシト稱シタルタメ督軍ハ延吉
 道尹ニ對シ日本側ニ嚴重交渉スヘク令セリ

ハ排日ト同時ニ排張ヲ唱ヘ張作霖ノ失脚ヲ策セルモノ

一事件ノ生スル毎ニ其機ヲ利用シ他ヲ排擠セントスルハ支那ニ於ケル政治的
 常套手段ニシテ直隸派其他ハ陰ニ陽ニ排日ヲ唱ヘ輿論ヲ喚起シ張作霖ヲ攻撃
 シテ彼ヲ苦メタルタメ彼ハ意氣頗銷沈シ成ルヘク之ニ關スル交渉ヲ避ケント
 スルニ至レリ

十月二十五日夜張作霖ハ佐藤少將ニ會見ヲ求メ語レル要旨

最近中央及南方政界ニ於ケル張作霖反對ノ黨派カ日本今回ノ出兵ヲ以テ張
 ノ排斥ニ利用シ其背後ニ英米人アルハ確實ナルカ其運動日ニ猛烈ヲ極メ日

第三章 普傳及海外事項

二二八

本ノ不法行爲ハ畢竟張ノ默諾セルモノニシテ張ハ支那ノ國賊ナリトサヘ呼
ハレ熾ニ排日兼排張ノ宣傳ヲ行ヒ之ヲ機會ニ張ヲシテ支那全國ノ民心ヲ失
ハシメント謀ルモノノ如ク誠ニ憂慮ニ堪エズ云々ト

翌二十六日午後外交部長ヲ彼ハ代理トシテ佐藤少將ノ許ニ遣ハシテ曰ク間
島出兵及西間島行軍問題ニ就キ支那ノ輿論沸騰シ殊ニ昨朝來各種ノ學生其
他ノ團體ヨリ張ノ許ニ達セル電報非常ニ多ク而モ其言辭激烈ヲ極メアリ若
シ此狀勢ヲ放置シ何等輿論緩和ノ手段ヲ執ラサルニ於テハ張ハ國內ニ對ス
ル立場ヲ破壞スルニ至ルベク張トシテハ日本重キカ全國ノ民心重キカト云
ヘバ勿論支那全國ノ民心ヲ重シトセサルベカラサルカ故ニ願ハクハ此際至
急現在ノ軍事行動ヲ止メ輿論ノ緩和ヲ計ル様其筋ニ電請アリダシ云々ト

十一月九日張作霖ノ貴志少將ヘノ談話ノ一節

予ハ今ヤ日本ノ出兵ニ依リ内外ヨリ攻撃ヲ受ケ苦悶ニ堪エス云々

ニ、利慾若クハ因縁關係ヨリ不逞鮮人ト結ヒアリタルニ因ルモノ

間島地方總人口ノ八割内外ハ鮮人ニシテ該地方支那官民ト鮮人トノ關係ハ諸
種ノ點ニ於テ密接ナルモノアリ又鮮人中所謂墾民ニシテ支那下級官吏又ハ下

士卒タルモノ相當多數ニ上ルノ狀況ニアラヲ以テ不逞鮮人ト支那官民間ニ於
テモ種々ノ利害又ハ因縁關係ヲ有スルモノアリ是等ノ徒輩ハ其私的感情ヨリ
我軍ノ行動ヲ中傷シ其撤兵ヲ促進セント努ムルニ至レリ

ホ、地方官吏特派調査員等自己ノ勉強振ヲ宣傳セントスルカ或ハ其無智ノ爲人民
支那人ノ誣言ニ惑ハサレタルモノ

地方官吏軍人特派調査員等ニシテ故ヲニ虚構若クハ誇大ノ報告ヲ作爲シテ上
司ニ呈スルハ支那人ノ通弊タリ左記町野顧問ノ電報ハ此間ノ消息ヲ語ルモノ
ト謂ハサルヘカラス

張作霖ノ手許ニハ間島ニ在ル支那地方官憲其他ヨリ決討伐隊ノ行動ヲ針小
棒大的ニ誣告シ且一々張ノ指示ヲ仰キ來レルタメ張ハ頗ニ堪ニス該地方官
憲ト協調シ彼等ヲシテ我ニ好意ヲ有スル如ク指導懷柔ヲ望ム

又次ノ一例ハ我ニ於テ事前ニ發見謝罪セシメタル顯著ナルモノニシテ惡辣ナル
彼等ノ心理ヲ考察スルノ資料タルヘシ

謝罪狀

和龍縣警察第三區分所々屬ノ巡警姜守及通事韓龍秀ノ兩名ハ中華民國九年十

第三章 井傳及沙外事項

一三〇

二月十三日同縣明新社三道溝青山子蘿月坪附近在住鮮人ヲ脅迫シ貴國軍人カ
 同地附近ノ在住鮮人婦人ヲ強姦シタル旨ノ訴狀書ヲ調製シ之ニ記名捺印セシ
 メントシタルモ之ヲ肯セサルニ當リ毆打暴行遂ニ之ヲ強要セルノ事實ハ貴隊
 附將校憲兵並外務省巡查ト當分所屬ノ巡官並巡警立會實査セル所ニ據リ明ナ
 リ

本事件ハ貴國軍隊ノ威信ト名譽トヲ毀損シ併テ貴國軍隊ノ作戰行動ヲ妨碍セ
 ルモノニシテ賊ニ恐懼ニ堪エス依テ茲ニ將來斯ル不法行爲ヲ敗テセサルヲ誓
 フト共ニ謹テ謝罪ス

中華民國九年十二月十五日

和龍縣警察第三區分長 候 樹友

三道溝駐屯隊長牟田祐三郎 鑒

又齋藤大佐ニ宛テタル吉林督軍公署公函並之ニ對スル第十九師團ノ調査表附錄
 第十四全第十五ノ如シ

ハ新聞等營業擴張ノ方策ニ因ルモノ等
 是ハ何處ニ於テモ有勝ノ事ニシテ相當注意指導ヲ要スヘキモノトス

其三 上司ヨリノ注意事項

十月三十一日陸軍大臣ノ訓電

間島方面ニ於ケル不逞鮮人ノ討伐ハ之ヲ徹底的ニ行フハ勿論ナルカ之ト同時ニ無辜ノ支那人並良民タル鮮人ノ生命財産ニ危害ヲ加ヘ爲ニ國際間ノ問題トナリ或ハ列國ノ誤解ヲ生スルカ如キ事アラハ又モヤ昨年ニ於ケル寬城子事件ノ如キ結果ヲ生スヘキヲ以テ此點ニ關シテハ特ニ注意セラレタシ又之等ノ事件ニシテ支那官憲又ハ外國人等ト出先ニ於テ何等カノ問題トナリ又ハ問題トナルヘキ顧慮アル件ハ時機ヲ失セス其真相ヲ報告スヘシ然ルトキハ事前ニ當方ニ於テ臨機ノ處置ヲ採リ得ヘキ場合亦多キヲ以テナリ

十一月十八日陸軍次官電

間島出動軍隊ノ行動力近來益々排日支那人及宣教師ノ宣傳事業ニ乘セラルル傾向アリ是等ハ軍隊ト領事並支那官憲トノ間ノ連繫十分ナラス軍隊側ニテ獨力處理スル爲ニアラサルヤ例ヘハ各部落ニ散在スル個々ノ鮮人逮捕ニ際シテハ支那官憲ト協同シテ之ヲ行ヒ之カ任務ニ當ル支那警察側ヲ巧ニ操縦スルニ於テハ支那側ノ誤解ヲ免カレ鮮人ニ對シテハ日支協同動作ヲ示スコトトナリ結局不逞鮮人ヲシテ陰謀ノ策源地タルヲ見限ラシムルニ至リ且宣教師等ニ對シテハ帝國軍隊批難ノ口實

第三章 宣傳及渉外事項

二五二

ヲ與ヘサルコトトナルニアラスヤ

要スルニ間島ニ於ケル軍隊ノ行動ニ關シ此際支那側ヲ功ニ利用シ領事側ト密接ニ
連絡シテ行動セシムルコトニ特ニ注意アリタシ

十一月十九日參謀本部總務部長電

前略 將來時局ニ關シ外交並宣傳上必要ノ件ハ機ヲ失セス支那關係各地殊ニ北京
ニハ通知セラレタシ電報末尾ニハ必ス箇所ノ記載ヲ望ム

第二節 間島宣傳班

軍ニ於テハ間島居住外國人ニ對シ我軍ノ行動ヲ諒解セシムヘク努ムル所アリト雖
其効果未タ十分ナラサルモノアリシヲ以テ十一月四日は等業務ニ適任ナル將校派
遣方ヲ陸軍省ニ申請セリ

陸軍省ハ之ヲ認可シ十一月九日附約一ヶ月ノ豫定ヲ以テ歩兵大佐水町竹三以下五
名ノ將校ヲ派遣ス是等將校ハ十一月十八日京城ニ着セリ

宣傳班ニ與フル指示事項

宣傳班ハ第十九師團及琿春間島ニ在ル我帝國領事等ト密接ナル連絡ヲ保持シ概

手次ノ事項ニ關シ處理及宣傳ニ任スルモノトス

一、琿春間島在住外國人(支那人ヲ除ク)ニ對シ我軍出動ノ目的及我軍隊ノ作戰行爲ニ對シ善意ノ諒解ヲ得ルニ努ムルコト

二、支那側文武官憲ニ對シテハ特ニ彼我ノ意志疎通ヲ圖リ我作戦行動ニ便宜ヲ得シムルト共ニ我軍ノ不利ナル情報ヲ報告セシメサルコトニ努ムルコト

三、外國人(支那人ヲ含ム)特ニ宣教師ノ虛構ナル宣傳ニ對抗シ事實ヲ擧ケテ彼等ノ蒙ラ啓キ我軍ノ正義ヲ公表スルニ努ムルコト

四、琿春及間島ニ在ル新聞通信員ヲ利用シ常ニ彼等ノ宣傳ニ機ヲ制スルニ努ムルコト

五、琿春及間島方面ニ在ル支那人及朝鮮人ニ對シ過激派ノ主義及朝鮮獨立ノ不當ナル所以ヲ宣傳シ以テ彼等ノ思想ヲ善導スルニ努ムルコト

右宣傳ノ爲特ニ必要ナル人馬材料ハ第十九師團ニ要求スルコトヲ得尙宣傳事項ハ軍司令部ニ通報スルヲ要ス

右一行ハ十一月二十五、六兩日ニ亘リ間島龍井村ニ到着シ外國人宣教師ト接衝シ遂ニ隔意ナキ善意ニ諒解ヲ遂クルニ至リ支那官憲ニ對シテモ克ク齋藤大佐等ト協力

シテ形勢ノ緩和ニ努メ又通信員ツツドヲ操縦シテ日本ニ對シ有利ナル印象ヲ得ルニ努ムル所アリ又當時間島ニ於テ總督府及軍ニ於テ一時的ニ設ケタル謄寫版刷ノ小ナル内鮮字新聞東滿通信ヲ指導シ鮮人思想ノ善導ニ努メ且他日邦人經營ノ間島新報創設ノ端緒ヲ開クニ與テ力大ナルモノアリ短小時日ノ間克ク良好ノ成績ヲ揚ケ十二月二十一日京城着二十三日内地ニ歸還セリ

因ニ水町大佐入間數日後ニ於テ在龍井村外人宣教師ニ與ヘタル覺書ハ局地的ニハ双方ニ於ケル腹藏ナキ意志ノ疎通ニ利スル處大ナルモノアリシト雖痛ク内外ノ世論ヲ惹起セシメタリ(附録第十六)

第三節 其他ノ宣傳竝連絡

我軍ノ出兵前ヨリ間島ニ出張中ナリシ吉林督軍顧問齋藤大佐ハ日支協同討伐ノ協定ニ伴ヒ督軍ノ命ニ依リ依然同地ニ止マリ支那將校以下若干ヲ指揮シ龍井村ニ延吉和龍軍事連絡處ヲ設置シ我軍竝領事館ト支那官憲竝軍隊トノ間ニ介在シ困難ナル立場ニアリテ協調大ニ努ル所アリ

第十九師團亦討伐行動ノ進捗ニ伴ヒ宣傳ノ必要ヲ認メ十一月二日隈岐中佐ヲ龍井

村ニ派遣シ主トシテ此業務ニ從事セシメタリ

軍ニ於テハ豫テ第十九師團トノ連絡ニ任セシムルタメ平松參謀ヲ會寧ニ派遣シア
リシカ同參謀ハ龍井村ニ於テ末松警視山口朝鮮總督府高等警察課長及隱岐中佐ト
會同シ宣傳ノ重複ヲ避ケ且之カ統一ヲ期スルタメ十一月十二日左ノ協定ヲナセリ
一、軍事行動及之ニ關聯スル宣傳ハ軍部ニ於テ行フモノトス

二、間島地方ノ民心等ニ關シ鮮人統治上ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニシテ總督府ニ
於テ宣傳スルヲ適當ト認ムルモノハ總督府間島派遣員ヨリ總督府ニ電報スル
コト

右電報ハ隱岐中佐ノ承認ヲ受ケ發電シ其寫ヲ隱岐中佐及領事ニ送付スルコト
三、宣傳ニ關スル電報文書ハ領事隱岐中佐及軍並總督府間島派遣員ノ間ニ寫ヲ送
付シ或ハ同覽等ノ方法ニヨリ連絡ヲ取リ同一步調タルヘキコト

以上ノ外軍ハ總督府ト連絡シ時ニ間島並鴨綠江對岸地方外人宣教師ト連絡ヲ有ス
ル英米宣教師等ノ誤解ヲ釋クニ努メ又本討伐間最困難ヲ感シタル不退者ト良民ト
ノ識別ヲ容易ナラシムル一助トシテ濟愚教頭李寅秀ノ請願ヲ納レ十一月末其弟李
海秀外八名ヲ第十九師團ニ派遣シ之ヲ各支隊ニ分屬シテ玉石混淆ノ弊ヲ除去シ且

鮮人ヲシテ我出兵ノ本旨ヲ理解セシムヘク努メタリ是等濟愚教徒ハ概シテ熱心事ニ從ヒ相當ノ成績ヲ舉クルヲ得タリ

又間島地方一般ノ民心漸次我軍隊ニ信倚セントスル趨向ニ鑑ミ益々之ヲ助長シ剿討ノ真意ヲ諒解セシムル目的ヲ以テ出動部隊附衛生部員ヲシテ業務ノ餘暇其衛生材料ヲ以テ隨處ニ傷病者ノ施療ヲナスヘク上司ニ申請シ十一月十三日認可ヲ得テ外來診療ニ限リ之ヲ實施スルコトナレリ本施療ハ龍井村及局子街地方ニ於テハ從來總督府慈惠醫院及外國人病院等ニ於テ之ヲ實施シツツアリシヲ以テ其効果大ナラサリシカ如シト雖琿春地方竝僻陋地ニ於テハ是等ノ機關ナカリシヲ以テ其恩惠ニ感謝スルモノ多數ニ上リ相當ノ效果ヲ收メタリ

又今回ノ事件ニヨリ臨時配屬ノ通譯將校大(中)尉十一名ハ各支隊及騎兵聯隊ニ二乃至三名宛分屬セラレ軍隊ト地方官民トノ連絡諒解ニ努メ裨益スル所大ナルモノアリキ

第四節 歸順者ノ取扱

我カ軍討伐ノ進捗ニ伴ヒ間島及琿春地方ノ民心一變シ殊ニ十月下旬獨立團ノ精銳

ヲ以テ自他共ニ信シ居タル洪範圖金佐鎮等ノ一隊モ殆ント鎧袖一觸的ニ遂ニ四散
ノ運命ニ陥リシ以來我軍ノ眞價ヲ理解シ歸順及自首ヲ申出ツルモノ頻々トシテ簇
出スルニ至リシヲ以テ第十九師團ハ之ヲ取扱ニ關シ堺間島總領事代理山口朝鮮總
督府高等警察課長平松軍參謀隱岐中佐等ト協定ノ結果概ネ左ノ主旨ニ依リ之ヲ取
扱ヲ開始セリ

一、支隊長ヲ委員長トシ領事館員及其他所要ノ人員ヲ加ヘ委員組織トシテ之ヲ取
扱ニ任ス

二、犯行重キモノニ對シテハ歸順ヲ許サス斷然タル處置ヲナスモ其ノ他ノモノハ
成ルヘク温情主義ヲ採リ釋放ス

三、釋放スヘキモノハ銃器彈藥ヲ提供シ宣誓ノ上、居住部落民五名以上ノ保證ヲ立
テタル後師團司令部ヲ發行スル歸順證ヲ付與ス

四、釋放シタル歸順者ノ監視ハ主トシテ所轄領事館之ニ任ス

五、江岸附近ニ於ケル歸順者取扱ハ憲兵警察官援助シテ守備隊長主トシテ之ニ
任ス

歸順者取扱規程附錄第十七ノ如シ

各支隊長ハ之ニ基キ十月下旬ヨリ逐次琿春龍井村局子街百草溝頭道溝ノ各要地ニ
佐官ヲ長トスル委員ヲ設ケ本業務ヲ開始シ宣傳ト相俟テ相當ノ効果ヲ奏セリ是等
歸順者ノ心理狀態ハ一時我討伐ヲ免カレ生命ノ危險ヲ脱セントスルモノ多ク衷心
悔悟シ將來ノ忠誠ヲ期セントスルモノ至リテハ蓋シ少數ナリシナランモ有形無
形帝國ノ爲利スル所大ナリシハ疑ヲ容レサル所ナリ
本業務ハ主力部隊ノ撤退ニ伴ヒ之ヲ所在領事館ニ引繼クコトナリ概ネ十二月二
十九日乃至大正十年一月十五日ニ亘ル間ニ於テ夫々申送りヲ終リ將校以下鮮内ニ
歸還セリ
業務引繼迄ニ取扱ヒタル歸順者ノ數左ノ如シ

歸順者調査表

歸順者調查表							
支隊別	區分	部				計	歸順申出部落數
		首魁	幹	其	他		
東支隊		七		一五三	五、九一九	六、〇七九	四四一
磯林支隊		一		一六	六七四	六九一	五六
木村支隊				一五	一、五九一	一、六〇六	一七

江岸守備隊				
計	八	三〇〇	一、二九一九	一二、二二七
				六六七
				一五三

尙事件後間島ヨリ逃走シテ鮮内ニ潜伏シタルモノ若クハ鮮内ニアリテ對岸不逞者ト氣脈ヲ通シ不逞行爲ヲナシツツアリシモノ等ニ對シテハ咸鏡北道ニ於テ概ネ師團規程ニ準シ規定ヲ設ケ各警察署ヲシテ之カ處置ニ任セシメタリ其江岸地帯ノ守備隊ト重複スルモノニアリテハ兩者ノ互助協力ニ依リ圓滿ニ處置セリ

道廳ニ於ケル規定ハ附錄末尾ニ添加ス

第五節 涉外事項ノ概要

支那軍隊ノ吉林方面ヨリ増加セラルルヤ官兵ノ日本軍隊ニ對スル態度漸ク不遜トナリ或ハ我保線兵ニ對シ侮辱ノ言ヲ弄シ或ハ我歩哨ニ拳銃ヲ擬シ或ハ増加隊ハ日本軍襲攘ノ爲ニ來レリト揚言シ或ハ我軍宿舍ノ微用ヲ妨碍シ或ハ我軍用電線切斷ノ疑アル等亡狀ヲ極ムルニ至リシモ我軍ハ陰忍自重區々タル感情ニ驅ラレ大局ヲ謬ラサル如ク努メツツアリシカ會十一月二十七日局子街ニ於テ支那將校ノ我軍徵備使役中ノ人夫ヲ解散セシメタル事件アリ第十九師團長ハ斯ル事故ノ頻發ヲ未然

三 防退スルタメ二十九日在局子街小田中佐ヲシテ強硬ナル抗議ヲ支那側ニ提出セシメタリ

翌三十日小田中佐ハ東少將ノ命ヲ受ケ我軍事施設妨碍ノ件ニ關シ領事帶同支那側ニ嚴談ヲ試ミタル結果張鎮守使ヨリ書面ヲ以テ正式ニ謝罪シ來リ將來斷シテ此ノ如キ失態ナキ様部下ニ嚴訓シタルヲ以テ師團長ハ各隊ニ對シ從來ノ感情ヲ一掃シ日支親善ノ交誼ヲ完ウシ且此際特ニ我將卒ノ軍紀風紀ヲ一層嚴肅ニシ彼ヨリ逆振的抗議ヲ受ケ國軍ノ威信ヲ失墜スルカ如キコトナキ様嚴ニ戒飭スヘク訓諭スルト共ニ引揚途中ニ一時歸還ヲ中止シアリシ野砲兵二中隊ノ歸還ヲ命セリ

尙本件ニ關シテハ中央部ヨリ事外交ニ關スルヲ以テ慎重處理スヘキ旨ノ訓示アリ

十二月七日師團長ハ局子街ニ至リ支那官憲ト交驩シ爾後將校相互ノ親交ヲ重スルニ至リタルハ兩國軍隊ノ衝突豫防上効果大ナルモノアリシト認メラル

參考

貴志少將ヨリ本件ニ關シ在奉天支那當局ニ警告シタルニ對シ關奉天交渉員ノ回答拜啓前ニ寫送セラレシ朝鮮軍來電ト稱スル局子街ニ於ケル支那軍隊ノ態度不適ナルノ件ニ關シ當署ヨリ此意ヲ吉林督軍ニ傳ヘ査辨セラレンコトヲ請ヒタル

ニ其返信ニ曰ク日本軍入境以來屢々軍隊ニ衝突ヲ避クヘキコトヲ諭達セリ前ニ參謀趙維欽ノ報告ニ依レハ延吉ニ向ヒ出發セシ隊伍ハ沿道日本軍トノ誤解ヲ生センコトヲ慮リ日本軍ノ駐紮セル地點ニ宿泊セシメスト茲ニ抗議ニ係ル日本軍ニ侮辱ヲ加ヘタリトノ事ニ就テハ巡閱使及齋藤顧問ヨリモ相前後シテ來電ニ接セリ故ニ此趣ヲ延吉鎮守使張九卿ニ傳ヘ事實調査ヲ命スルト共ニ取締ヲ嚴行スヘキコトヲモ命シタリ其返信ニ依レハ決シテ斯ル事ナシ又謂フ我軍ハ屢々長官ノ訓令ニ基キ衝突ヲ避ケ且多忙ニシテ事端ヲ醸スカ如キ暇ナシ云々ト(大正九年十二月十六日附)

張延吉鎮守使陶延吉道尹兩者ノ名ヲ以テスル布告文

現在日支兩國軍當地方ニアリ相互親愛和調シ日支親善ノ目的ヲ達スヘシ兩國ハ僅ニ圖們江ニヨリ相接シ密接ノ關係アリ軍民誠意ヲ以テ相接シ不逞ノ徒アリテ禮儀ヲ知ラス任意ノ言動ヲナシ日支ノ親交ヲ害スルモノハ嚴重ニ處分スヘシ(十二月五日附)

第四章 出兵ノ效果

今回ノ出兵ハ其出動地帯ノ敵地ニアラサリシコト、支那軍隊ノ妥協的討伐ノ後ヲ受ケ賊徒ノ四散セルコト緊急出兵後直ニ剿討行動ニ出ツル能ハサリシコト外交其他ノ關係上西方及北方地區ハ概シテ開放的情況ニアリシコト竝地域ノ廣汎ナルニ比シ兵力僅少時日短小ナリシコト等諸種ノ原因ニヨリ彼等ニ殲滅的打撃ヲ與フル能ハス其中心的人的ト目スヘキモノノ大部ハ之ヲ逸シタルカ如シト雖有形無形彼等ニ至大ノ打撃ヲ加ヘ其禍根ヲ芟除シ能ク其目的ヲ達シ相當ノ效果ヲ收メタリ以下具體的ニ之カ效果ヲ細說セントス

第一節 直接ノ效果

一、賊武裝團ノ四散

琿春方面此方面唯一ノ勢力タリシ韓民會ハ我軍ノ入琿ト共ニ解散ノ餘儀ナキニ至リ會長尹東喆ハ歸順シ其他ノ幹部或ハ討タレ或ハ遁竄シ僅ニ崔慶天一派ノ小群其餘喘ヲ露支國境附近ニ保チタルモ到底再舉ノ望ナキニ至レリ
汪清方面從來不逞團ノ巢窟地帯ニシテ軍政署國民會督軍府其他ノ團體相錯綜シ

第四章 出兵ノ効果

一四四

アリシモ我軍ノ出動前後軍政署ノ主力部隊ハ金佐鎮之ヲ率キ和龍方面ニ移動シ其總裁徐一ノ一派ハ北方寧安方面ニ走り國民會亦殆ント四散シ會長具泰先ハ僅少ノ部下ト共ニ敦化方面ニ遁レ督軍府崔明錄ノ一團ハ羅子溝附近ニ於テ礮林羽入兩支隊ノ一撃ニ遇ヒ東支線方面ニ逃レ獨立軍首領洪範圖亦部下二百餘名ト共ニ和龍、安圖縣界地方ニ去リ彼等ノ股肱トセシ幹部等ニシテ雜輩ヲ率キテ歸順スルモノ尠カラス其根柢ハ遂ニ拔除セララルニ至レリ

和龍方面我軍ノ入間以前既ニ和龍、安圖縣界附近ニ遁入シ我軍ヲ迎ヘテ一大血戰ヲナスヘク豪語シアリタル洪範圖、金佐鎮等ノ賊團ハ東支隊ノ爲ニ四離滅裂ノ状態ニ陥リ安圖ヨリ敦化額穆或ハ寧安方面ニ遁走シ僅ニ義軍團ノ一部茂山間島ニ出沒ヒシニ過キス

之ヲ要スルニ我軍ノ剿討ニ依リ延理地方最早顯著ナル武裝團ヲ認メス其遠ク退走セルモノニアリテモ志氣既ニ沮喪シ昔日ノ虛勢スラ之ヲ保持シ得サルニ至レリ

二、賊根據地資源ノ覆滅

彼等ノ山間僻地ヲ相シテ壯丁ノ訓練幹部ノ養成ニ腐心シ建築セル兵舎並武官學校等ハ我剿討行動ニ伴ヒ殆ント全部覆滅セラレ彼等ノ再舉ニ資スヘク陰匿セル

兵器其他ノ資源亦我カ周密捜査ニヨリ之ヲ失フニ至レルヲ以テ縱令彼等ニシテ
銳意再興ヲ圖ルコトアリトスルモ之カ恢復ニハ幾多ノ年月ヲ要スヘク況ンヤ一
般ノ環境亦昔日ノ如ク彼等ニ便利ナラサルニ於テ殊ニ然リトス
以上二項ニ據ル剿討効果數量左記附表ノ如シ
附表

剿討効果一覽表

大正九年十二月二十日關
第十九師團司令部

方 面 分	射殺人員		逮捕人員		小銃機關銃拳銃彈藥其他		燒却建築物數	
	人員	數	人員	數	人員	數	人員	數
東支隊	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
磯林支隊	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
木村支隊	四	四	四	四	四	四	四	四
江岸守備隊	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
兵站守備隊	三	三	三	三	三	三	三	三
總計	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九	四九

第四章 出兵ノ効果

一四六

備	考
一、射殺人員中ニハ戦闘ノ結果遺棄シタル死者ヲ含ム	
二、彈藥ハ拳銃彈一六三、爆彈一六ヲ含ミ其他ハ全部小銃彈ナリ	
三、其ノ他中ニハ刀、喇叭、双眼鏡、軍旗、被服等ヲ含ム	
四、焼却建築物ハ不退者ノ住所又ハ不退者ノ養成所或ハ陰謀畫策等ニ使用シ居タルモノナリ	

三 歸順者ノ簇出

第三章 第四節 ノ如シ

而シテ歸順者ノ心理ニ至リテハ幾多ノ疑問アルコト亦既述ノ如シト雖我軍ノ眞價ヲ現實ニ知得セルコトノミハ確實ナルヲ以テ將來一部策士ノ巧妙ナル宣傳アルモ一般民ハ從前ノ如ク之ニ乗シテ俄ニ輕舉盲動スルカ如キコトナカルヘク觀察セラルルニ至レリ

第二節 間接ノ効果

一、延郡地方鮮人ニ對スル我カ施設ノ擴張
從來滿蒙條約ト間島協約トノ水懸論ニヨリ停頓シアリタル鮮人ニ對スル我カ施設ハ今回ノ出兵ニヨリ漸次擴張ノ機運ヲ促進シ朝鮮人民會ノ設立警察官ノ分駐

其他教育衛生金融半疫豫防等ノ諸施設漸次其歩ヲ進ムルニ至リ在住鮮人ヲシテ帝國ノ恩恵ニ光被セシムルヲ得將來ノ感化指導ニ利スル所大ナルモノアリ

二、鮮内民心ノ覺醒並地方行政ニ及ホセル効果

鮮外近ク存在セル不逞團ノ一掃ハ鮮内殊ニ咸鏡北道地方ノ民心ヲ覺醒セシメ彼等ト互ニ相響應シタル鮮内不逞者ハ自然的ニ屏息スルカ或ハ剿討ニヨリ端緒ヲ得テ檢舉セラレ良民其堵ニ安ンスルニ至リ江岸地方不安ノ爲一時行政機關ノ運用圓滑ナル能ハサリシ諸點ノ如キモ頓ニ改善進步ヲ見ルニ至レリ

三、支那官民ノ覺醒

我出兵以前ニ於ケル延邇地方支那官民ノ大部ハ我軍ノ眞價ヲ解セス之ヲ其官兵ト同一視シ且又不逞鮮人ノ如何ニ跳梁跋扈スルコトアリトスルモ日本軍隊ノ國境ヲ越エテ遠ク出動スルカ如キハ全然不可能ナルヘシト輕信シ陰ニ陽ニ之ヲ庇護シ營利是レ事トスル情況ニアリシモ我軍ノ出動ニヨリ不逞鮮人取締ノ不徹底ハ將來重大ナル結果ヲ招來スヘキコトヲ幾分ニテモ覺知スルニ至リタルハ確實ナリトス故ニ今後再ヒ不逞者ノ蠢動跋扈スルカ如キコトアリトスルモ支那官民共ニ從前ノ如キ放慢ナル態度ニ出ツルコトナク少クトモ之カ取締ニ更ニ一步ヲ

2002

第四章 出兵ノ効果
進ムヘク判断セラルルニ至レリ

一四八

第五章 主力撤退後ニ於ケル情況

第一節 一般ノ情況

主力部隊ノ撤退ハ一般民心ニ一大影響ヲ與ヘ再不安ノ空氣ニ鎖サルルニ至ラサルカト憂慮セラレタルモ大ナル變化ナク推移セリ

以下項ヲ分テ其情況ヲ述ヘントス

一、内地人間島派遣隊ノ殘置ニヨリ當分駐兵ノ繼續セラルヘキヲ信シ安堵シアリシカ二月上旬之カ撤兵ニ關スル閣議決定ノ件新聞紙上ニ發表セラルルヤ一時不安危惧ノ念ニ驅ラレ各地居留民會ハ舉テ駐兵請願運動ニ熱中セリ然レトモ其後撤兵ハ大局上如何トモスル能ハサルヲ覺知スルニ及ヒ撤兵後ノ治安維持法ノ考究ニ専念シ大ナル動搖ヲ見サルニ至レリ

二、朝鮮人不逞ノ從三々伍々僻地ニ出沒シ金穀ノ募捐親日者竝歸順者ノ脅迫殺害等ヲ開始シ歸順者中再ヒ不逞化スルモノ稍漸次増加ノ傾向ヲ爲シ又支那側ノ壓迫熾烈ナラントスル狀況等ニ依リ稍動搖ノ氣味ナキニアラサリシモ不逞武裝團ノ大部ハ遠ク露領秋風イマン、哈府、亞市等ノ地ニ遁竄シ其ノ近ク存在スル

第五章 出力撤退後ニ於ケル情況

一五〇

モノトシテハ羅子溝、寧古塔及安圖縣ニ於ケル小數團體ニ過キスシテ大勢上著シキ變異ヲ認メス僅ニ一部鮮人ヲ驅リテ我領事館(分館ヲ含ム)所在ノ都會地ニ集中スルノ傾向ヲ馴致シタルニ過キス

一方我領事官憲ハ其警察官ヲ各所ニ分置シ其地ニ鮮人民會ヲ設置シ是等外部ノ壓迫ニ對抗スルノ措置ヲ講セシムルニ努メタルヲ以テ此不安モ漸次緩和セラレタリ

三、支那人内地人ニ對シテハ著シキ反感の態度ヲ認メスト雖鮮人ニ對スル侮蔑的態度ハ顯著トナリ其壓迫誅求ハ漸ク大ナラントセリ然レトモ支那有識階級ハ日本勢力ノ益々延邐地方鮮人ノ上ニ擴大セラルヘキヲ憂ヒ之カ對策ニ腐心セシハ顯著ナル現象ナリ今之カ一例トシテ珲春事件調査ニ出張シタル吉林省公署員卅銀(吉長日報主筆)ノ總省長ニ致シタル意見書ノ數節ヲ摘録セン

イ、墾民感化延邊墾民今ヤ數十萬ニ達ス從來支那官吏ハ多ク此等墾民ニ對シ放任主義ヲ持シ言語、服裝、房屋、村名等毫モ制限ヲ加ヘス是レ植民方策ト背馳スルコト遠シ以後應ニ法ヲ設ケテ感化シ入籍後同化ヲ受クルニ便シ且墾民教育ニ注意スヘシ韓人性ハ尙ホ撲厚ナルモノアリ我宜シク保育政策ヲ持シ寛

懷以テ救済シ徵稅訴訟等荷シクモ偏頗ナクンハ何ソ我治下ニ入リ樂シマサルモノアラシヤ(中略)日人韓人ヲ籠絡スル到ラサルナキモ韓志士日ニ報仇ヲ以テ念トナス唯愚民迄モ定見ナク我亦綏撫セス斯ノ如クナレハ必スヤ走リテ日本ニ向ハン親日自衛團ノ組織ノ如キ其顯著ナル一例ナリ

ロ、警才精選延邊警察官ノ人材欠乏シ長警中文字ヲ識ルモノ甚少シ奚ソ能ク事ニ當リ精明ナルヲ得ン且此輩ニ對スル給與薄ク爲ニ廉耻ヲ辨ヘス故ニ省當局ニ於テ辦法ヲ特定シ經費ヲ増加シ警察學堂卒業或ハ中等教育ヲ受ケタルモノヲ選拔シ(中略)韓黨及聖民ノ情形ヲ隨時探報セシメ日人ノ籠絡方法亦密ニ抵制ヲ謀ルヘシ然ラサレハ人心外ニ向ヒ領土亦全カラサルヘシ此時ニ於テ徒ニ主權保持ヲ叫フモ恐ラクハ名存シ實亡ヒン

ハ、支那人移植延邊ニ於ケル韓聖ト支那人ノ比ヲ見ルニ和龍縣聖民百分ノ九十、汪清縣十分ノ八乃至九延吉縣二分ノ一琿春縣十分ノ六乃至七ヲ占メ支那人ノ勞農者甚少ナク一村屯中ニハ盡ク韓聖ニ屬スルモノアリ從テ聖民益々同化シ難シ是レ宜シク省當局ヨリ移民計畫ヲ安定シ官ニ於テ完全ニ資助スヘシ則懸獎金ヲ以テ之ヲ鼓勵スヘシ斯クセハ災民東來シ勢ニ因リ利導スル

第五章 主力撤退後ニ於ケル情況

一五二

ニ宜シ邊境支那人多カランカ即墾民一分ノ勢力ヲ減セン然ラサレハ數十萬ノ墾民其韓タルト日タルトヲ論セス獨立ヲ謀リ終ニ心腹ノ患ヲ成サン領土アリ人存セスンハ奚ソ領土ヲ保チ得ンヤ且露境一帯露籍韓人ノ星羅棋布ヲ觀ルニ彼邦一旦復興シ一氣勾結センカ吾ハ只一片ノ約文ニ憑リ空シク統治ヲ云爲スルニ過キサラン云々

情況以上ノ如クナルヲ以テ間島地方ニ於ケル我勢力ノ振張ニハ終始支那人トノ間ニ鮮人問題ナル一大暗礁ノ存在ヲ覺知シ之カ對策ノ考究ニ勉メサルヘカラサル狀態ニアリ

四、白人龍井村居住加奈陀宣教師等ノ惡策ナル宣傳ハ漸ク緩和サレタル如クナルモ彼等ハ依然トシテ其居住旅行又ハ布教事業等ニ對シ日本側ヨリ制限不便ヲ加ヘラルル如ク邪推シ屢々其本國政府或ハ出先英國官憲ニ苦情ヲ陳謝シタルノ故ヲ以テ五月ニ入り在京城英國領事「カンニンガム」實地調査ノ爲間島ニ來レリ本件ニ關シ在東京英國大使ハ我外務次官ニ對シ右ハ政府當局トシテ唯公平ナル事實ノ報告ヲ得ントスル趣旨ニ外ナラスシテ何等日本ニ對スル非友好的意嚮ニ出テタルモノニアラサル旨内告スル所アリシト云フ

又在北京米國公使館附武官補佐宣「フェルナ」少佐ハ十二月下旬寧古塔ヨリ間島ニ入り主トシテ支那官意ト接觸シ彈春ニ至リ訪問セル我將校ニ對シ彈春襲撃時ノ馬賊數不逞鮮人過激派露人ノ數我出兵ノ目的鹵獲兵器ノ數不逞鮮人獨立運動ノ理由及今後ノ交渉等ニ關シ問フ處アリシ外何等特異ノ言動ヲ認メサリト雖道尹及知事等ニシテ我不法行爲ニ關シ彼ニ訴ヘシ者アリトノ情報ハ痛ク一般ノ注意ヲ喚起セリ彼ハ一月上旬彈春ヨリ「ボセツト」ニ向ヒ出發シ後浦潮ヲ經テ歸還セルカ如シ

第二節 間島派遣隊

間島派遣隊十二月三十一日其編成ヲ完結シ附圖ノ如ク配置セリ其警備規定附錄第十八ノ如シ

右ノ中一兩溝ニ將校ノ指揮スル二十名ヲ配置シタルハ局子街百草溝間ノ通信線カ中被覆線ヲ以テ建設セラレタル關係上之カ中繼ヲ同地附近ニ於テ行フヲ要セシト電線ノ切斷頻發シ保線ニ相當ノ兵力ヲ要スル等ニ因ルモノニシテ此兵員ハ龍井村駐屯部隊ヨリ派遣セリ

備不齊山ニ一部隊派遣ノ件ニ關シ間島總領事及同地在留民ヨリ懇請スル所アリ第
 中北師團長カ駐兵ヲ開スル意見具申ヲオモリト雖手筆ハ駐兵兵力僅少ニシテ不
 齊山ニマテ當時之ヲ分散スルハ適當ナラズト思フ該地ハ警備ハ警察官ヲ以テ之
 ニ充テ狀況特ニ急ヲ要スルニ至リ派兵スルハ適當トスル旨回答セリ
 又局子街ニ中佐ヲ長トスル歩兵隊本部ヲ特設シタルハ同地力間島ニ於ケル政治及
 軍事上ノ中心地ナルヲ以テ支那側ニ對スル接衝地均衛上ノ必要ニ出テタルモノト
 ス

一ヶ月後ニハ間島地方ニ到着セシムヘク尙瑞春北方地區馬賊討伐ノ爲奉天軍中ヨリ吳俊陞又ハ張作相ノ師團ヲ急派スル爲目下計畫中ナレハ速ニ之ヲ決行スヘシト答ヘタリ

二彼ハ馬賊長江好ノ一團朝鮮内ニ逃ケ込ミアルノミナラス日本ノ銃器彈藥ノ多數ヲ所持ストテ日本官憲ト馬賊ト何等カ關係アル如ク疑ヒ甚之ヲ遺憾トスル様子ナリシヲ以テ其誤解ナル旨ヲ十分ニ説明シタル上從來國境ニ於テハ兩國至嚴ニ境ヲ守リテ一兵タモ相侵サシメス宛カラ敵國ニ對スルカ如キ威アリシハ日支親善ノ大義ニ悖リ且不便尠カラス擬ニ朝鮮總督ヨリ于冲漢ニ警察官互ニ越境スヘキコトヲ通告シタル通り自今貴國ノ馬賊我朝鮮内ニ逃ケ込メハ我ハ之ヲ捕ヘテ貴國ニ渡スカ或ハ貴國警察ハ我ニ通告シテ越境朝鮮内ニ入り來ルヘシ我ハ直ニ之ヲ許スノミナラス進ンテ其逮捕討伐ニ援助ヲ與フヘシ之ト同様ニ貴領土ニ在ル不逞鮮人ハ貴國之ヲ取締リ要スレハ之カ討伐ノ爲我憲兵又ハ警察官ノ進入ヲ承認シ互ニ相助ケテ領土ノ治安ヲ確保スヘシト要求シタルニ彼ハ初メ日本側ニ於テ馬賊ノ朝鮮側ニ入ルコトヲ防キ其入込ミタル者ハ逮捕シテ支那側ニ渡シ吳レルハ可ナリトテ兩國ノ互ニ越境スルコトハ進ンテ

第三節 軍司令官張巡閱使ト會見協定事項

附日支國境會巡暫定辦法案

大庭軍司令官ハ上司ノ意圖ヲ依シ二月上旬奉天ニ到リ巡閱使ト會見協定ノ結果左ノ如ク陸軍大臣參謀總長ニ電報セリ

赤塚總領事貴志少將齋藤町野兩顧問ト熟議ヲ遂ケ本五日正午張作霖ヲ訪問シ右諸官立會ノ上間島事件善後策ニ關シ特ニ賊意ヲ披歷シテ懇談シ彼モ亦誠意ヲ以テ應酬セリ其結果左ノ如シ

一帝國ハ既ニ聲明セシ如ク貴國ニ於テ確實ニ治安ヲ維持スルニ至ラハ速ニ撤兵セントス然ルニ間島方面ニ在ル貴國ノ軍隊ハ其兵力少キ爲適時不逞鮮人馬賊ノ鎮壓確實ナラサルヲ以テ速ニ所要ノ兵力ヲ間島方面ニ増派シ且警察力ヲ充實シ交通通信ヲ完備シ以テ確實ニ不逞者ヲ取締リ良民ヲ保護シ日本内地人ノ事業ヲ安固ナラシメ特ニ過激思想ノ侵入ヲ防壓セサルヘカラスト言ヒタルニ彼ハ間島方面ハ本職ノ直接管轄外ナルモ砲督軍ト相談シ責任ヲ以テ必ス完全ニ治安ヲ維持シ勢力スヘシ之カ爲吉林省ヨリ歩兵三營ヲ置ニ増派シ今ヨリ約

同意ヲ表セサリシモ我説明ニヨリ大要此要求ヲ承諾セリ

三、間島派遣隊撤兵ノ後ニハ差當リ我將校約十名ヲ間島及琿春ノ支那軍所在地ニ殘置シ我ノ知り得タル不逞鮮人ノ狀況ヲ支那側ニ通報シテ之カ討伐ヲ要求セント欲スルヲ以テ之ヲ承認シ支那側ヨリモ連絡將校ヲ龍山、羅南、會寧又ハ鴨綠江方面ノ我軍隊ニ派遣セハ兩國軍ハ互ニ此連絡將校ヲ介シテ情況ヲ通報シ合ヒ且要求ノ交換ヲナセハ兩國協同ノ實ヲ舉クルニ最圓滿迅速ナルヘシ總督府ニ於テモ警察官ノ連絡者ヲ出シ合フコトヲ切望シアリト述ヘシニ直ニ之ヲ承諾シ總督軍ニ勸告スヘシト答ヘタリ

以上ノ三要件ハ最圓滿ニ之ヲ解決スルヲ得最後ニ赤塚總領事ハ今軍司令官ノ言明ニヨリ閣下ノ克ク諒解セラレタル如ク帝國ハ初ヨリ速ニ撤兵シタキ意思アルニ拘ハラス北京ニ於テ外交總長カ我軍ノ撤退ヲ見タル後ニアラサレハ交渉ニ應セスト聲明シ恰モ我軍ノ駐兵ヲ以テ橫暴ヲ逞シツセルカ如ク言明セルハ帝國ノ誠意ヲ諒解セサルモノニシテ閣下ノ配慮ニ依リ北京政府ノ誤解ヲ解カレシコトヲ望ムト注意セリ要スルニ本日ノ會見ニ於テハ彼我共ニ誠意ヲ披瀝シテ隔意ナク話シ合ヒ萬事圓滿ニ進行セシモ彼ハ豫テ健康ヲ害シ居リタル際ニテ最後ノ時

期ニ至リ疲勞ノ狀アリ長ク懇談ヲ連續スルヲ得ザリシハ遺憾ナリギ
 以上ノ如クナルヲ以テ三月初吉林兵三營到着ノ時機ヲ以テ我撤兵開始ノ期ト定
 メラレタク軍ハ其積リニテ諸事ノ準備ニ着手セントス
 右協定第二項ノ件ニ關シ陸密第七十二號ヲ以テ三月十八日陸軍次官ヨリ參謀長宛
 左ノ通牒アリ

日支相互越境ニ關スル件通牒

過般軍司令官張作霖ト會同決議相成候相互越境ニ關シテハ左記ノ通承知相成度及
 通牒候也

左記

一、行政警察上ノ必要ニ基キ朝鮮總督或ハ領事ノ請求ニ依リ軍司令官カ其警察力補
 助トシテ憲兵ヲ協力セシムル意ニ於テ支那領土ニ越境スルコトニ關シ支那側ニ
 善意ノ諒解ヲ求ムルハ支障ナキモ軍司令官カ國境外ニ出兵スルノ權ヲ有セサル
 ハ法規上明瞭ナリ
 二、支那軍隊ハ素ヨリ警察官ト雖我領土ニ向テ侵入スルハ我主權ヲ犯スモノニシテ
 此ノ種協定ハ條約事項ニ屬スルヲ以テ目下外務當局ニ於テ之ニ類スル條約案起

稿中ニシテ之ニ關シ來ル二十八日頃關係諸官奉天ニ會同スル運ニ在ルハ御承知ノ事ナルヘキニ付該條約成立迄ハ此ノ件ニ關スル協議ヲ確定セサル様取計ハレ度

參考在滿不逞鮮人取締問題漸次喧囂ノ聲ヲ高ムルヤ時ノ外交總長ハ之ヲ取締ノ一法トシテ支那安南國境匪賊取締ニ關スル協定期對汎辦法ニ準シ日支間ニモ鮮滿國境警備ニ關スル何等カノ協定ヲ遂クルノ必要アルヘキヲ我小幡公使ニ語リタル結果爾後奉天總領事館ニ於テ之ニ關シ研究中ナリシカ其草案ノ脱稿ヲ見タルノミナラス他ノ方面ニ於テモ亦草案ヲ作成セルモノアリシニヨリ各方面ノ關係者相會シ之ヲ研究ヲナスニ決シ三月二十八日ヨリ三日間左ノ人員奉天總領事館ニ會合討議ノ結果日支國境會巡辦法案(附錄第十九)ナルモノヲ議決セリ然レトモ單ニ一ノ草案ニ過キヌシテ之ヲ以テ何時如何ニ支那側ト交渉ヲ開始スヘキヤ等ニ關シテハ何等決定ヲ見サリキ列席者米澤外務省事務官、八木北京公使館副領事、赤塚奉天總領事、森田吉林總領事、入江安東領事、赤池朝鮮總督府警務局長、末松朝鮮總督府警視(間島派遣員)、田中朝鮮總督府事務官、野田關東廳秘書官、神村朝鮮軍參謀、武藤關東參謀

第四節 支那軍隊

大正十年二月軍司令官ト張巡閱使トノ會見協定ニ基ク支那軍隊三營ハ三月上旬ヨリ下旬ニ互リ韓古塔方面ヨリ間島ニ到着シ又琿春縣下ニアリシ工兵大隊ハ之ヲ步兵營ニ改編シ逐次部隊ヲ整備充實シテ各所ノ配置變更ヲナセリ

右ニヨリ延琿地方ニ駐屯スル兵力ハ四月ニ於テ步兵三團騎兵一營砲兵及機關銃各一連トナレリ

五月末ニ於ケル其配置附圖第十三ノ如シ

第五節 胞胎山附近ニ於ケル馬賊討伐

長江好ノ率ル約五百ノ馬賊ハ咸鏡南道最北端胞胎山附近ニアルノ情報ヲ得軍司令官ハ張作霖トノ協定ニ基キ之ヲ鮮外ニ驅逐シ要スレハ武力ヲ以テ彼ヲ討伐スルノ必要ヲ認メ二月二十一日第十九師團長ニ之ニ關スル命令ヲ下セリ師團長ハ當時恰モ惠山鎮方面守備隊視察ノ途ニアリシ東少將ヲシテ速ニ所要ノ歩兵及機關銃並特種砲ヲ咸興、北青及城津各部隊ヨリ招致シ此馬賊ヲ討伐セシム東少將ハ惠山鎮ニアリテ咸興方面ヨリ歩兵一中隊機關銃一小隊迫撃砲狙撃砲各一ヲ招致シ之ニ惠山鎮

及三水守備隊ノ兵力ヲ加ヘ討伐隊ノ編成ニ着手シ三月三日之カ集結ヲ完了セリ
當時東邊道尹何厚琦ハ張作霖ノ命ヲ含ミ馬賊情況視察ノ爲長白ニ至リ兼テ我行動
ニ注意シアルノ情況ナリキ

集結完了當日長江好ノ賊團ハ一旦支那領ニ入り遁走ヲ企テタルモ二月二十七日支
那官兵ノ爲ニ撃退セラレ再胞胎山ニ引返セルノ情報ニ接シ軍司令官ハ事爰ニ至レ
ハ直ニ眞面目ノ討伐ヲ實施スルノ要アリトナシ其旨東少將ニ訓令セリ

東少將ハ三日夜諸隊ニ緊急集合ヲ命シ直ニ井上中佐ノ指揮スル歩兵一中隊機關銃
一小隊ヲ先遣部隊トシテ即時出發セシメ爾餘ノ諸隊ハ自ラ之ヲ率キテ翌四日拂曉
出發先遣隊ニ追及ス四日朝馬賊警戒ノ爲獨立里(惠山鎮北方約九里)附近ニ出動中ノ
憲兵下士以下五名ハ同地上流約一里ノ地點ニ於テ約七十名ノ馬賊ト衝突シ其二名
ヲ殲シ小銃二彈藥若干ヲ鹵獲セリ討伐隊ハ五日大坪里以北ニ進出シ胞胎山附近各
方面ニ亘リ搜索ニ努メタルモ賊影ヲ見ス六月胞胎山中ニ於テ馬賊根據地ト認ムヘ
キ半燒物建物ヲ發見セルモ賊ハ既ニ數日前退去セルモノアルコト判明セリ又剿討
ノ結果賊ハ其武裝團ノ主力ヲ以テ鮮外ニ遁竄シ他ノ約百名ハ武裝ヲ解除シ鐵道工
事ニ從事セントスル若力ヲ裝ヒ城津方面ニ南下セル形跡ヲ知ル仍テ之ヲ逮捕

第五章

主力撤退後ニ於ケル情況

「六二」

ニ關シ城津守備隊長ニ下スト共ニ討伐隊ハ八、九兩日ニ亘リ大坪里發十日迄ニ惠山鎮着命令ニ依リ討伐隊ノ編成ヲ解キ諸隊ハ各所屬ニ歸還セリ

城津守備隊長ハ六日午後同地北方約二里鶴中面ニ於テ其五十五名ヲ逮捕セリ其後各地警察等ニ於テ逮捕セルモノヲ合シ之カ抑留地及人員ヲ舉クレハ左ノ如シ

城津 五十八名

吉州 十二名

端川 八十一名

甲山 二名

惠山鎮附近 十二名

京城 五名

(咸興慈惠醫院ニ負傷入院中ナリシモノトス)

總計百七十一名

右馬賊ハ總督府軍安東奉天領事其他協議ノ上過般軍司令官ノ張巡閱使トノ協定並日支親善ノ本旨ニ鑑ミ之ヲ朝鮮總督府ヨリ支那側ニ引渡スコトトシ軍ニ於テハ所要ノ兵員ヲ出シ之カ護送ヲ援助セシメ四月十六、十七兩日安東ニ於テ東邊道尹ニ引渡セリ

第六節 領事警察官ノ分置

十一月六日間島方面出兵善後策ニ關スル閣議決定スルヤ外務大臣ハ小幡公使ヲシテ外交總長ニ對シ之カ決定事項ノ承認ヲ要求セシムルト共ニ軍隊撤退後警察備上ノ必要ヲ顧慮シ間島總領事館警察力ノ充實ヲ計リ且必要ナル地點ニ警察分署若クハ派出所ヲ設置スヘク之カ設置方ニ就テ支那中央政府ノ概括的承認ヲ求メ之カ設置ノ地點等ハ追テ當該領事官ト支那側地方官憲トノ間ニ商議決定セシムルコトニ同意ヲ取付ケ置クヘク訓令セリ然レトモ右警察官ノ分置ハ支那側ノ承認スル所トナラス

十二月二十八日ニ至リ間島總領事ハ取敢エス現在人員ヲ以テ左ノ個所ニ犯人調査ノ爲出張駐在スルノ名義ヲ以テ警察官ヲ分置スルニ決シ二十九日之カ設置ニ著手セリ

總領事館管内 大拉子、傑滿洞、銅佛寺

局子街分館管内 凉水泉子、嘎呀河、依蘭溝

頭道溝分館管内 二道溝、釜洞

珲春分館管内 黑頂子、頭道溝

第五節 主力撤退後ニ於ケル情況

第五章 主力撤退後に於ける概況

二六四

備考、右ノ外總領事館管内天寶山ハ同地日支合辦銀銅鑛開鑛當時ヨリ南陽坪及局子街分館管内八道溝ハ共ニ滿蒙條約締結當時既ニ警察官ヲ配置セルモノニ若干ヲ増員セリ

爾後間島派遣隊撤退前後ニ於テ約百三十名ヲ増員シテ軍隊トノ接續ヲ良好ニシ續テ約五十名ノ増員ヲ補充シ計約三百五十名ノ人員ヲ以テ領事館所在地竝右十三個所ニ分置シ警備ニ任セシムルニ至レリ

第七節 救 恤

主力部隊ノ撤退ニ伴ヒ間島地方住民ニ對シ救恤ノ議アリ其後幾多ノ紆餘曲折ヲ經テ大正十年二月二十二日軍務局長ヨリ左ノ通牒アリ

鮮人救恤ニ關シ左ノ如ク定メラル

一、救恤金額十萬圓トス

二、救恤金ハ朝鮮軍ヨリ鮮人團體ニ交付ス

三、右鮮人團體及之ニ交付スヘキ金額ノ配當率ハ在間島派遣隊司令部及總督府代表者領事協定ス

四、各鮮人團體ノ本救恤金ノ保管出納並監督指導ハ龍井村總領事之ニ任ス

次テ二月二十五日陸密第五七號ヲ以テ陸軍次官ヨリ左ノ要旨ノ通牒アリ

一、本救恤金ハ之ヲ鮮人團體ニ交付セル以後ハ軍部ノ手ヲ離ルヘキ筋合ニ付爾後ノ使用等ニ關シテハ干與スヘカラサルコト

二、本救恤金使用ノ目的ハ今ノ事回件ニ伴フ鮮人救恤ニアルハ勿論ナルモ之ヲ一時的ニ使用スヘキヤ或ハ之ヲ低利資金融通機關ノ資金トシテ永久的ニ使用スヘキヤ等ニ關シテハ之ヲ外務及朝鮮總督府側ノ意見ニ一任スルコト

三、本救恤金ハ臨時軍事費物件費雜費ノ支辨トシ領事ノ副書アル鮮人團體者代表ノ受領證ヲ徴スルコト

尙左記ハ二月二十四日外務大臣ヨリ在問島總領事代理宛訓令トシテ陸軍次官ヨリ通牒アリシモノニシテ今其全文ヲ掲ケテ參考資セントス

問島方面ニ於ケル鮮人救濟ノ件ニ關シ本月十七日別電甲ノ通り廟議決定シタルヲ以テ陸軍省朝鮮總督府拓殖局並當省係官協議ノ上別電乙ノ通り決定シタル處本件ハ今回帝國軍隊ノ討伐ニヨリ損害ヲ受ケタル鮮人ヲ救濟セムトスルノ趣旨ニ出テタルモノナルコト勿論ナルモ右救濟金ヲ直ニ被害者各戸ニ分配ヲナスハ

一、時限リニ之ヲ徒費シ終リ何等功果ナキニ至ルヲ以テ此際右救恤金ヲ利用シ親日鮮人團體ノ保護及設立ヲ謀リタク右救恤金ハ鮮人團體ニ分配ヲナスモ其監理及使用法方ハ一切領事ニ之ヲ一任スルコトニ決定セラレタリ就テハ豫テ貴官ヨリノ稟申通り右金額ヲ基金トナシ金融組合又ハ其他産業組合等ヲ組織セシメ民會ノ附屬機關トシテ組合員ニ對シ便宜ヲ供與スルト同時ニ他方之ヲ利殖シ以テ其收入ヲ公共事業ニ充ツレハ其功果ヲ永久ニ殘存シ得ヘシ唯當面ノ處置トシテ罹災者ノ爲右金額中ヨリ一時被害復舊ノ資金ヲ低利ニ之ヲ融通スヘキハ右組合利用ノ第一著手タルヘシ貴官ハ右ノ趣旨竝左記各項篤ト御含ノ上本件金額ヲ分配スヘキ團體竝其配當金額等至急分館主任及其他軍隊側トモ協議ノ上御回報相成度尙一面此機會ニ於テ既設派出所ハ勿論新設派出所所在地方ニモ豫テ計畫ノ民會ヲ至急設立セシメ其役員トシテ私服巡查ヲ顧問トシテ附屬セシメ右民會竝組合ノ基金使途監督等ニ任セラルル様御措置相成度

一、本救恤金ハ領事ニ渡切リノ形式ヲ以テ交付スルヲ得ス鮮人團體代表者ノ領收證書ヲ必要トスル由ナリ

二、第三項ノ鮮人團體ハ本救恤金ノ支出ヲ迅速且容易ナラシムル爲新ニ設立セシ

メムトスル地方部落各民會ノ成立ヲ俟タス先ツ既存團體ニノミ交付スルモ差支ナシ最モ此場合ハ自然民會ノ加入區域ヲ商埠地ノミニ限定セス將來設立セラルヘキ地方の小民會ヲモ之ヲ包擁スルコトトナシ間島琿春一帶ニ互リテ其管區ヲ一定シ更ニ進テ總本部ヲ總領事館所在地ニ設置スルカ如キ組織ヲ樹テ以テ本救濟ノ趣旨カ地方的ニ局限セサル様措置スルノ必要アルヘシ

三、何レノ場合ニ於テモ現金ハ實際之ヲ各團體ニ交付セス配當額ヲ決定通告スルノミニ止メ必要ニ應シ之カ融通ヲ圖ルコトトシ現金ハ一括之ヲ龍井村朝鮮銀行支店ニ預金シ利殖ヲ圖ルコト適當ナルヘシ

四、配當額決定ノ標準ヲ具體的ニ指示スルコトハ寧ロ之ヲ避ケタルハ元來本救恤金支出ノ趣旨カ本件ニ據ル被害鮮人ヲ救濟セムトスルニ在ルハ勿論ナルモ其他諸般地方ニ於ケル事情ヲ參酌シ出先ニ於テ實際ニ適切ナル決定ヲ爲サシムトスル趣意ニ出テタルナリ

五、規定第四項龍井村總領事ト記載シアルハ表面上總領事ノ統轄的監督ノ意ニシテ實際上各分館長モ亦其責ヲ負フヘキハ勿論ナリトス

六、資金當初ノ貸金使用ノ方法ハ勿論將來之カ使用監理ノ狀況ト雖毎年一定ノ時

期ニ於テ之ヲ本省ニ報告スルコト

七、本資金ノ回收方法貸出若クハ其他出納保管等ニ關シ鮮人民會長ノ意見等ヲ參酌シ一般的ノ規則ヲ設ケシムルノ必要アルヘシ

別電甲

間島方面鮮人救恤ニ關スル件二月十六日開議決定左ノ通

間島方面而不逞鮮人討伐ノ結果同方面一般ニ平穩ニ向ヒツツアリ討伐ニ伴ヒ同地方ノ鮮人ハ多少損害ヲ蒙リタルハ當然ノ結果トシテ致方ナキモ彼等鮮人モ亦帝國臣民ニシテ前非ヲ悔イテ我ニ歸順スルニ於テハ我亦彼等ニ對シテ良民ヲ以テ遇セサルヘカラス此意味ニ於テ適當ナル機會ニ彼等ニ物質的ノ恩惠ヲ與フルコトハ彼等ヲシテ我ニ信賴セシムルニ有功ナルヘシ依テ此際金十萬圓ヲ目途トシ適當ナル方法ヲ以テ同地方鮮人ヲ救恤シ尙此救恤方法細部ハ外務省及朝鮮總督府ト協議決定スヘキモ大体方法トシテ信賴スヘキ團體ニ交付シ其使用分配等ニ就テハ領事ノ承認ヲ得テ團體自ラ之ヲ決定シ其他領事側ニ於テ相當有利ニ使用スヘク之ヲ監督指導スルコトト致度追テ本金ハ臨時軍事費ヨリ支辨スルコトトスヘシ

別電乙(既記軍務局長通牒ニ同シキヲ以テ略ス)

救恤金ノ配當額ハ各關係者協定ノ結果被害殺傷人員及燒失家屋ニ對シ一萬四戸數ニ對シ九萬圓トシテ領事本館各分館管轄區域ニヨリ按分シ更ニ之ニ諸般ノ狀況ヲ顧慮シテ取捨按排シテ決定セリ其金額左ノ如シ

龍井本館區域三萬八千五百圓

内譯

龍井村民會 八千圓

南陽坪民會 六千五百圓

銅佛寺民會 六千圓

天寶山民會 六千五百圓

傑滿洞民會 三千五百圓

太拉子民會 八千圓

局子街分館區域二萬圓

内譯

局子街民會 三千五百圓

第五款 決力撤退後ニ於ケル情況

第五章 主力撤退後ニ於ケル情況

八道溝民會 三千圓

嘎呀河民會 五千圓

依蘭溝民會 五千圓

凉水泉子民會 三千五百圓

頭道溝分館區域二萬千五百圓

內譯

頭道溝民會 七千五百圓

二道溝民會 八千圓

釜洞民會 六千圓

百草溝分館區域

百草溝民會 五千圓

輝春分館區域一萬五千圓

內譯

班春民會 八千五百圓

黑頂子民會 二千圓

頭道溝民會 四千五百四

右金額ハ五月十八日各民會長ヲ間島總領事館ニ招致シ其意見ヲ徵シ之ヲ以テ金融機關ヲ設立スルニ決シ左記朝鮮軍ノ救恤金交付ニ關スル趣意書ヲ朗讀聽取セシメタル後之ヲ各民會ニ交付シ定款確定ニ至ル迄全部朝鮮銀行龍井村出張所ニ預托セ

趣 意 書

某 民 會

延輝地方在住鮮人ハ不逞ノ徒及馬賊等横行ノ爲比年損害ヲ被ムルコト尠カラズ殊ニ近時稀有ノ金融逼迫ノ爲更ニ一層之カ救恤ヲ要スル切ナルモノアリ又往々淺慮ニシテ誤テ不逞ノ群ニ投シ爲ニ我軍隊ノ剿討ニ遇ヒタル者ノ遺族中或ハ辜ナクシテ飢寒ニ泣ク者モアラシ蓋シ匪徒ノ兇暴ハ固ヨリ之ヲ惡ムヘシト雖焉ンソ其老幼婦女ノ不幸ヲ憐マサルヲ得ンヤ仍テ此等窮民ヲ救恤スル爲茲ニ本民會ニ對シ金何圓ヲ給與ス各自宜シク此意ヲ體シ我一視同仁ノ誠ヲ諒セヨ但シ本救恤金ノ保管出納並使用指揮監督ハ間島總領事之ニ任スルヲ以テ此旨心得ヘシ

大正十年 月 日

朝鮮 軍

第五章 主力撤退後ニ於ケル情況

一七一

第八節 殘置部隊ノ撤去

大正十年三月二十四日殘置部隊撤去ニ關スル(參謀本部)作命第六二號訓令附錄第二十其(一)及之ニ基ク參謀總長ノ指示(附錄第二十其(二))ヲ四月一日陸軍大臣ノ指示(附錄第二十其(三))ヲ受領ス

軍司令官ハ右訓令並指示ニ基キ左ノ如ク訓令並指示ヲナセリ

朝軍作命第一三號

第十九師團長ニ與フル軍訓令

四月五日
於龍山

一、軍ハ琿春及間島地方ニ在ル部隊ヲ撤去セントス

二、第十九師團長ハ間島派遣隊及現ニ間島ニ在ル無線電信班鳩通信班ヲシテ其配置ヲ撤シ朝鮮内ニ歸還セシムヘシ

三、右部隊ノ撤退ハ遂次ニ之ヲ行ヒ五月上旬迄ニ完了スル如ク第十九師團長ニ於テ實施スヘシ

四、細部ニ關シテハ別ニ指示ス

指 示

朝軍作命第一三號ニ基キ左ノ通指示ス

第一、一般ニ就テ

一、大正十年陸密第九五號間島殘置部隊撤退ニ關スル件以外ノ事項ニ就テハ本指示ニ據ルヘシ

二、諸物件ノ復舊ニ就テハ別ニ指示ス

三、撤兵ハ領事警察ノ充實ニ伴ヒ之ト交代スル如ク逐次ニ實施スルヲ要ス即チ百草溝ノ如キ遠隔セル地點ニ先ツ領事警察ノ充實ヲ促シテ其守備隊ヲ撤收鮮内ニ歸還ヒシメ爾後領事警察ノ充實ニ伴ヒ逐次守備區域ヲ縮少シ終ニ全部ノ撤兵ヲ了スル如クスルヲ要ス

四、局子街龍井村瑯春ニ在リテハ撤退準備終ラハ一般ノ情況並衛生給養及宿舍ノ關係ヲ顧慮シ適時其兵力ヲ減少スヘシ

(第二以下之ヲ略ス)

朝鮮憲兵隊司令官ニ與フル軍訓令

四月五日
於龍山

一、朝鮮憲兵隊司令官ハ瑯春及間島地方ニ殘置シアル憲兵ヲシテ其配置ヲ撤シ朝鮮内ニ歸還セシムヘシ

二、右撤去ハ間島派遣隊ノ行動ニ伴フヲ要ス

第五章 主力撤退後ニ於ケル情況

右訓令及指示ニ基キ第十九師團長及憲兵隊司令官ハ夫々命令並指示スル所アリ
 間島派遣隊ハ四月十五日先ツ龍井村及琿春守備部隊中ヨリ各一中隊ノ歸還ヲ開
 始シ爾後領事警察ノ充實ニ伴ヒ四月二十五日ヨリ五月八日ニ亘リ奥地ヨリ逐次
 撤兵シ五月九日ヲ以テ全朝鮮内ニ歸還シ原所屬ニ復歸セリ
 憲兵亦派遣部隊ノ撤去ニ伴ヒ撤退直後ノ始末並査察ヲ行ヒ各數日ヲ間シテ其配
 置ヲ撤シ鮮内ニ歸還セリ

第九節 間島連絡班ノ設置

大正十年二月軍司官張巡閱使トノ協定ニ基キ陸密第九五號ニ依ル將校九名ヲ以テ
 間島派遣隊撤退ニ連繫シ間島連絡班ヲ設置シ局子街ニ班長以下三名琿春ニ二名龍
 井村頭道溝百草溝天寶山ニ各一名ヲ配置シテ連絡員トシ諜報ニ任セシメタリ
 然ルニ五月五日陶延吉道尹ハ龍井村ニ至リ樞總領事事代理ニ對シ之カ撤退ヲ要求
 シテ曰ク「間島方面ニ連絡員ヲ配置スル件ニ就キ張延吉鎮守使ヨリ張作霖ニ伺ヒタ
 ル處大庭軍司令官ト會見ノ際日本側連絡員トシテ將校一名ヲ當縣ニ駐劄セシムル
 ニ至リシハ承知セルモ十名ヲ間島方面ニ分駐スルコトハ全ク承知セサルヲ以テ連

絡員ヲ撤退セシムル様願ヒタシト

五月十日張鎮守使ヨリ連絡班長原田大佐宛右同様ノ通牒アリ

其後陶道尹ハ擧領事宛公文ヲ以テ又々撤去方ヲ要求セリ

軍ハ貴志少將ヲ通シ張巡閱使ニ交渉方ヲ依頼セリ

貴志少將ハ六月十八日張巡閱使ニ交渉シタルニ彼ハ何等異存ナキモ所轄ノ關係上
孫督軍ノ同意ヲ求メラレ度旨答ヘタリ六月二十日貴志少將ハ折柄來奉中ナリシ吉
林督軍孫烈臣ニ會見シタルニ彼ハ日支軍隊同一地方ニアル場合ニ於テ連絡員ナル
モノ始メテ其意味ヲ爲シ又必要アルモ日本軍撤退セル今日ニ於テハ連絡ノ要ナシ
又不逞鮮人等ニ關スル諸情報ハ在間島日本警察官ノ報告ニテ十分ナラスヤト稱シ
輿論ヲ恐シテ容易ニ承認ノ意ナカリシモ種々説明ノ結果彼ハ連絡班又ハ連絡員ナ
ル名稱ヲ廢シ私人的將校ノ駐在ナラハ公然之ヲ承認ハセサルモ其儘ニテ差支ナシ
ト認ムルモ尙一應巡閱使ノ所見ヲ徵シ回答スヘキ旨答ヘ更ニ六月二十五日孫督軍
ハ國務院參議于冲漢ヲ通シ貴志少將ニ對シ在間島日本將校殘留ノ件ニ關シ支那側
ノ抗議ハ抗議トシテ其儘ニ置キ非公式ニ駐在ハ差支ナキモ九名ハ多キニ過ク七名
位ニ減セラレ度ト回答セリ

第五章

主力撤退後ニ於ケル情況

一七六

右ニ依リ軍ハ支那官憲ニ對スル公文上ニハ連絡班(連絡員)ナル名稱ヲ避クル如ク命令セルモ人員ニ關シテハ當分現状ヲ維持シ時機ヲ見テ之ヲ減少スルノ方針ヲ採レ

第六章 將來ニ對スル所見並參考事項

本所見中ニハ當時ノ實情ニ照シ稍理想ニ偏スルモノナキニテラスト雖將來ノ改善ニ資スル爲メ記載スルコトセリ

第一節 編成裝備

將來此種事件ノ勃發ニ際シテハ朝鮮師團ノ現状ニ鑑ミ其出動方面兵力並行動地域ノ大小等ヲ顧慮シ編成並裝備上適宜左ノ諸件ヲ考慮シ置クヲ要ス

一、平時定員殊ニ將校以下幹部ノ充實

臨時兵站其他諸機關ノ編成ニ要スル人員出動後ノ分散配置ニ小部隊ト雖其長ハ將校ナルヲ要スルコト及留守部隊亦相當ノ幹部ヲ殘置セサルヘカラサルニ依ル人馬衛生ニ要スル幹部ノ不足亦大ナル不便ヲ感セシメタリ

二、各支隊ニ參謀若クハ之ニ適任ノ將校少クモ一名ノ配屬
作戰指導諜報對支交涉並通信檢閱等ノ爲之ヲ要ス

三、宣傳並連絡機關ノ配屬

各種ノ誤解ヲ避ケ且宣傳ニ先制ノ利ヲ占ムル爲メ之ヲ要ス

第六章 將來ニ對スル所見及豫想事項

一七八

英、支、鮮語通譯將校乃至通譯宗教並出身關係等ヲ考慮シ玉寫真班等ヲ附スルヲ要ス又之ヲ以テ歸順業務ヲ行ハシムルモ一案タルヘシ

四、測圖班ノ配屬

外邦測圖ノ爲メ絶好ノ機會タルヲ以テ之ヲ逸セサルヲ要ス
要スレハ兵要地誌調査班ヲ編成シ之ニ附屬セシムルモ一案タルヘシ

五、飛行機、山砲、自動車、各種通信並衛生機關ノ配屬

理由省略

六、憲兵及警察官ノ配屬

周密搜查ノ必要アルニ依ル

七、裝備ニ關シ左ノ注意ヲ要ス

イ、背負囊ヲ各兵卒ニ支給スルコト

ロ、繩梯子ノ類ヲ歩兵中隊ニ三乃至六個ヲ携行セシムルコト

ハ、拳銃ヲ非戦闘員ニ携帯セシムルコト

ニ、歩兵小行李ニ塹壕用擔架並擔架ノ如キ輕便ナル擔架ヲ携行セシムルコト

右ハ行動地域ノ大部山地ナルコト並不逞者ト良民トノ區別明ナラサルニ依リ不慮

ノ危害豫防上必要アルヲ以テナリ。

第二節 戰術

不逞鮮人團ノ武力ハ我ニ比シ頗ル劣弱ナルコトハ彼等亦之ヲ自覺シアルヲ以テ整々堂々輪贏ヲ爭フノ勇ナク唯彼我偶然遭遇シテ已ムヲ得ス戰鬪スル場合又ハ進退谷リテ反噬的動作ニ出ツル場合ノ外我ニ對シ殆ント戰意ノ認ムヘキモノナシ而シテ其己ムヲ得ス戰鬪スル場合ニ於テモ其戰鬪法タルヤ分離セル小部隊斥候又ハ軍隊後方ヲ往復スル人馬ニ對シ衆ヲ恃ミテ奇襲掩撃スルカ否ラサレハ密林深ク潜伏シ虛ニ乘シテ狙撃スルノ手段ニ出ツルヲ通常トス。又山路ノ跋涉ニ馴レ一定ノ根據ナク後方連絡線ノ必要ナキ彼等ハ其勢非ナリト認ムルヤ直ニ其居所ヲ轉々シテ其姿ヲ晦マシ或ハ良民ニ扮シテ所在ニ隱匿出沒ス此ノ如キ賊徒ニ對シ之ヲ根本的ニ剿滅センコトハ固ヨリ容易ノ業ニアラス之ニ對スルノ道ハ彼等ヲシテ其得意トスル戰法ヲ行フノ餘地ナカラシムルコトニ注意シテ我カ不利ヲ醫スルニ在リ換言スレハ討伐隊ノ行動モ亦自ラ一般戰術ト異ナリ奇襲掩撃ヲ基礎トシ諸般ノ準備ヲ整ヘ其行動ヲ規定スルコト必要ナリ以下若干之ニ關スル注意ヲ述ヘン

一 討伐要領

賊徒剿討ノ爲メ兵力ノ使用法ニアリ一ハ豫メ部隊ヲ集結シ賊情ニ應シ隨時部隊ヲ出シテ討伐スルモノニシテ他ハ賊情ノ許ス限リ各方面トモ最初ヨリ數個ノ討伐隊ヲ編成シ急速ニ之ヲ各要地ニ配置シ各擔任區域ヲ定メテ討伐地域ノ全般ニ亘リ成ルヘク相協力シ同時ニ剿討ニ着手スルモノ是ナリ二者各利害アルヘシト雖平時ニ於ケル調査概テ正確ニシテ之ヲ基礎トシ討伐計畫ヲ策定シ得ル情況ニ在リテハ寧ロ後者ヲ有利トスル場合多シ而シテ此ノ如ク兵力ヲ分屯スルモ之ニコリテ戰術的包圍線ヲ成形シ逐次之ヲ收縮シテ一網打盡的ニ討伐セントスルカ如キハ兵力充分ナラサル限リ多クハ失敗ニ終ルモノニシテ通常各擔任區域内ニ於テ局部的奇襲戰法ヲ探ルヘキモノトス但シ情況ニヨリ彼此討伐隊相協力シテ部分的ニ包圍的行動ヲ探ルヲ有利トスルコトアルハ勿論ニシテ之ヲ律スルハ主トシテ支隊長ノ任トス

又武力團ノ剿討ニ段落ヲ告ケタル後ハ兵力ヲ須要ナル各地ニ分散配置シテ搜查檢舉ヲ周密ニシ賊ノ餘類殘黨ヲ索メテ之ヲ剿滅スルコト必要ナリ而シテ之カ搜查檢舉ハ其煩ヲ厭ハス爬羅剔抉連續之ヲ復行スルコトニ依リテ其效果ヲ擧ケ得

ルモノトス尙此期間ニ於テモ再若干ノ武裝團體出顯スルコトアルヘキ顧慮ヲ以テ動作ノ自由ヲ保持スル爲メ各支隊ハ相當ノ豫備ヲ控置セサルヘカラス又居民平和ヲ裝ヒ箠食壺漿シテ王師ヲ迎フルカ如キ所ニ却テ危機ヲ藏スルコトアルニ特ニ注意ヲ要ス

二、企圖及行動ノ秘匿

我軍ノ賊情諜知竝通信連絡ハ極メテ困難ナル位置ニアルニ反シ賊ハ極メテ有利ノ位置ニアリ殊ニ其連絡勤務即チ各部落ヲ連絡スル遞傳式通信法ハ頗ル發達シ微細ノ徵候モ真ニ驚クヘキ速度ヲ以テ彼等一味ニ傳達セラルルコトニ注意セサルヘカラス

例證

○會寧ニ於テ市井ニ小夜食ヲ注文シタルコト或ハ出動警察官等ノ家庭ニ於テ辨當ヲ調製スルコト等ニヨリ我行動ヲ察知セラレ折角ノ企圖モ水泡ニ歸シタルコトアリ

○加納討伐隊カ銅佛寺附近ノ剿討中押收セル書類ニ依レハ十月二十二日東支隊漁朗村附近ノ戰鬪通報ハ翌二十三日十數里ヲ隔ツル銅佛寺附近ノ國民會全員

ニ到達シアリ

之カ初メノ注意諸件概ネ左ノ如シ

イ、我軍ノ企圖計畫ハ直接計畫ニ參與スル將校以外ニ之ヲ知ラシメサルヲ要ス
領事館、鮮人事務員、傭人又ハ巡查等ヨリ忽チ四方ニ傳播シ機ヲ逸スルニ至ルコ
トアリ、憲兵補等ニアリテモ同様ナリ

ロ、夜間最隱密靜肅ニ警急集合ヲ行ヒ直ニ出發スルヲ要ス之カ爲メ夕食準備ニ當リ
三食分ヲ同時ニ炊爨シ不時ノ出發ニ支障ナカラシムルカ如キ着意亦一ノ參考
タルヘシ

ハ、行動開始時刻ハ成ルヘク夜半ナルヲ要ス日沒直後又ハ夜九時前後迄ニ於ケル
行動ハ常ニ賊ヲシテ豫知セシメアルモノト思ハサルヘカラス而シテ拂曉前目
的地ニ達シ諸準備ヲ完ウシ拂曉ト同時ニ討伐ヲ開始スルヲ要ス從テ討伐隊ハ
暗夜ノ行動ニ慣熟スルコト必要ナリ

ニ、行動開始前村落ノ周圍ニ警戒兵ヲ配置シ某時期間村落内外ノ交通ヲ杜絶スル
ヲ要ス

ホ、我軍ノ行動ヲ秘匿シ得サル場合ニアリテハ反對宣傳ニ依ルカ或ハ又一時實際

ニ反對方向ニ行動スル等ニヨリ居民ヲ欺騙スルコト必要ナリ
 へ、遞信局電話ニ勿論軍用電話ト雖之ヲ聴取セラレ我企圖ヲ暴露スルコトアリ特

ニ鮮人交換手事務員等ニ注意ヲ要ス

ト、人馬車輛ノ徵發ニ際シテハ絶對ニ其行先ヲ秘匿スルコト必要ナリ

チ、行動間途中出會セル支鮮人ニ注意シ又急キ隊ヲ行キ過キントスルモノアルト

キハ支鮮人ヲ問ハス一切之ヲ抑留スルヲ要ス

三、行動ノ敏速ト退路遮斷

之カ爲ニハ騎兵自轉車又ハ自動車ヲ利用スルコト肝要ナリ獨立シテ行動スル討
 伐隊ニハ多少ニ拘ハラヌ騎兵ヲ配屬スルヲ有利トスル場合多シ

例證

琿春方面ニ於テ歩兵小隊ヲ以テセル討伐隊カ賊ノ冒險隊長金雲瑞ヲ討伐シ得タ
 ルハ之ニ附屬セル騎兵三騎ノ力ニ依ルモノ大ナリ若シ此騎兵ナカリセハ健脚ナ
 ル彼等ヲ逸シタリシナラン

四、後方連絡線ノ保護附近諸部落ノ反覆搜查

我軍ノ討伐開始セラルルヤ彼等ハ山間谿谷ニ其影ヲ潜メ或ハ民家殊ニ支那人家

屋ニ潜伏シ或ハ良民ヲ裝ヒ街路ヲ彷徨ス而シテ我軍去ルヤ所在ニ出沒シ或ハ通信線ヲ切斷シ或ハ兇器ヲ持シテ小數交通者ニ危害ヲ加フ等ノコトアルヲ以テ自衛生常ニ道般ノ注意ヲ要ス

五、密林及其附近ノ戰闘ニ關スル東支隊ノ教令ハ實際ノ經驗ニ基クモノニシテ將來ノ爲參考ニ資スヘキモノ多キヲ認ムルヲ以テ左ニ其全文ヲ掲ク

教令

一、賊ハ從來間島内ヲ横行シ外面蠻戰ニ巧ナル如ク思ハルモ過日來ノ賊ノ戰闘法ニ就テ考フルニ其戰闘法開闊地ニ於テハ稍々見ルヘキモノアルモ森林戰ニ於テハ甚ク幼稚ニシテ我勇敢ナル突撃ニ對シテハ戰闘力殆ント皆無ト云フモ過言ニアラス然レトモ彼等ノ狼狽セル亂射ニ踏踵遡巡シ又ハ放火等ニ恐怖スルニ於テハ意外ノ損害ヲ招クコトアリ

二、密林中ニ於テハ戰略及戰術上ノ搜索ハ不必要ナリ彼ノ斥候等ヲ出シ偵察ヲナサントスルハ概ネ效ナキノミナラス却テ之カ收容ニ困難ヲ來シ撤退ニ當リテハ固ヨリ前進轉進共ニ行動ノ敏捷ヲ缺クモノトス一縱隊ハ全隊一團トナリ遭遇スル毎ニ奮戰スルヲ必要トス又前衛後衛側衛等ヲ設クル場合ニ於テモ距離

等ヲ取ルコトナク密接シテ運動シ任務ニ從ヒ動作スルヲ可トス例ヘハ後衛ハ本隊ノ直後ニ在ルモ敵襲ニ當リ後方ニ向ヒ奮戦スルモノト考フレハ可ナリ是レ密林中ニアリテハ最モ良好ノ場合ニ於テモ射界二十米ヲ超ユルコト少ナシ然レトモ罌粟密培ノ爲高地ノ稜線ニ林空ノ存在スルコトニ注意スヘシ

三、賊徒ハ戰略策源ヲ有セサルヲ以テ彼等カ食糧ヲ得ヘキ村落又ハ飲料ヲ得ヘキ水流ニ注意スルヲ要ス殊ニ近寒ノ候ニアリテハ村落ハ最モ注意スルヲ要ス故ニ此等村落竝水流ニ向ヒテ行動スルヲ緊要トス然レトモ我カ近接ヲ察知スレハ高地ノ頂線ニ長ク陣シ得ヘシ即チ燃料豊富ニシテ雪ヲ融シテ飲料水ヲ得ルヲ以テナリ

四、駐軍ノ警戒ニ於テハ各警戒部隊ハ本隊ニ近ク位置シ且敵襲ニ當リ敵方ノミナラス我軍ノ方向ヨリ射撃ヲ受クモ安全ナル如ク設備シ得レハ最モ有利ナリ近寒ノ候ニ於テハ凍傷ノ憂アルヲ以テ燎火ハ禁シ得サルヘシ然レトモ賊ノ爲我カ位置ヲ察知セラレ俄然有効射撃ヲ蒙ルノ憂アルヲ以テ最前線ノ警戒團ハ燎火ヲ嚴禁シ近ク位置シテ燎火ヲ有スル部隊ヨリ頻繁ニ交代スルヲ可トス但シ燎火ニヨリ我一般ノ位置ヲ察知セラルルハ止ムヲ得サルモ密林ナルヲ以テ

賊ハ至近ノ距離ニ近ツクニアラサレハ有効スル射撃ヲナシ能ハサルヲ以テナ
リ

六 前述スル如ク既ニ戰略的及戰術的搜索ハ目的ヲ達シ難キヲ以テ賊ヲ搜索セン
トセハ全隊諸種ノ徵候ヲ捕ヘテ迂餘曲折ヲ厭ハス熱心不撓ノ氣概ヲ以テ自ラ
密林中ニ迷没シ敵ヲ追蹶スルニアリ從テ數日分ノ糧食ノ各自携行スルヲ要ス
敵ニ近ツニ及ンテハ其ノ露營ノ狀態炊煙照星頂ノ樹枝ヲ傷ケタル痕跡道路ニ
横タハル倒木上ノ鮮苔ノ蹂躪狀態燎火ノ配置等ニヨリ敵ノ位置其ノ警戒法ニ
狀態警戒ノ主方向等ニ注意セハ往々有利ナルコトアリ彼ノ諜報ニヨリ敵ノ概
略位置ヲ知り現場附近ニ至リ何等努力スルコトナク賊ニ遭遇セサルヲ以テ賊
既ニ去レリトナスカ如キハ或ハ知ラン賊ノ數十歩ニ潜伏シアリシヲ逸スルノ
憾アルコトヲ

七 從來ノ戰闘ノ經驗ニヨリ機關銃ハ苟モ單獨兵ノ到リ得ル所携行シ得サルハナ
シ然レトモ斜而攀登ノ際頻繁ニ短時間ノ休憩ヲ與フルニ於テハ搬送手ノ疲勞
ヲ減セスジテ却テ行進迅速ナルコトヲ得ヘシ
又搬送手ハ屢々交代スル爲成ルヘク多クノ豫備員ヲ控置スルヲ必要トス之カ

八疊賊ニ對シ殊ニ密林内ニ於テハ機關銃ノ穿貫的威力ハ彼等ノ心膽カ寒カラシメ最モ有効ガリ故ニ各縱隊ハ不意ノ奇襲ヲ避クルヲ度トシ若干ノ機關銃ヲ先頭ニ行進セシムルヲ可トス

九、密林中ニ於テハ數歩毎ニ枯木轉倒シアルヲ以テ燃料ヲ得ルコト最モ容易ナリ殊ニ白樺ハ其ノ生皮ト雖爆發的燃燒性アルヲ以テ如何ナル時期ニアリテモ點火ノ良資料タルコトニ注意スヘシ

十、露營火ノ痕跡ヲ絶滅スルハ不可能ナリト雖我軍ノ露營地ハ米麥ノ散逸空罐ノ放棄團圞ノ跡等著シク賊ノ露營地ト異ナルモノアリ若シ賊ニシテ企圖心ニ富ムアラハ我レヲ追躡スルノ材料トナルヘシ少クモ彼我ノ區別ヲ知り得ルノ徵候ヲ止メサルヲ要ス

十一 近塞ノ行軍ニアリテハ凍傷豫防ノ爲屢々乾燥セル靴下ト交換スルヲ要ス彼
ノ日露戰爭ニ於テ黑溝台會戰ノ際近塞ノ經驗アル第八師團兵ノ此ノ方法ニヨ
リ零下二十七度ノ夜間戰ニ於テ凍傷ヲ豫防シ得タルノ實驗アリ

十二、各隊ハ若干ノ間匙鉋等ヲ携行スルヲ必要トス之レ若干ノ工事燃料及露營材

第六章 將來ニ對スル所見並參事項

一八八

料採集ノ必要アレハナリ又多クノ燐寸(殊ニ蠟燐寸)ヲ携行スルノ必要アリ

十三、密林中ハ下草少ナキヲ以テ火災ノ危險ナキモ疎林ニ於テハ枯乾セル雜草ハ往々火ヲ失シ猛烈ノ勢ニテ燃焼スルヲ以テ屢々縱隊ニ危險ヲ與フルコトナシトセス敵ノ方向ト風向トニヨリ戰術上殊ニ注意スルヲ要ス

十四、夜間水流附近ニ止陣スルノ不利ナルハ要務令ニ教示スル處ニシテ賊ノ近接ヲ察知スルニ困難ナレハナリ

十五、青山里西方地區森林内河川ノ方向ハ我行動ニ附シ大ニ注意ヲ要ス即チ古洞河ハ北方ニ流ルヲ以テ此ノ谷地ニ迷ヒ入ルニ當リテハ既ニ歸還ハ容易ナリ東北方ニ流ルルモノハ海關河ノ潮流ニシテ此ノ水流ヲ迪レハ共ニ二道溝頭道溝ニ歸還シ得、南方又ハ東南方ニ流ルルモノヲ迪レハ茂山又ハ三下面方向ニ進出シ得其ノ他西南方西北方西方ニ流ルルモノヲ迪レハ益々遠ク安圖縣内ニ逆進スルモノナリ

大正九年十一月九日

支隊長 東 正彦

第三節 諜 報

一、平時ノ準備調査

イ、兵要地理調査ニ一層ノ力ヲ拂フヲ要ス

移住鮮人部落ノ分布狀態、物資及交通網ノ景況、森林地帯ノ狀態、支鮮人ノ勞作關係等調査不十分ノ爲メ我軍ノ行動ニ及ホセル不利甚大ナリキ賊情調査ニノミ偏セサルノ注意肝要ナリ

ロ、賊情調査ハ一層具體的ナルヲ要ス

賊徒其根據地ヲ他ニ移スカ或ハ四散シタル場合ニ於ケル搜查檢舉ニ利スル爲メ幹部氏名、年齡、出身、地家族親戚、知己等ノ關係並團體ノ組織、勢力範圍、連絡系統等ヲ精査シ之ヲ簡單ナル名簿式ニ闡表シ討伐隊携行セシムルヲ必要トス(主トシテ警務諜報)

ハ、統一セラレタル諜報網ノ設置

成シ得レハ有事ニ際シ適時某地區ヲ蔽フ如ク諜報動員トモ稱スヘキ計畫ノ準備アルヲ要ス純然タル軍事行動ノミヲ探リ得サル地區ニ於テ殊ニ之カ必要ヲ認ム

二、居民ノ利用

第六章 將來ニ對スル所見並豫想本章

イ、材木商、雜貨商等與地深ク其取引先ヲ有スルモノ及料理屋、旅店等多人數集合スルモノノ主人店員等ヲ利用スルトキハ有利ノ情報ヲ得ルコト屢々ナリ

ロ、鮮人ハ黨中黨ヲ樹テテ相爭フ傾向殊ニ顯著ナルヲ以テ出身地宗教團體別等ニ着意シ相反目セルモノヲ利用スルコト必要ナリ

ハ、婦女子兒童等ヨリ意外ノ情報ヲ得ルコトアリ

ニ、鮮人情報ノ探知ニ支那人ヲ利用スルモ内容ノ詳知ハ通常困難ナリ

三、密偵ノ使用

イ、軍隊隊ノ行動開始ト共ニ隨時使用スヘキ密偵ノ如キハ歸順者自首者及密告者中ヨリ選定シ又諜報ノ目的及種類ニヨリテハ是等ノモノ及地方有力者ニ責ヲ負ハシメ又ハ一部落等ニ共同責任ヲ負ハシメ密告セシムルヲ有利トスルコトアリ

ロ、多クノ雜輩ヲ使用スルモ何等ノ益ナク小數ト雖有力者ヲ使用スルノ着意ヲ要ス

ハ、密偵ハ無職者ヨリモ有職者ヲ可トスル場合多シ

是レ其逃亡ヲ豫防シ且密偵タルコトヲ覺知セシメサル爲ニモ必要ナリ

四情報ノ點檢

ニ支那人ハ國家觀念ノ薄弱、金錢愛着心ノ強烈等ニ鑑ミ黨派關係ヲ考慮シ物色スルコト必要ナリ又屢々遊里ニ出入スルモノ借貯ニ苦シムモノ鴉片常用者等ニ着目スルモ亦一方便タルヲ失ハスト雖何レノ場合ニ於テモ彼等ノ所謂面子(体面)ヲ重シアルコトニ注意セサレハ意外ノ失敗ヲ招クコトアリ

ホ、不退團ニ怨恨ヲ有スルモノヲ採用スルニ際シテハ之ニ依リ自己ノ私怨ヲ晴サントスルモノアルニ注意セサルヘカラス

ヘ、鮮人密偵中ニハ我軍ノ威ヲ藉リ不正行爲ヲナスモノ尠カラス監視警戒ヲ要スト、妥協的情報ノ作爲交換及復間諜的行爲ノ豫防ニ就テ深甚ナル注意ヲ要ス密偵ヲシテ相互覺知セシムルカ如キハ往々此弊ニ陷ルノ原因ヲナス

情報ノ眞偽ヲ鑑別スル爲ニハ須ラク大勢ニ通曉シ各種情報ヲ彼此對照シ之ヲ綜合判斷スルコト最必要ナルモ尙左件ニ注意スルヲ要ス

イ、鮮人ハ自己ノ私怨ヲ復讐センカ爲メ無辜ノ良民ヲ誣告スルコト屢々ナリ

ロ、距離稍遠キカ若クハ行動困難ナル地點ニハ常ニ大ナル集團存在スル如ク喧傳

ハ、常備密偵ノ如ク一定ノ報酬ヲ得アルモノ報告事項少シトシテ之ヲ資ムルトキハ情報作爲ノ弊ニ陥ルコト多ク又情報ノ價值ニヨリ報酬ヲ與フルモノハ事實ヲ誇張修飾若クハ捏造シ多大ノ金額ヲ貪ラントスルニ至ルコトアリ
ニ、不逞團馬賊等ハ誇大ノ宣傳ニ長シアリ一犬虛ニ吠エテ萬犬實ヲ傳フの情報ニ惑ハサレサルヲ要ス

第四節 通信

一、江岸各守備隊ヲ連絡スル軍專用通信網ノ必要

大正八年騷擾事件當時第十九師團管下ニ於テハ江岸警備ノ必要上同年末羅南ヲ起點トシ茂山及會率ニ又更ニ會率ヲ起點トシ鐘城穩城及慶源ニ軍用電話ヲ架設セシ爲今回ノ事件ニ際シ多大ノ便益ヲ得タリ遞信局線ノ不備竝通話輻輳及秘密保持ノ必要等ノ關係ヲ顧慮セハ首題ノ件特ニ必要ナルモノアルヲ思ハシム

二、遞信局ノ作業能力ハ平素ヨリ承知シアルヲ要ス

今回ノ事件ニ於テ電信電話ノ新設ヲ總督府遞信局ニ依托シタルモ其作業力作戰ノ進捗ニ伴ハス大ナル不便ヲ感セリ平素之カ能力及有事ニ際シ擴張シ得ヘキ限

度等ニ關シ豫メ研究打合ノ要アルヘシ

三、通信器材ノ増加支給ノ場合ニハ同時ニ架設器具ノ増加支給ヲ要ス

中央部ヨリ多量ノ通信器材支給セラレタルモ架設器具不足ノ爲メ作業上不便ヲ感セリ

四、通信網構成ノ統一

各方面ニ於ケル通信網ノ構成ハ第十九師團ニ於テ統一シ工兵大隊長ヲシテ指揮セシメタル爲メ各支隊ニ於テハ若干ノ不便ヲ感シタル點ナキニアラサリシモ材料ノ彼此融通宜シキヲ得タリ將來ニ於テモ十分ナル通信器材ヲ使用シ得サルカ如キ狀況ニ於テハ此方法ヲ可トスル場合多カルヘシ

五、秘密保持ノ爲地方郵便局電話交換手ハ内地人ヲ可トス

鮮人交換手申ニハ住々怪シムヘキ行動ニ出テタルヤヲ疑ハシムルモノアリ注意ヲ要ス

六、保線

電話線ノ切斷竊取等簇出シ保線ニ困難セリ

潜伏斥候ノ配置、住民ヲシテ區域ヲ定メテ責任監視宣傳ニ依ル威嚇等種々ノ手段

ヲ講シ之ヲ豫防スルコト必要ナリ

七、無線電信及鳩通信等ノ必要

地形ノ關係並保線ノ困難等ハ特ニ之カ必要利益ノ大ナルモノアルヲ思ハシメタリ

第五節 兵 站

一、兵站勤務ニ關スル書類及材料ノ準備

兵站設置ニ當リ之ヲ要スル勤務令、地圖、行李等ノ準備不十分ニシテ辛ウシテ各部隊ノモノヲ一時融通彌縫シタル有様ナリキ將來ノ準備切要ナリ

二、兵站勤務ニ關シ適確ナル任務ト業務ノ範圍ヲ指示スルノ必要斯ノ如キ變則ナル兵站ハ勤務令ニ據リ難キ點多々アルヲ以テ豫メ十分ナル研究ヲ遂ケ實施ニ當リ適確ナル指示ヲナスニアラサレハ業務上種々ノ齟齬支障ヲ生スルニ至ル

三、衛生並經理部員ノ缺乏

理由略ス

四、所要物資ト現地調辨

間島地方ハ物資豐富ナルヲ以テ多クハ現地調辦ニ依ルヲ有利トス
其追送ヲ要スヘキ品目大要左ノ如シ
味噌、醬油、甘味品、乾魚、肉、酒、煙草、日用品

五、運搬具

間島地方ハ支那馬車及牛車多ク輸送機關ニ不足ヲ感セサリキ而シテ之カ備役ニ
方リ臨時徴發的ニ使用スルトキハ安價ナルモ俄ニ多數ヲ得ル能ハス常時雇傭ス
ルモノハ全ク之ニ反シ無益ノ經費ヲ増加ス故ニ請負者ヲ定メ臨時所要ノ車輛ヲ
提供セシムルヲ有利トスルカ如シ當時一日ノ標準價格及積載量概ネ左ノ如シ

馬車 五圓乃至七圓 二百五十貫

牛車 三四乃至五圓 八十乃至百貫

六、支那官憲トノ圓滿ナル協調

威壓的行動ハ一時的ニ有利ナルコトアルモ後日ニ累ヲ及ホスコト多シ寧ロ温和
卒直ニ交渉スルヲ有利トス又支那官憲ノ威力ハ其人民ニ對シ大ナルモノアリト
雖命令ノ普及頗緩慢ナルヲ以テ噴ハスニ利ヲ以テス其宣傳ニヨリ一般民ノ意向
ヲ我カ要求ニ導クヲ捷徑トスル場合屢々ナルニ著意スルヲ要ス

第六節 教育

一、將校教育上左ノ考慮ヲ要ス

イ、匪賊ニ對スル特種戰術

ロ、兵站イ研究

ハ、國法及國際法

ニ、支那語並朝鮮語

二、兵卒教育並訓練上ニ左ノ注意ヲ要ス

イ、一兵卒ノ言行モ國外ニ於テハ影響特ニ大ナル所以ノ理解

ロ、支鮮人並白人風習ノ一般

ハ、支鮮人家屋ニ狹縮含營ヨリ生スル軍紀風紀ノ維持

ニ、不逞鮮人ニ關スル概念並之ニ對スル警戒心

ホ、歩哨ノ間查並射撃スヘキ場合ニ關スル注意事項

ヘ、彈藥濫用ノ豫防點檢、掠奪行為ニ對スル豫防訓戒特ニ單獨的ニ行動スル場合

ト、行軍力ノ養成、馬賊不逞鮮人等ハ一日二十里ノ山道ヲ步行シ得サレハ一人前ニ

アラスト云フ

第七節 兵器

間島地方寒季ニ於ケル兵器ニ及ホセル影響左ノ如シ

一、小銃ハ大氣竝宿舍内ノ乾燥ニヨリ上帶下帶ノ動搖スルモノ多ク亞麻仁油塗布ニヨリ豫防セリ

二、一般ニ鐵部ノ發錆少ナシ

三、溫土爐ハ革製兵器ノ硬化及木製品ノ反張收縮スル憂アリ

四、降雪少ナキニ反シ強風常ニ甚シク塵埃ハ小銃火炮ノ腔中ニ附着シ射撃ノタメ疵痕ヲ生スルノ虞多シ

五、攝氏零下二十度以下ニ降下スルトキハ現用常用鑛油凍結スルコトアリ之カ代用トシテ「アイスマレン」油又ハ「ハリス」油等ヲ使用スルヲ有利トスルコトアリ

六、火炮特種砲等降雪中ニ射撃シ雪片藥筒ニ附着爲ニ裝填ヲ困難ナラシムルコトアリ藥室藥筒共ニ雪片及水分ヲ附着セシメサルコトニ特ニ注意ヲ要ス

第八節 補給及給養

第六章 將來ニ對スル所見並參考事項

一九七

一、現地物資ノ利用ニ關シ平時ヨリ詳細ナル調査ヲナシ置クヲ要ス

間島地方物資ノ狀況空漠トシテ實際ト相去ル甚ク遠ク從テ補給計畫ノ立案ニ支障ヲ生シタルノミナラス追送品ノ選定ヲ誤ラシメタルモノアリ

二、羅南陸軍倉庫ヲシテ補給廠ノ如ク現地調辦品以外追送品ノ全部ヲ管掌セシムルヲ可トス而シテ補給ノ爲緊要ナルモノハ師團ノ要求ニ應シ直接ニ補充スル如キ權限ヲ與フルコト必要ナリ

三、補給計畫ニ於テハ其ノ重點ヲ被服及陣中事務用消耗品ニ置クヲ要ス
今回ノ事件ニ於テ補給上最困難セルハ被服品及陣中事務用消耗品等トス之シ糧秣ノ如キハ大部分現地調辦ニ依リ其ノ行動ニ支障ナキモ之等ハ皆追送ヲ要シタレハナリ

四、山動部隊ノ裝備ヲ應急準備ニ準セシメタリシ爲部隊ノ被服糧秣陣中事務用品等皆有合セ品ヲ携行セリ之カ爲追送補給上大ナル困難ヲ生シタリ

五、山動時ノ色彩不鮮明ニ基因シ行動間諸規定ノ改廢並頻發等ニ依リ業務錯綜ヲ極メタリ

山動初期ニ於テハ師團先ツ演習行軍ノ例ニ準據シ諸給與諸定額ヲ定メ自後漸次

戰時給與ニ近似シ來リ從テ平戰兩時ノ諸規定ニ依リ經理ヲ律セサルヘカラサルニ至リ又行動地域鮮内外ニ跨リ其間給與ニ差異ヲ生シ加之軍ト師團トノ位置ノ關係及見解ノ相違ニ基キ軍規定ニ依リ屢々師團ノ規定ヲ修正セサルヘカラサルモノアリタリ

六、被服補修班ノ編成ハ將來ノ爲必要ナリ

今回ノ動ニ際シ是等ノ編成ナク從テ縫靴工長ノ如キハ多ク留守隊ニ編入セラレタリ然ルニ出勤部隊被服ノ損傷甚タシク補修ハ僅ニ工卒及個人ノ修理ニ俟タサルヘカラサリシノミナラス分散配置ノ關係上是等工卒ノ使用スラ充分ナル能ハサリキ故ニ將來ニ於テハ縫靴工長ヲ班長トシ若干ノ工卒ヨリ成ル補修班ヲ編成シ各地ヲ巡回セシムルカ如キ方法ヲ講スルヲ可トス

七、大小行李用馬匹ハ今回實施セル如ク購買徵用ヲ有利トス

購買セル馬匹一頭平均七八十圓ニ過キ又用済後之ヲ賣却セハ其ノ價格二十四圓均ニシテ差引價格五六十圓ニ過キス然ルニ之ヲ徵備セントモ其役貸少クモ一日二回ヲ要シ一ヶ月ノ備役貸ヲ以テ裕ニ購買價格ニ達スヘキヲ以テ出勤期稍長期ニ亘ル場合ハ購買ヲ有利トス

八、行動地域ノ狀況ニ應シ携帶糧秣ノ増加携行ニ關シ研究ヲ要ス

山嶽重疊セル密林地帯等ニアリテハ後方ノ連絡困難ニシテ而モ現地調辨全ク不可能ナリ之カ爲糧秣ノ如キ携行定量ヲ増加スルヲ要スルモ現制携行糧秣ハ其ノ容積上到底多數ヲ携行スルヲ得ス故ニ將來携帶口糧トシテノ餅類携帶馬糧トシテノ壓搾麥等容積小ナルモノノ研究ヲ要ス

九、塩調理及粟飯等ニ就テ平時ノ研究ヲ要ス

交通不便ナル地方ニテハ全ク現地ノ物資ノミニヨリ給養ノ必要屢々アルヲ以テナリ

一〇、粟飯モ炊キ方ニ依リ大ニ味フヘキモノアリ

支那及朝鮮ニ於テ現地調辨ノ粟ニハ泥砂混石多キモ洗淨ノ際之ヲ除去シ而シテ地方炊具朝鮮式平釜ヲ利用シ炊飯ノ場合一度煮セル鶉豆ヲ一面ニ下敷トナシ粟ヲ煮ハ頗ル美味ナル飯ヲ得ヘク之レニ高粱又ハ餅粟半量ヲ加ヘ調理セハ麥飯ニ優ルモノヲ得

一一、日用品支給ノ要アリ

日用品ノ欠乏ニハ各部隊トモ着シク困難ヲ感シタリ琿春龍井村ノ如キ市街地ニ

於テハ求メ得サルニアラサルモ頗ル高價ニ倍乃至三倍其ノ他ノ地方ニテ全ク之ヲ購求スル能ハス加之酒保品ノ追送ハ意ノ如クナラサリシヲ以テ小部隊ニ及ホス能ハサリキ故ニ塵紙其ノ他日用必需品ノ準備特ニ必要ナリ

第九節 人衛生、馬衛生

一、人衛生

イ、衛生材料特ニ消耗品(主トシテ綑帶杜料)ヲ醫坂内容品以外ニ成ルヘク多ク携行セシムルヲ要ス

行動間ノ補給困難ナルノミナラス大隊モ數個ニ分割使用セララル場合多キヲ以テ此顧慮ヲ要スルニ依ル

ロ、戰用衛生材料ニ相當ノ豫備品ヲ備ヘ置クヲ要ス

兵站諸部隊ヘ充當スヘキ戰用品ヲ有セサリシ爲メ隊常用品若クハ練習用具ヲ使用セル爲メ勤務上不便尠カクサリシノミナラス引揚後ノ整理亦大ナル混雜ヲ惹起セリ

ハ、野戰防疫班編成ノ必要

第六章 將來ニ對スル所見並參考事項

第六章 將來ニ對スル所見並ニ豫想事項

行動地域ノ關係上傳染病多發ノ公算多キヲ以テナリ

ニ「クレオソート」ヲ支給ノ必要

理由「ハ」ニ同シ

二、馬(牛)衛生

イ、炭疽豫防接種ノ必要

間島方面時々之カ發生ノ危險アルニ依ル

ロ、轆牛檢疫ノ必要

大行李編成ノ牛車入鮮ニ際シ總督府ニ於ケル國境防疫ニ關スル腐心ニ鑑ミ此顧慮ヲ要ス

ハ、戰傷馬ノ治療ニ方リ止血法ヲ施ス爲メ縫創鉗及絹絲ヲ獸醫携帶ニ準備シ置クヲ要ス

ニ、間島地方ニ於テ蹄油ハ大豆油ヲ用フルヲ有利トス

第十節 宣傳

一、一般ノ要領

宣傳ハ一種ノ術策ニシテ其要領概テ戰術ノ原則ニ照シ應用宜シキヲ得レハ大ナル過誤ナカルヘシ即チ機先ヲ制シ攻勢ニ出テ動作ノ自由ヲ保持スルヲ以テ第一要義トナス又防禦ニ立チテ攻勢ニ出テ或ハ持久追撃退却收容側防等ノ場合ヲ想像セラレサルニカラス

二、宣傳機關ノ組織

概テ對白人對支那人及對鮮人三様ノ分課ヲ要ス

白人ニ對スルモノハ特ニ世界ノ大勢及英國ノ言語宗教習慣等ニ通シ且思慮周密ナルヲ要シ支那人ニ對スルモノハ今回ノ如ク日支協同討伐ノ名義ヲ以テスル場合ニ於テハ連絡員ヲシテ之ヲ兼ネシムルヲ得ヘシ又鮮人ニ對スルモノハ歸順者取扱委員ノ兼務トスルモ敢テ支障ナカルヘシト雖相互ハ勿論軍隊領事館並總督府側ト密接ニ連絡シ矛盾撞着ナク而モ機敏ニ業務ヲ遂行シ得サルヘカラス

三、注意諸件

イ、專ラ排日ヲ主トスル宣傳ニ對シテハ直接間接ニ支那人殊ニ其官吏ヲシテ事件ニ干與セシメ置クトキハ之ヲ豫防シ得ルコト多シ此場合ニ於テハ後證トナルヘキモノヲ徴シ置クコト必要ナリ

第六章 將來ニ對スル所見並參考事項

二〇四

リ、直接戰闘ニ依ルモノ以外ニ於テ白人支、鮮人ヲ問ハス其生命財産等ニ損害ヲ與ヘタルモノハ大小トナク其人名場所數量、價格並其事由證據物件等ヲ調査シ機ヲ失セズ報告スルコト殊ニ涉外事項ニ關シテハ其事ノ如何ヲ問ハス直ニ特報シ後更ニ詳報スルヲ要ス蓋シ之ニ依リ臨機適應ノ手段ヲ講シ以テ外交問題ノ紛糾ヲ避ケンカ爲ナリ出先軍隊ト人民トノ間ニ於テ示諒成立シタリトテ之カ報告ヲ忽ニスヘカラス

ハ白人ニ對シテハ表面上ニテモ其人格ヲ尊重シ且其立場ニ同情若クハ脅威ヲ感セシムル方法ヲ選フヲ可トスルコトアリ彼ノ宣教師等ニシテ宗教ノ範圍ヲ超越シテ不埒ノ行動ヲ敢テスルモノノ如キハ適確ニシテ動カスヘカラサル物的證據ヲ捕捉シ彼ヲシテ窮地ニ陥ラシムル資料ヲ蒐集スルコト肝要ナリ

ニ支、鮮人ニ對シテハ威力ト利益トニヨリ之ヲ導クヲ有利トスル場合多シ即チ兵器ノ見學、施療、救恤、各自ノ立場乃至体面ノ脅威若クハ擁護、買收等ノ手段亦一案タルヲ失ハス

ホ、何レノ場合ニ於テモ同一人種、同一民族就中共有力者ヲ以テスル宣傳ハ効果他ニ比シ大ナルヲ一般トス但シ其買收セラレアルヲ覺知サルルトキハ却テ反對

ノ結果ヲ生スヘキニ注意ヲ要ス

ヘ、一般ニ文字ニ依ル宣傳ハ廣キニ亘リ得ルモ感覺薄ク口ニ依ルモノハ全ク之ニ反ス民度低キモノニ於テ特ニ然リ彼此適當ニ按配スルヲ要ス

ト、通譯特ニ鮮人通譯ヲ使用スル場合ニ於テハ使用者ノ威ヲ藉リ非違ヲ敢テシ或ハ私恩ヲ沾ラントスル傾向ヲ有スルモノ多キニ注意セサルヘカラス

チ、我ニ於テ多少不利ナル事實存在シ之ヲ攻撃セラルルカ如キ場合ニ於テ大局ニ大ナル影響ナキ限り何時迄モ我カ完全ヲ主張スルハ却テ不利ヲ招クコトアリ寧ロ適時反對宣傳ノ一部ヲ承認シ同時ニ絶對事項ヲ最モ強ク支持スルヲ有利トスル場合尠シトセス

リ、從軍記者ノ指導利用ニ着意スルヲ要ス注意スヘキ諸件概ネ左ノ如シ

1、最初ニ克ク遵守スヘキ諸件許可スヘキ行動範圍等ニ就キ十分理解セシムルコト

2、過度ノ秘密主義ニ偏セス材料ノ供給ヲ豊富且迅速ナラシムルコト

若シ迅速ナラサルトキハ彼等ノ打電ニ先チ京城、東京等ノ新聞ニ掲載セラレ彼等ノ立場ヲ失フニ至ルヘキコトニ注意セサルヘカラス又其通信ヲ差止メ

第六條 降参ニ動スル所見取参事項

三〇九

- 多ルモノニ就テハ之カ理由ヲ懸篇ニ載明スルヲ雅量ナルヲ要ス
 3. 記者中軍事ノ素養ナルモノ尠キ現況ニアルヲ以テ懇切ニ指導シ一般ノ狀勢ニ關シ正確ナル判斷ヲカサシムルヲ注意ヲ要ス
 4. 新聞記者掛將校及通信檢閱官ノ人選ハ特ニ注意ヲ要ス
 5. 其待遇ハ概ネ將校ニ準シ厚遇シ好感ヲ以テ其業務ニ從事セシムルヲ有利トス
- 不特ニ最初ニ於ケル印象ハ容易ニ脱却セサルモノナルモトニ留意セサルヘカラス

第十一節 歸 順

一 規定ノ作爲竝之カ取扱實施ニ關シ總督府及領事宜憲ト極メテ密接ナル連繫ヲ保チ毫モ間隙カカラシムルヲ要ス

軍政ヲ施行セサル地域ニ於ケル此種ノ業務ハ一種ノ變態ナルヲ以テ叙上ノ注意特ニ必要カリ

顯著ナル一例

歸順釋放ノ一鮮人當時迄ノ犯罪ニヨリ檢舉セラレ遂ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタルモ

ノアリ彼ハ歸順證ヲ示シ釋放乃至減刑ヲ申出タルモ如何トモスヘカラサル狀
態ニ至リ爲ニ軍部ノ威信ニ關スル問題ヲ惹起セリ之カ主因ハ領事官憲トノ連絡
不十分ナリシコト並警務局ト法務局トノ間ニ於ケル諒解ノ不備ニアリシモ將來
十分注意セサルヘカラス

二、業務開始ノ時期

主トシテ時ノ情況ニ依リ變化スヘキモ概ネ其傾向顯著ナルニ至リ開始セハ可ナ
リト認ム

三、閉鎖時期

軍隊ノ行動ニ伴フヲ可トス一二ヶ月間之ヲ殘置スルヲ有利トスル意見アルモ軍
隊撤退後尙軍人ヲ以テ此種ノ業務ヲ繼續スルハ種々ノ弊害アルヲ以テ今回ノ如
ク領事館ニ引繼クヲ妥當トス

四、組織並隷屬關係

概ホ第十九師團規程附錄第 () ノ通ニテ大ナル支障ナキカ如シ

五、歸順者ノ利用

諜報歸順者ノ誘致勸告宣傳陰匿兵器文書等ノ蒐集討伐部隊ノ嚮導等ヲ利用シ大

ナル効果アリ

二〇八

六、雜件

イ、首魁ト目スヘキモノハ容易ニ歸順セサルモ一旦歸順セハ比較的永續性ヲ有ス
 ルカ如シ雜輩ハ之ニ反ス
 ロ業開始ニ際シテハ之カ監視並時ト所トニヨリテ宿舍ノ配當、給養、取締、保護等ニ
 關シ相當ノ考慮ヲ要ス

第十二節 憲兵及警察官

一、用途

イ、討伐行動間 家宅搜索、檢舉、通譯、嚮導等
 ロ、歸順業務 身上調査、其他ノ事務、歸順者ノ監視取締等
 ハ、宣傳業務 支那人ニ對スル宣傳ノ補助
 ニ、其他 情報蒐集、治安ノ維持
 二、配屬人員階級並比率
 今回ノ事件ニ於ケル第十九師團實驗上ノ意見左ノ如シ

イ、憲兵ト警察官トノ比 三對二ヲ可トス

ロ、各支隊分屬要員

憲兵將校一下士五、憲兵二〇(内地人對鮮人ノ比一對二)

警察官警部二、巡查一五(内地人對鮮人ノ比二對二)

三、素質

イ、憲兵概シテ軍事上ノ要求ニ合致ス

ロ、總督府警察官在郷軍人多ク概シテ困苦缺乏ニ耐フルモ優者劣者ノ差稍大ナリ
ハ、外務省警察官土地ノ情況ニ通スルノ利アルモ困難ナル行動ニ追從シ得サルモノ多シ

一般ニ鮮人ハ支那人ニ對シテ常ニ遠慮勝ニシテ十分其能力ヲ發揮シ得サル傾向ヲ有ス

四、使用上ノ注意

イ、憲兵ト警察官トノ協調ヲ十分ナラシメサルヘカラス

使用方面任務ノ分課等ヲ適當ニシ無益ノ競争ニ陥ラシメラサル如ク討伐隊指揮官ニ於テ十分ノ考慮ヲナスコト必要ナリ

第六章 將來ニ對スル所見並參考事項

一一〇

ロ、憲兵補、鮮人巡查ノ使用ニ就テハ鮮人密偵及通譯ノ使用ニ就テ述ヘタルト同様ノ注意ヲ要ス之カ爲メ内地人憲兵若クハ巡查ノ監視下ニ服務セシムルヲ可トス

ハ、駐留稍久シキニ亘ルトキハ素行上注意監督ヲ要スルモノヲ生シ而モ之カ發生ハ悉ク軍部ノ威信ニ關スル虞ナシトセス故ニカメテ單獨的行動ハ之ヲ避ケシムルノ著意ヲ必要トス

第十三節 補 遺

一、事件ノ勃發ヲ豫想シ得ル場合ニ於テハ之カ準備ヲ完成シ置クヲ要ス即チ左ノ如シ

イ、軍ニ於テ出動計畫ヲ立テ關係各部隊官衙等ニ通牒シ更ニ細部ノ計畫ヲ作爲セシム

ロ、事件豫想地ノ事情ヲ精細ニ調査研究編纂セシメ情況之ヲ許サハ所要ノ調査員ヲ派シ實地踏査ヲナサシム

二、領事ト國境守備隊並警察及前者ト總督府軍司令部トノ連絡ハ一層緊密ナルヲ要

ス

環春事件ニ際シ救援請求ノ爲同地領事分館ヨリ派遣シタル警察官ハ夜半訓戒對岸ニ來リ拳銃數發ヲ發射シ合圖シタルモ訓戒守備隊ニ通シ得サリキ此等ノ合圖ハ豫メ最確實ナル方法ヲ以テ協定シ置クノ要アリ

國境ニ近ク駐在スル領事ト總督府並軍司令部ノ關係者トハ互ニ緊密ナル連絡ヲ保持シ豫メ各種ノ場合ニ應スル鮮人問題ノ對策ニ關シ十分ナル研究協議ヲナシ置クノ要アリ

(終)

附錄第一

間島地方不逞鮮人剿討計畫

大正九年八月調表

第一 總 則

一、本計畫ハ間島地方ニ在ル不逞鮮人剿討ノ目的ヲ以テ出兵ヲ要スル場合ノタメ豫メ準備スヘキ事項ヲ指示スルモノトス

大正八年九月十二日朝參密第九〇六號對不逞鮮人作戰ニ關スル訓令第二項ニ依ル出兵ハ本剿討ト全ク關係ナキモノトス

二、本剿討ハ其期間ヲ約二箇月トシ其第一期(一ヶ月)ハ專ラ各行動地域内ニ在ル不逞鮮人團ノ剿討ヲ行ヒ第二期(殘餘)ニ於テハ第一期ノ結果ニ依リ爾他ノ方面ニ對シ實施スル如ク概定シアリ故ニ所要軍需品ハ差當リ第一期分ヲ計畫シ爾後ノ所要ハ剿討ノ進捗ニ伴ヒ期ニ先チ準備スル如クスヘシ

三、本計畫ニ關係ヲ有スル師團長、軍各部長、倉庫長ハ九月二十日迄ニ更ニ細部ノ計畫ヲナシ報告スヘシ

第二 出 動

四、剿討部隊ノ編組、出動區分、出動方面行動等ニ就テハ附表第一、附圖第一ニ據ルヘシ

附錄第二 間島地方不逞鮮人剿討計畫

二二三

附録第二 間島地方不逞野人討討計畫

二一四

但シ此動區分ニ掲クル全部隊ヲ出動セシムルカ又ハ某區分ニ屬スル部隊ノミニ限定スルカハ出動ニ際シ命令ス

五、第十九師團長ハ前項諸部隊ノ編成ヲ擔任スヘシ

六、出動部隊ハ所屬衛生部員ノ外衛生班ヲ編成スヘシ其編制竝人馬材料差出區分ハ

附表第二、第三ニ據ル

七、出動各部隊ニ配屬スル憲兵ノ派遣區分ハ附表第四ノ如シ

警察官ノ配屬ニ就テハ追テ示達ス

八、部隊ノ派遣又ハ物件送致ノタメニ要スル輸送ハ派遣又ハ發送部隊ニ於テ準備スヘシ

九、各出動部隊ノ圖們江渡河ハ豫メ計畫シ置クヘシ

第三 兵器

十、出動部隊ハ概ネ左ノ標準ニ依リ彈藥ヲ携行スルモノトス

小銃一銃ニ付 二四〇發

騎工兵ハ戰時携帶彈藥數ノ約倍數

機關銃一銃ニ付 六、四八〇發

砲一門ニ付

一三六發

拳銃一挺ニ付

三〇發

十一、手榴彈ハ歩兵一中隊ニ付約二百發ヲ標準トシ携行スルモノトシ出動ニ際シ之ヲ交付ス

十二、爾後ノ補充ニ關シテハ別ニ之ヲ指示ス

第四 通信

十三、出動地域ニ於ケル基本通信回線ハ附圖第二ノ如シ其建設ハ第十九師團ニ於テ出動開始ト共ニ著手スルモノトス

十四、建設ニ要スル器材中軍ヨリ交付スヘキ品目員數ハ附表第五第六ノ如シ

十五、建設ニ要スル材料中第十九師團ニ於テ臨機調辦スヘキ品種數量附表第七ノ如シ

第五 給

養（本項ハ最初ノ計畫ヲ改定セルモノヲ掲ク）

十六、出動部隊ハ出發ニ當リ左ノ如ク糧秣ヲ携行スルモノトス

携帶口糧 甲二日分乙一日分

携帶馬糧 陣中要務令ノ規定ニ據ル

附錄第一 間島地方不遇難人慰問計畫

携行糧秣 琿春支隊(甲)百草溝支隊(乙)四日分龍井村、局子街支隊(丙)二日分

前項ノ携行糧秣ハ出動後ノ狀況ニヨリ陣中要務令ノ規定量迄減少スルコトヲ得ルモノトス

十七糧秣ノ集積ハ鮮内ニ在リテハ陸軍倉庫ノ擔任トシ其集積場所竝ニ數量ノ標準左ノ如シ

慶源 琿春支隊(甲)ニ對スル三十日分第十四師團ノ部隊ニ七日分

穩城 百草溝支隊(乙)ニ對スル十日分第十四師團ノ部隊ニ對シ三日分三岔口海林

支隊引當トシテ歩兵二大隊騎兵三中隊ニ對スル五日分

會寧 百草溝(乙)龍井村、局子街(丙)支隊ニ對スル三十日分第十四師團ノ部隊ニ對ス

ル二十日分

前項ノ糧秣ハ部隊出動初期ニ於ケル準備量(師團野戰倉庫現在ノ集積量ヲ通算ス)トス

十八倉庫ノ充實ハ羅南支庫貯藏ノ戰用豫備糧秣内地追送品及陸軍倉庫調辦品ニ依リ要スレハ其ノ追送ヲ陸軍省ニ請求ス

十九鮮外ニ於ケル糧秣ノ集積竝ニ給養ハ第十九師團ニ於テ擔任シ狀況ニヨリ軍倉

庫ヲ推進シタル場合該倉庫ハ軍ノ直轄トス

第十四師團ヨリ派遣部隊環春到著後ニ於ケル給養ハ軍倉庫推進前ニアリテハ第十九師團ニ於テ擔任シ要スレハ彼是協定ノ上軍ニ於テ擔任スルコトアルヘシ

二十出動部隊ノ給養ハ努メテ現地ニ於ケル物資ヲ利用スルモノトス

二十一、鮮外行動間ノ給養ハ陸軍戰時給與規則細則第一第二表ヲ基準トシ其増給、加給ハ之ヲ第十九師團長ニ委任ス

二十二、部隊ト行動ヲ共ニスル憲兵及警察官ノ給養ハ所屬部隊ニ於テ行フモノトス

第六 徴 備

二十三、所要ノ人畜並車輛等ハ之ヲ徴備スルモノトス

但シ直接行動ヲ共ニスルヲ要スル輓駄馬又ハ輓駄牛ハ之ヲ購買スルコトヲ得此場合ニ於テハ剿討終了後師團ニ於テ之カ整理ヲナスモノトス

間島方面不逞鮮人團討剿計畫表

考 備	團 師		十 第		出 動 區 分	出 動 方 面	剿 討 部 隊 ノ 編 組	派 遣 部 隊	行 動 地 域		
	丁	丙	乙	甲							
一、本表ハ現狀況ニ於テ適宜變更スルコトヲ得	廣 浦 頭道溝	龍井村—大屈溝 —局子街	西大浦—蛤蟆塘 —百草溝	琿春—草帽頂子	步 兵 一 大 隊 半	同 機 關 一 大 隊	騎 兵 一 小 隊	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	憲 兵 若 干	警 察 官 若 干
	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 中 隊 (二小隊編成)	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	同 機 關 一 大 隊	騎 兵 一 小 隊	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	憲 兵 若 干	警 察 官 若 干
	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 中 隊 (二小隊編成)	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	同 機 關 一 大 隊	騎 兵 一 小 隊	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	憲 兵 若 干	警 察 官 若 干
	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 中 隊 (二小隊編成)	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	同 機 關 一 大 隊	騎 兵 一 小 隊	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	憲 兵 若 干	警 察 官 若 干
	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 中 隊 (二小隊編成)	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	步 兵 一 大 隊	同 機 關 一 大 隊	騎 兵 一 小 隊	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	憲 兵 若 干	警 察 官 若 干
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)
	工 兵 一 中 隊 (二小隊欠)	野 砲 兵 一 小 隊									

附錄附表第二

衛生班編制並派遣區分表				
階級	區分	一班ノ編制		派遣區分 (四班ニ對スル)
		人員	乘馬	
軍醫		一	一	一九師ヨリ一、二等軍醫三、乘馬四、羅病ヨリ二等軍醫一
看護長		一		龍病、及羅病ヨリ各二
看護卒		四		龍病、及羅病ヨリ各八(上等看護卒各二ヲ含ム)
二等卒 (馬卒一 ヲ含ム)		五		一九師ヨリ
人夫		若干		一九師ニテ備入
考 備 一、患者ノ收容治療勤務等ニ關シテハ患者療養班規則ニ準據スルモノトス 二、附表第一出動區分甲、乙、丙、丁ニ各一班ヲ配屬スルモノトス 三、本表ノ人員ハ第十九師團ノ人員ヲ以テ若干増員スルモ妨ケナシ				

衛生班所要材料差出區分表					(二班)
品目	員數	差出區分			
藥劑行李	二個	陸軍倉庫ヨリ	第十九師團ヨリ	公用行李	一個
擔架	二個			厚毛布	一〇枚
				一、本表ノ外患者輸送車、天幕等若干ヲ携行スルコトヲ得 二、師團長ハ藥劑行李、定規内容品以外ニ必要ト認ムル衛生材料ヲ携行セシムルコトヲ得	

剿討部隊配屬憲兵人員表

出動區分	出動方面	集合地	將校	准士官	下士	上等兵	憲兵補	計
甲	瑯春—草帽頂子	慶源		一	一	五	三	一〇
乙	西大浦—蛤蟆塘 —百草溝	穩城	一		二	六	四	一三
丙	龍井村—大屈溝 —局子街	會寧	一		二	六	四	一三
丁	廣浦—頭道溝	西江		一	一	五	三	一〇
計			二	二	六	二二	一四	四六

通信器材品目員數表

考 備	料			材			具													器										分區																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	布	釣	線	二十番銅線	十四番堅引銅線	同接續器	軍用被覆線	軍用電柱	線	地	小	通	碍子螺錐	絡	角	絡	土	穴	線	枝	鉗	鶴	十	回	軍用梯子	鹿	鐵	品目	員數	永	保	管	區	分	品目	員數	永	保	管	區	分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
一、木表ハ永興海要塞戰備川並羅南兵器支廠保管作戦用器材中ヨリ交付スヘキモノヲ示ス	鐵 枚	釘 箇	鈎 箇	米	青米	箇	青米	木	粗	箇	箇	本	箇	個	個	本	個	個	個	本	個	個	個	個	個	個	個	個	二	與	羅	南	品目	員數	永	保	管	區	分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
							八三三		三		一三			四六二	二六	二	一	一	二	二			十字鉗 ヲ充ツ			二	四	二二	線	卷車	一〇〇	與	羅	南	品目	員數	永	保	管	區	分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	一〇	二〇	九六	四貫五百匁	九	九六	四八			五	五	一五	一五	一寸手鑿	鉋	小	小	大	燒	火	竹	線	六根	呼子	角形張線器	調線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線	線</

一、本表ハ永興海軍要塞戰備用並羅南兵器支廠保管作戦用器材中ヨリ交付スヘキモノヲ示ス

1802

附錄附表第六

通信器材品目員數表

考 備	材 料	器 具				區 分
一、本表ハ軍ヨリ中央部ニ請求ノ上交付スルモノトス	掛	線	鐵	軍	鹿	品
	碍	卷	地	用	足	
	子	架	盤	梯	槌	目
	筒	組	組	筒	筒	員
	四〇〇	二	二	四	二	數
			線	碍	張	品
			線	子	線	
			臺	螺	器	目
			組	筒	組	員
			九	九	四二	數

通信器材品目員數表

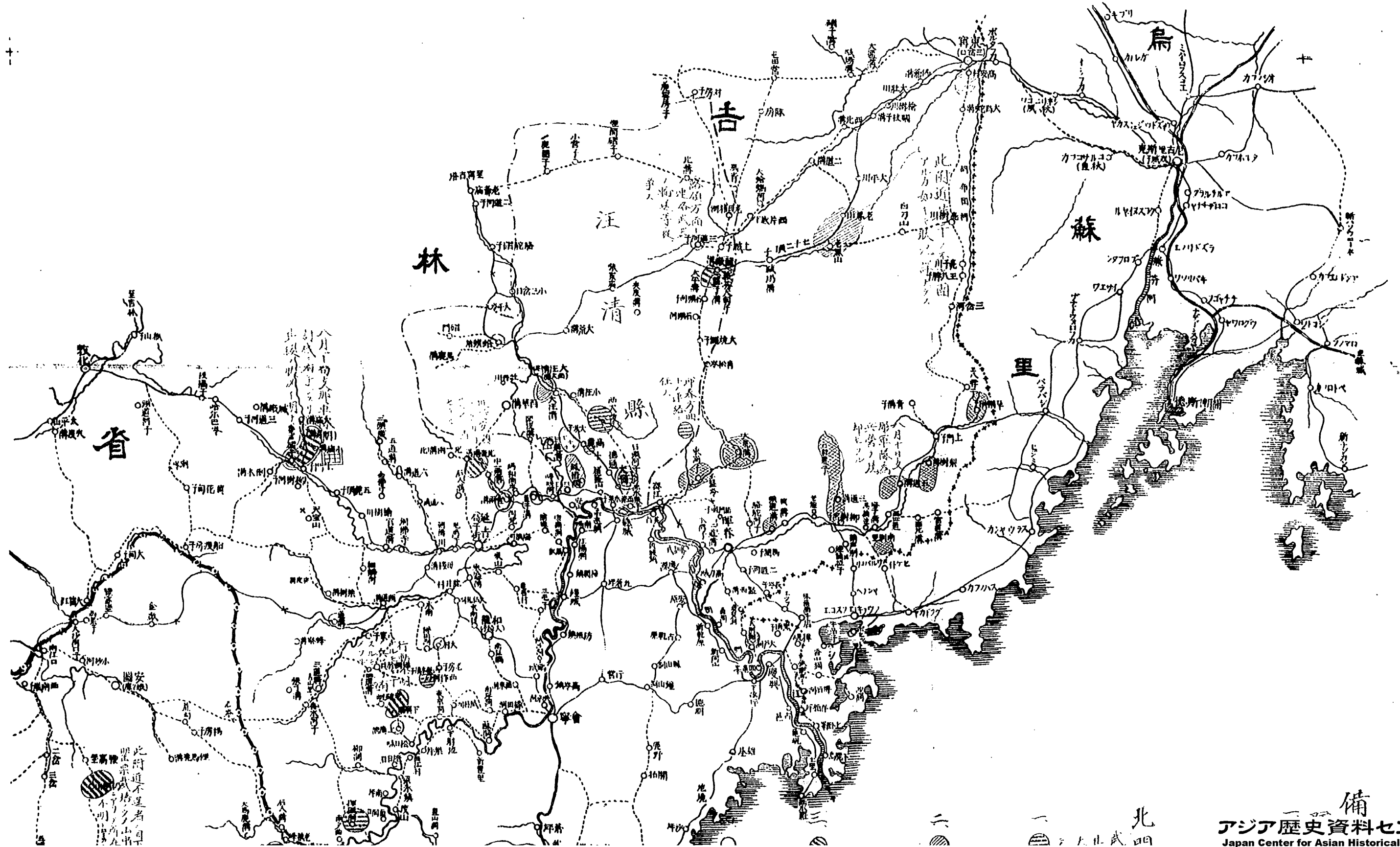
考 備	材							器							區分	
	綿	麻	支	雜用十一番鐵線	雜用八番鐵線	十四番鐵線	十二番鋼線	竹	通	絡	枝	角	圓	鉋	小	名
一、本表ハ第十九師團ニ於テ調辦スヘキモノヲ示ス 二、右品目中京城ニ於テ調辦ヲ要スルモノハ九月二十日迄ニ軍司令部ニ請求スルモノトス	帶	糸	杭	米	米	米	米	子	網	棒	剪	器	桿	筒	筒	稱
	卷	貫	米	米	米	米	米	筒	本	本	本	組	筒	筒	筒	員
	二	二	一〇〇	(七十八貫匁) 五六〇〇	(十九貫匁) 五五〇	(十六貫匁) 五百匁	(二十八貫七) 二五〇〇	六	七二	二	一三	八	一二	一八	六	數
	引込及接續用ゴム線	線	測	根	應	赤	コ		地	携	單	昇	十	角	地	名
	米	本	本	本	本	本	卷		棒	板	旗	器	尺	燈	固	稱
	二八〇	八	九八〇	九八	四九〇	五六	二		一一	一	一	六二	一六	一四	六	員
																數

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	2 1
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

不逞鮮人團體概況圖

附圖第一



一 彈春方面

一
●
彈春韓民會

理春將士ノ法國付リ合併ノ小規模の目的ヲ帶ソルモノシテ、現時將軍府上連繫密接ナルモノアリ
醫學部立力炮台等其軍務部長官慶大ニノ羅正和ノ參謀長ニム

[illegible]

北問島方画

[illegible]

軍政署

軍此表
最急通過教、思想ノ令シ準備未完間セリモ、
除テテ前原ノ金庫銀ヲ引取官一ム、
兵力ノ六日小銃七百、西人砲兵共四、
大綱法多ク奉託隊將若千ヲ余ハ、
死傷極度寺亦九貫シ且露國過激派ニ容接トル建業ヲ有メ

此中其武官學校在才徒三百五十三名

六
●
都督

軍政官、大ニ武裝ヲ整備シテ六月下旬、尾谷河附近、我艦隊ニ對シ、陸軍砲兵、多ク其ヲ射シ、此砲兵、乃チ在風東ニ有明録、別名、ノ百領トス

別名、名所、ノ洪鈴、依ル

兵員、資勢、六百、小銃、六百、有シ、天際、本年、一、半、降、ニ、編、成、ス

兵員、銃、有、大、小、銃、スル、ハ、計、一、万、ス

兵力

獨
左
軍

田其能歌篇一石古史子有云
其能國一石領上入
其能約一百小兒一百斤鏡古十

國民會

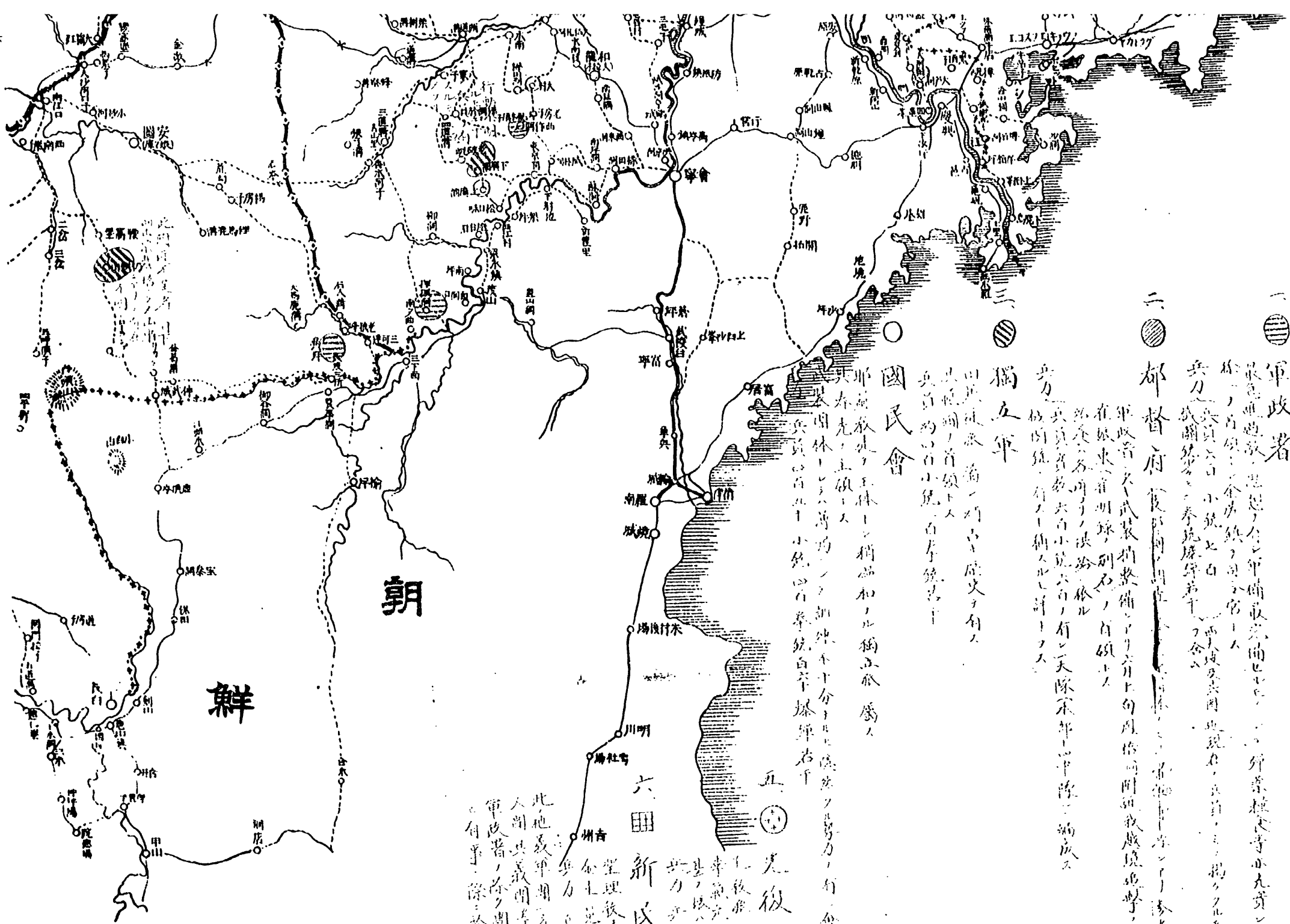
耶蘇教士王休一稱盛和一此獨立祇屬

五

牛後飛 扇ノ本割ノ機務。目的トテ
 幸氣定ノ自給一ノ金聖倫洪斗極等之力牛耳ヲトルモ
 其ノ機ハ
 其力亦貞約二百小銃百五十拳銃燐彈為干

六團新成團

聖理後社ノ王林ハルニ
金土ニ定メ副長ニ於テ盛徳ノ副團長トス
兵力ニ至リテハハルノ大ノ所ヲ知ル
此也義軍團一方ノ謂ニ付根ヲ定メテ首魁ナリ義民團老
人團共義團者數多ク小團林アルモ詳ナラズ
軍政者ノ徐ク團林ハ倭ニ連合シテ一團ヲランヌルノ願アル
何事ノ際ニ於テハ協同動作ニ過ヤリルモノハ判斷セラル



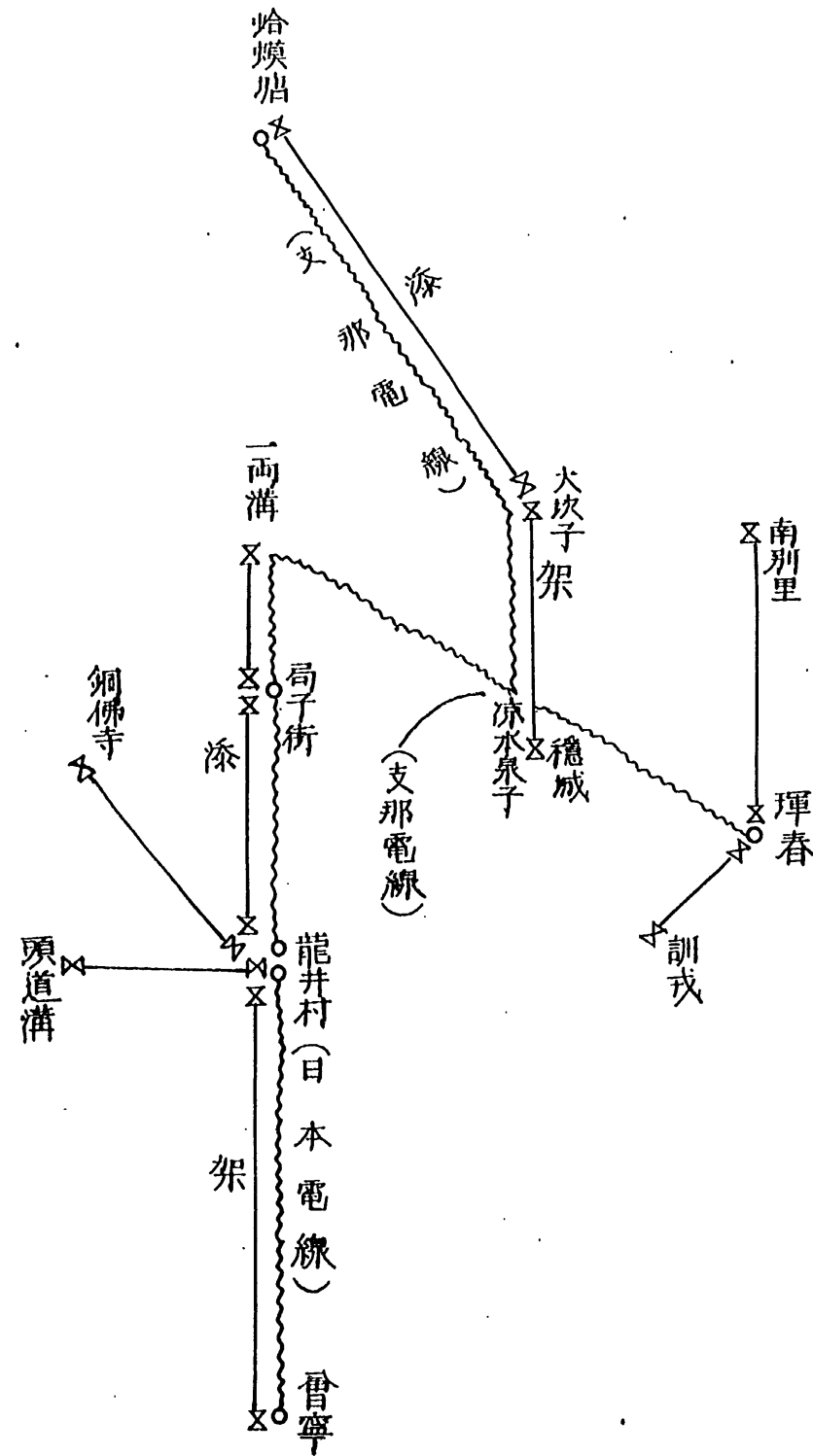
電話回線計畫圖

線路延長六十五里

附圖第二

備考

本回線以外ノ地區ニ於ケル通信ハ各部隊ノ携行スル電話機其他回光通信機等補助手段ニ依リ行フモノトス

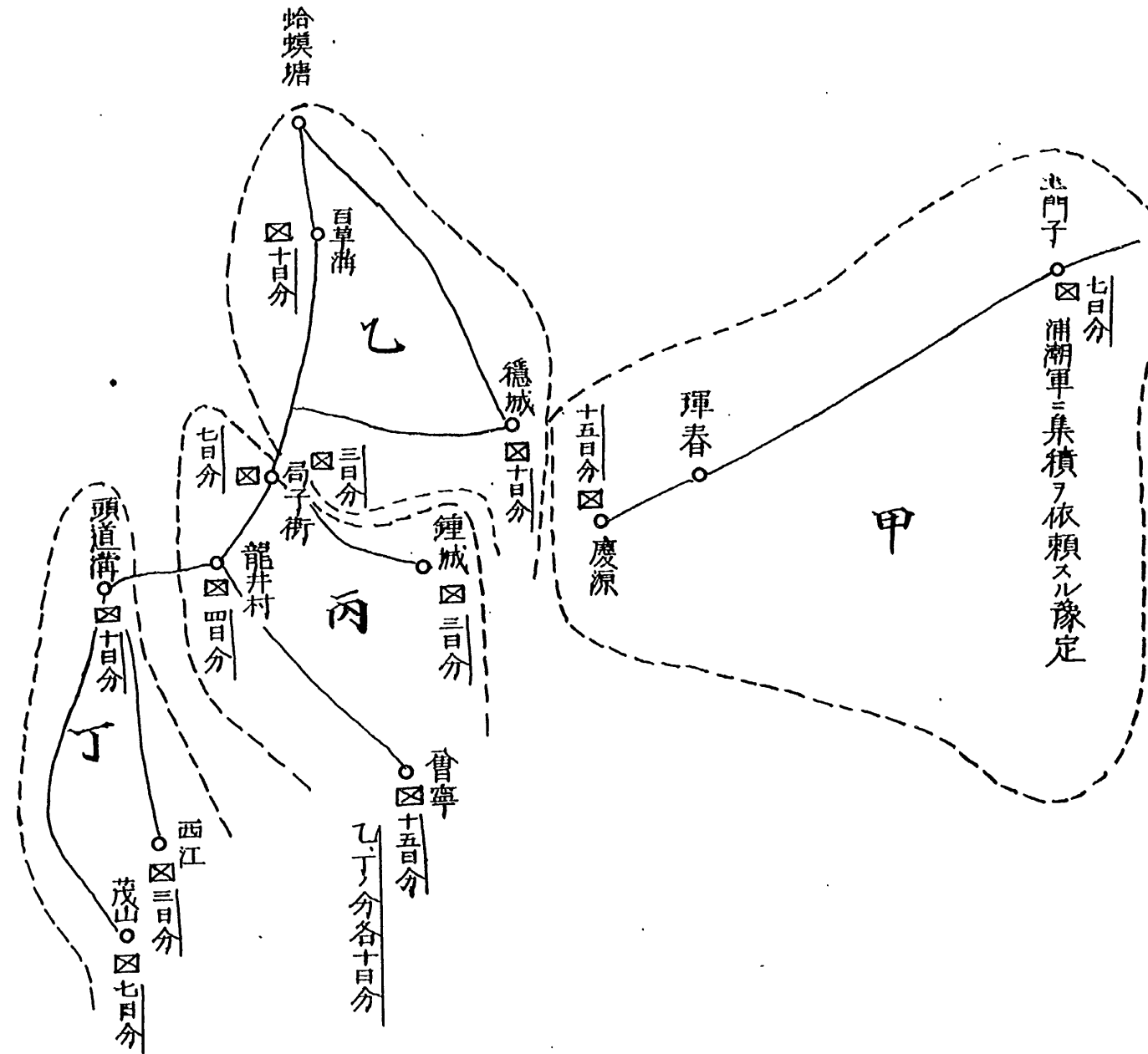


糧秣集積計畫要圖

9802

備考

本集積當初ニ於ケルモノヲ示ス爾後部隊ノ行動ニ依リ適宜移動セシムルコトヲ得



附錄第二其一

間島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

大正九年十月十一日陸軍省軍務課
大正九年十月十四日朝鮮軍司令部發刷

第一章 總 則

一、今回出動部隊ノ編制裝備ハ不日朝鮮司令官ノ隷下ニ入ルヘキ第十四師團ノ一旅團ニ屬スルモノヲ除クノ他ハ凡テ軍司令官ノ隷下ニアル平時ノ人馬材料ノミヲ使用スルヲ原則トシ唯必要已ムヲ得サルモノニ限り人馬ハ増加配屬セラレ兵器材料等ハ内地ヨリ追送シ又ハ軍及師團管理ノ戦用品ヲ使用セシムル方針ナリ

右ニ依リ人員ニ就テハ去ル八日陸密第二〇二號ヲ以テ軍司令官以下ニ増加配屬セラレタリ而シテ該陸密ニハ其ノ配屬部隊ヲ指定シアルモ之レ等人員ハ必スシモ當該部隊ニ於テノミ服務セシムルノ意ニアラス例ヘハ師團司令官ニ配屬セラレタル通譯要員ノ如キハ師團長ニ於テ適宜必要ナル部隊ニ分配使用スヘキモノナルコト勿論ナリ又航空要員通信要員ノ如キモ師團長ニ於テ軍隊區分ニ依リ一時ノ編組ヲ定メテ使用スヘキモノトス

二、作命第五七號ヲ以テ出動部隊ハ總テ軍司令官ノ指揮ニ屬セラレタルヲ以テ各種ノ事務モ軍司令官ニ於テ十分統一スルヲ要ス例ヘハ各部隊ノ上申意見具申等モ

附錄第二其一 間島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

附錄第二其一 關島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

二二〇

必ス軍司令部ヲ經由セルモノニアラサレハ本省ニ於テハ一切詮議セサル方針ナリ
三、今回ノ時機ニ干與セル者ニ對シテハ他日行賣ノ恩典ニ浴スルヤモ圖ラレサルニ
付其ノ調査ニ關シテハ今日ヨリ配慮スルノ必要アリ

四、出先キニ於テ事ニ當ル者作戰行動ニノミ熱中シ所要經費ニ顧慮セサルトキハ一
定ノ豫算ヲ以テ到底之レニ應スル能ハス遠ニハ拾集スヘカラサルニ到ルノ恐レ
アリ此ノ點ニ關シテハ當事者ニ於テ十分注意シ緊縮ニ緊縮ヲ加ヘラレンコトヲ
望ム

第二章 各 兵

第一、特種砲及山砲使用法教育者

一、特種砲使用教育ノ爲メ豫テ步兵學校ヨリ第十九師團ニ派遣セラレアル將校二名ハ
今回事變ノ爲メ派遣期間ヲ約二十日間延長セラレ十一月中旬迄ニ步兵學校ニ歸
還セシムルガ如ク定メラル

二、山砲ニ關スル教育ノ爲メ野砲兵射擊學校ヨリ將校一、下士二ヲ約一ヶ月間ノ豫定
ヲ以テ野砲兵第二十五聯隊ニ派遣セシメラル

第二、航 空

一、航空要員派遣ニ關スル方法ハ限錄第二ノ如ク勉メテ速ニ第十九師團ニ到着セシムル等ナルモ^(十六日頃)器材ノ輸送ハ之ニ伴フヲ得ス^(先ツ二機十九日頃)加之飛行場ノ設備ニ尙多少ノ時日ヲ要スヘキヲ以テ他部隊ノ行動ト同時ニ行動ヲ開始スルカ如キハ困難ナルヘシ

人員ハ器材ヨリ先キニ到達スヘキヲ以テ先ツ會率附近ニ到リ飛行場ノ偵察及設備ニ著手スヘキニ依リ特ニ此點ニ留意シ適當ノ援助ヲ與フルヲ要スルヤ切ナリ

二、派遣航空要員ノ携行品等ハ所屬部隊平時用ノモノヲ其儘携行セシムヘキヲ以テ戰場ニ臨ム爲ニハ尙不足品アリ必要ニ應シ勉メテ此等ノモノヲ交付セラレ度シ

三、航空要員ハ眞ニ飛行機ヲ飛ハシ得ル丈ケノ最少限人員ナルヲ以テ警戒其他ニ關シ他兵種ノ援助ヲ仰カサル可カラス

四、飛行ノ任務ハ敵情偵察、爆撃等ニアランモ鮮民威喝ノ目的ヲ以テ朝鮮内地方面ニ對シテモ飛行セシムルノ必要アルヘシ

第三、電信通信

一、通信設備ニ關シテハ附錄第六不逞鮮人掃蕩計畫ニ伴フ通信網圖ノ如ク豫定シ豫算ヲ積算セリ依テ大要此範圍ニ於テ設備セラルヘシ

附錄第二(其二) 間島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

附錄第二其一 朝鮮軍務委員會指示事項

二二三

- 二、目下電信兵各方面ニ出兵シアル關係上通信員ハ最少限ニ止メタリ若シ要スレハ朝鮮總督府ヨリ所要ノ通信員ヲ雇傭セラルルモ差支ナシ
- 三、建築ハ朝鮮總督ニ依托スルモノトス從テ今回ノ増派人員中ニハ建築員ナシ
- 四、電信要員タル尉官ニ乗馬ヲ附セサルモ業務上必要ナル場合ニハ第十九師團ヲシテ適宜措置セシメラレ度シ
- 五、無線電信機ニハ輓曳機關ナキヲ以テ適宜處置セラレ度シ
- 六、半永久通信設備ニ要スル器材ハ一時作戰用ノモノヲ使用シ差支ナキモ第一項ノ範圍ヲ脱セサルコト及其品目員數ヲ其都度速ニ報告セラルヘシ

第四、鳩通信

- 一、鳩通信要員ハ鳩ノ飼育ニ必要ナルモノノミニシテ鳩ノ使用ニ必要ナル全員ニアラス從テ鳩通信要員ヨリ要求アラハ最寄部隊ヨリ所要ノ人員ヲ差出ス様セラレ度シ
- 二、鳩竝之ニ關スル器材ハ一時軍用鳩研究委員會ヨリ分置セシモノヲ引當ツルモノト心得ラルヘシ

第五、憲兵

陸發第二〇二號ニ依リテ朝鮮憲兵隊ニ増加セラレタル人員ノ内取敢ス將校二、下士卒一、五名ヲ今回内地ヨリ増派セラレタリ殘餘ノ者ノ補充時機ハ目下確定スル能ハス而シテ今回派遣セラレタル人員中將校一、下士一、二、上等兵三五、八、十月十六日爾餘ハ二十一日宇品發ノ豫定ナリ

第三章

第一、兵 器

一、討伐ノ爲使用スル兵器ハ第十九、第二十師團長管理兵器ヨリ適宜ニ使用スルモノトス而シテ第十九師團ヘハ霰ニ警備用トシテ狙撃砲、輕迫撃砲各四門、彈藥共ヲ支給セラレタル他今回更ニ同師團ヘ狙撃砲八門、山砲八門、彈藥、器具共、手榴彈四千發ヲ支給セラルルコトナリ本月十四日宇品發ニテ發送スル筈ナリ而シテ火砲彈藥ハ概テ次ノ如ク送付セリ

狙撃砲一門ニ付二百發、輕迫撃砲一門ニ付百發、山砲一門ニ付一〇五發

二、在朝鮮兵器支廠保管兵器ヲ使用セントスル場合ハ其都度申請スルヲ要ス

三、南部島嶼里派遣隊ノ携行歸還セル兵器ハ之ヲ取纏メ全部復舊ヲ實施スル計畫ナルヲ以テ今箇ノ討伐ニハ可成之ヲ使用スルコトナク殘置スルヲ要ス

附錄第二其二

南島事件と關シ朝鮮軍總隊へ相成事項

二二五

附録第二其一 岡島事件ニ因シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

二三四

第二 器材

一、各部隊器材ノ定數概ネ左ノ標準トス
歩兵大隊

1、通信器材

各大隊ハ架設班二組ヲ編成シ得ル如クス但シ中被覆線約一〇〇里分電話機四
〇個増加送附セリ適宜分配携行セシムルヲ要ス

2、携帶器具

各中隊ノ編成ニ應スル如ク携帶セシム

3、歩兵小行李器材

所要ニ應シ必要ナル器材ヲ適宜携行セシム

歩兵機關銃隊

編成ニ應シ適宜携帶器具ヲ携行セシム

騎兵小隊

器材ハ携帶セシメス

野砲兵小隊

通信器材ハ携行セシメス所要ニ際シテハ歩兵大隊ノモノヲ一時流用ス

工兵中隊

1. 携帶器具

編成ニ應シ携帶セシム

2. 大小行李器材

所要ニ應シ適宜携行

無線電信隊

移動式無線電信器材二小隊分、消耗材料二ヶ月分ヲ基準トセリ

航空隊

「ツ」式四機各機三ヶ月分ノ消耗材料ヲ標準トセリ

備車馬ヲ以テ適宜運搬ス

三、器材ノ充當並發送期日

1. 航空隊以外ノ器材

(イ) 通信器材中、被覆線三三三吉電鈴式電話機四〇無線電信器材消耗品ハ陸軍兵器本廠ヨリ送付(十月十四日宇品發豫定)セリ

附錄第二其一 間島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

附錄第二其一 四島事件ニ因リ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

二二六

清津ニ於テ受領セラレ度但右器材中無線電信器材ハ近衛師團ヨリ増加配屬
スヘキ電信兵卒領ス

(ロ) 其他ノ器材ハ第十九師團平時用應急準備用ヲ以テ充當ノ豫定依テ一時羅南
ノ作戰用器材ヲ使用セルモノハ右器材到着後可成返納セラレ度

2. 航空隊用器材

(イ) 同隊用器材中航空器材以外ノモノハ兵器本廠ヨリ清津ニ送付十月十四日宇
品發豫定セリ同所ニ於テ受領セラレ度

(ロ) 航空器材ハ二回ニ分チ第一回飛行機二及附屬品一式十月十九日宇品發豫定
第二回ハ約二週間後ニ於テ發送ノ見込何レモ航空部ヨリ宰領者ヲ附ス

航空機一機ノ梱包長サ約六米、幅三米、重量約六噸アリ清津ニ於ケル揚陸竝爾
後ノ搬送ニ就テ考慮シ置カレ度

四羅南在庫ノ作戰用通信器材ノ使用ヲ認可セラレアルモ補填ノ必要アルニ依リ速
ニ(成)得ハ使用ノ都度品目員數報告セラレ度但半永久電信器材以外ハ該器材ヲ
使用セサルモ師團應急準備用ニテ充足シ得ル豫定ナリ

第四章 衛生

一、傷病者ノ救護、遠送ニ關シ臨時所要ノ看護長卒ハ羅南會寧等ノ衛戍病院ヨリ派遣スルノ必要アルヘシ此ノ場合ニ於テハ看護長代用雇員看護卒代用傭人ヲ使用スルコトヲ得又衛戍病院遠送患者ヲ收療スル爲看護力ノ増加ヲ要スル場合モ亦同シ

二、掃蕩間ニ要スル衛生材料ハ現地調辦ニ依ラレタシ但シ衛生材料特種品ハ附錄第三ノ通約二箇月分ヲ見込ミ至急補給ス

三、今回掃蕩事件ノ爲羅南會寧衛戍病院ニ整備スヘキ衛生材料ハ附錄第四ノ通りトシ本月十四日迄ニ廣島ニ整備シ本月二十日前後ニ朝鮮ヘ到着セシムル豫定ナリ尙前項ノ材料モ同時ニ送付スル筈ナリ

四、歩兵第七十四聯隊會寧及羅南衛戍病院ニ各一名ノ缺員トナリアリシ軍醫ハ既ニ補充セリ其ノ上更ニ今回軍司令部ニ増加配屬セラレタル軍醫五名ノ内二名ハ至急派遣スル筈爾餘三名ハ更ニ所要ニ臨ミ派遣スル考ナリ

第五章 經 理

第一、補 給

糧秣其ノ他補給業務ノ爲軍司令部ニ主計五計手七ヲ増加配屬セラレタリ右ハ羅南

附錄第二其一 四島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

附錄第二其一 間島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

二二八

支庫ニ人員ヲ増加シ同地以北必要ノ地點ニ倉庫ヲ開設スル見込ニテ配屬セラレタルモノトス出動部隊ニ要スル經理官ハ師團經理部等ヨリ派遣セラレ度其ノ他補給ニ關シテハ概ネ襲ニ軍ヨリ上申アリシ不逞鮮人團剿討計畫(經費二ヶ月分總額二十八萬圓)ニ基キ實施セラルルモノトシテ經費ヲ積算セリ故ニ其實施モ之ニ準セラルヘシ但シ第十四師團ニ屬スル部隊ノ補給ニ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第二 糧 秣

一、出動部隊所要糧秣ハ現地及朝鮮ノ物資ニ據リ要スレハ軍ノ管理スル戰用品ヲ使用シ其ノ補充ヲ陸軍省ニ請求方次官ヨリ電報セラレタリ就テハ其ノ補充請求ハ爾後ノ補給ニ支障ナキ様迅速ニ之ヲ提出セラルルノ要アリ尙出動部隊(第十四師團ノ一旅團ヲ含ム)ノ所要糧秣中内地ヨリ特ニ追送ヲ要スルモノアラハ至急請求セラレ度朝鮮ニテ調辨困難見込ノモノ附錄第五ノ通り取敢ヘス清津ニ追送ス

二、加給品給與標準量概ネ左ノ豫定トス

一ヶ月一名ニ付清酒四合甘味品百二十匁

煙草百六十本

第三 被 服

一、出動部隊ハ總テ當該隊現在常用品ヲ着用スルモノトス

出動部隊ニ現在セサルモノノ所要ハ朝鮮軍司令官管理ノモノノ内ヨリ使用スルモノトス但シ朝鮮軍倉庫現在ノ戰用品ノ使用ニ就テハ其ノ時々令達セララル

二、被服給與ハ朝鮮、滿洲駐紮部隊給與令同細則ニ依ル但シ防寒被服等必要ノモノハ准士官以上軍人軍屬一般ニ給與シ差支ナク本件ニ就テ特ニ達セララル筈

又氣象及勤務ノ關係上平時規定ノ給與品以外ニ所要アルモノハ特ニ給與ノコトニ諮議スル筈ニ付實況ニ應シ隨時意見ヲ申出ラルヘシ

三、右ノ外防寒靴ハ平時定員ノ三分一數ヲ給與シアルニヨリ全員ニ對シ給與シ得ル如ク追送シ又出動間損敗品ノ臨機交換引當トシテ各品種ニ亘リ若干ノ員數ヲ追送シ置ク計畫ナリ尙出動部隊ニ不足スルモノアルトキハ軍ノ請求ニ依リ送附ノコト

第四、營 繕

一、憲兵増加ニ伴フ臨時建築ニ就テ

不逞鮮人掃蕩ニ關シ憲兵増加ニ伴フ廳宿舍ノ新增築及模様換ハ經費約金四拾萬圓ヲ用途トシテ實施ノ豫定ナリ之カ實施ニ就テハ右増加憲兵ノ配置ヲ顧慮スル

附錄第三其一 間島事件ニ關シ朝鮮軍參謀ヘ指示事項

附錄第二其一 國境憲兵ニシテ朝鮮軍警課ハ掛分事項

二二〇

ト共ニ本月二日朝鮮經營第三四二三號ヲ以テ軍司令官上申ノ國境憲兵監視所應宿
舎新築ヲモ達成スル如ク更ニ調査ヲ遂ケ建築箇所及新築ノモノハ其ノ坪數及内
譯概要ヲ至急申出ラレ度シ但シ特ニ工事ノ急施ヲ要スルモノハ着手ノ上報告ス
ルモ妨ナシ

前項ノ建築ニ依リ國境憲兵ノ所要建物ハ可成之ヲ整備ヲ了ルヲ方針トシ從ヒテ
竣功ヲ急キテ一時凌キノ粗造建物ヲ建築スルガ如キハ之ヲ避ケ差支ナキ限リ工
事期間ヲ延長シ相當程度良好ノモノヲ建築スルヲ要ス

二飛行機格納庫建築ニ就テ

飛行機格納庫ハ内地ニテ切組加工セル建築材料四棟分ヲ清津ニ輸送シ第十九師
團司令部ニ交付シ同司令部ヲシテ會率附近ニ之ヲ建築セシムルゴトニ不日達セ
ラル等ナリ

6607

附録第一

陸密第二〇二號

間島事件ノ爲メ朝鮮ニ在ル諸部隊定員外人馬増加配屬ノ件

(略ス)

附錄第二

第十九師團配屬航空要員派遣ノ件

一、大正九年十月八日陸密第二〇二號ニ依ル航空要員差出區分附表ノ如シ

二、派遣人員ハ可成速ニ宇品ヨリ乗船出發スルモノトス

前項ノ人員ハ朝鮮港灣上陸ノ日ヲ以テ第十九師團長ノ隷下ニ入ルモノトス

三、派遣下士以下ハ平時携帶兵器ヲ携行スルモノトス

四、派遣下士以下所要ノ被服ハ平時用中最新ノモノ(時服)ヲ充當シ其定數並着裝及携帶ニ關スル規定ハ大正九年度陸軍勳員計畫訓令細則ニ依ルモノトス

但シ誌識票及携帶口糧ヲ携帶セシムルコトナシ又職工ハ私服ヲ着用セシムルモノトス

五、航空被服ハ左ノ如ク平時用ノモノヲ携行ス

航空第一大隊 二着

航空第二大隊 二着

航空第四大隊 一着

六、給養ハ内地鐵道輸送中ハ派遣部隊船舶輸送中ハ第三師團長ノ擔任トス

七、船舶輸送ハ第三師團長之ヲ區處シ陸軍運輸部本部長ニ請求スルモノトス

八、本件ニ關スル經費ハ凡テ臨時軍事費ノ支辨トス

第十九師團配屬航空要員差出區分表

第十九師團配屬航空要員差出區分表									
階級	差出部隊	第三師團				第十八師團		計	
		航空學校	補給部	東京工廠	航空第一大隊	航空第二大隊	航空第四大隊		
大尉	一							一	
中(少)尉	二							四	
曹長					一			一	
軍曹(伍長)				發動機掛 一	材料掛 給養掛兼 武器掛 一	一	操縦者(サ式) 飛行機掛 一	五	
兵卒					發動機工 飛行機工 自動車運轉手 機關銃取扱手 電機工 一	三 二 四 一	發動機工 飛行機工 自動車運轉手 機關銃取扱手 一	二七	
職工	二 一							三	
備考	一、兵卒ハルテ大正七年兵トス 二、職工ハ「サ式」發動機取扱手トス 三、飛行機「サ式」四機トス								

補給衛生材料特種品目員數表

補給衛生材料特種品目員數表										
品	目	稱	員	數	品	目	量	員	數	
糞	若	錠	筒	二、〇〇〇	デ	ギタミン	筒	一、〇〇〇		
バシトボンスコボラミン液		〃		二〇〇	重	曹	錠	〃	五、〇〇〇	
硼		膏	瓦	八、〇〇〇	硫	酸セメント	瓶	一〇		
硼	酸	錠	筒	五、〇〇〇	カ	ムフル	液	筒	五、〇〇〇	
ホ	ミ	カ	錠	〃	四、〇〇〇	カンタリス硬膏	枚	一〇〇		
吐	根	錠	〃	五、〇〇〇	芥	子	末	瓦	五、〇〇〇	
ト	ロバコカイン	錠	〃	一〇〇	管	入ヨード丁幾	筒	三、〇〇〇		
ド	ーフル	散	錠	〃	五、〇〇〇	乾	燥破傷風血清	瓶	二〇	
デ	ギタリス	錠	〃	二、〇〇〇	乾	燥チフデリア血清	〃	二〇		
甘	永	錠	筒	五、〇〇〇	麻	酔用エーテル	筒	一五〇		
外	用コカイン	錠	〃	五〇〇	健	胃	錠	〃	四五、〇〇〇	
外	用アトロピン	錠	〃	一〇〇	コ	デイン	錠	〃	二、〇〇〇	
沃	刺	錠	〃	一〇、〇〇〇	ゴ	ム絆創膏 _{三ニ號}	卷	一五〇〇〇		
タ	ンニン	酸	錠	〃	一、〇〇〇	エ	メチン	液	筒	一、〇〇〇
單		膏	瓦	一〇、〇〇〇	塩	規	錠	〃	一、〇〇〇	
内	用アトロピン	錠	筒	一〇〇	爹	硫	膏	瓦	五、〇〇〇	
ウ	ロトロビン	錠	〃	二、〇〇〇	ア	ドレナリン	錠	筒	五〇〇	
ク	レゾール	石鹼	瓦	一五、〇〇〇	ア	スピリン	錠	〃	一〇、〇〇〇	
拘	櫟	酸	錠	筒	一、〇〇〇	ア	ンチピリン	錠	〃	五、〇〇〇
麻	酔用クロロフォルム	〃	〃	一五〇	阿	片	錠	〃	二、〇〇〇	
亞	砒	酸	泥膏	瓶	一〇	昇	汞	錠	筒	二〇、〇〇〇
細	管入ヨード丁幾	筒	二、〇〇〇	硝	石	錠	〃	二、〇〇〇		
サ	ントニン	錠	〃	五、〇〇〇	臭	刺	錠	〃	一〇、〇〇〇	
撒	曹	錠	〃	二、〇〇〇	弱	ノゾオカイン	液	〃	二〇〇	
撒	曹コフエイン	錠	〃	三、〇〇〇	ビ	ツク	膏	枚	二〇	
酸	化チアン化汞	液	〃	五〇〇	モ	ヒ	液	筒	五、〇〇〇	
ザ	ロー	ル	錠	〃	二、〇〇〇	ス	ルフオナール	錠	〃	三、〇〇〇
強	ノヅ	カイン	液	〃	一〇〇	水	銀軟	膏	瓦	五、〇〇〇
滅	菌	グラチン	液	〃	一〇CG	入	〇〇	膏	〃	五、〇〇〇
食	鹽	錠	〃	五、〇〇〇	淨	水	藥	箱	〃	三、〇〇〇
硝	芥	錠	〃	一〇、〇〇〇	綯	帶	包	筒	〃	五〇〇
昇	汞	ガ	ーゼ	反	三〇〇					
昇	汞	ガ	ーゼ	筒	五〇〇					
傷		票	枚	二、〇〇〇						
フ	オルマリン細糸 _{七六號}	包	各三〇〇							

衛生材料追送品目員數表

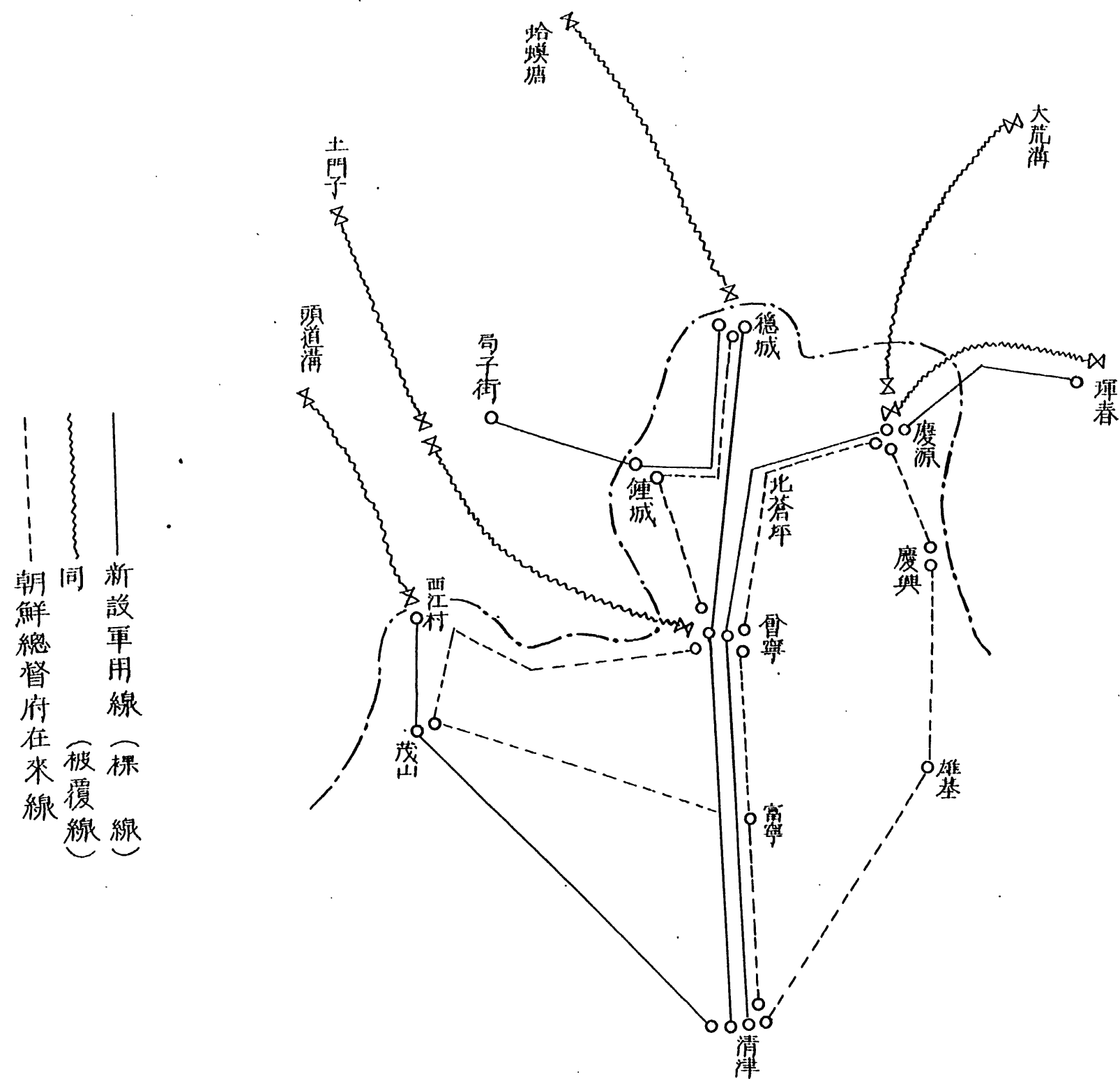
品 目	羅南衛戍病院		會寧衛戍病院		計	摘 要
	羅南衛戍病院	會寧衛戍病院	計	摘 要		
米國製携帶X放線器械		一組	一組			
同附屬器械(球管ヲ除ク)		一組	一組			
クウリイデ管		二箇	二箇			
X放線器械發電動 其他ノ器械	一具		一具			
顯微鏡大	一具	一具	二具		ツアイス式	
同風具	一具	一具	二具			
解氷大	一具	一具	二具			
乾熱滅菌器	一具	一具	二具			
蒸汽滅菌器	一具	一具	二具			
患者運搬車	一具	一具	二具			
軍醫携帶藥(大正九年式)	一八具		一八具		出動部隊ノ軍醫携帶セ シム	

間島方面出動部隊所要糧食品等整備區分表

品目	量	割合	單位	整備數量	整備官	整備期日	整備地	揚陸地	到着倉庫
精麥	一合九勺	全量	石	六三〇					
魚肉罐詰	四十匁	1/6量	貫	二、七〇〇					
乾野菜	三十匁	1/8量	全	三、五〇〇					
甘味品	一回三十匁 一ヶ月四十回	1/2量	全	一、〇〇〇					
重 = 人百 患對 者一人 食(割分五)					陸軍				
煉乳	七十匁	全	全	三五〇					
鯉節(粉末)	〇匁五	全	全	三					
粉末鶏卵	二十匁	全	全	一〇〇					
葛粉	五匁	全	全	二五					
水飴	二匁	全	全	一〇					
乾糧餛	五匁	全	全	二五					
岡崎式(明礬共)水器		組	全	六〇					
探薪器		全	全	三〇					
屠獸器		個	全	一五					
廠					日				
林					二				
糧					十				
軍					月				
陸					十				
					宇				
					清				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				
庫					倉				

不逞朝鮮人剽劫計畫之伴通信網

附錄第六



附錄第二其二

參謀本部第一部長ヨリ朝鮮軍參謀ニ指示事項

大正九年十月十四日
朝鮮軍參謀部印刷

一、出動部隊ノ行動ニ就テ

今回ノ剿討ハ必要止ムヲ得サル爲實施スルモノナルヲ以テ徹底的ニ彼等ニ打撃ヲ加フル中央部ノ方針ナリ

1、今回ノ出動部隊ノ主目的ハ帝國臣民ヲ保護スルニアルモ之カ保護ノ目的ヲ積極的ニ達センカ爲ニハ局地ニ制限セラルコトナリ其行動ハ自然遠距離ニ亘ルモノナルコトヲ承知セラレタシ

2、總長指示事項ニ示セル兵力ハ凡ソ剿討ノ目的ヲ達シ得ヘシト判斷セシモノナレトモ出動後狀況ニ依リ其兵力ノ増減ヲ要スル場合ニハ速ニ意見具申ラセラレタシ

3、今回ノ剿討計畫ハ十一月末迄ニ之ヲ終了スル中央部ノ豫定ナリ

4、剿討地域モ亦概要ニ過キササルヲ以テ適宜變更スルモ妨ナシ

5、剿討終了後居留民保護ノ爲琿春及間島方面ニ歩兵約一大隊騎兵ノ一部及機關

附録第二其二 參謀本部第一部長ヨリ朝鮮軍參謀ニ指示事項

二二二

銃隊ヲ殘置シ他ハ衛戍地ニ引上クル豫定ナリ

6 從來西比利亞ニ於テ遭遇セシ如ク小部隊カ敵ノ不意ノ襲撃ヲ蒙リ失敗セシ實

例アルヲ以テ斯ノ如キコトナキ様特ニ注意セラレタキコト

7 出動部隊ノ行動ニ關シ外國人(支那人ヲ含ム)ヨリ抗議セラレ國際問題ヲ生セサル如クスルコト

二、諸報告ニ就テ

1 策動部隊ノ給養及補給ノ狀態ヲ時々報告スルコト

2 作戰經過ノ概要等ハ電報ノ外書類ニテ詳報セラレタシ

3 支那軍ノ行動其他彼等ノ狀態ヲ報告セラレタシ

三、補給ニ關スル事項

1 出動部隊ハ努メテ地方物資ヲ利用スルコトニ注意セラレタシ

2 鮮外糧秣ノ集積地ハ會寧ニ本庫ヲ置キ穩城、岷泰、局子街、百草溝ニ支庫ヲ置クヲ可トセン

3 出動部隊ノ行動間ニ必要ナル糧秣ハ一氣ニ之ヲ集積スル如クスルヲ可トセン
何ントナレハ諸縱列ヲ運行セシムルカ如キ之カ護衛ニ多數ノ兵力ヲ要シ然モ

危険ナレハナリ

4、各地ニ集積スル糧秣ハ縦令其他守備隊カ敵ノ包圍ヲ受クルモ相當期間支ヘ得ルノ數量ヲ集積スルヲ必要トセン

5、ボセツト上陸旅團ノ補給ノ爲ニハ瑣春、穩城、局子街附近ニ最小限三日分以上ノ糧秣ヲ集積スルノ必要アラン

四、雜件

山田虎夫旅團ノ爲還春進山後傳騎トシテ若干ノ騎兵ヲ配屬スルコト

附錄第二其二

參謀本部第一部長ヨリ朝鮮軍參謀ニ指示事項

二三三

附錄第三

參謀本部作命第五七號

訓令

一、朝鮮軍司令官ハ第十九師團長ノ指揮スル部隊ヲ以テ瑯春及間島地方ニ在ル帝國臣民ヲ保護シ併セテ該地方ニ於ケル不逞鮮人及馬賊竝之ニ加擔スル勢力ヲ剿討セシムヘシ

二、第十四師團ノ歩兵一旅團ヲ一時朝鮮軍司令官ノ指揮下ニ増加ス

三、浦潮派遣軍司令官ハ第十四師團ノ歩兵一旅團ヲ「ボセツト」ニ派遣スヘシ

該旅團ハ「ボセツト」上陸ノ時ヲ以テ浦潮派遣軍司令官ノ隸下ヲ脱シ朝鮮軍司令官ノ指揮下ニ入ルモノトス

四、朝鮮軍司令官ハ前項ノ旅團ヲ以テ瑯春及間島地方ニ於ケル不逞鮮人ニ對スル示威行動ニ任セシムヘシ

五、浦潮派遣軍司令官ハ一部隊ヲ三岔口附近ニ出シ尙要スレハ之ヲ綏芬大甸子附近ニ進メ又一部ヲ土門子附近ニ出シ以テ朝鮮軍ノ行動ニ策應セシムヘシ

六、細部ニ關シテハ陸軍大臣、參謀總長ヲシテ指示セシム

附錄第三其一 訓示

二三五

2110

附錄第三其一 訓示

大正九年十月九日

奉勅

朝鮮軍司令官

參謀總長男爵上原勇作

大庭二郎殿

二三六

參謀本部命第四九七號一

指示

作命五十七號訓令ニ基キ左ノ指示ヲ爲ス

一、朝鮮軍司令官ノ瑣春及間島方面ニ派遣スヘキ兵力ハ歩兵約六大隊、騎兵約一中隊、山砲八門、工兵二中隊、飛行機四機トス

二、第十四師團ヨリ増加セラレタル歩兵旅團ハ概ネ瑣春、涼水、泉水及局子街附近ヲ經テ會寧ニ向ヒ行動セシメ爾後先ツ清津ニ至ラシムヘシ

會寧、清津間ノ線道輸送ハ朝鮮軍司令官ニ於テ適宜之ヲ處理スヘシ

三、朝鮮軍司令官ハ特ニ浦潮派遣軍司令官、關東軍司令官及瑣春間島並滿洲ニ在ル帝國外交官憲ト密接ニ連絡ヲ保持スヘシ

四、浦潮派遣軍司令官ハ瑣春及間島地方ノ不逞鮮人、竝馬賊等ニ對シ東支鐵道東線及南部烏蘇里地方ノ守備ヲ嚴ニスルト共ニ三岔口方面ノ部隊ト連絡シ機宜ノ處置ヲ執リ得ル準備アルヲ要ス

五、浦潮派遣軍司令官ハ第十四師團ボセツト派遣旅團ニ對シ携帶彈藥及ボセツト瑣春間ニ要スル糧秣(約三日分)其他必要最少限ノ物件ヲ携行セシムヘシ

附錄第三其二 指示

二三七

附録第三其二 指示

二三八

其携行物件ノ運搬ニ關シテハ朝鮮軍司令官ト協定シ適宜之ヲ處理スヘシ

六、朝鮮軍司令官ハ前項旅團(人約四〇〇馬約一五〇)ノ琿春附近到着後ニ於ケル補給及衛生業務ヲ擔任スヘシ

七、朝鮮軍司令官ノ隸下ヨリ派遣セル部隊及一時其指揮下ニ増加セラレタル部隊ニ要スル補給用糧秣及其他ノ軍需品ハ成ルヘク地方物資ニ依ルモノトス其之ニ依ルコト能ハサルモノハ要スレハ戦用品ヲ使用シ其補充ハ請求ヲ俟テ追送ス

八、朝鮮軍司令官ハ此際琿春及間島地方ニ於ケル兵要地理上ノ資料ヲ蒐集スルコトヲ努ムヘシ

大正九年十月十日

參謀總長 男爵 上 原 勇 作

朝鮮軍司令官 大庭 二郎 殿

陸軍省送達陸密第二一八號

作命第五七號ニ依ル指示事項左ノ如シ

一、間島方面ノ出兵ニ關シ外務大臣ハ奉天赤塚領事ヲシテ張作霖ニ對シ左ノ主旨ヲ

以テ交渉スヘキ旨訓令セリ

(イ) 珲春事件ノ損害賠償責任官憲ノ謝罪ニ關スル根本主義ヲ承認スルコトヲ要求ス

(ロ) 帝國政府ハ一不取敢更ニ部隊ヲ龍井村方面ニ急行セシメタルモ尙將ニ於テ必要ニ依リテハ兵力ヲ増加シ且事態鎮定ノ見込確實トナル迄駐兵セシムヘキニ付此等ノ諸件ニ對シ即時承認ヲ與ヘラレ度若シ承認ヲ與ヘラレサルニ於テハ自衛上止ムヲ得サルニ付承認ヲ俟タスシテ更ニ増兵シ又之ヲ駐兵セシムヘキニ付豫メ了解ヲ乞フ但シ此ノ派兵ハ支那領土占領等支那ノ主權ヲ侵害スル意圖ニアラサルヲ聲明ス

(ハ) 此ノ際日支兩國兵力ヲ以テスル共同討伐ヲ誠實ニ實行スルコトヲ希望ス若シ右討伐不同意ナルニ於テハ帝國ハ已ムヲ得ス單獨ニ之ヲ實行ス是レ自衛上己ムヲ得サルニ付豫メ了解ヲ得タシ

附錄第三其三 指示

二三九

附錄第三其三 指示

二四〇

二、外交上ノ關係第一項ノ如キヲ以テ貴官ハ特ニ今回ノ出兵ノ動機ニ鑑ミ先ツ現下ニ於ケル情況ハ共同若ハ單獨討伐ニ移ル前提トシテ居留民保護ノ爲行動シアルモノニシテ純然タル討伐行動ニ移ルノ機ハ第一項ノ交渉ノ結果以後ナルモ此ノ間ニ於テモ我行動對シ敵對行動又ハ妨害ヲ與フルトキハ之ヲ討伐スルコトハ勿論ナリ

三、間島ハ固ヨリ支那領土ニシテ多少ノ外國人モ居住スヘキヲ以テ行動ニ際シ支那官民及外國人ノ惡感若ハ誤解ヲ受クヘキ行動ハ嚴ニ之ヲ慎マシメ家屋、軍需品ノ徵用購買等ニ關シテモ特ニ支那官民ノ權利ヲ尊重シ永遠ニ彼等ヲシテ我ニ信賴セシムル如ク指導スヘシ

四、不逞鮮人、馬賊、露人過激派及之ニ加擔スル匪徒ハ單ニ居常ノ不逞團ト見ルコト能ハス彼等ハ間島ノ民心ヲ過激派化シ之ヲ利用シテ朝鮮内地ノ人心ヲ動搖セシタ以テ朝鮮獨立ノ目的ヲ達セントスルモノニシテ實ニ帝國特ニ朝鮮ノ統治竝治安維持上一日モ看過スル能ハサル所ニシテ之レ亦今回ノ出兵ヲ見タル所以ナリトス依テ貴官ハ第三項ニ示ス如ク良民ニ對シテハ按撫ヲ勉ムルト同時ニ之ニ反スルモノニ對シテハ徹底的ノ打撃ヲ與ヘ帝國ノ受クヘキ禍根ヲ根絶スルコトニ努

カスヘシ

五、支那官兵ノ匪徒ニ混シテ騷擾スルコトハ外交上看過スヘカラサル事ニシテ此ノ件ハ常ニ我ニ對シ外交上有利ノ情況ヲ與フルモノナルヲ以テ此等事實ヲ發見セハ直ニ之カ實證ヲ確保シ爲シ得レハ事毎ニ支那官憲ヲシテ之ヲ承認セシメ置ク手段ヲ講スルコト必要ナリ

六、間島ニ於ケル支那官憲帝國領事又ハ副領事並軍隊間ニ於ケル連絡及意志疎通ヲ圖ル事ハ最モ必要ナリ之カ爲必要ナル人員ハ適宜之ヲ増加配屬スヘキモ取敢ヘス此ノ點ニ就テ適宜ノ處置ヲ取ルコトヲ考慮スヘシ

七、間島方面ノ騷擾ノ餘波ハ鴨綠江方面並朝鮮内地ニ波及スヘキコトアルヲ顧慮シ相當ノ考慮ヲ拂フコト必要ナリ

大正九年十月十二日

陸軍大臣男爵 田中義一

朝鮮軍司令官 大庭二郎 殿

附錄第三其三 指示

二四二

附錄第四

間島出兵ト國際聯盟規約トノ關係

(外務當局ノ研究トシテ
陸海省ヨリ送付ノモノ)

本作出兵ハ領事館及居留民ノ保護並馬賊ノ討伐ヲ以テ目的トスル純然タル自衛的措置ニシテ偶々支那ノ如キ自ラ國內ノ治安維持任シ得サル國ニ對シ萬己ムヲ得ス急速實行ノ必要ニ迫ラレタルモノナルヲ以テ聯盟規約第十條ニ規定スル領土保全及現在ノ政治的獨立ニ對スル外部ノ侵略ニ非サルハ勿論同第十一條ニ規定スル戰爭又ハ戰爭ノ脅威ニモアラス況ンヤ同第十二條ニ規定スル國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭トモ見做シ得サルモノニシテ此種ノ事件ハ聯盟規約起草者ノ全然豫見セザリシ所ト解スルノ外ナク從テ斯カル場合ニ對スル措置ヲ規定シタル條項モナシ帝國ノ行動力支那領土ノ保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重スルモノナルニ於テハ少クトモ正面ヨリ規約違反ノ非難ヲ受クヘキニ非スト思考ス

然レトモ聯盟規約第十一條第二項ニハ「國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其基礎タル各國間ノ良好ナル諒解ヲ擾亂セムトスル虞アルモノニ付聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス」ト規定スルヲ以テ我出兵ニ對シ支那又ハ第三國ヨリ總會又ハ理事會

附錄第四 指示

二四四

ノ注意ヲ喚起スルコトナキヲ保セス又此ノ種ノ事件發生ハ聯盟規約成立以來今回ヲ以テ嚆矢トナスモノナレハ之ニ對スル措置ハ將來ノ先例トモナルヘク殊ニ今日一般ニ帝國ノ行動ヲ以テ動モスレハ侵略的ナリト誤解スルノ風アルニ顧ミ本作田兵實行ニ付テハ特ニ周密ナル省慮ヲ要スヘキモノト認ム

國際聯盟規約

第十條聯盟國ハ聯盟各國ノ領土保全及現在ノ政治的獨立ヲ尊重シ且部外ノ侵略ニ對シ之ヲ擁護スルコトヲ約ス

右侵略ノ場合又ハ脅威若クハ危險アル場合ニ於テハ聯盟理事會ハ本條ノ義務ヲ履行スヘキ手段ヲ具申スヘシ

第十一條戰爭又ハ戰爭ノ脅威ハ聯盟國ノ何レカニ直接ノ影響アルト否トヲ問ハス總テ聯盟全體ノ利害關係事項タルコトヲ玆ニ聲明ス仍テ聯盟ハ國際ノ平和ヲ擁護スル爲適宜且有効ト認ムル措置ヲ執ルヘキモノトス此種ノ事變發生シタル時ハ事務總長ハ何レカノ聯盟國ノ請求ニ基キ直ニ聯盟理事會ノ會議ヲ召集スヘシ

國際關係ニ影響スル一切ノ事態ニシテ國際ノ平和又ハ其基礎タル各國間ノ良好

ナル解ヲ提亂セントスル虞アルモノニツキ聯盟總會又ハ聯盟理事會ノ注意ヲ喚起スルハ聯盟各國ノ友誼的權利ナルコトヲ併セテ茲ニ聲明ス

第十二條聯盟國ハ聯盟國間ニ國交斷絶ニ至ルノ虞アル紛爭發生スル時ハ當該事件ヲ仲裁裁判又ハ聯盟理事會ノ審査ニ付スヘク且仲裁裁判官ノ判決又ハ聯盟理事會ノ報告後三月ヲ經過スル迄如何ナル場合ニ於テモ戰爭ニ訴ヘサルコトヲ約ス

本條ニ依ル一切ノ場合ニ於テ仲裁裁判官ノ判決ハ相當期間内ニ聯盟理事會ノ報告ハ紛爭事件付託後六月以内ニ之ヲ爲スヘシ

瑯春間島事件ニ關スル國際法ノ研究

第一章 國家

國際法上國家トハ一定ノ土地ト人民トヲ基礎トシテ起リタル政治的團體ニシテ主權ノ全部若ハ一部ヲ有スルモノヲ謂フ故ニ國家ノ成立ニハ左ノ要素ヲ必要トス
 一、土地、現行國際法ハ領土主權ヲ基礎トスルカ故ニ國家ニハ一定ノ土地即領土ヲ必要トス水草ヲ遂フテ遍歷スル野蠻人ノ一團ノ如キハ未タ國家ト稱スルヲ得ス然レトモ領土ハ其ノ面積ノ大小廣狹ヲ論セス如何ニ狹少ナルモ國家タルニ妨ナシ、國家カ領土ヲ以テ其ノ成立要素トスルニ至リタルハ歐洲大陸ノ中世建封制度時代ニ於ケル群雄割據ノ歴史の緣因ヨリ生シタルモノニシテ君主ハ一定ノ領土内ニ主權ヲ有シ主權ト領土トカ離ルヘカラサル關係ヲ生シタルニ外ナラス輓近一國ノ強弱ハ國民ノ貧富ニ伴ヒ國民ノ貧富ハ領土ノ生産力如何ニ歸スルニ至リ領土ハ益々其ノ重キヲ加フルニ至レリ

二、人民、國家ニハ被治者タル人民アルヲ要ス國家カ天變地異其ノ他ノ災厄ニ因リ盡ク人民ヲ失ヒタルトキ若ハ人民ノ四散シタルトキハ其ノ成立ヲ失フモノトス但其ノ人民ハ如何ニ小數ニテ國家ヲ成立スルニ妨オキハ土地ノ場合ト同様ナリ例

ヘハ我國ノ市町程ノ人口ヲ有セサル伊太利ノ「サンマリノ」共和國、佛蘭西ノ直「モナコ」公國ノ如キ尙國家タルヲ得ルカ如シ

三、政治的團體、國家ハ人類ノ團體ナルモ其ノ團體ハ政治的ニ團結シ又政治的ノ機關ヲ備フルヲ要ス單ナル烏合ノ衆ハ之ヲ國家ト稱スル能ハス而シテ政治的組織即政體ノ如何ハ固ヨリ問フ所ニ非ス專制政體立憲政體等シク政治的團體ナリ

四、主權、主權トハ國家ヲ統治スル權力即土地及人民ヲ統一支配スル最高ノ權力ニシテ人民ハ其ノ權力ヲ有スル者ノ命令ニ服從シ因テ以テ秩序アル團體ヲ形成スルコトヲ得ルナリ而シテ主權ノ所在ハ團體ノ岐ルル所以ニシテソハ各團體ニ於ケル成立ノ歴史ニ從ヒ若ハ各國ノ憲法ニ同一ナラス君主ノ手ニ存スル事アリ人民ノ手ニ存スルコトアリ或ハ君主人民ト共同ニ有スルコトアリ從テ君主國共和國等ノ區別ヲ生スルニ至ルモノナリト雖モ其ノ主權ノ所在如何又其ノ之ヲ有スルニ至リタル原因ノ如何ニ關シラハ國際法上之ヲ研究スルノ要ナシ

國際法上國家ノ主權ハ絶對ニ最高無根ノ權力タルヲ要スルモノニ非ス換言スレハ國家ハ常ニ必スシモ主權ノ全部ヲ有セサルヘカヲサルモノニ非ス此ノ點ハ恰モ土地及人民カ其ノ大小多寡ニ拘ラス國家ノ要素タリ得ルト同様ナリ白耳義及

瑞典ノ如キ其ノ主權ニ種々ノ制限ヲ受ケ絶對自由ノ行動ヲ爲シ得サルモノ又支那暹羅等ノ如キ條約ヲ以テ領事裁判制度ヲ存スルモノアリト雖モ之レ主權カ自ラ其ノ一部ノ行使ヲ制限シタルニ止マリ内治外交ニ關シ任意ニ行動シ得ヘキ主權ノ本質ヲ喪ヒタルモノニ非サルヲ以テ國際上獨立ノ國家タル性格ニ於テハ何等ノ影響ナキモノトス我國ニ於テハ最高無限ノ主權存在シ毫末モ他國ノ掣肘ヲ受クルコト無シ

第一節 國家ノ權利及義務

國際法上國家ノ權利及義務ハ悉ク相互のナルカ故ニ一般私法ニ於ケルカ如ク必スシモ一方ノ權利ニ對シ他方ノ義務ノ隨伴スルコトヲ必要トセス例ヘハ戰時ニ於テ敵國ノ間諜ヲ處刑シ得ヘキハ國家ノ權利ナルト同時ニ敵國ハ之ヲ使用シ得ルノ權利ヲ有シ其ノ處刑ヲ受クヘキ義務ハ決シテ間諜自體若ハ其ノ本國ニ存スルコトナシ敵國ノ俘虜ヲ戰爭中保留スルハ交戰國ノ權利ナレトモ其ノ保留ヲ脱シ得ルハ均シク俘虜ノ自由ナリ又交戰國ハ海上捕獲ヲ行フノ權利アルト同時ニ一方國ノ商船ハ之ニ反抗スルノ自由ヲ有スルカ如ク此等ノ點ニ付キ相互間ノ權利ハ之ニ伴フヘキ直接ノ義務ナキモノトス然レトモ斯ノ如キ權利ハ國際法上文

明國一般ノ承認ニ係ル法則ニ基クモノナルカ故ニ第三國ニ於テハ其權利ノ行使ヲ妨害スヘカラサル間接ノ義務アルコトヲ忘ルヘカラス

凡テ國家ノ權利ハ絶對的ノモノニ非スシテ他國ノ有スル同一權利ヲ侵害セサル範圍内ニ於テノミ互ニ之ヲ行使シ其ノ利益ヲ享有シ得ヘキニ過キサルコトハ各國家ノ獨立及平等ナル原則上明カナリ隨テ國家ノ權利ハ他國ノ同一權利ヲ侵害セサル範圍内ニ於テノミ互ニ之ヲ行使シタル場合ニ他國ハ之ヲ妨害スヘカラサル義務ヲ有シ其ノ義務ヲ故意ニ盡ササルカ若ハ其ノ履行ヲ怠リタルトキニ限り加害國ニ對シ救済若ハ賠償ヲ求ムヘキモノトス而シテ他國ノ有スル權利ノ侵害ハ政府力直接之ヲ爲スヘカラサルノミナラス其ノ版圖内ニ在ル内外ノ人民ヲシテ之ヲ爲サシムヘカラス若シ斯ル侵害行為ヲ爲ス者アル時ハ之ヲ禁遏シ處罰スヘキ事ハ國家カ他國ニ對スル義務ニ屬ス(支那カ問島ニ於ケル不逞鮮人ノ行動ヲ取締ルハ如上義務違反ノ甚シキモノナリ)而シテ其ノ侵害カ國家ヲ代表スル官吏ノ手ニ於テ爲サレタルトキハ國ノ内外ニ於テ爲サレタルト政府ノ命令ニ出テタルト否トヲ問ハス國家ハ其ノ責任任スヘク其ノ侵害カ自國內ニ於ケル箇人若ハ團體ノ手ニ於テ爲サレタル時ハ國家ハ之ヲ防壓スヘキ義務アルカ故ニ其ノ義務ヲ履行セサル場合ニ國家

ハ其ノ責任スヘキモノトス

第二節 國家ノ獨立權

國家ノ獨立權トハ國際關係上國家カ内治外交ヲ自由ニ處理スルノ權利ニシテ換言スレハ他國ノ牽制ヲ受ケス獨立シテ主權ヲ行使スル權利ナリ然レトモ獨立權ハ絶對的ノモノニ非ス國際法其ノ者ニ依リ制限ヲ受クルコトアリ例ヘハ交戰及中立ニ關スル義務ヲ履行セサルヘカラサルカ如キ或ハ條約等ニ依リ自ラ任意ニ制限スルコトアリ例ヘハ後段述フル所ノ領事裁判制度ヲ許ス場合ノ如キ即之ナリ而シテ此ノ權利ハ對外事項ニ關スルモノト内國事項ニ關スルモノトノ二種ニ區別スルコトヲ得

對外事項ニ付キ國家ハ外國ニ對シ國際法ニ違反セサル限りハ如何ナル交際ヲ爲スモ妨ナキカ故ニ通商航海其ノ他諸種ノ條約ヲ締結シ或ハ他ノ國家ト攻守同盟其ノ他特別ノ友誼ヲ保持スルヲ得ヘキハ勿論他國ノ不法ナル行爲ニ反抗シ其ノ損害ニ對シテハ加害國ニ救済若ハ賠償ヲ求メ得ヘク時宜ニ依リ戰爭ヲモ爲スコトヲ得ヘシ次ニ内國事項ニ關シテハ領土及人民ノ二方面ヨリ觀察シテ領土主權及屬人主權ノ二ニ區別スルコトヲ得

一、領土主權

國家カ自ラ其ノ領土内ニ對スル支配權ハ絶對ニシテ之ニ關シ他國ヨリ何等ノ容喙ヲ受クルコトナク任意ニ國內ヲ統轄シ其ノ自國人タルト外國タルトヲ問ハス自國ノ法律ノ下ニ立タシメ完全ニ之ヲ支配スルヲ原則トシ他ノ國家ハ其ノ國家ノ許可ナク軍事上ノ權力ヲ行使スルハ勿論司法權若ハ警察權ヲ行使ス能ハサル者トス領土主權ハ權力ニシテ權利ニアラス權力關係ハ命令服從ノ關係ニシテ權利關係ハ平等對峙ノ關係ナリ領土主權ハ國家ト共ニ發生シ絶對ニ其ノ上ニ行ハル彼ノ租借地專管居留地及戰時ノ占領地等ニ他國ノ主權ノ行ハルル如キハ領土主權ト謂フヲ得ス蓋斯ル疆土ニ他國主權ノ行ハルル所以ノモノハ國際條約若ハ國際法ノ規定ニ基キ該特權ヲ許與セラレタルニ過キスシテ絶對ニ行ハルルモノニ非ス又領土主權ハ其ノ領土ニ對シ無限ニ行ハル無限トハ其ノ効力カ分量ニ於テ豫メ制限セラレサルヲ謂フ故ニ前掲ノ租借地又ハ戰時占領地等ハ租借ニ關スル特定ノ期間ヲ經過シテ條約ノ効力ヲ失ヒ又ハ平和克復ノ曉ニハ當然他國ノ主權ハ其ノ効力ヲ失フモノナルカ故ニ豫メ制限ヲ加ヘラレタルモノニシテ之ヲ無限ナリト思惟スル能ハス從テ一國ハ租借地又ハ占領地ニ對シ領土主權ヲ有スル

モノニ非サルナリ

二 屬人主權

凡ソ一國ノ人民ハ國家ニ對シ絶對的服從關係ヲ有シ其ノ版圖内ニ在ルトキハ勿論版圖外ニ在ル時ト雖モ本國ノ主權ニ服從シ其ノ法律ヲ守ルヘキ義務ヲ有スルカ故ニ國家ハ其ノ國民ニ對シテハ何レノ地ニ在ルヲ問ハス之ヲ保護シ之ヲ監督スルノ權利ヲ有ス但他國ノ版圖内ニ在ル時ハ其ノ國ノ領土主權ニ反シテ直接ニ此ノ權利ヲ行使スルコト能ハス然レトモ他國ノ領土主權ノ行ハレサル場所ニ於テハ總テ人民ハ其ノ國ノ管轄下ニ在ルモノトス上叙ノ如ク國家間ニハ其ノ人民及財產ニ關シ屬人的ノ管轄權ト領土的ノ管轄權ト兩立競合スル場合アルヘシト雖モ例外例ハ領事裁判權ヲ除ク外ハ領土主權ハ屬人主權ヲ壓スルノ効力ヲ有スルモノナリ

國家ノ獨立權ハ完全不可侵ノモノナリト雖モ國家ハ任意ニ自ラ其ノ行使ヲ制限スル事アルハ前述ノ如シ國際法上ノ原則トシテ國家ハ其ノ獨立權ヲ完全ニ行使セントスルニハ其ノ國內ニ於テ文明的法律規則ノ存在スルコトヲ必要トス即チ他國民ト自國民トノ間ニ付キ公平ニ民刑事事件ノ裁判ヲ爲スヘキ制度存在セサル

ヘカラス若シ國家ニシテ其ノ民刑ノ法律ヲ具備セサルカ又ハ其ノ法律カ一般文明國ニ行ハルルモノト性質上大差アル場合ハ於テハ列國ハ自國民ノ身體財產ヲ安固ナラシムル爲特別ノ條約ヲ設定スルコトアリ今日日本並歐米諸國カ條約ニ因リ支那暹羅等ニ於テ有スル領事裁判制度ナルモノ即之ナリ

第三節 領事裁判權

領事裁判權トハ領事カ駐在國ニ於ケル自國人民ノ爭訟ヲ駐在國ノ法律ニ依ラズ自國ノ法律ヲ以テ裁判スル權利ヲ謂フ領事裁判ノ制度ハ素ト歐洲諸國民カ法律道德ノ觀念ヲ異ニスル他ノ國家ヨリ法制ノ司配ヲ受クルトキハ生命身體名譽及財產ノ保障ヲ維持スルコトヲ得サルヘシト思惟シ特ニ條約ヲ以テ取得シタル權利ナリ故ニ領事裁判權ハ所謂治外法權ト區別スルコトヲ必要トス(從來ハ此二者ヲ混同シテ使用セリ)後者ハ一國ノ主權者外交軍隊軍艦等特定ノモノカ決シテ他國ノ法權ノ下ニ立タストスル一種ノ特權即不可侵權ニシテ國際慣例ノ結果トシテ生シタルモノナリ之ニ反シ前者ハ特別條約ニ依リ各國ノ取得シタル權利ナリ

領事裁判所ノ管轄ニ付キテ述ヘンニ民事ニ在リテハ(イ)同國籍ヲ有スル人ノ間ノ爭訟ハ被告ノ住所地ヲ管轄スル領事ノ管轄ニ屬ス(ロ)異國籍ヲ有スル人ノ間ノ爭訟ハ

理論トシテハ諸國ノ領事ノ權限ニ屬スヘキモノナレトモ原則トシテハ被告ノ領事ノ管轄ニ屬セシム此ノ原則ハ現今歐洲列國ノ晋ク是認スル所ナリ (ハ)外國人ト土着人トノ爭訟ヲ管轄スル裁判所ハ又被告ニ對シ裁判管轄權ヲ有スル裁判所ナリ換言スレハ被告カ若シ土着人ナルトキハ其ノ所屬國ノ裁判所ニ繫屬シ被告カ外國人ナルトキハ其ノ所屬國ノ領事之ヲ管轄ス次ニ刑事ニ在リテハ原則トシテ (イ)被告タル犯罪人所屬國ノ領事之ヲ審判シ (ロ)被害者カ外國人若ハ土着人ナルトキハ行為地所屬ノ裁判所ニ繫屬スヘキモノトス

我國ノ領事官職務規則ニ於テ領事官ハ法令條約及慣例ニ牴觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フト規定シ又重罪ニ對スル公判ヲ爲スヲ得ス唯重罪ニ關スル豫審ヲ行フニ過キス而シテ豫審終結シタルトキハ該公判ハ長崎地方裁判ニ移送ニヘキモノトス又地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴院ニ提起スヘキモノニシテ又區裁判ノ管轄ニ屬スル事項ノ領事裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト定メラル

領事裁判所ノ適用スル法律ハ領事所屬國ノ法律ナルハ言ヲ俟タス其ノ手續法ノ如キハ國ニヨリテハ特別ニ之ヲ制定スルモノアリ我國ノ領事職務ニ關スル法律ハ我

附録第五

環太平洋事件ニ關スル國際法ノ研究

二五六

國ノ法令ニ由リ條約慣例ニ抵觸セサル範圍ニ於テ領事裁判事務ヲ處理スヘキ旨ヲ規定シタリ
(明治三十二年三月法律第七十號領事官ノ職務ニ關スル件)
 及同三十三年四月勅令第五百五十三號領事官職務規則參照)

第一款 南滿洲ニ於ケル日本ノ領事裁判權

日清戰爭以前ニ於テハ明治四年ノ舊條約第八條第九條第十一條第十三條等ノ規定ニ依リ支那ハ我國ニ對シ領事裁判權ヲ有シ我國亦支那ニ對シテ之ヲ有シタリシカ
 明治二十七八年戰役後ニ於テハ我國ノミ獨リ支那ニ對シテ此ノ制度ヲ有スルコトトナリ即明治二十九年七月締結ノ現行日清通商航海條約第三條ニ於テ日本領事官ハ裁判管轄權ヲ享有スルコトヲ規定シ又第二十條ニ於テ清國ニ在ル日本國民ノ身體財產ニ對スル裁判管轄權ハ當該日本官吏ニ專屬ス日本國臣民又ハ一切ノ他國臣民又ハ人民ヨリ日本國臣民竝其ノ財產ニ係ル訴訟ハ總テ清國官吏ノ干涉ヲ受クルコトナク右官吏ニ於テ審理判決スヘシト規定シ第二十一條ニ於テ清國官吏又ハ臣民カ清國ニ在ル日本國民ニ對シ又ハ其ノ財產ニ關シ民事訴訟ヲ起ストキハ日本國官吏ニ於テ之ヲ審理判決スヘシ云々又第二十二條第一項ニ清國ニ於テ犯罪ノ被告トナリタル日本國民ハ日本國ノ法律ニ依リ日本官吏之ヲ審理シ其ノ有罪ト認メタルトキハ之ヲ處罰スヘシ云々と規定セリ尙明治二十六年十月日清兩國間ニ締結シ

タル追加日清通商航海條約第十一條ニハ清國政府ハ其ノ司法制度ヲ改正シテ日本國及西洋各國ノ制度ニ適合セシムルコトヲ熱望スルヲ以テ日本國ハ右改正ニ對シテ一切ノ援助ヲ與フヘキコトヲ約シ且清國法律ノ狀態其ノ施行ノ設備其ノ他ノ要件ニシテ日本國カ満足ヲ遺スルトキハ其ノ治外法權ヲ撤去スルニ躊躇セザルヘシト規定セリト雖モ支那ノ法律ノ法律及裁判ハ未タ以テ我臣民ノ生命身體及財產ノ保護ヲ一任スルニ足ラス從テ我領事裁判權ヲ撤回スルノ時機到來セス而シテ我國ハ明治四十一年四月法律第五十二號ヲ以テ滿洲ニ於ケル領事裁判ニ關スル特別規定ヲ設ケタリ即左ノ如シ

第一條 明治三十二年法律第七十號第九條乃至第十二條ノ規定ハ滿洲ニ於ケル

領事裁判ニ之ヲ適用セス(領事官ノ職務ニ關スル事件中長崎地方裁判所又ハ同該法院ノ管轄ニ關スル事項ヲ指ス)

第二條 滿洲ニ於ケル領事官ノ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ關東都督府地方法

院之ヲ管轄ス

第三條 滿洲ニ駐在スル領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキ

ハ外務大臣ハ關東都督府地方法院ヲシテ其ノ裁判ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條 滿洲ニ於ケル領事官ノ爲シタル裁判及前二條ニ依リ關東都督府地方法

附錄第五 理藩部事件ニ關スル國際法ノ研究

附録第五 通商開港事件ニ關スル國際法ノ研究

二五八

院ノ爲シタル裁判ニ對スル上訴ハ終審トシテ關東都督府高等法院之ヲ管轄ス

第二款 間島地方ニ於ケル日本ノ領事裁判權

明治四十四年三月三十日法律第五十一號ヲ以テ間島ニ於ケル領事官ノ裁判ニ關スル件ヲ規定シ尙大正八年十月朝鮮總督府令第百六十五號改正ヲ以テ右領事官ノ裁判ニ對スル管轄裁判所ヲ指定セリ即左ノ如シ

第一條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ豫審ヲ爲シタル死刑無期又ハ短期一年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ該ル罪ノ公判ハ朝鮮總督府地方法院之ヲ管轄ス

第二條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ外務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ當該領事官ニ命シ且被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依リ被告人ヲ朝鮮ニ於ケル監獄ニ移送スル場合ニ於テ朝鮮總督ハ被告人ノ移送セラルル監獄所在地ヲ管轄スル朝鮮總督府覆審法院ノ

檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ覆審法院ニ爲サシムヘシ

前項ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第四條 間島ニ駐在スル帝國領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ朝

朝鮮總督府覆審法院之ヲ管轄ス

第五條 第一條乃至第四條ノ場合ニ於テ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮總督府裁判所ヘ

朝鮮總督之ヲ定ム明治四十四年法律第五十一號ニ依リ管轄權ヲ有スヘキ朝鮮
總督府裁判所ハ左ノ如ク定メラル

一 咸興地方法院清津支廳

一 京城覆審法院

尙間島ニ於ケル領事官ノ管轄區域ヲ舉クレハ左ノ如シ

吉林省 延吉、和龍、汪清、琿春各縣

奉天省 撫松、安圖各縣

第四節 國家ノ權利義務ノ承繼

國家ノ變更ニ伴フヘキ權利義務ノ承繼ノ中國家ノ人格即領土竝人民ニ關スル變更
例ヘハ國家ノ新立及滅亡ノ場合又ハ一國カ他國ノ一部ヲ取得スル場合ニ於テ舊國
カ第三國ト締結シ居タル條約及國際關係上其ノ國ノ有シタル權利義務ハ新國又ハ
其ノ土地及人民ヲ併合シタル國家ニ於テ舊國ヨリ承繼スルモノトセサルモノトア
リ
(朝鮮カ日本ト併合シタル爲從來朝鮮カ他ノ第三國ト締結セル條約及國際關係上其ノ權利義務ハ日本ニ於テ其ノ繼承スルモノト、セサルモノトアリ) 其ノ繼承ト否トハ全ク各權利

附錄第五 通商開港事件ニ關スル國際法ノ研究

附録第五

現存開島事件ニ關スル國際法ノ研究

呂森Q

義務ノ性質ニ依リテ決定スヘキモノナリト雖モ彼國內組織ノ變更例ハ支那ニ於テ舊清國ノ帝政滅ビ民國ト變革シタル今日ト雖モ支那カ一箇ノ政治團體タル上ニ於テ何等ノ變化ナキ限リハ支那カ外國ニ對シテ有セル條約國債其ノ他一切ノ權利義務ノ關係ハ毫モ變更ヲ受クルコトナシ殊ニ條約ニ付キテハ千八百三十一年二月倫敦會議ノ議定書第十九號ニ於テ「人民內國組織ニ關スル變更如何ニ拘ラス諸條約ハ其ノ効力ヲ失ハサルコトハ最前ノ原則ナリ」ト言明セルヲ見テモ所謂屬人的條約即チ主權者若ハ一王統カ箇人的ニ締結シタル條約ヲ除キテ其ノ他一切ノ條約ハ締約國ニ於ケル國內組織ノ變更ニ依リ何等ノ影響ヲモ及ボササル明カナリトス

第二章 國家ノ自衛權

國家ノ自衛權トハ國家自身其ノ機關又ハ人民ノ危害ノ急迫ナル場合ニ之ヲ避クル爲他國ノ權利ヲ侵害スルモ權利行爲トシテ許容セラルヘキ非常權ヲ謂フ故ニ其ノ發動ニハ左ノ條件ヲ要ス

一、國家自身其ノ機關又ハ人民ノ危害カ急迫ナルコト

國家ハ自ラ其ノ滅亡ヲ防止スルコトヲ努ムルノミカラス其ノ國家ノ構成ニ必要ナル諸要素ノ存在ヲ維持センコトヲ欲ス例ヘハ土地人民及諸官衙ハ國家ノ有形

的要素ニシテ主權及政體ハ其ノ無形的ノ要素ナレハ此等ノモノノ保存ヲ計ルハ
國家ノ自衛權ニ屬スルモノトス

二、已ムヲ得サルニ出テタルコト

他ノ手段ヲ以テシテハ到底自衛ノ目的ヲ達スル能ハス且其ノ手段ヲ執ルニ付キ
緊急ノ必要アルコト

三、自衛ノ爲ニスル行爲ハ自衛ニ必要ナル程度ヲ超エサルコト

自衛ニ必要ナル程度ヲ超エタル行爲ハ即他國ノ權利ヲ侵害スル不法行爲ナルヲ
以テ國家ハ其ノ責任ヲ負ハサルヘカラス

四、危害ハ自衛行爲ヲ行フ國家自身又ハ其ノ機關ノ不法行爲ニ基キタルモノニ非サルコト

自衛權ニ藉口シテ他ノ目的ノ爲ニ故ラ急迫ナル侵害ヲ誘致シ其ノ侵害アルヲ待
テ自衛權ヲ行使スルカ如キハ之レ權利ノ濫用ニシテ國際道德ノ觀念ト相容レサ
ル所ナリ

以上一乃至四ノ條件ヲ具備スル場合ニ自衛權ヲ行使スルハ之ヲ權利行爲ト稱ス
ル能ハサルモ自衛上ノ緊急狀態存スルノ故ヲ以テ國際法上一般ニ許容セラル

五、危害カ自衛行爲ノ加ヘラルヘキ國家又ハ其ノ機關ノ不法行爲ニ因リテ起レルカ
 又ハ少クトモ其ノ國家又ハ其機關カ危害ノ生スルヲ防クノ責任ヲ全ウセサルコト
 一國カ他國ノ爲ニ其ノ存立ノ安全ヲ脅サレ又ハ其ノ國ノ怠慢若ハ實力無キニ因
 リ一國ノ官衙若ハ臣民カ危害ヲ被ルノ虞アル場合ニハ他國ノ權利ヲ侵害シテ自
 國ノ危難ヲ避クルノ手段ヲ講シ得ヘク非常ナル危險アル場合ニハ兵力ヲ用キテ
 之ヲ排除スルコトヲモ得ルモノナリ此ノ權利ハ平時戰時ヲ問ハス國家ノ主權ニ
 隨伴スル最も重要ナルモノトス個人カ社會ニ於テ生活ヲ營ミ身體及財産ヲ安全
 ニ保持スルノ權利ハ他人ノ侵害ヲ許ササルモノニシテ自己ノ危害ヲ避クルニ必
 要ナル範圍内ニ於テハ他人ノ權利ヲ侵害スルコトアルモ正當防衛トシテ罪ト爲
 ササルカ如ク國家亦其ノ生存ヲ保持スル爲危害ヲ避クルニ必要ナル行爲ヲ爲ス
 ノ權利ヲ有スルモノトス但此ノ權利ヲ行フニ付キテハ自ラ之ヲ避ケントスル危
 害カ明白重大且急迫ニシテ當時其ノ手段ヲ採ルノ外他ニ之ヲ避クルノ途ナキマ
 トヲ要シ更ニ又其ノ實行ニ付キテハ被害國ニ對シテハ敵意ヲ有スルコトナク自國
 ノ危害ヲ避クルニ必要ナル行爲ノ外之カ爲ササルコトヲ要スルナリ今回ノ琉春
 間島地方出兵ノ如キハ正シク此ノ條件ニ該當スル自衛權ノ行使ニシテ後段更ニ

説明スル所アルヘシ

國家自衛權ノ中ニハ國內法ニ屬スルモノト國際法ニ屬スルモノトノ別アリ又自然ノ出來事ニ對シテ之ヲ行フモノト人爲ノ出來事ニ對シテ行フモノトノ別アリ而シテ自然ノ出來事例ヘハ疫病飢饉等ニ對シ豫防又ハ救助ノ爲非常處分ヲ施スハ單ニ國法上ヨリ自衛權ヲ行使スルモノト認ムヘキモノ多シト雖モ稀ニ國際法上ヨリ之ヲ行使スルモノト認ムヘキモノナキニ非ス例ヘハ疫病ノ流行スル國ト交通ヲ遮斷シ其ノ國ヨリ來ル旅人若ハ船舶ニ消毒ヲ施スカ如キハ國際法ニ屬スル自衛權ノ行使トス又人爲ノ出來事(特ニ國家間ノ竊ノ隱謀等)ノ中ニ就キ單ニ國內法上ノ自衛權ニ依リテ處分スヘキモノハ內國臣民若ハ無國籍人ニシテ內國ニ於テ政府ニ對シ隱謀ヲ企ツル場合ニ限ルト雖モ國際法上ノ自衛權ニ依リテ處分スヘキ場合ニハ左ノ三種アリ

一、外國臣民ニシテ內國ニ在リテ內國政府ニ對シテ隱謀ヲ企ツル者外國臣民モ內國ニ滞在スルトキハ警察及刑事上ニ於テ總テ之ヲ內國臣民ト同一ニ待遇スルヲ得ヘシ外國使臣ハ治外法權ヲ享有スト雖モ國事ニ關スル緊急ノ場合ニ於テハ之ヲ逮捕シテ本國政府ニ引渡スコトヲ得ヘク又外國領事ハ條約面ニ特權ヲ有セサル

限リハ斯ル場合ニ於テハ一外國人ト看做シテ之ヲ處分スルコトヲ得ヘシ

二、國籍ノ如何ヲ問ハス外國ニ在リテ内國政府ニ對シ隱謀ヲ企ツル者此ノ場合ニ隱謀者ハ被害國ノ主權ノ行ハレサル處ニ在ル事ナレハ之ヲ逮捕スルコトヲ得サルノミナラス其ノ隱謀ヲ探知スルコト亦困難ナリ然レトモ緊急ノ場合ニハ外國ノ領土内ニ侵入シテ兵力ヲ以テ暴徒ヲ鎮壓シタル實例ナキニアラス例ヘハ西曆千八百三十七年ニ英領加奈陀ノ叛亂平定後國境ニ於ケル叛徒ノ一團ハ米國ノ領土「ネーヅキー」島ヲ根據地トシ義勇兵ヲ募集シ戰備ヲ整ヒ反亂ヲ遂行セントセル際米國人民ハ叛徒ニ同情シ米國艦「カロリン」號ヲ其ノ用ニ供シ軍需品ヲ同島ニ運搬セシメントシタルヲ以テ加奈陀ノ士宣ムレオド「ハ其ノ水兵ト共ニ右「カロリン」號ヲ米國領内ニ於テ拿捕シ且放火シテ之ヲ「ナイカガラ」ノ溪中ニ沈メタリ當時米國政府ハ之ニ對シ抗議ヲ爲シタルモ遂ニ英國政府ノ意見ニ服シ之ヲ自衛權ノ行使ト認メタリ「カロリン」事件ト稱スルモノ是ナリ

三、兩國政府ノ中一方ヨリ他ノ一方ニ對シ隱謀ヲ企ツル者

此ノ場合ニハ隱謀者ハ外國政府ナルヲ以テ容易ニ其ノ隱謀ヲ暴露スルコトヲ得ス然レトモ其ノ隱謀既ニ熟シ今ニモ外形ニ顯ハレントスルコトヲ探知シタルト

キハ之ヲ遮止センカ爲彼ハ先シテ事ヲ起スコトヲ得ヘシ例ヘハ普國ハ散逸カ塊國等ト連合シテ我ヲ攻メンコトヲ探知シタレハ千七百五十六年ニ却テ我ヨリ先ツ散逸ヲ襲ヒタリ又英國ハ那破翁一世カ丁抹ノ海軍ヲ利用シテ我ヲ征センコトヲ探知シ千八百七年ニ却テ我ヨリ先ツ「コッペンヘーゲン」府ヲ砲撃シテ其ノ海軍ヲ一時傾置センコトヲ強請シタリ丁抹ハ此ノ請求ヲ以テ對敵行爲ト看做シ英國ニ對シ戰爭ヲ開始セリ丁抹ノ行爲モ固ヨリ批難スヘカラスト雖モ英國ノ請求亦自衛權ノ行使ニシテ敢テ咎ムヘキニアラス

之ヲ要スルニ國家カ非常ノ危險ニ迫リ之ヲ避クルニ他ノ手段ヲ擇フノ餘裕ナク又當時其ノ非常手段ヲ實行スルノ他ニ探ルヘキ方法ナキ場合ニハ此ノ非常權ヲ行使シ得ヘク而シテ其ノ如何ナル場合ナリヤハ全ク事實問題ニ屬スルモノトス以上ノ外隱謀ノ事實ナキ時ト雖モ我カ自衛權ノ行使トシテ外國政府ノ事ニ強制的ニ干渉シ得ル場合アリ（併合前韓國ニ對シテ帝國ノ探知ナル如ク）又國家ハ條約ニ依リ自ラ自衛權ノ行使ヲ制限スル場合ヲ生スルコトアルヘキモ茲ニ之ヲ省略ス

第一節 琉球間島事件ト自衛權

附錄第五 琉球間島事件ニ關スル國際法ノ研究

附録第五

環太平洋事件ニ關スル國際法ノ研究

二六六

本年九月十二日十月二日ノ兩度ニ支那馬賊及之ニ加擔セル不逞鮮人ノ一團ハ琿春ニ來襲シテ放火掠奪ヲ恣ニシ特ニ十月二日ニハ直ニ帝國領事分館ニ殺到シテ本館並官舎ニ放火シ次テ居留地及支那街ニ到リ財寶ヲ掠奪シ無辜ヲ殺戮シ殘忍ヲ極メタリ當時支那軍隊ハ相當駐屯セルモ難退セラレタルノミナラス却テ賊徒ニ加擔シテ奪掠ヲ敢テシタルモノアリ調査ニ依レハ賊ノ總數ハ約四百名ニシテ內露國人五名不逞鮮人約百名支那官兵ノ參加セルモノ數十名ニ及ヘリト此ニ於テ朝鮮軍司令官ハ直ニ獨斷第十九師團長ヲシテ歩兵若干部隊ヲ琿春ニ急派セシメ次テ大命ニ依リ諸兵連合ノ部隊ヲ以テ遙ニ浦潮派遣軍ヨリ出動セル混成ノ若干部隊ト策應シ琿春東寧汪清延吉和龍ノ五縣ニ亘リ賊徒ノ剿討ニ着手セリ右出兵ノ目的ハ琿春及間島地方ニ在ル帝國臣民ヲ保護シ該地方ニ於ケル不逞鮮人ヲ一掃シテ帝國就中朝鮮ノ治安ヲ維持スルニ在リテ國家自衛上己ムヲ得サルニ出テタルモノナリ之ヲ國際法理上ヨリ見ルニ今回ノ出兵ハ上來説明セル國家自衛權發生ノ各條件ヲ具備セルモノト謂ハサルヘカラス即領事館及居留民ノ危害急迫ニシテ兵力ヲ以テスルニ非ツレハ之ヲ保護ノ目的ヲ達スル能ハス而カモ右危害ハ何等我カ不法行爲ニ基キテ誘發セシメタルモノニ非ス又危害ハ主トシテ支那ノ馬賊及之ニ加擔セル不逞鮮人

ニ依リテ犯サレタルニ拘ラス支那ハ之カ討伐ヲ意リ遂ニ前記ノ危害ヲ被ルニ至ラシメタルモノナレハナリ尙我軍ハ支那ト協同シテ討伐ヲ開始センコトヲ申込ミ若シ支那ニ於テ應セスンハ不得已單獨行動スヘキコトヲ附加シ且彼我剿討ノ區域ヲ協定シタルカ如キ右ノ場合敢テ必要條件ニ非スト雖モ國際上ノ信義ヲ守リ目的以外ニ支那ノ主權ヲ侵害スルモノニ非サル旨ヲ明示シタルモノナリ

國家自衛權ノ行使ハ必スシモ他國ノ惡意ニ出テタル場合ノミニ限ルニ非ス他國カ怠慢若ハ實力ナクシテ該危害ヲ排除セサル場合ニ被害國ハ自衛上進テ之ヲ排除スルコトヲ得ヘキハ前述ノ如シ例ヘハ甲國ノ境界ニ騷亂者ノ一團屯在シテ乙國ノ治安ヲ害スルニ當リ甲國ニ於テ之ヲ鎮定スルコト能ハサルトキハ乙國ハ進テ其ノ圍隊ヲ攻撃シ之ヲシテ自國ヲ侵害セシメサルニ必要ナル手殺ヲ講ジ得ヘシ之カ實例トシテ十九世紀ノ初ニ於テ西班牙國カ米大陸植民地ニ對スル勢力ノ微弱ナリシカ爲千八百十五年「フロリダ州附近」アバチュラ「河畔」ニ盜賊ノ一團根據ヲ占メ米國ノ境界ヲ侵畧シタルニ因リ米國政府ハ其ノ鎮定ヲ西班牙國太守ニ請求シタレトモ之ニ應セザリシカ故ニ大統領「モンロー」ハ軍隊ヲ派遣シテ之ヲ鎮定シタリ又千八百十八年「セント・マークス」事件ニ於テハ同大統領ハ西班牙國領「ベンサコラ」ニ於テ暴徒ノ集

例米國領内ニ奪掠ヲ行ヒタルニ因リ西班牙國太守ニ對シ暴徒ノ鎮定及之カ處罰ヲ
請求シタルニ拘ラス同太守之ヲ拒ミタルヲ以テ米國ハ再ヒ軍隊ヲ派遣シテ暴徒ノ
根據地ヲ剿討シタルコトアリ

這回ノ騷擾ヲ假リニ不退鮮人ノミノ所爲ニ係ルモノトスルモ帝國ハ尙自衛上支那
ノ領土ニ出兵シテ之カ禍根ヲ一掃スルコトヲ得ヘキ理由アリ何トナレハ國家自衛
權ノ發動ハ上述ノ如ク必スシモ他國ノ惡意若ハ怠慢ニ因ル結果其ノ國ノ人民カ自
國ノ權利ヲ侵害スル場合ノミニ限ラスシテ國內事項即自國臣民カ自國ノ機關若ハ
臣民ニ危害ヲ加ヘントスル場合ニ於テ自衛ノ必要ヨリ己ムヲ得ス他國ノ權利ヲ侵
犯スルヲ得ルコトアルハ前記「カロリン事件」ノ場合ニ於テ之カ實例ヲ見ル當時米國
政府ハ領土主權侵害ノ理由ニ基キ英國ニ抗議シ且論シテ曰ク英國カ米國ノ領土主
權ヲ侵害シタルニ付キテハ自衛ノ必要ニ迫リ其ノ危險且重大ニシテ他ノ手段ヲ擇
ブノ迫ナキコトヲ證明スルニ非サレハ責任ヲ免ルルコト能ハス且又其ノ行爲ハ自
衛上必要トスルモ固ヨリ危險ヲ避タルニ必要ノ範圍内ニ於テシ夫レ以外ニ超脱ス
ヘカヲサルカ故ニ事實上範圍外ノ行爲ハ毫モ行ハレザリシ旨ヲ證明スルニ非サレ
ハ其ノ責任ヲ免ルヘカラストシ之ニ對シ英國政府ハ自衛權行使ノ場合竝實行ノ範

國ニ關シテハ米國政府ノ主張ト全然其ノ見解ヲ同ウシ而シテ本件ニ就キ英國ノ行爲ハ此ノ事情ノ下ニ於テ其ノ範圍モ自衛ニ必要ナル程度ニ止リタルコトヲ證明シタルカ爲米國モ其ノ説明ニ満足シテ此ノ紛議ヲ終局シタリ
之ヲ要スルニ道同ノ出兵ハ國際法上ノ理論ニ照シ前例ニ徴スルモ悉ク正常ニシテ支那カ領土主權ノ侵害ヲ以テ我ニ對セントスルカ如キハ毫モ介意ノ要ナキモノト謂ハサルヘカラス

第二節 朝鮮ノ防衛ト守備勤務

朝鮮軍司令部條例第三條ニ軍司令官ハ朝鮮總督ヨリ安寧秩序ヲ保持スル爲出兵ノ請求ヲ受クル時ハ之ニ應スルコトヲ得但事急ニシテ朝鮮總督ノ請求ヲ待ツノ迫ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處置スルコトヲ得トアリ恰モ師團司令部條例ニ於ケル師團長ト地方長官トノ關係ト同一趣旨ノ下ニ規定セラレ然レトモ朝鮮内ノ安寧秩序ヲ維持スルハ先ツ警察權ヲ有スル朝鮮總督及地方長官ノ任スル所ニシテ警察權ヲ以テシテハ到底治安ヲ維持スルコト能ハサルニ及ヒ茲ニ市メテ兵力ヲ用ユルニ至ルヘキヲ順序トス故ニ先ツ朝鮮總督ヨリ出兵ノ請求ヲ受ケ然ル後出動スルヲ以テ常例ト爲スヘキモ同條例第一條ニ於テ軍司令官ハ朝鮮ニ在ル陸軍諸部隊(朝鮮總督隊ヲ除ク)ヲ

統率シ朝鮮ノ防衛ニ任スル旨規定セルヲ以テ事急ニシテ總督ノ請求ヲ待ツノ違ナ
キ場合ニハ直ニ兵力ヲ以テ便宜處置スル等右任務ノ遂行ニ就キ全力ヲ注カサルヘ
カラス是實ニ同例第三條第一項後段ノ規定アル所以ナリ尙風雲急ニシテ事態容易
ナラサル場合ノ如キハ臨時戒嚴シモ宣告スル事ヲ得ヘキハ戒嚴令第四條乃至第六
條ノ規定ヲ見テモ明カナリトス

(戒嚴令ハ大正二年九月二十五日勅令第二
百八十三號ヲ以テ朝鮮ニモ施行セラル)

右ノ如ク軍司令官ハ朝鮮ノ防衛ヲ以テ其ノ任務ト爲スカ故ニ之カ遂行上在鮮陸軍
諸部隊ヲ樞要ノ地ニ配置シ各其ノ守備區域内ノ防衛ニ任セシメンカ爲朝鮮屯在部
隊守備勤務ニ關スル規定ヲ設ケタリ該規定ニ依レハ軍司令官ハ守備區域及守備隊
ノ配置ヲ定メ第十九第二十師團長ヲシテ隷屬部隊ノ各所管區域内ノ守備勤務ヲ統
轄セシメタリト雖モ直接防衛ノ任ニ當ル者ハ守備隊トス故ニ之ニ長タル者ハ常ニ
隣接守備隊憲兵及地方官憲ト密接ナル連絡ヲ保持スルト同時ニ地方ノ情況ニ精通
シ應急ノ處置ニ就キ遺漏ナキヲ期セサルヘカラス然レトモ前述ノ如ク一地方ノ治
安ヲ維持スルハ直接地方警務機關ノ任スル所ナルヲ以テ守備隊ハ主トシテ武力ヲ
要スル方面ノミニ當ルヘキモノナル事ヲ忘ルヘカラス右規定第二章第十條ニハ守
備隊長及守備勤務ニ任スル各長官ハ朝鮮ノ安寧秩序ヲ保持スル爲地方長官ヨリ兵

力ノ請求ヲ受ケタル時ハ（朝鮮總督府地方官
官制第八條參照）軍司令官ノ認可ヲ受クヘシ但事急ナレハ直
ニ之ニ應スルコトヲ得若シ地方長官ノ請求ヲ待ツノ迫ナキトキハ兵力ヲ以テ便宜處
置スルコトヲ得ト規定セリ之レ普通兵力ヲ用ユル場合ハ軍司令官ノ認可ヲ要スヘ
キモノナルモ事急ニシテ認可ヲ得ルノ迫ナク加之地方長官ノ請求ヲモ待ツノ迫ナ
キ場合ニ於テ獨斷專行ノ餘地ヲ與ヘンカ爲設ケタル規定ナルヲ以テ其ノ機宜ヲ逸
スルコトナキヲ要スルト同時ニ目的以外ニ超脱シテ物議ヲ醸スコトナキヲ顧慮セ
サルヘカラス

次ニ國境ノ警備ニ任スル部隊ハ其ノ守備區域内ノ防衛ニ任スルハ勿論對岸ヨリ侵
入スル武裝團體ニ對シテハ軍ノ耳目トナリ國境監視ニ任スル憲兵及國境地方ノ治
安維持ニ任スル地方警務機關トノ聯繫ニ付キ遺漏ナカラシメ以テ之カ殲滅ヲ期セ
サルヘカラス其ノ他外國ノ軍隊若ハ武裝セル外國軍人等ノ我領域内ニ進入セント
スル發見シタル場合ノ如キ彼我兩國官憲ニ於テ了解ヲ經タル場合ノ外ハ之ヲ抑留
シ附近ノ憲兵若ハ警察官署ニ通報スヘキモノナリ

國境守備隊ノ注意スヘキハ妄リニ國境ヲ越ユ對岸接壤國ニ進入スヘカラサルコト
之ナリ若シ對岸ニ在ル帝國臣民ノ保護又ハ江岸ノ防衛上進入ノ要アリト認ムル場

合ニハ軍司令官ノ認可ヲ受ケサルヘカラス元來國外ノ出兵ハ大權ノ發動ニ俟ツヘキモノニシテ軍司令官ト雖モ條例上當然ノ權ナシ其ク之ヲ敢テスルハ機宜ノ處置ニシテ軍司令官ハ身ヲ以テ其ノ責ニ任セサルヘカラス此ノ場合部下諸隊長ニ獨斷專行ヲ許ササルノ趣旨亦之ニ存ス然レトモ匪徒ク一團カ突然對岸ヨリ武力侵入ヲ企テ守備隊ニ向テ挑戰シ守備隊ハ自衛上之ヲ戰ヲ交ヘ逃クルヲ逐フテ對岸ニ進出スルカ如キハ自衛權ノ延長トシテ許容セラルヘキモノニシテ軍司令官カ本件ニ關シ特別ノ訓令ヲ下シタル所以ナリ但自衛ニ必要ナル範圍ニ止メ安リニ長驅シテ接壤國ノ領土内ニ進入スルカ如キハ嚴ニ之ヲ戒メサルヘカラス其ノ他守備勤務上交通機關ヲ保護諸般ノ報告調査等ノ詳細ニ關シテハ同規定ニ掲ケアルヲ以テ之ヲ略ス

次ニ朝鮮ノ防衛ニ關スル憲兵ノ任務ニ付キ一言セント欲ス抑憲兵ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ主トシテ軍事警察ヲ掌リ兼テ行政警察及司法警察ヲ掌ルヲ本領トスト雖モ朝鮮ニ在リテハ國境ノ監視ナル任務ヲ附加セラレアルハ憲兵條例ノ示ス所ナリ而シテ軍事警察及國境監視ニ係ルモノハ朝鮮軍司令官ノ指揮ヲ承クヘキモノナルコト亦同條例ノ示ス所ナリ

(地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ朝鮮國境ヲ指示セザル)

竝國境監視ノ服務ニ關スル諸規定亦軍司令官之ヲ定ム今軍事警察竝國境監視ニ關スル服務ノ要領ヲ掲クルトキハ

一、憲兵ハ常ニ陸海軍ニ關係スル社會ノ狀況ヲ觀察シ若シ陸海軍ニ不良ノ影響ヲ及ス虞アリト認メタル事項ハ速ニ關係諸部隊官廳ニ通報シ之ヲ警防ニ努ムルコト

二、國境ニ於ケル憲兵ハ守備隊ノ耳目トナリ國境出入者ヲ觀察シ且對岸ノ狀況ヲ知悉シ警備上必要ト認メタル事項ハ機ヲ失セス關係諸官ニ報告又ハ通報スルト共ニ奸惡不逞ノ輩ヲ逸セサルコトヲ努ムヘキコト

ノ二點ニ歸ス而シテ國境監視ノ爲ニハ監視所ヲ設ケ對岸ノ狀況就中馬賊匪徒及不逞鮮人ノ動靜ヲ諷知シテ警防上遺憾ナカラシムルヲ要ス之カ爲ニハ附近守備隊竝地方警察官署及隣接監視所ト密接ノ連絡ヲ保持セサルヘカラス尙守備隊ノ項ニ於テ述ヘタルガ如ク妄リニ對岸ニ進入シテ警察權ヲ行使スルカ如キハ他國ノ領土主權ヲ侵害シ紛爭ノ基ヲ成スコトアルヲ以テ注意セサルヘカラス斯ノ如キ場合ニ於テハ須ラク先ツ其ノ地ノ日本領事館ト交渉シテ適當ノ措置ヲ採ルヲ良策トス尙防衛ト請求ニ基ク出兵トニ關シテ研究ヲ要スヘキ問題アリソハ陸軍刑法第四十

附録第五

琉球開港事件ニ關スル國際法ノ研究

二七四

四條司令官出兵ヲ要求スル權アル官憲ヨリ其ノ要求ヲ受ケ故ナク之ニ應セサルト
 ヤハ二年以下ノ禁錮ニ處ストノ規定之ナリ朝鮮軍並師團司令部條例及守備勤務規
 定等ニ朝鮮總督又ハ地方長官ヨリ出兵ノ請求ヲ受クル時ハ之ニ應スルコトヲ得ト
 ノ規定アリ故ニ其ノ未タ斯ル時機ニ達セサルモノト認ムルカ或ハ出兵ニ因リ意外
 ノ禍害若ハ紛議ヲ醸スヘキ虞アリト認ムル場合ノ如キハ要求ニ應シテ出兵セサル
 ニ付キ正當ノ理由アルヲ以テ右陸軍刑法第四十四條故ナクニ該當セサルヘシト雖
 モ右規定ヲ誤解シ應スルト應セサルハ自由ナリトナシ何等ノ理由ナキニ拘ラス出
 兵要求權アル官憲ノ要求ニ應セサルカ如キ場合ニハ故ナク即正當ノ理由ナキ場合
 ニシテ同條所定ニ該當スルモノト謂ヘサルヘカラス尙領事官ノ出兵請求權ヲ研究
 スルニ領事官職務規則ニハ出兵請求權ヲ規定シタルモノナシト雖モ同規則第二條
 ニ領事官ハ駐在國ニ於テ日本臣民ヲ保護シ帝國ノ通商航海ニ關スル利益ヲ維持増
 進スヘシ第五條ニ領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在ル日本臣民ノ救助又ハ取締ノ爲必
 要ナル措置ヲ爲スヘシ第六條ニ領事官ハ其ノ管轄區域内ニ於テ日本臣民ノ財産又
 ハ遺産ノ保護管理ニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ第十七條ニ領事官ハ其ノ職務上必要
 アルトキハ帝國軍艦ニ補助ヲ求ムルコトヲ得等ノ規定存スルヲ見レハ接壤國(朝鮮併合)

以前ニハ接壤國ナルモノナカリシヲ以テ軍艦云々ノ規定ノミ掲ケラレタルモノナルニ駐在スル領事官ハ居留民ノ生命財産ヲ保護スルカ爲緊急ノ必要アリト認メタルトキハ附近駐屯ノ司令官又ハ隊長ニ對シ出兵ヲ要求スルカ如キハ固ヨリ適當ノ處置ナルヘシト雖モ之ヲ以テ直ニ出兵ノ請求權アリト解釋スルハ妥當ナラス然レトモ既ニ軍艦ニ對シ幫助ヲ求ムルコトヲ規定シタル關係上今日接壤國ニ於ケ領事官ノ附近駐屯ノ軍隊ニ對シ幫助ヲ求メ得サルノ理ナキヲ以テ此ノ點ハ將來改正セラルヘキモノナルコトヲ信スルナリ

第三章 滿洲ノ變遷及日清關係諸條約

滿洲ハ支那ニ於テハ今日ヨリ約三千年前殷周ノ時代ニ於テ肅慎稷慎又ハ挹婁等ノ稱ヲ以テ又我國ニ於テハ千三百年前肅慎ノ名ヲ以テ史上ニ現ハルルヲ見ル肅慎ハ「トングス」族トモ稱シ滿洲民族ノ祖先ナリ現今牡丹江ノ北方饒泊湖ノ附近ニ肅慎ノ都セシ遺迹ヲ認ム肅慎ニ次テ現ハレタル民族ハ契丹靺鞨扶餘女真等之ナリ扶餘ハ二千年前漢ノ時代ニ今日ノ長春ノ西ナリ農安縣ヲ根據トシテ松花江ノ流域ニ發展シタリ次ニ起レルハ漢末即今ヨリ千八百年前ノ高句麗國トシ約七百年間滿洲ニ蟠居シ漸次朝鮮半島ニ南下シ今日ノ平壤ヲ都トシテ滿洲及西朝鮮ヲ支配セリ高句麗ハ唐ノ爲ニ滅サレタルカ代リテ靺鞨ノ一族カ渤海國ナルモノヲ建設シ其版圖ハ鴨

附録第五

環太平洋事件ニ關スル國際法ノ研究

二五六

綠江口ヨリ遠ク奉天附近ニ達セリ渤海國ハ約三百年國勢ヲ維持シ我日本トモ交通セリ渤海國ハ版圖内ニ五京ヲ置キ其中南京府ヲ今日ノ間島即延吉廳ノ附近ニ置キ新羅ト交通セリ渤海國ハ南北滿洲ニ亘リ大國ヲ建設シタルモ契丹族ノ爲ニ滅サレ契丹ハ突厥族ノ爲ニ突厥ハ女真民族(即金國)ノ爲ニ金國ハ蒙古種族ヨリ興レル元ノ爲ニ滅サレタリ元ハ行政廳ヲ今日ノ遼陽ニ置ケリ元ハ漢人種ナル明ノ爲ニ滅サレ明ハ滿洲民族ナル清朝ノ爲ニ滅サル元明ノ間ハ滿洲民族退歩ノ時期ト爲ス

滿洲ニ於ケル漢人種ト滿洲民族トノ交渉ハ前述ノ如ク三千年前ヨリ開ケタルモノ如シト雖モ漢人種ハ滿洲ヲ朝鮮征伐ノ通路トシ又ハ滿洲民族ノ跋扈ヲ牽制シテ支那本部ヘノ侵入ヲ防キタルニ止リ力ヲ滿洲ニ用キタルノ跡ナク邊境北狄ノ地トシテ多ク顧ミサリシモノノ如シ清朝ニ及ヒ滿洲ヲ平定シテ都ヲ瀋陽(奉天)ニ定ムルヤ清朝發祥ノ地トシテ漢人種ノ移住ヲ防キタルモ漢人種ハ漸次山東及直隸方面ヨリ侵入移住シテ肥沃ノ地ヲ開墾シ農業興リテ各地ニ市ヲ成スニ至リ本來ノ滿洲民族ハ其ノ勢力衰ヘ日ニ其ノ跡ヲ絶テ今日ニ於テ僅ニ琿春吉林附近及松花江沿岸ニ散在スルニ過キス露國ノ北滿洲ニ侵入セルハ西歷千六百五十年頃ハバロフ將軍西

伯利ヲ征伏シ南下シテ黒龍江方面ニ勢力ヲ展シタルヲ初トス次テ千八百四十七年
 「ムラヅイ」ヲ以テ東部西伯利總督ニ任シ（通商條約アリシニヨリイフスキ市ノ千八百五十年ニ建設セラレタルモノナリ）益々南下ノ
 政策ヲ採リ同氏ハ清朝ニ迫リテ愛瑯條約（咸豐八年西曆千八百五十八年）ヲ締結シ黒龍江ノ左岸ヲ總
 テ露國ノ有トナシ次テ千八百六十年「イグナチー」ヲ北京ニ遣シ北京條約ニ依リテ
 更ニ沿海洲一帯ヲ露領トナシ千八百七十二年浦潮港ヲ占領シテ海軍ノ根據地ヲ定
 メ露國ノ東方經營ハ益々發展シ千八百九十六年「カシニ」條約ニ依リ西伯利鐵道ヲ
 延長シテ東清鐵道ヲ布設シ北滿洲ヲ縱貫シテ長春遼南下シ哈爾濱ニハ一都市ヲ建
 設シテ滿洲經略ノ根據ヲ堅クセリ時偶々日清戰爭起ル同戰爭ハ朝鮮ニ於ケル日清
 兩國ノ勢力ノ衝突ニ基因セルモノニシテ清國遽ニ屈伏シテ和ヲ乞フニ至リ明治廿
 八年四月下ノ關ニ於テ講和條約ヲ締結シ之ニ因リ我ハ遼東半島ノ地ヲ清國ヨリ割
 受スヘカリシニ突如露獨佛三國ノ干涉アリ我ハ怨ヲ吞テ三國ノ橫暴ト清國ノ老獪
 トニ憤激シ酬ユヘキ機會ヲ待テリ特ニ奇恠ナルハ露國カ我ニ迫リテ遼東半島ヲ清
 國ニ還付セシメナカラ其ノ翌年右半島ノ旅順大連ヲ租借シ南滿洲鐵道敷設權ヲ合併
 セ獲タル事之ナリ駐支露國公使「カシニ」伯ノ劃策ニ出テタルモノニシテ實ニ明治
 三十一年四月ナリ次テ英佛獨ノ各國ハ爭フテ清國內ニ租借地ヲ求メ各自利權ノ獲

得ニ汲々タリシカ就中露國ハ暴威ヲ逞ウシ滿洲ニ於ケル支那ノ主權ヲ無視シ之ヲ自國ノ領土ノ如ク取扱ヒタルヲ以テ明治三十五年三月日英同盟成立シ兩國協同シテ露國ニ迫リ清國ニ滿洲ヲ還付スヘク盟ハシメタルモ之ヲ實行セサルノミナラス南滿洲鐵道ヲ完成シ益々兵ヲ増シ其ノ根柢ヲ堅固ニヒルノミナラス更ニ軍隊ヲ韓國内ニ入レ鴨綠江ノ森林ヲ伐截シテ龍巖浦ニ兵ヲ駐屯スルニ至レリ此ニ於テ我政府ハ斷乎トシテ露國ニ抗議シ韓國内ノ撤兵ト滿洲ニ於ケル誓約ノ實行トヲ迫リタルモ露國ハ毫モ我ニ耳ヲ假サス自ラ爲サント欲ス所ヲ爲シテ憚ラサリシヲ以テ我國モ遂ニ奮然起テ露國ニ對シ國交斷絶ヲ通告シタリ時ニ明治三十七年二月六日ナリ之ト同時ニ仁川沖ノ二露艦ヲ擊沈シ我軍ハ連戰連勝長驅シテ敵ヲ北滿ニ逐ヒ詰メ難攻不落ノ旅順ヲ陷落セシメ日本海ニ「バルチック」艦隊ヲ殲滅セシムルニ至リ流石横暴ヲ極メタル露國モ遂ニ屈伏シ時ノ米國大統領「ルーーズベルト」氏ノ仲裁ニ依リ米國「ボーツマス」ニ於テ日露講和條約ヲ締結スルニ至レリ時ニ明治三十八年九月五日ナリ條約ハ同年十月十四日ヲ以テ批准セラレ同十六日講和ノ詔勅ト共ニ條約ノ全文發表セラレタリ先是講和問題ノ起ルヤ清國政府ハ其ノ代表者ヲ講和會議ニ參列セシメントノ意向ヲ有シタリシモ英米兩國公使ハ其ノ不合理ナルヲ説キテ

之ヲ中止セシメタリシカ更ニ日露兩國全權委員カ滿洲ニ關シ何等ノ議定ヲ爲スコトアルモ清國政府ハ之レヲ有効ト認メストノ趣旨ヲ以テ列國ニ同文通牒ヲ發シタルニヨリ帝國政府ハ之ニ對シ嚴重ナル警告ヲ發シ列國亦之レニ重キヲ措クモノナカリキ後講和會議ノ締結セラルルニ至リ清國政府ハ又日露兩國政府ニ聲明書ヲ發シ(一)撤兵ノ短縮、(二)鐵道守備ハ清國自ラ其ノ任ニ當ルヘキコトヲ通告シ其ノ他清國大官中ニハ滿洲ニ關シ種々ナル意見ヲ有スル者アリシカ明治三十八年十一月十七日ヨリ帝國全權委員ハ北京ニ於テ清國全權委員ト會議ヲ開キ講和條約中ニ規定セル清國ノ承諾ヲ要スル事項ヲ議定シ更ニ滿洲ノ秩序回復並滿洲開放ニ關スル事項ヲ協定シ斯クテ日露戰爭ノ終局ヲ告ケタルナリ而シテ其ノ條約及協定ハ左ノ如シ

一、滿洲ニ關スル日清條約

第一條 清國政府ハ露國カ日露講和條約第六條ニ依リ日本國ニ對シテ爲シタル一切ノ讓渡ヲ承諾ス

第二條 日本國政府ハ清露兩國間ニ締結セラレタル租借地並鐵道敷設ニ關スル

原條約ニ照シ努メテ遵行スヘキコトヲ承諾ス將來何等案件ノ生シタル場合ニ

ハ隨時清國政府ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第三條 本條約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生スヘク且大日本帝國陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ之ヲ批准セラルヘシ批准書ハ本條約調印ノ日ヨリ二箇月以内ニ成ル可ク速ニ北京ニ於テ之ヲ交換スヘシ

(參考) 日露講和條約

第五條 露西亞帝國政府ハ清國政府ノ承諾ヲ以テ旅順口大連並其ノ附近ノ領土及領水ノ租借權及該租借權ニ關聯シ又ハ其ノ一部分ノ組成スル一切ノ權利特權及讓與ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

露西亞帝國政府ハ又前記租借權カ其ノ効力ヲ及ス地域ニ於ケル一切ノ公共營造物及財産ヲ日本帝國政府ニ移轉讓渡ス

兩締約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ互ニ約ス

日本帝國政府ニ於テハ前記地域ニ於ケル露西亞國民ノ財産權カ完全ニ尊重セラルヘキコトヲ約ス

第六條 露西亞帝國政府ハ長春寬城子(旅順口間ノ鐵道及其ノ一切ノ支線並同地方ニ於テ之ニ附屬スル一切ノ權利特權財産及同地方ニ於テ該鐵道ニ屬シ又ハ其ノ權利ノ爲ニ經營セラルル一切ノ炭坑ヲ補償ヲ受クルコトヲナク且清國政府

ノ承諾ヲ以テ日本帝國政府ニ移轉讓渡スヘキコトヲ約ス
南緯約國ハ前記規定ニ係ル清國政府ノ承諾ヲ得ヘキコトヲ約ス

二、附屬協定

日清兩國政府ハ滿洲ニ於テ雙方共ニ關係ヲ有スル他ノ事項ヲ決定シ以テ遵守ニ便ナラシムル爲メ左ノ條約ヲ協定セリ

第一條 清國政府ハ日露軍隊撤退ノ後成ル可ク速ニ外國人ノ居住及貿易ノ爲自ラ進ミテ滿洲ニ於ケル左ノ都市ヲ開クヘキコトヲ約ス

盛京省、鳳凰城、遼陽、新民屯、鐵嶺、通江子、法庫門、吉林省、長春(寬城子)、吉林、哈爾濱、寧古塔、琿春、三姓、黑龍江省、齊齊哈爾、海拉爾、愛琿、滿洲里

第二條 清國政府ハ滿洲ニ於ケル日露兩國軍隊並鐵道守備兵ノ成ル可ク速ニ撤退セラレシコトヲ切望スル旨ヲ言明シタルニ因リ日本政府ハ清國政府ノ希望ニ應ゼシコトヲ欲シ若シ露國ニ於テ其ノ鐵道守備兵ノ撤退ヲ承諾スルカ或ハ露清兩國間ニ別ニ適當ノ方法ヲ協定シタルトキハ日本國政府モ同様ニ照辦スヘキコトヲ承諾ス若シ滿洲地方平靖ニ歸シ外國人ノ生命財產ヲ清國自ラ完全ニ保護シ得ルニ至リタルトキハ日本國モ亦露國ト同様ニ鐵道守

備兵ヲ撤退スヘシ

第三條 日本國政府ハ滿洲ニ於テ撤兵ヲ了シタル地方ハ直ニ之ヲ清國政府ニ通知スヘク清國政府ハ日露講和條約追加約款ニ規定セル撤兵期間内ト雖モ既ニ上記ノ如ク撤兵完了ノ通知ヲ得タル各地方ニハ自ラ其ノ安寧秩序ヲ維持スル爲必要ノ軍隊ヲ派遣スルコトヲ得ルモノト日本國軍隊ノ未タ撤退セサル地方ニ於テ若シ土匪ノ村落ヲ擾害スルコトアルトキハ清國地方官モ亦相當ノ兵隊ヲ派遣シ之ヲ勦捕スルコトヲ得但日本軍隊駐屯地界ヨリ二十清里以內ニ進入スルコトヲ得サルモノトス

第四條 日本政府ハ軍事上ノ必要ニヨリ滿洲ニ於テ占領又ハ收用セル清國公私財産ハ撤兵ノ際悉ク清國官民ニ還付シ又ハ不用ニ歸スルモノハ撤兵前ト雖トモ之ヲ還付スルコトヲ承諾ス

第五條 清國政府ハ滿洲ニ於ケル日本軍戰死者ノ墳墓及忠魂碑所在地ヲ完全ニ保護スル爲總テ必要ノ處置ヲ執ルヘキコトヲ約ス

第六條 清國政府ハ安東縣奉天間ニ敷設セル軍用鐵道ヲ日本國政府ニ於テ各國商工業ノ貨物運搬用ニ改メ引續キ經營スル事ヲ承諾ス該鐵道ハ改良工事

完成ノ日ヨリ起算シ(但東清鐵道ノ爲ニ延スヘキ期間中ニ四月ヲ除キ二箇年ヲ以テ改良工事完成ノ期限トス)十五箇年ヲ以テ期限トシ

(後東清鐵道條約ニテ九十九ヶ年ニ延長セリ)即光緒四十九年(大五十二年)ニ至リテ止ム右期限ニ至ラハ雙

方ニ於テ他國ノ評價人一名ヲ選ビ該鐵道ノ各物件ヲ評價セシメテ清國ニ賣

却スヘシ其ノ賣渡前ニ在リテ清國政府ノ軍隊並兵器糧食ヲ輸送スル場合ニ

ハ東清鐵道條約ニ準據シテ取扱フヘク又該鐵道改良ノ方法ニ至リテハ日本

國經營擔當者ニ於テ清國ヨリ特派スル委員ト切實ニ商議スヘキモノトス該

鐵道ニ關スル事務ハ東清鐵道條約ニ準シ清國政府ヨリ委員ヲ派シ查察經理

セシムヘク又該鐵道ニ山リ清國公私貨物ヲ運搬スル運賃ニ關シテハ別ニ詳

細ナル規定ヲ設クヘキモノトス

第七條 日清兩國政府ハ交通及運輸ヲ増進シ且之ヲ便益ナラシムル目的ヲ以

テ南滿洲鐵道ト清國各鐵道トノ接續業務ヲ規定センカ爲成ル可ク速ニ別約

ヲ締結スヘシ

第八條 清國政府ハ南滿洲鐵道ニ要スル諸般ノ材料ニ對シ各種ノ税金及釐金

ヲ免スヘキコトヲ承諾ス

第九條 盛京省内ニ於テ既ニ通商場ヲ開設シタル營口及通商場トナスヘク約

附錄第五

東清間島事件ニ關スル國際法研究

附錄第五 朝鮮開島事件ニ關スル國際法的研究

二八四

定シアルモ未タ開カレサル安東縣並奉天府各地方ニ於テ日本居留地ヲ劃定スル方法ハ日清兩國官吏ニ於テ別ニ協議決定スヘシ

第十條 清國政府ハ日清合同材木會社ヲ設立シ鴨綠江右岸地方ニ於テ森林截伐ニ從事スルコト其ノ地區ノ廣狹年限ノ長短及會社設立ノ方法並合同經營ニ關スル一切ノ章程ハ別ニ詳細ナル約束ヲ取極ムヘキコトヲ承諾ス日清兩國株主ノ利權ハ均等分配ヲ期スヘシ

第十一條 滿韓國境貿易ニ關シテハ相互ニ最惠國ノ待遇ヲ與フキモノトス
第十二條 日清兩國政府ハ本日調印シタル條約及附屬協約ノ各條ニ記載セル一切ノ事項ニ關シ相互ニ最優ノ待遇ヲ與フルコトヲ承諾ス

本協約ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生スヘク且本日調印シタル條約批准セラレタルトキハ本協約モ亦同時ニ批准セラレタルモノト看做ス

以上本條約及附屬協定ハ明治三十八年十二月廿二日(光緒三十四年十一月廿六日)北京ニ於テ調印セラレ日露講和條約ニ規定セル關東洲ノ租借權南滿洲鐵道並其ノ附屬地及撫順炭坑ハ完全ニ日本ニ讓渡セラレ日露戰爭ノ結末ハ之ニ依テ一段落ヲ告ケタリ

第四章 關島收復及日露講和條約

間島及珲春一帯ノ地ハ王代ヨリ滿洲民族ノ根據地ナリ西曆紀元七百餘年前高句麗滅ヒテ渤海國興ルニ及ヒ此ノ地方ヲ合シテ一ノ行政區域ト爲シ五京ノ一ナル南京府ヲ間島即今日ノ延吉廳附近ニ置キタルコトハ前述ノ如シ爾來漢人種ト滿洲民族竝朝鮮民族トノ間ニ侵略交渉等幾變遷ヲ經過シタリト雖モ邊陲北狹ノ地トシテ歷代餘リ多クノ力ヲ用キサルカ如シ然レトモ此ノ地方一帯地味肥沃ナルカ故ニ北鮮國境ノ朝鮮人ハ既ニ早ク圖們江ヲ渡リテ移住スルモノ多ク殊ニ同治年間北鮮ノ大凶歉ニ際シテハ多數ノ移住民獨リ圖們江ノ流域ノミナラス中部一帯ニ侵入スルニ至レリ於此清國ハ江北一帯ハ清國ノ領土タルヲ以テ他國民ノ開墾ヲ許サストテ屢歸還ヲ迫リシモ朝鮮ハ之ヲ自國ノ領土ナリトシテ堅ク執テ動カス爾來兩國ノ委員ハ數次交渉ヲ重ネタルモ遂ニ決定ヲ見ルニ至ラス光緒七年吉林將軍銘安カ璦春府知事李金鏞ニ開墾事業ヲ命セシ以前ニ在リテハ間島ノ統治ハ韓國威鏡道ノ刺史ニ歸シ韓國國民ニ地券ヲ下附シ簿冊ニ登記シタリシカ後清國政府ハ自國民ヲ招徠シテ此ノ勢力ニ對抗セントシ光緒十二年煙集崗(今日ノ局子崗)ニ招墾局ヲ設ケ兵員ヲ駐在セシメテ地方ノ保安ニ任シ一方韓民ニ對シ極力壓迫ヲ加ヘ韓民ノ有スル地券ヲ沒收シタルヲ以テ韓民ハ小數清人地主ノ下ニ小作人トナルノ已ムヲ得サルニ至レリ

爾來清人ノ移住者モ次第ニ増加シ開墾ハ年々進行シ當地一帯ハ東部吉林重要農地
 ノ一トナレリ日露戰爭終局後朝鮮ハ日本ノ保護國ト爲リタルヲ以テ明治四十年統
 監府派出所ヲ置キ重要ノ地ニ憲兵分遣所ヲ配置シテ韓民ノ保護ニ努メタリシカ清
 國政府亦之ニ對抗シテ邊務公署ヲ設ケ軍隊ヲ増派シ兩者ノ衝突ヲ見ントシタルヲ
 以テ明治四十二年九月日清兩國間ニ間島協約ヲ締結シ圖們江ヲ以テ境トナシ間島
 ハ支那領ト確定シ其ノ代リ延吉縣内(後ニ和親注清ノ二縣ヲ分設ス)ヲ雜居地ト定メ我カ統監府派出
 所ヲ撤去シ局子街龍井村頭道溝百草溝江ヲ通商地トシテ開放シ我ハ領事館並同分
 館ヲ設置シ清國亦商埠局ヲ設置シタリ爾後韓民ハ清國法權ノ下ニ立ツニ至リシカ
 明治四十三年八月日韓併合ノ舉アルヤ朝鮮ノ獨立自治ヲ圖ルノ輩相踵テ此ノ地ニ
 集リ加フルニ支那官憲ノ陰ニ之ヲ庇護スルアリ外人宣教師ノ竊ニ之ヲ煽動スルア
 リ間島ハ爲ニ不逞鮮人ノ巢窟タル觀ヲ呈スルニ至レリ大正四年五月日支滿蒙條約
(南滿洲及東部内蒙
古ニ關スルモノ)締結セララルヤ從來支那法權ニ服シタル朝鮮人ハ日本帝國臣民トシ
 テ我カ領事裁判權ニ服スヘク規定セラレ(同條約
第五條)擬ニ締結セラレタル間島協約ハ當
 然其ノ効力ヲ失フヘキモノアルニ拘ラス支那ニ於テハ滿蒙條約ハ間島ニ適用スヘ
 キモノニ非ヌ從テ間島協約ハ朝鮮人ニ對シ依然適用アル旨ヲ主張セリ尙之ニ付キ

ヲハ項ヲ更メテ詳述スル所アルヘシ
 次ニ琿春ハ東方丘陵ヲ以テ露領沿海洲ニ接壤シ南ハ圖們江ヲ隔テ朝鮮咸鏡北道ニ
 對ス此ノ地ハ清初太祖皇帝ノ時既ニ八旗ノ屯田アリシカ露國東漸ノ勢駭々トシテ
 進ミ邊防ノ事頗ル重要トナルニ及ヒ康熙五十三年琿春ニ邊戎協領佐領ノ旗官ヲ置
 キ屯田邊防ノ事ニ當ラシメタルカ咸豐八年露清兩國間ニ結ハレタル愛琿條約ノ結
 果烏蘇利地方ハ露清兩國ノ中立地帶トナリ次テ同十年之ヲ露國ニ割讓スルニ及ヒ
 琿春ノ地位ハ益々重要トナリ同治六年ニ署理副都統ヲ置キ宣統元年之ヲ廢シテ琿
 春縣ト改稱セリ

間島竝琿春ハ邊陲ニ位置シ久シク適歸未定ノ狀態ニ在リシカ清韓兩國ノ威力透徹
 セサルニ乘シ露國ハ明治三十三年拳匪ノ事變(北清事變)ニ乘シ露將「アイグストフ」
 ノ引率セル一隊ハ「ノーキエフスコエ」ヨリ進軍シ琿春ヲ陷レ遂ニ兵ヲ間島ニ入レ此
 ノ地方一帯ヲ占領シ局子街附近ニ一俄營ヲ設ケタリシカ日露戰役後ハ露兵モ撤退
 シ明治三十八年十二月ノ滿洲ニ關スル日清條約竝附屬協定ニ依リ琿春亦滿洲ニ於
 ケル他ノ都布ト共ニ外國人ノ居住及貿易ノ爲開放セララルコトトナリ現ニ在間島
 ノ龍井村總領館ノ分館ヲ此所ニ置キ以テ帝國臣民ノ保護ニ任セリ

一 間島ニ關スル日清協約(間島協約) (明治四十二年九月四日)

大日本國政府及大清國政府ハ善隣ノ好誼ニ鑑ミ圖們江カ清韓兩國ノ國境タルコトヲ互ニ確認シ茲ニ妥協ノ精神ヲ以テ一切ノ辦法ヲ商定シ以テ清韓兩國ノ邊民ヲシテ永遠ニ治安ノ慶福ヲ享受セシメンコトヲ欲シ茲ニ左ノ條款ヲ訂立セリ

第一條 日清兩國政府ハ圖們江ヲ清韓兩國ノ國境トシ江原地方ニ於テハ定界碑ヲ起點トシテ石乙水ヲ以テ兩國ノ境界ト爲スコトヲ聲明ス

第二條 清國政府ハ本協約調印後成ル可ク速ニ左記ノ各地ヲ外國人ノ居住及貿易ノ爲ニ開放スヘク日本政府ハ此等ノ地ニ領事館若ハ領事分館ヲ配設スヘシ開放ノ時期ハ別ニ之ヲ定ム

龍井村局子街頭道溝百草溝

第三條 清國政府ハ從來ノ通り圖們江北ノ墾地ニ於テ韓民ノ住居ヲ承准ス其ノ區域ノ境界ハ別圖ヲ以テ之ヲ示ス

第四條 圖們江北地方雜居區域內墾地居住ノ韓民ハ清國ノ法權ニ服從シ清國地方官ノ管轄裁判ニ歸ス清國官憲ハ右韓民ヲ清國民ト同様ニ待遇スヘク納稅其ノ他一切行政上ノ處分モ清國民ト同様タルヘシ

右韓民ニ關係スル民事刑事一切ノ訴訟事件ハ清國官憲ニ於テ清國ノ法律ヲ
按照シ公平ニ裁判スヘク日本國領事官又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ヘ自由
ニ法庭ニ立會フコトヲ得但人命ニ關スル重案ニ付テハ須ラク先ツ日本國領
事館ニ知照スヘキモノトス日本國領事官ニ於テ若シ法律ヲ按照セスシテ判
斷セル廉アルコトヲ認メタルトキハ公正ノ裁判ヲ期センカ爲官吏ヲ派シテ
覆審スヘキコトヲ清國ニ請求スルコトヲ得

第五條 圖們江北雜居區域内ニ於ケル韓民所有ノ土地家屋ハ清國政府ハ清國人
民ノ財産同様ニ完全ニ保護スヘシ又該江沿岸ニハ場所ヲ選ヒ渡船ヲ設ケ雙
方人民ノ往來ハ自由タルヘシ但兵器ヲ携帯スル者ハ公文又ハ護照ナクシテ
境ヲ越ユルヲ得ス

雜居區域内產出ノ米穀ハ韓民ノ輸出ヲ許ス尤モ凶年ニ際シテ尙禁止スルコ
トヲ得ヘク柴草ハ舊ニ依リ照辦スヘシ

第六條 清國政府ハ將來吉長鐵道ヲ延吉南境ニ延長シ韓國會率ニ於テ韓國鐵道
ト連絡スヘク其ノ一切ノ辦法ハ吉長鐵道ト一律タルヘシ開辦ノ時期ハ清國
政府ニ於テ情形ヲ酌量シ日本國政府ト商議ノ上之ヲ定ム

第七條 本協約ハ關印後直ニ効力ヲ生スヘク統監府派出所並文武ノ各員ハ成ル

可ク速ニ撤退ヲ開始シ二箇月ヲ以テ完了スヘシ日本國政府ハ二箇月以内ニ

第二條所定ノ通商地ニ領事館ヲ開設スヘシ

二國境列車直通轉ニ關スル日清協定摘錄 (明治四十四年十二月二日)

一 日清兩國政府ハ世界交通ノ爲特ニ兩國々境ニ於ケル列車ヲ直通聯絡ヲ承諾ス

二 兩鐵道列車直通ノ爲ニハ鴨綠江鐵橋上ニ於テハ其ノ中心ヲ以テ兩國々境ト爲

シ以西ヲ清國々境トナシ以東ヲ日本國々境ト爲ス

七 兩國境ヲ通過スル列車ハ軍隊ヲ輸送スルヲ得ス

條約ニ依リ駐屯ヲ許サレタル軍隊ハ此ノ限ニ在ラス但國境往來ニ際シ事前ニ

必ス通知スヘシ

八 朝鮮人ニシテ從來清國內ニ住居シタル者慣例ニ從ヒ辨理スヘク其ノ他ノ朝鮮

人ニシテ護照ヲ有セサル者ハ乘車境ヲ過キ清國內地ニ旅行スルコトヲ得ス

十 安奉鐵道ハ條約ニ依リ十五箇年ノ後清國政府ニ於テ買收スヘキモノナルニヨ

リ本條約ハ該鐵道買收以前ノミニ適用セラルヘキモノニシテ買收後ハ兩國政

府ハ別ニ列車直通ニ關スル章程ヲ協定ス

三、南滿洲及東部內蒙古ニ關スル條約(滿蒙條約)(大正四年五月二十五日)

(附屬公文略之)

第一條 兩締約國ハ旅順大連租借期限(西曆千九百九十七年迄)並南滿洲鐵道(西曆二千二年迄)及安奉鐵道(二千七年迄)ニ關スル期限ヲ何レモ九十九箇年ニ延長スヘキコトヲ約ス

第二條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ各種商工業上ノ建物ヲ建設スル爲メ又ハ農業ヲ經營スル爲メ必要ナル土地ヲ商租スルコトヲ得

第三條 日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ自由ニ住居往來シ各種ノ商工業其ノ他ノ業務ニ從事スルコトヲ得

第四條 日本國臣民カ東部內蒙古ニ於テ支那國々民ト合併ニ依リ農業及附屬工業ノ經營ヲ爲カントスルトキハ支那國政府ハ之ヲ承認スベシ

第五條 前三條ノ場合ニ於テ日本國臣民ハ例規ニ依リ下附セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登録ヲ受ケ又支那國警察法令及課税ニ服スベシ

(法令課税ハ豫メ支那官協同ノ上附屬公文) 民刑訴訟ハ日本國臣民被告タル場合ニハ日本國領事館ニ於テ又施行ス

支那國々民被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派シ臨席

附錄第五 滿洲國爲滿洲作ニ關スル國際法ノ研究

附錄第五 鐵道借款事件ニ關スル國際法ノ研究

二九二

傍聴セシムルコトヲ得但土地ニ關スル日本國民及支那國民間ノ民事訴訟ハ
支那國ノ法律及地方慣習ニ依リ兩國ヨリ員ヲ派シ共同審判スヘシ
將來同地方ノ司法制度完全ニ改良セラレタルトキハ日本國臣民ニ關スル一切

ノ民刑訴訟ハ完全ニ支那國法庭ノ審判ニ歸スヘシ

第六條 支那國政府ハ成ルヘク速ニ外國人ノ居住貿易ノ爲自ラ遼ミテ東部内蒙
古ニ於ケル適當ナル諸都市ヲ開放スヘキコトヲ約ス

第七條 支那國政府ハ從來支那國ト各外國資本家トノ間ニ締結シタル鐵道借款
契約規定事項ヲ標準ト爲シ速ニ吉長鐵道ニ關スル諸協約並契約ノ根本的改訂
ヲ行フヘキコトヲ約ス

將來支那國政府ニ於テ鐵道借款事項ニ關シ外國資本家ニ對シ現在ノ各鐵道借
款契約ニ比シ有利ナル條件ヲ附與シタルトキハ日本國ノ希望ニヨリ前記吉長
鐵道借款契約ノ改訂ヲ行フヘシ

第八條 滿洲ニ關スル日支現行各條約ハ本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外
一切從前ノ通實行スヘシ

第九條 本條約ハ關印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

本條約ハ日本國皇帝陛下及支那國大統領閣下ニ於テ批准セラルヘク其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右第二條乃至第五條ハ支那國政府ニ於テ諸般ノ準備ヲ整フル必要上條約調印後三箇月間實施ヲ延期ス(附屬公文)

第五章 間島ノ法權問題 附 間島條約ト滿蒙條約トノ衝突

這回ノ琿春事件ニ關スル交渉ハ既ニ北京ニ於テ開始セラレタルカ間島ニ於ケル日支葛藤ノ根本ヲ變除スルニハ同地在住朝鮮人ノ法權問題ヲ解決セサルヘカラス前掲間島協約第四條第一項ニ依レハ圖們江北地方居住ノ韓民ハ清國ノ法權ニ服從シ清國地方官ノ管轄裁判ニ歸ス清國官憲ハ右韓民ヲ清國民ト同様ニ待遇スヘク納稅其ノ他一切行政上ノ處分モ清國民ト同様タルヘシト規定セリ又第二項ニ於テ日本領事官ハ自由ニ法庭ニ立會フ權及違法裁判ニ對シ覆審ヲ請求シ得ル權利アルモ朝鮮人ニ對スル裁判權カ全然支那政府ニ在ルハ明カナリ當時韓國ハ日本ノ保護國ニシテ日本ハ其ノ外交ヲ委任セラレ居タルノミナリシヲ以テ清國政府ノ韓民ニ對スル權利強カリシノミナラス日本亦安奉鐵道改築問題ノ爲速ニ協定ヲ遂クル必要アリテ斯ノ如キ讓歩ヲ爲シタルモノナルカ越エテ二年韓國ハ日本ニ併セラレ在外朝

附錄第五

支那問題之解決ニ關スル國際法上ノ研究

二九四

領人ハ日本國臣民ト同様ニ待遇ヲ受ケル事トナリシニ拘テ不問島嶼約ノ改訂ヲ行
 ハサリシ爲依然舊態ヲ存続シ日本實態ハ間島ニ於テノミ他ノ支那領土ト異リ完全
 ノ領事裁判權ヲ保持スル能ハサル狀態ニ在リキ然ルニ大正四年日支交渉ノ結果前
 掲滿蒙新條約締結セラレ日本國臣民ハ南滿洲ニ於テ土地商租權竝自由居住權東部
 內蒙古ニ於テ農工業合辦經營權ヲ得タルト共ニ第五條ニ於テ前三條ノ場合ニ於テ
 日本國臣民ハ例規ニ依リ下付セラレタル旅券ヲ地方官ニ提出シ登錄ヲ受ケ又支那
 國警察法令及課税ニ服スヘシ「民刑訴訟」ハ日本國臣民被告タル場合ニハ日本國領事
 館ニ於テ又支那國々民被告タル場合ニハ支那國官吏ニ於テ之ヲ審判シ互ニ員ヲ派
 シテ臨席傍聽セシムルコトヲ得云々ト規定シタリ此ノ日本國臣民中ニハ勿論朝鮮
 人ヲ包含セルヲ以テ本條約ニ依レハ間島ニ於ケル朝鮮人ハ支那内地ニ雜居スルモ
 民刑事被告タル場合ニ日本領事ノ管轄裁判ニ歸スヘキコト明白ニシテ前掲間島協
 約ノ規定ト全然相背馳シ其ノ當時ニ於テ適用上ノ疑義ヲ生シタリシカ日本政府ノ
 見解ニ依レハ同一事件ニ付キ二箇ノ條約アル場合ハ後ノ條約ニ準據スヘキコト當
 然ナリトノ原則ニ基キ滿蒙新條約ノ有効ナルヲ主張シ之ニ對シ支那政府ハ一般的
 規定ニ係ル條約ハ特殊條約規定ノ條約ヲ越スルモノニ非スト反駁シ殊ニ右條約第八

條ニ滿洲ニ關スル旧支現行各條約ハ本條約ニ別ニ規定セラルヲ除ク外一併従
前ノ通り實表スヘシトシ一項アルヲ楯ニ日本政府ヲ見解ニ服セス重大ナル係争問
題ヲ惹起シタルモ結局水懸論ニ終リ未定ノ儘今日迄持越サレタリ是レ不逞鮮人カ
間島ニ巢窟ヲ構フルニ至ツシ素因ニシテ日本政府ノ法權ハ間島内地ノ鮮民ニ徹底
セズ支那官憲ハ事勿レ主義ニテ取締ヲ怠リ其ノ跳梁ヲ看過シタルニ因ルモノナリ
故ニ彈奏事件ノ如キ不祥事ノ再發ヲ防キ滿鮮國境ノ治安ヲ保テ不逞鮮人ヲ撲滅ス
ルニハ是非共本問題ヲ解決セサルヘカラス我外務省ニ於テモ他ノ要求案ト共ニ本
問題ヲ研究シタル上支那政府ニ提出スルナラント思料スルモ既ニ數年來ノ係争問
題タルノミナラス若シ法權カ日本ニ歸スレハ間島地方ハ朝鮮人七八割支那人二三
割ノ比例ナルヲ以テ支那ノ被ルヘキ影響至大ナレハ容易ニ承認セサルヘク問題ハ
頗ル紛糾スヘク豫想セラル今彼我主張ノ當否ヲ研究スルニ凡ソ兩締約國ニ於テ在
來ノ條約ト兩立スヘカラサル新條約ヲ締結シタル場合ニハ舊條約ハ暗黙ノ間ニ廢
棄セラレタルモノト認ムヘキハ國際法上ノ原則ナリ之レ恰モ一般法令ニ於テ新法
カ舊法ト抵觸スルニ因リ舊法ハ廢止セラレタルモノト認メ又新舊二法ノ全部又ハ
一部ヲ相抵觸スルトキハ舊法ノ全部又ハ一部ハ自然消滅ニ歸スヘキコトハ一般ノ

原則ナルト同様ナリ抑間島協約ハ韓國カ我カ日本ノ保護國時代ニ日清兩國間ニ協定セラレタルモノニシテ其ノ主眼トスル所ハ清韓兩國ノ境界ヲ定メ韓民ニ對スル清國ノ法權ヲ確立シ韓民ノ住居ノ承認並財產ノ保護ニ任スルニ然ルニ日韓併合ノ結果韓民ハ日本帝國ノ臣民ト爲リ之ト同時ニ滿蒙條約ニ於テ日本臣民ノ南滿洲ニ於ケル農商工業ヲ營ムノ權及日本國臣民ニ對スル領事裁判權ヲ承認シタル結果間島協約中ノ韓民ニ關スル規定即第三條乃至第五條ハ滿蒙條約ノ第二條乃至第五條第八條ニ依リ當然廢棄セラレタルモノト謂ヘサルヘカラス尤モ間島協約中ノ國境及開放其ノ他滿蒙條約ト關係ナキ條項ハ依然放力ヲ有スルコトハ同條約第條ノ規定スル所ナリ然ルニ支那當局者ハ間島在在ノ朝鮮人ハ日韓併合後ト雖モ依然間島協約ニ依リ支那ノ法權ニ服從スヘキモノナルコトヲ主張シ且滿蒙條約ハ一般條約ニシテ間島協約ハ特別條約ナルカ故ニ前ノ特別法ハ後ノ一般法ニ依リ廢止セララルコトナシトノ原則ヲ援用シテ自家ノ主張ヲ固執スト雖モ該原則タルヤ後ノ一般法カ前ノ特別法ノ効力ヲ失ハシムヘキ意思明瞭ナル場合ニ於テハ適用ナク即滿蒙條約第八條ノ規定中「本條約ニ別ニ規定スルモノヲ除クノ外」ナル文字ヲ顧ミサルノ議論ニシテ滿蒙條約中ニ規定セラレタル日本國臣民ノ權利義務ハ當然間島協約中

ノ韓國臣民ノ享有シ得ヘキ權利義務ナラサルヘカヲサルハ明カナリ
 次ニ支那側ニ於テハ間島在在ノ朝鮮人中土地ヲ所有シテ耕作ニ從事スル者ヲ聖民
 ト稱シ聖民中支那ニ歸化ノ手續ヲ了シタル者ハ悉ク支那ノ法權ニ服スヘキモノナ
 リト主張スト雖モ便宜論ニ過キスシテ法理上之ヲ認ムヘカラス左ニ之ヲ説明スヘ
 シ

我憲法及國籍法ハ領土ノ分合ニ因ル國籍ノ變更ニ付キ規定スル所ナシト雖モ國際
 法上ノ原則トシテ戰爭ニ依リ若ハ平和的手段ニ依リ領土ノ割讓併合ニハ其ノ當然
 ノ結果トシテ割讓國若ハ被併合國ノ人民ハ讓受國若ハ併合國ノ國籍ヲ取得スルモ
 ノトス故ニ日韓併合ノ結果舊韓國民ハ當然日本ノ國籍ヲ取得シタルモノト看做シ
 爾後國籍ノ得喪ハ一ニ國籍法(明治三十二年三月
 法律第六十六號)ニ依リ支配セラルヘキモノナリト雖モ
 該法律ハ日韓併合後未タ朝鮮ニ施行セラレス又併合前舊韓國時代ニハ國籍法ナル
 モノナカリシヲ以テ國籍ノ得喪ニ關スル朝鮮人ノ準據法ハ今日ニ至ル迄存在セサ
 ルモノト謂ハサルヘカラス今間島在住ノ朝鮮人ヲ見ルニ土地ノ所有ハ勿論耕作税
 等ノ便宜上ヨリ支那ニ對シテ歸化ヲ願出ツル者頗多ク支那官憲ハ之ニ歸化證ナル
 モノヲ附與セリ歸化證ハ直接北京政府ヨリ下附スルモノト道尹ヨリ下附スルモノ

トアルモ手續ノ簡易ナルヨリ後者ハ前者ニ比シ其ノ數遙ニ多シ支那ノ國籍法中歸化ニ關シ

第二條、外國人有左列各款情事之一者、取得中華民國國籍

一、爲中國人妻者

(二、乃至四)省略

五、歸化者

第四條 外國人、或無國籍人、經內務部許可、得歸化

內務部非對於具備左列各款條件者不得爲前項之許可

一、繼續五年以上在中國有住所者

(二、乃至四)省略

五、本無國籍、或因取得中華民國國籍即喪失其本國國籍者

(第三項)省略

ノ規定アリ即第二條第五號ニ於テ歸化者ハ支那ノ國籍ヲ取得スルコト第四條第一項ニ於テ歸化ハ內務部ノ許可ヲ要シ第二項ニ於テ內務部ハ左記各條件ヲ具備シタル者非サレハ歸化ヲ許可スヘカラサル事ヲ規定シ其ノ條件中第五項ニ於テ中華民

國ノ國籍ヲ取得スルニ因リ一方其ノ本國ノ國籍ヲ喪失スル者ナラサルヘカラサル旨ヲ掲ケタリ故ニ之ヲ間島在住ノ朝鮮人ノ歸化ニ適用セントスルニ當リテハ許可ノ條件トシテ其ノ者カ支那ノ國籍ヲ取得スルニ因リ舊韓國(併合前)若ハ日本國(併合後)ノ國籍ヲ喪失スルモノナルコトヲ要シ此ノ條件ヲ具備セサル者ハ內務部ニ於テ許可ヲ與フヘカラサルモノトス即支那ノ國籍法ハ歸化ニ因ルニ重國籍ヲ認メサルノ趣旨ナルコトヲ知ルヘシ而シテ前述ノ如ク朝鮮ニハ國籍法ナルモノ存在セサルヲ以テ如何ナル場合ニモ歸化ニ因リ其ノ本國籍ヲ喪失スルコトナシ從テ間島在住ノ聖民ハ右第四條第五號ノ條件ヲ具備セサルカ故ニ假令歸化ヲ願出テタリトスルモ許可ヲ與フヘキモノニ非サルニ拘ラス支那カ違法ノ處分ヲ敢テシ歸化人ナリトシテ支那ノ法權ニ服從スヘキモノナルコトヲ主張スルカ如キハ我ニ於テ斷シテ之ヲ認ムヘキモノニ非サルナリ

註 支那カ頑迷ニモ如上ノ違法處分ヲ取消ササルニ於テハ二重國籍問題ヲ生ス此ノ場合我法例第二十七條第一項ハ身分能力其ノ他屬人的法律行為ニ關シテ何レノ國ノ法律ヲ以テ當事者ノ本國法ト爲スヘキヤヲ規定シ即其ノ一方カ日本ノ國籍ナルトキハ日本ノ法律ニ依ル旨ヲ明カニセリ(共通法第一、二條參照)

附 録 戰 争

人類ハ平和的動物ニシテ諸國民相互間平和ニ生活スルヲ以テ常態ト爲シ戦争ヲ以テ例外の一時ノ變態ト看做スヘキモノナルニ拘ラス古來諸國民ノ歴史ハ戦争ノ事蹟ヲ以テ充サレ居ルヲ見ル時ハ學者或ハ人類ヲ以テ争闘動物トシ人類自然ノ狀態ハ永久的戦争ナリト説キタルモ敢テ過言ニ非サルヲ知ル苟クモ人類ニ慾望ノ存在スル限りハ其ノ生活ノ心スシモ常ニ平和的ナラサルト同時ニ必スシモ争闘的ナラサルヲ知ルヘク平和及戦争ノ兩者ニ互ニ離ルヘカラサル關係ヲ有スルモノナリ字内文化ノ進連ニ伴ヒ國家間ニ戦争ノ數ヲ減シ又其ノ戰闘期間モ短縮セラレタルノ觀アリト雖モ遠クハ日清日露ノ戰役近クハ歐洲ノ大戰役ニ於ケル如ク國家間ニ戦争ノ跡ヲ絶ツコト能ハサルノミナラス列國ハ争ヲテ戦争ノ準備ヲ盛大ニシ軍備ノ擴張ハ底止スル所ヲ知ラサルノ勢ニ在リ古來戦争ハ社會ニ必要ナルモノナリヤ否ヤニ就キ議論アリト雖モ現ニ列國間戦争ノ避クヘカラサルコトト戦争ノ準備ニ依リ僅ニ平和ヲ維持スルノ狀態トニ鑑ミルトキハ平和的手段ヲ以テ國際間ノ紛争ヲ解決セントスルカ如キハ百年河清ヲ俟ツモノニシタムノ理想論ト謂ハサルヘカラス

國際間ニ於ケル戦争ナルモノノ意義此ノ如ク重大ナルヲ以テ茲ニ戦争ノ觀念ヲ明ニスルノ必要アリ然レトモ古來學者ハ諸種ノ見地ヨリ戦争ノ定義ヲ下シ未タ一定シタルモノナシ今左ニ最通説ト見ルヘキモノヲ掲ケテ説明セント欲ス

「戦争トハ國家間又ハ國家ト其ノ争ニ關シテ國家ノ權利ヲ有スル團體(交戰團體)トノ間ニ於テ公然兵力ヲ以テスル争ナリ」故ニ

一、國家間又ハ國家ト交戰團體間ノ争ナリ

戦争ハ之ヲ分テ對外戦争及國內戦争ノ二ト爲スヲ得對外戦争トハ一ノ國家カ他ノ國家ニ對スル場合ニシテ國內戦争トハ一國內ノ戦争所謂内亂ト稱スルモノ之ナリ内亂ヲ戦争ト稱スルヤ否ヤハ其ノ國ニ於ケル法律規定ノ如何ニ依ルヘク我國ニ於テハ明治十五年八月第三十七號布告ヲ以テ「凡ソ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス」ト規定セリ内亂ハ國內事項ニ止リ其ノ國ノ公安ヲ妨害スルカ爲ニ刑法上ノ犯罪タルモノニシテ國法ヲ以テ之ヲ戦争ト稱スルハ妨ケナシト雖モ國際法上ノ所謂戦争ニ非ス然レトモ叛亂者ノ勢力強大トナリ一定ノ土地ニ割據シテ獨立ノ政治機關ヲ有シ軍隊ヲ組織シ文明國間ニ行ハルル戦争ノ法則ニ依リ政府ト争闘ヲ繼續スル場合ニ於テハ政府

ニ於テモ亦第三國ニ於テモ往々之ヲ交戦團體ト看做シ其ノ戦争行爲ニ關シテ獨立國ノ有スヘキ權利ヲ享有シ義務ヲ負擔セシムルコトアリ

二、交戦者間ノ公ナル争ナリ

戦争ハ國家若ハ團體カ各其ノ意見ヲ貫徹セントスル公然タル政治的争闘ナルヲ以テ各國家若ハ團體ノ正當權力ノ下ニ於ケル争闘ナルコトヲ要シ其ノ命令權ニ基キタル争闘ナラサルヘカラス故ニ或ル二箇國ノ人民間ニ於テ紛擾ヲ惹起シ武器ヲ執テ私ニ争闘スルモ其ノ人民所屬ノ本國間ニ於ケル戦争ニアラサルノミナラス二箇國ノ軍隊軍艦間ニ此種ノ紛争ヲ生シテ兵火ヲ交フルコトアルモ各本國政府ノ命令ニ依ルニアラサレハ之ヲ戦争ト稱スルコト能ハス以上所謂私戦ハ戦争ニ非スシテ争闘セル人民兵士ハ各本國ニ於テ夫々之ヲ處罰シ被害國ニ損害ノ賠償ヲ爲スニ過キサルモノナリ

三、交戦者ノ兵力ヲ以テスル争ナリ

國際間ノ紛議ニ於テ之ヲ平和的ニ解決セントスルカ爲強制手段ヲ用ユル場合アリト雖モ平和的關係ノ繼續スル間ハ戦争ニ非ス國家間若ハ國家ト團體間ニ平和關係杜絶シ兵力ニ訴ヘ其ノ勝敗ニ依リ紛争ヲ決セントスルニ於テ市メテ戦争ト

稱ス茲ニ注意スヘキハ戦争ニ於テハ必ス平和關係ヲ杜絶スト雖モ平和關係ノ杜絶ハ悉戦争ナリトスル能ハサルコト是ナリ國交斷絶スルモ尙戦争トナラザリシ幾多ノ實例アリ戦争ニ於テハ必スヤ兵力ヲ以テスル争闘ヲ必要トシ其ノ必要トシ其ノ必然ナル結果トシテ平和關係カ杜絶スルニ至ルモノナリ

昔時ハ戦争ハ國家間ノ關係タルニ止ラス兩交戰國ノ臣民相互ノ間ニモ敵對關係ヲ認メ從テ交戰國ノ臣民相互ヲ以テ戦争ノ當事者ト看做シタルヲ以テ私人特ニ老幼婦女ニ對シテモ慘酷ノ行爲屢行ハレタリ然レトモ西歷十八世紀ノ中頃ヨリ戦争ハ人ト人トノ關係ニ非スシテ國ト國トノ關係ナリ個人ハ一國ノ臣民トシテ敵トナルニ非スシテ兵士トシテ敵トナルモノナリトノ說ヲ生スルニ至リタルモ之ヲ歐洲戰役ノ實際ニ徴スルトキハ必スシモ然ラス一方ノ交戰國ハ他方ノ交戰國ノ臣民ヲ敵トシ之ニ間接若ハ直接ノ影響ヲ及ホシタル例少カラス即戦争ニ必要ナル範圍内ニ於テハ個人カ對手國ニ對シテ敵性ヲ有スルコトアルヘキヲ認メラルルニ至レリ

(領海軍力海上ニ於ケル對千國商船ニ對シ無警告壓沈ヲ爲シタルカ如キ或ハ一部人民ノ敵對行爲ニ對シ全市民ニ禍害ヲ加ヘタルカ如キ例是ナリ)

我カ憲法第十四條ニ「天皇ハ戦争ヲ宣シ和ヲ媾シ及諸般ノ條約ヲ締結ス」トアリ故ニ我國ニ於テハ宣戰媾和ハ天皇ノ大權ニ屬シ議會ノ協賛ナク天皇單獨ノ意思ヲ

以テ爲スコトヲ得ヘク、歐米各國ノ憲法力之ニ關シ、議會若ハ元老院等ノ協賛ヲ要スト規定スルモノト其ノ趣ヲ異ニセリ。斯ノ如キハ國家成立ノ沿革的結果ニ出ツルモノニシテ、民主國ニ在リテ此ノ種ノ權ハ國ノ代表者タル大統領ニ屬スルモ尙君主國ノ君主ニ於ケルヨリモ多クノ制限ヲ受ケ、又君主國ニアリテモ我國ノ如ク絶對無制限ノモノアルヲ見サルナリ。

通春間島、鮮内各方面飛行實施ニ關シ各隊並地方官憲へ指示事項

一、今回ノ事件ニ方リ臨時配屬セラレタル航空隊ヲシテ會奉邑南方畑地ニ根據地ヲ置キ來ル十一月十日頃ヨリ飛行ヲ開始シ通春間島、鮮内各地方上空ヲ飛行セシム然ルニ其ノ航路タルヤ巍峨カル山岳重疊シ空中ニ於テ些ニタル故障ノ突發モ操縦者ヲシテ隨時隨所ニ著陸地ヲ選定シ諸部補修ノ後更ニ出發セシムルノ空地少ク況ンヤ氣温ノ低下激烈ナル高空ニ於テ精緻ナル機關ニ惹起スル事故ハ全ク測知スヘカラサルモノアルニ於テオヤ加之交通網ノ不良ニシテ直チニ赴援シ能ハサルノ狀ナルニ鑑ミ各部隊ハ一地ニ駐屯シアルト行動中ナルトニ繋ハラヌ其ノ他地方官憲ニ於テモ充分ノ援助ヲ與ヘラレンコトヲ望ム

二、飛行機ハ一機若クハ數機ノ編隊ヲ以テ行動シ之ニ爆彈數發ヲ携行シテ所要ノ地點ニ對シ爆撃ヲ實施シ賊徒ヲ威嚇又建設物ノ破壊ヲ行ハシム時ニ飛行機上ニ裝備シアル機關銃ヲ以テ地上部隊ト協同シ地上戦闘ニ參與セシムルコトアリ

三、各部隊ニ飛行機連絡規定及飛行通信規定ヲ遵守シ飛行機(空中)ト各部隊(地上)トノ連絡ヲ緊密ニシ飛行機ヲシテ充分ニ其ノ能力ヲ發揚セシメ之カ利用ヲ怠ラサルヲ要ス

附録第五ノ二 指示

三〇六

四、飛行機出發ニ方リテハ當分ノ内左記地點ニ於テ爆彈ノ投下試験ヲ實施シタル後
出發航路ニ就クモノトス仍テ該地附近ニハ帝國軍人軍屬及良民ノ出入通行ヲ禁
止ス

左 記

羅燕舊基 畑臺洞間ノ圖們江
鶴栖洞北方山地附近

五、飛行機空中ニ於テ故障アラハ其ノ地附近ニ於ケル廣濶ナル平地ヲ求メ不時著陸
ヲ行フノ餘義ナキニ至ルコトアリ之ヲ認メタル附近ノ部隊官憲及住民ハ飛行機
ニ著陸ノ餘地ヲ與フルコト必要ナリ

六、前項不時著陸ノ飛行機ヲ認メタル者ハ直ニ最近ノ守備隊又ハ憲兵警察等官憲公
署ニ報告シ部隊官憲ハ機体人命ノ異常ノ有無ニ繫ラス最モ迅速ナル方法ヲ以テ
師團司令部ニ報告通報スヘシ

七、飛行機不時著陸セハ附近ニアル部隊長ハ直チニ將校ノ指揮スル所要人員ニ(軍醫
アラサレハ地方醫)ヲ派遣シ救護ニ任シ飛行機ノ周圍ニ蟬集シ來ル人民ヲ斥ケ該
飛行機ノ警戒ヲナスヘシ

八、飛行機ノ不時著陸ノ状態ハ左ノ如キ飛行状態ニヨリ之ヲ認定スル事ヲ得

イ、發動機爆音不齊ニシテ逐次下降シ來ル時

ロ、高空ヨリ逐次螺旋狀ヲ畫キツツ一地上空ニテ降下シ來ル時

ハ、發動機運轉全ク停止シ空中滑走ニヨリ降下シ來ル時

九、飛行機下降シ來ル時ハ附近ニアル住民ハ努メテ迅速ニ森林内又ハ家屋内ニ隠遁シ、廣地内ニアルヘカラス若シ集團シテ一地ニアルモノハ散亂スヘカラス其ノ儘一層密集シ要スレハ地上ニ伏臥シ著陸ノ殺那航空者ヲシテ著陸ノ際操舵ノ自由ヲ與フヘシ

十、右ノ場合爆彈ヲ搭載シアル飛行機ハ地上ニ近クヤ危害ヲ與ヘサル地點ヲ選定シ高度三〇〇米乃至一〇〇米ノ間ニ於テ爆彈ヲ投棄スルコトアルニ注意スヘシ

十一、何レノ場合ト雖モ飛行機ノ進航方向又航過方向内ニ位置セサル事必要ナリ

十二、飛行機著陸等ノ爲メ耕地耕作物ニ損害ヲ與ヘタル場合ハ地方官公吏ハ所有者

ニ損害證明書ヲ與フルト同時ニ損害狀況報告ヲ直ニ師團司令部ニ提出スヘシ

總テ損害賠償ニ關シテハ師團司令部ニ於テ實施ス決シテ自ラ評價スルヲ許サス

十三、飛行機ヲ距ル百米以内ニ於テ發火若クハ喫煙スヘカラス

附錄第五ノ二 指示

三〇七

附録第五(二) 指示

三〇八

十四、飛行機著陸セハ附近少クモ百五十米以内ニ人民ヲ接近セシムヘカラス
 十五、討伐隊ト協力シ主要地點ニ爆撃ヲ行フカ故ニ該方面ニアル守備隊及討伐隊ハ
 爆撃飛行機ノ飛來シ來ルヲ認ムルヤ直チニ付落又ハ森林ノ東側(午前)或ハ西側(午
 後)ニ二枚ノ白布板ヲ左記要領ニヨリ布置シ友軍所在ヲ明ラカニ示スヲ要ス

白 布 大巾木綿長サ一丈

奇數日

形

偶數日



投下爆彈ハ通常四發ノ豫定ナルヲ以テ不發彈アルヲ認ムレハ直チニ探查シ石油
 等ヲ注キ焼却シ賊ノ盗用ヲ戒ムルコト肝要ナリ

參謀本部作命第六一號

訓令

- 一、朝鮮軍司令官ハ璦春及間島地方ニ派遣シアル第十九師團ノ部隊中ヨリ旅團長ノ指揮スル歩兵約二大隊略平時編制トスヲ璦春及間島地方ノ要地ニ殘置シ該地方ニ在ル帝國官民ノ保護ニ任セシメ爾餘ノ部隊ヲ適時朝鮮ニ歸還セシムヘシ
- 二、浦潮派遣軍司令官ハ東寧及璦春地方ニ派遣シアル部隊ヲ適時軍行動地域ニ歸還セシムヘシ
- 三、朝鮮軍司令官ニハ殘置部隊ノ編成其他ノ細部ニ關シ陸軍大臣參謀總長ヲシテ指示セシム

大正九年十二月十日

奉勅

參謀總長男爵 上原 勇 作

朝鮮軍司令官 大庭 二郎 殿

參謀本部命第五二〇號一

指示

作命第六十一號訓令ニ基キ左ノ指示ヲ爲ス

一 現下ノ情況ニ於テハ帝國官民保護ノ爲概ネ琿春百草溝局子街龍井村及頭道溝ニ兵力ヲ配置スルヲ要ス

二 琿春及間島地方ノ治安維持ハ支那官憲及軍隊ノ任スル所ナルモ支那側力確實ニ同地方ニ在ル帝國官民ヲ保護シ且不逞鮮人等ノ討伐ヲ實行シ累ヲ帝國領土内ノ治安維持ニ及ホササルニ至ル迄一時帝國軍隊ヲ駐屯セシムモノナルヲ以テ我軍隊ハ帝國官民保護ノ爲必要已ムヲ得サル場合ノ外妄リニ討伐的行動ヲ取ラサルヲ本旨トス

三 不逞鮮人ヲ懷柔シ親日鮮人ヲ善導スルハ帝國官民保護ノ爲必要ナルノミナラス朝鮮ノ内治ヲ利スルコト多キニ稽ヘ常ニ適切ナル方法ヲ以テ其効果ヲ舉クルコトニ努ムルヲ要ス

四 支那軍及官民ニ對シテハ努メテ和親ヲ保ツヘシト雖其特性ト近來ノ傾向トヲ顧慮シ寬嚴宜シキニ適スルヲ要ス

五、彈春及間島ニ在ル各部隊間並該部隊ト朝鮮内トノ連絡ヲ確保シ且浦潮派遣軍及
關東軍並關係帝國外交官憲ニ緊密ナル連絡ヲ保持スルヲ要ス
六、彈春及間島ニ在ル部隊ノ爲其駐屯地ニ集積スヘキ軍需品ハ不時ノ事變ニ際シ縱
令孤立ニ陷ルモ其任務ノ達成ニ遺憾ナカラシムルノ願慮アルヲ要ス

大正九年十二月十日

朝鮮軍司令官 大庭 二郎 殿

參謀總長男爵 上 原 勇 作

附録第六其三 指示

三二三

陸軍省送達陸密第二七二號

間島及琿春ニ派遣シアル部隊ヲ殘置並歸還ニ關スル指示ノ件達

大正九年十二月十日作命第六一號訓令ニ基キ間島及琿春ニ派遣シアル部隊ノ殘置並歸還ニ關シ別紙ノ通り心得ヘシ

大正九年十二月十五日

陸軍大臣男爵 田中義一

朝鮮軍司令官 大庭二郎 殿

間島及琿春ニ派遣シアル部隊ノ殘置並歸還ニ關スル指示

一 殘置スヘキ歩兵大隊ノ兵卒ハ第二年兵ヲ充用スルモノトス之カ爲兵卒ノ階級區分ハ各原所屬聯隊毎ニ其鮮内及派遣地ニ在ル者ヲ通シ平時編制ノ比率ヲ保タシメ又上等兵等特業者及工卒ハ守備及教育等ノ關係ヲ顧慮シ師團長ニ於テ適宜其ノ人員ヲ按排スルモノトス

二 第十九師團長ハ隷下歩兵聯隊附ヨリ中(少)佐一名大(中)尉一名計二名同騎兵聯隊ヨリ下士以下十騎ヲ殘置歩兵旅團司令部ニ置キ該旅團長ノ命スル職務ニ服セシムルモノトス

三、殘置歩兵旅團司令部ニハ定員外トシテ傭人七名以内ヲ雇傭スルコトヲ得
 四、大正九年陸密第二〇二號中左ノ人員ヲ増減ス該人員(削除人員ヲ除ク)ハ各所屬長官適宜
 殘置部隊ニ於テ勤務セシムルコトヲ得

朝鮮軍司令部配屬人員中

主計 二名

計手 二名

軍醫 一名

佐官 一名(乘馬一頭ヲ附ス)

看護長 三名

看護卒 十名

第十九師團配屬人員中

航空要員下士以下全部

通譯並司令部勤務補助員十二名

電信要員下士二名兵卒二十四名

鳩通信要員兵卒十名

削除

増加

削除

附錄第六其三 指示

附錄第六其三 指示

三二四

前項削除人員ハ將校ニ在リテハ辭令ヲ以テ下士以下ニ在リテハ第十九師團長之ヲ舊所屬部隊ニ復歸セシムルモノトス

五、大正九年陸軍省令第三十八號ニ依リ在營又ハ服役ヲ延期セル者ノ内同省令第一號乃至第四號ニ依ル者ハ所管長官ニ於テ成ルハク速ニ之ヲ除隊セシムルモノトス

六、殘置部隊人馬ノ裝備竝携行物件ニ關シテハ現ニ派遣シアル部隊ニ準シ師團長適宜之ヲ定メ師團長保管ノモノ(應急準備ヲ含ム)ヲ充當シ尙不足スルモノハ陸軍大臣ニ請求スルモノトス

七、本件ニ關シ特ニ要スル經費ハ臨時軍事費ノ支辨トス

八、歸還部隊ノ携行歸還セル物件復舊整理ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

九、第十九師團長ハ殘置部隊將校同相當官職員表同人馬一覽表ヲ朝鮮軍司令官ヲ經テ成ルヘク速ニ陸軍大臣參謀總長ニ報告スルモノトス

訓示

一 第十九師團及臨時配屬ノ諸部隊ハ出動以來近寒ヲ凌キ嶮難ヲ冒シ熱誠以テ剿討ニ從事シ短月日ノ間善ク好成績ヲ舉ケテ其ノ重任ヲ果シ近ク其ノ大部ノ原所屬ニ復歸スルヲ見ントスルハ本職ノ最モ満足スル所ナリ然レトモ君國ノ爲ニ斃レ或ハ傷痕ニ罹リ尙病床ニ呻吟セルモノニ對シテハ本職ハ衷心其ノ壯烈ヲ稱スルト共ニ深ク其ノ不幸ヲ悼ムモノナリ

二 師團ノ一部ハ帝國官民保護ノ爲引續キ間島ニ殘留セシメラレ寡少ノ兵力ヲ以テ廣遠ナル地域ヲ守備セサルヲ得ス從テ其ノ勤勞ノ繁多ナル察スルニ餘リアリト雖宜シク其ノ責務ノ重大ナルニ稽ヘ銳意其ノ任ニ衝ルト共ニ常ニ東亞ノ大局上日支ノ親善ヲ緊要トスルノ情勢ニ鑑ミ支那官憲殊ニ其ノ軍隊ト提携シ不逞鮮人ハ已ムヲ得サル場合ノ外彼ヲシテ之ヲ討伐セシメ其ノ良民ハ我ニ於テ極力之ヲ保護シ益々軍紀ヲ正フシ訓練ニ勉メ警戒ヲ嚴ニシ以テ中外ノ信賴ヲ得帝國軍隊ノ精華ヲ發揮スルコトヲ努ムヘシ

三 今次ノ出兵ニ關係ヲ有スル諸部隊ハ兵馬倥傯ノ際教育經理其他ノ業務ヲ錯綜セシメタルコト尠ナカラサルヘシ宜シク速カニ之カ整理ノ實ヲ舉ケ以テ防衛上遺

2188

附録第七 訓示

漏ナキコトヲ期スヘシ

右訓示ス

大正九年十二月十七日

三二六

朝鮮軍司令官 大庭二郎

參謀本部○作命第六〇號

命令

一、朝鮮軍司令官ハ歩兵第二十八旅團ヲ内地ニ歸還セシムヘシ
同旅團ハ内地港灣上陸ノ時ヲ以テ朝鮮軍司令官ノ指揮下ヲ脱スルモノトス
二、輸送ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

大正九年十一月二十日

奉勅

參謀總長男爵 上原 勇 作

朝鮮軍司令官 大庭 二郎 殿

參謀本部命第五一二號一

輸送ニ關スル指示

一、船舶輸送

別紙乗船上陸日次豫定表ニ基キ陸軍運輸部本部長ヲシテ船舶輸送ヲ實施セシム

二、鐵道輸送

内地鐵道ノ輸送ニ關シテハ當部出張員ヲシテ之ヲ區處セシム

大正九年十一月二十日

朝鮮軍司令官 大庭 二郎 殿

參謀總長男爵 上原 勇 作

歩兵第二十八旅團乗船上陸日次豫定表

上陸地 宇品

部 隊 號	人 員		馬 匹	乗船地	乗船日次	上陸日次	摘 要
	將 校	下士、卒					
歩兵第二十八旅團司令部	六	三五	三	清	十一月二十五日	十一月二十九日	
歩兵第十五聯隊	八一、九三三	四四		津	乃 至	乃 至	
歩兵第六十六聯隊	七六、八五六	四四			十一月二十六日	十一月三十日	
備 考							
一、本表人馬數多少増減スルコトアルヘシ							
二、乗船上陸日次ハ船繰ノ都合ニ依リ多少變更スルコトアルヘシ							
三、船内ノ給養ハ人ハ船主ノ請負賄馬ハ現品官給トス							

訓示

疊ニ匪徒ニ勃發セシ我居留民ニ對スル慘虐事件ハ閣議ノ議決ヲ經テ遂ニ出兵ヲ見ルニ至リ多年該地方ニ蟠踞セル不逞鮮人竝匪賊ヲ徹底的ニ剿討シテ暗雲ヲ一掃シ以テ我朝鮮軍北疆ノ防衛ヲ完ウシ宿望ヲ達成スルノ機會ヲ得タルニ方リ本任務ニ從事スル將卒ニ對シ開示スル所アラントス

一、本出兵ニ關シ我政府力張巡閱使ニ對シ交渉セシ諸件左ノ如シ

イ、匪徒事件ノ損害賠償責任官憲ノ謝罪ニ關スル根本主義ヲ承認スルコトヲ要求ス

ロ、帝國政府ハ取敢エス更ニ一部隊ヲ龍井村方面ニ急行セシメタルモ尙將來必要ヲ認メハ兵力ヲ増派シ且事態鎮定ノ見込確實トナル迄駐兵セシムヘキニ付是等ノ諸件承認ヲ與フヘク若シ然ラサルニ於テハ自衛上己ムヲ得ス承認ヲ待タス更ニ増兵シ又之ヲ駐兵セシムヘキヲ以テ諒解ヲ望ム但此派兵ハ支那領土占領等支那ノ主權ヲ侵害スルノ意ニアラサルコトヲ聲明ス

ハ、此際日本支那兩國カ其ノ兵力ヲ以テスル協同討伐ヲ誠實ニ實行センコトヲ希望ス若シ不同意ナラハ帝國ハ單獨之ヲ實行スヘシ是レ自衛上己ムヲ得サル手

段ナルカ故是亦諒解ヲ望ム

二、外交上ノ關係右ノ如クナルヲ以テ各官ハ特ニ今回出兵ノ動機ニ鑑ミ先ツ現下ニ於ケル情況ハ協同若ハク單獨討伐ニ移ル爲ノ前提トシテ居留民保護ノ爲行動シアルモノニシテ純然タル討伐行動ニ移ルノ期ハ前項ノ交渉ノ後ナルコトヲ諒知シアルヘシ然レトモ此期間ニ於テ若シ我行動ニ對シ敵對行動又ハ妨碍ヲ與フルモノアルトキハ機ヲ逸セス之ヲ討伐スルハ勿論ナリトス

三、間島ハ支那ノ領域ニシテ居住外國人モ亦尠カラサルヘシ故ニ其ノ行動ヲ慎重ニシ支那官民及外國人ヨリ言語ノ不通慣習ノ相違等ニ依リ惡感若クハ誤解ヲ受クルカ如キ言動行爲ハ嚴ニ之ヲ戒メ又家屋軍需品ノ徵備購買ニ方リテモ特ニ支那官民ノ權利ヲ尊重シ苟モ帝國軍隊ノ名譽ヲ損スルカ如キコトナキニ注意スヘシ此機會ヲ以テ帝國軍人ノ襟度ヲ示シ恩威並行彼等ヲシテ永却ニ我ヲ信賴スルノ素地ヲ成形スルノ舉ニ出テンコトヲ望ム

四、不逞鮮人及之ニ加擔スル馬賊露人其ノ他ノ匪徒ハ單ニ尋常ノ不逞團ト見ルコト能ハス彼等ハ間島ノ民心ヲ過激化シ之ヲ利用シテ朝鮮内地ノ人心ヲ動搖セシメ以テ帝國ノ禍亂ヲ醸成セントスルモノニシテ實ニ日本特ニ朝鮮ノ統治並治安ノ

維持上一日モ看過スル能ハサル所ニシテ是亦今回ノ出兵ヲ見タル所以ナリトス
各官宜シク前項ニ示スカ如ク良民ニ對シテハ極力之ヲ愛撫スルト同時ニ苟モ我
施設ニ違反スルモノニ對シテハ秋毫モ假借スルコトナク徹底的ニ打撃ヲ加ヘ以
テ帝國ノ享クヘキ禍源ヲ根絶スルコトヲ努ムヘシ

五、支那官兵ノ匪徒ニ混同シテ騷擾スルコトハ外交上看過スヘカラサル重大事項ニ
シテ我ニ對シ外交上有利ノ狀況ヲ與フルモノナルヲ以テ是等ノ事實ニ對シテ極
力搜查シ若シ其ノ事實ヲ發見セハ直ニ之カ實證ヲ確保シ且事毎ニ支那官憲ヲシ
テ之ヲ承認セシメ置クノ手段ヲ講スルニ遺漏ナキヲ期スヘシ

六、間島ニ於ケル支那官憲、日本領事又ハ副領事並軍隊間ノ連絡並意志ノ疏通ヲ圖ル
コトハ最モ緊要ナリ殊ニ協同討伐ノ爲近ク奉天、吉林方面ヨリ簡派スル如ク聲言
セル支那軍隊ニ對シテ然リトス本件ニ關シテハ軍ニ於テ措置スヘキモ各部隊ニ
於テモ亦増加配屬セラルヘキ人員ノ來着ヲ待タス適宜ノ處置ヲ講センコトヲ望
ム

之ヲ要スルニ今回ノ出兵ハ全ク帝國自衛上ノ措置ニ過キササルヲ以テ各官宜シク叙
上ノ意義ヲ部下ニ徹底周知セシメ以テ本目的ノ達成ニ奮勵努力センコトヲ望ム時

2195

恰モ祁塞ノ期ニ向ヘリ將卒克ク自重自愛速ニ好果ヲ收メンコトヲ期スヘシ
右訓示ス

大正九年十月十一日

朝鮮軍司令官 大庭 二郎

附錄第九 訓示

三三三

附錄第十

兵卒ノ心得

從來間島ニ於ケル蒙味ナル鮮人ハ久シク不逞ノ行動ヲ爲シ動々トモスレハ我國威ヲ傷ケントスル事カ絶ヘス行ハレテ居ルノテ我國ハ支那側ト交渉シ日支協同討伐ヲ爲ヨウトシタカ支那側ハ之ニ應セス自ラ討伐ニ任シタルモ何等ノ効果ナキノミカ益々其狂暴ヲ増シ遂ニ今回馬賊ヤ露國過激派等ノ匪徒ト共ニ在邇春帝國領事館ヲ襲フテ之ヲ燒却シ多數ノ帝國居留民ヲ虐殺シテ非常ナ慘害ヲ加ヘ厄港事件ヲ再演シタノテアル此クナル上ハ最早我居留民ノ保護ヲ支那側ノミニ依托シテ安心シテ居ル譯ニ行カカヌノミカ帝國領土ノ治安ヲ維持シ國威ヲ保ツ必要上己ムヲ得ス軍隊ヲ出動セシムルニ至ツタノテアル然レハ敵國又ハ占領地ニ於ケル行動トハ全ク違フノテアルカラ常ニ支那ノ主權ヲ尊重シ隨ツテ其人民ニ對シテハ最も親切ニ最モ叮嚀ニ取扱ハネハナラヌ又朝鮮人ニ於テモ良民ニ對シテハ我新同胞トシテ大ニ勞ハツテヤラネハナラヌ然ラサレハ徒ニ反抗心ヲ起サシメテ却テ之ヲ嘔リテ排日ノ氣勢ヲ昂ムルニ過キヌノテアル故ニ一兵卒ニ至ルマテ好ク其位置ト責任ヲ自

覺シ上官ノ命令ニ依リテ行動スル場合ハ別テアルカ其他普通一般ノ場合ニ在リテハ左ニ掲クル心得ヲ能ク熟議シテ徹底的ニ之ヲ實行シ帝國軍人ノ名譽ヲ發揚スルコトヲ努メネハナラス

大正九年十月二十日

朝鮮軍司令部

1 朝鮮人支那人等ニ日本特有ノ^{ナサケ}武士ノ情ヲ掛ケテヤルコトハ帝國ニ對スル感情ヲ非常ニ好クスルモノテ普通地方人ノ親切トハトテモ比ヘモノニナラス之カ延テ國交ヲ圓滿ニシテ不逞鮮人ノ獨立心ヲ離シ排日支那人ヲシテ後悔セシムルニ至ルモノテアル

2 今回ノ討伐ハ支那軍隊ト協同シテ行フモノテアルカラ兵卒同士互ニ仲善クシナクテハナラス彼ヲ輕蔑シテ感情ヲ害スル様ナ事カアツテハ單ニ兵卒間ノ喧嘩タルニ止マラス延テ日支兩國間ノ問題トナルコトカ其例カ甚タ多イカラ深ク注意セネハナラス然苟モ帝國軍隊ノ名譽ヲ傷ケル様ナ事ハ斷シテヤツテハナラス

3 郷ニ入リテハ郷ニ從ヘト云フ如ク他國ニ行ツテハ其國ノ習慣ヤ風俗ヲ尙ハネハナラス其國ノ習慣ニ逆フコトハ非常ニ惡イ感シヲ與ヘルモノテ些細ノ事カラ

世界ニ於ケル帝國ノ立場ヲ不利ニスル事カアルカラ能ク氣ヲツケテ次ニ示スコトヲ守ラネハナラヌ

イ 朝鮮人ヤ支那人ハ内外ノ區別ヲ嚴ニシ男女七歳ニシテ席ヲ同フセストマテ言フテ居ルノテアルカラ猥ニ内房婦人ノ居ル室ニ入ツテハナラヌ又婦人ニ對シテ漫ニ語ヲ交ヘテハナラヌ

ロ 朝鮮ヤ支那テハ他ノ外國人ト同シク人ノ前テ裸體ニナツタリ肌ヲ露ハスコトヲ非常ニ下品テ無禮ナ行トシテ忌ミ嫌フモノテアル故ニ人ノ見テ居ル所テハ決シテ裸ニナツテハナラヌ殊ニ婦人ノ前ヲモ憚ラス小便ヲ路傍ニ行ルナトハ最モ野蠻ナル行爲トシテ彼等ノ嫌忌スル所テアル

ハ 勝手ニ人民ノ邸宅ヘ入ツテハナラヌ朝鮮人ヤ支那人ノ家ニ入ルニハ先ツ案内ヲ乞フテ許ヲ受ケタ後ヲナケレハ内庭ニ入ツテハナラヌ又他人ノ家ヤ室ヲ覗クコトハ非常ニ嫌忌スルカラ決シテ行フテハナラヌ殊ニ言語カ通シナイノテ風俗習慣ノ異ツテ居ルタメニ些細ノ事カラ間違カ出来遠ニハ大事ヲ惹キ起ス場合カ多イカラ注意セネハナラヌ

4 勝手ニ人民ノモノヲ使用シテハナラヌ若シ己ムヲ得ス使フ時ハ家人ノ許可ヲ

附録第十 兵卒ノ心得

三二七

得テ叮嚀ニ使ヒ濟ンタ後ハ直ク返シテヤラネハナラヌ

5 野外ニ積テアル收草ヤ薪ナトテモ勝手ニ之ヲ使ツテハナラヌ勝手ニ取ルコトハ所謂掠奪ヲ軍隊ノ名譽ヲ汚スモノハ之ヨリ甚シイモノハナイ

6 鮮支人ノ店ニ立入り品物ヲ買フ者モナク長イ間素見半分ニ品物ノ値段ヲ尋ネル様ナコトヲシテハナラヌ又狼リニ値段ヲ制限ツテ不相當ノ代金ヲ拂ツテ立去ツテハナラヌ是ハ一ノ犯罪ヲアルカラ必ス相當ノ代價ヲ拂フカヨイ

7 短氣ヲ慎マネハナラヌ一體日本人ハ非常ニ短氣ヲ何ンテモナイコトニ怒ツテ直ニ人ヲ擲ツテ事ヲ起シタコトカ尠クナイ是ハ自ラ大強國ノ日本兵トシテ最モ憤マネハナラヌ

8 鮮支人其他ノ外國人ニ對シテ狼ニ輕蔑ノ言語ヤ動作ヲシテハナラヌ例之ハ西洋人ヲ「毛唐」ト呼ビ支那人ヲ「チャンコロ」朝鮮人ヲ「ヨボ」ト稱フルコトテアルハ非常ニ彼等ノ感情ヲ害スルカラ餘程注意セネハナラヌ

9 鮮支人ニ對シテ話ヲ爲ス時殊ニ未熟ノ片言ヲ使用スル際ハ可成的其誤解ヲ避ケネハナラヌ鮮支人ハ其ニ最モ體面ヲ尊フ風習カブルカラ「アナタ」ト云フ「ト」前「トカ」貴様」ト云フ「ナ」其感情カ非常ニ違フ「テアル

10

然シ外國人及鮮支人ニ對シテ油斷シテハナラス是等ノ中ニハ如何ナル惡者
カ居ルカモ知レヌカラ公務ニ就ク時ハ勿論宿舎ニ居ル際テモ又外出スル折テモ
氣ヲ著ケタ不覺ヲ取ラヌ様ニセネハナラス殊ニ密偵或ハ爆彈ナトヲ携帯スル過
激思想者又ハ決死暗殺團ナトカ紛レ込シテ居ルカラテアル

11

一般ノ人民ニ對シテハ唯々武骨一偏ハカリテナク仁愛ヲ主トシテ彼等ヲ吾々ニ
懷ツケルト同時ニ日本ノ國體ノ如何ニ有難ク日本ノ臣民ノ如何ニ幸福テアルカ
ヲ彼等ニ感セシメテ心カラ日本ニ歸復スルノ考ヲ持ツ様ニ力ヲ盡サネハナラス
是等ノ中ニハ小サイ事ノ様ナモノモアルカ決シテ然ウテハナイ何ノ國テモ高尚ナ
行爲ハ立派ニ見エルモノナル吾々日本軍人ハ其行爲ヲ立派ニシ能ク氣ヲツケテ
他國人ノ謗ヲ受ケタリ又ハ感情ヲ惡クシテ延テハ帝國不利益ヲ招ク様ナコトヲシ
テハナラスノテアル

尙最後ニ附加ヘテ置クコトカアル夫ハ是カラ時季カ嚴寒ニ向フカラ鮮人家屋ノ室
内等ヲ炭火ヲ用ヒタリ又ハ温突ノ破損ニ氣附カナイヲ焚クト瓦斯中毒ニ罹リ遽ニ
死ニ至ル恐レカアルカラ空氣ノ流通ニ注意セネハナラス

國家ニ捧ケタ大切ナ身體ヲ不注意ノ爲ニ損傷シテハ國家ニ對シ濟マナイノテアル

附錄第十 兵卒ノ心得

三二九

附録第十一

告

示

支那文
朝鮮文

十月十六日

大日本帝國朝鮮軍司官大庭中將告示ス

朝鮮人中不逞ノ徒アリ馬賊其他ノ匪徒之ニ加盟シ兵器ヲ携ヘテ在韓春帝國領事館ヲ襲ヒ之ヲ焼却セルノミナラス數多ノ帝國居留民ヲ虐殺シ且動モスレハ帝國領土ニ對シ武力侵入ヲ行ハントス是ニ於テ我帝國ハ兵ヲ出シテ居留民ヲ保護シ且匪賊ヲ討伐シテ帝國領土ノ治安ヲ維持セサルヘカラサルニ至レリ蓋シ自衛上已ムヲ得サルノ策ニシテ敢テ他意アルニ非ス故ニ支那ノ主權ハ嚴重ニ之ヲ尊重シ良民ノ生命身体名譽及財産共ニ秋毫モ侵犯セラルコトナシ偏ニ支那官憲及軍隊ト協調ヲ保チ以テ其目的ヲ達センコトヲ期ス然レトモ我居留民ヲ迫害シ我軍事行動ヲ妨碍シ匪賊ヲ利セントスルモノアラハ我軍ハ嚴ニ之ヲ處斷シ自衛ノ途ヲ講セサルヲ得ス支那官民齊シク此意ヲ體シ我軍事行動ハ爲シ得ル限り支那官憲及軍隊ト協調シ匪賊ヲ剿討スルニ在リ而シテ匪賊ノ剿討ハ又支那人民ノ福利ヲ増進スル所以ナルヲ思ヒ誠意我軍事行動ヲ補翼シ延テ日支親善ノ實ヲ擧ケンコトヲ望ム

附録第十一 告示

三三

附録第十二 (甲)

一九二〇年十月三十日

間島(朝鮮會經由)

日本、東京、神學博士エー、オルトマンズ宛

親愛ナル「オルマン」博士

予ハ貴下竝ニ日本駐在宣教師ノ全テカ「獨立運動」後、鮮人ノ上ニ壓迫ヲ加ヘラレタル節、彼等ノ爲、深キ同情ヲ寄セラレタルハ予ノ記憶ニ存スル所ニシテ感謝ニ堪ヘサルナリ、而シテ予ハ貴下等カ目下當地方鮮人ノ上ニ加ヘラレツツアル不正當ニシテ且ツ恐怖スヘキ刑罰ヲ中止セシムル爲進テ盡力セラレンコトヲ希望ス

當地方ハ豆滿江ノ北ニ位シ瑣春、延西及龍井ノ三集散場ヲ有ス

約三週間前、日本軍カ當地ニ來リシ際、彼等ノ目的ハ日本居留民ノ安全ヲ脅カス約五百ノ匪徒、其若干ハ露人竝ニ鮮人ナリトノコトナリシモ實際其大部ハ支那人ニ對シ人民ヲ保護スルニアリト新聞紙ニ宣明セラレキ、匪徒ハ瑣春地方ニアリテ日本領事館ヲ燒却セシナリ隨テ鮮人ハ勿論吾々モ日本軍ノ來著ニ對シ何等ノ懸念ヲモ感セサリキ

附録第十二

三三三

軍隊ハ當地ニ約一週間滞在シタル後行動ヲ開始セリ吾人ハ軍隊カ侵入セル時彼等カ基督教村落ニ立寄り教會堂竝ニ學校ヲ焼却シツツアリトノ報ヲ得タル時殆之ヲ信スルヲ得サリヤ然ルニ事實ハ遺憾ナカラ事實タルヲ失ハサリシナリ

左ニ記述スル所ハ過去二週間ニ亘リ發生セル事件ニ關シ貴下ニ其ノ梗概ヲ與ヘントスルモノナリ

○ ナム、コアツ(NamKoa-u)十月十九日

學校經營者ノ住宅竝ニ校舍焼却セラレ教會ハ火ヲ放タレタルモ甚シク焼却スルニ至ラス

○ ク、セイ、ト(KuSeiGong)十月十九日

基督教徒ノ家屋焼カル

○ 東道溝(DeTokino)十月二十六日

基督教徒ノ家四軒焼カル

○ ミュン、ド、ン(MungDona)

壯麗ナル煉瓦造校舍約百呎ニ亘リ焼却セラル、一長老ノ住宅モ同様

○ ノー、ペイ(NoPei)

教會堂(三百名分ノ座席ヲ有ス)及學校燒却

○ カンチャンアム(KanChangAm)十月三十日

教會堂、學校及住宅九軒燒却、人民ハ銃殺セラレ屍體ハ燒カル

以上ノ記述ハ絶對ニ信賴シ得ヘキモノナリ、五名ノ者(宣教師四名税關官吏一名)日

ヲ異ニシテ後者記述ノ現場ニ臨ミ、土民ト數時間ヲ該地ニ費セリ

以下記述スル所ニ關シテハ、鮮人ノ證人ヲ有スルニ止ルト雖信賴シ得ヘキモノソ

如シ吾人ハ近ク當該地方ヲ巡視スル希望ヲ有ス

○ チョンサン(ChongSan)

教會兼學校(一建物ヲ兩目的ニ使用シアリシモノ)及家屋數戸燒却セラレ三十名殺

害セララル、而シテ内二十三名ハ射殺セラレ他ノ七名ハ各自ノ家ニ於テ燒殺サル

○ ウントンチャ(WuTongJa)

教會兼學校燒カレ八十名射殺セララル以上ハ全テ基督教村落ニシテ事件ノ一層

詳細ナル序目アルモ予ハ報告シ得ル程正確ナル材料ヲ有セサルヲ以テ省略セン

但シ右ノ外尙多數ノ死者ヲ生シアルモノノ如シ

指揮官及兵卒ハ一ヶ所ニ至リ、人民トハ何等言葉ヲ交フルコトナク其惡魔ノ如キ

行爲ヲ遂ケ、次テ過キ去ルヲ通常トス、例ヘハ「獐巖」村ニ於テ、兵卒等ハ同地ヲ行進シツツアリシカ、教會堂ノ對側ニ到ルヤ、乘馬シアリシ將校ハ放火ニ便ナル距離ニ隊ヲ止メ、教會並ニ學校ニ火ヲ放チ、次テ過去レリ

「クセイトン」アミニ於テハ其行爲ニ對スル理由ヲ村民ニ指示セラレタリ

即チ軍隊ニ隨從セル一鮮人ハ其將校ハ該家屋ノ所有者カ朝鮮ニ對スル愛國的目的ノ爲金圓ヲ募集セル事實ヲ握ル旨言明セリト村民ニ告ケタリ、若シ犯人ノミ加罰セラルルモノナラハ鮮人ト雖之ニ對シ反對スヘカラサルヘシト雖事實ハ之ニ反シ、眞ニ無辜無力ノ民ニ其自己ノ何等刑ヲ受クヘキ理由ナキヲ辯明スルノ一語ヲモ發スル機會ヲ與フルコトナク刑ニ處セルナリ

「カン、チャン、アム」ニ於テハ、寒キ冬ノ來ラントスルモ、自己並ニ其子女ヲ扶持スヘキ何物モ無キニ到ラシメラレタル憐ムヘキ婦人アリ、即チ家族中男子ハ射殺セラレ、家屋家財ハ燒却セラレ、其家ノ傍ニ蓄積シアリシ收穫物スラ灰燼ニ歸セシメラレタルナリ

婦人小兒共ニシテ穿ツヘギ靴サヘ所有セサルモノアリ、拂曉間モ無ク兵卒等ハ該村落ニ隣村ヨリ六名ヲ連レ來リ、該六名ト「カン、チャン、アム」村ノ若者トハ一鮮人家

屋前ニ一群トシテ列ヘラレ審問ノ形式サヘ行フコトナク射殺セラレタリ。右ノ者共ハ一家族ヨリ父子ノ二名他ノ家族ヨリ二名ノ兄弟及其子ヨリナリ刑ニ處セラレタルモノ總計二十五名ナリ。射殺後屍體ハ二ヶ所ニ積重ネラレ雜草ヲ以テ之ヲ覆ヒ、燒却セラレタリ。

燃料ヲ屍體ノ上ニ置カルル際傷者中或ル者ハ立タント試ミ得ルモノアリタルモ忽チ銃劔ヲ以テ地上ニ刺突セラレ、火焰中ニ燒殺サルルニ至レリ。予ハ良ク右ノ者共ヲ知リ居レリ、彼等ハ人里離レタル峽谷ニ住ヒ居リシカ同地ハ地味豐饒ナラス薪材ハ頗ル缺乏シアリキ、彼等ハ溫和、精勵親切ニシテ又生計ノ爲メ能ク勞作セリキ、教會學校、聖書讚美歌、日曜日ノ禮拜及救世主ヲ信仰スルコトハ彼等ノ誤樂ナリキ、彼等ハ愛國的軍人ニハ非サリキ又教會カ政治ニ關スルコトニハ反對セリキ予ハ上記ノ月日ヲ以テ本書簡ノ記述ノ初メタルモ、傾向ノ良漸ヲ期望シテ本日即チ十一月二日迄發送ヲ見合セタリ、然レトモ今ヤ予ハ貴下カ貴教會ノ適當ナル委員ニ本件ヲ附托スルヲ望ミツツ本書ヲ貴下ニ呈スルヲ我任務ト感スルナリ予ハ本件カ一度其ノ注意ヲ喚起スルヤ、政府界ノ仁慈ニ富メル領袖等ハ斯カル事ノ繼續ヲ許ササルヘキヲ信スルナリ

予ハ時々、嘗テ貴宅ニ暮シタル數日ヲ回想シ快感ニ堪ヘサルナリ、請フ予ノ知合トナレル諸君ニ宜敷傳言アラシコトヲ

貴下ノ實意アル友

ダブリュ、アール、フート (自署)

譯者註「フート」ハ在間島加奈陀基督教長老派ノ首席ニシテ年齡五十餘宣教師トシテ己ニ東洋ニ二十有餘年ヲ暮セル紳士ニシテ其言フ所モ亦過激ニ走ルコトナク溫顔ノ好々爺ナリ。

一九二〇年十一月二日 (乙)

間島龍井村

本日予ハ簡井間島日本軍隊指揮官(譯者註、在龍井村兵站司令官簡井嘉作少佐)ト左記ノ會談ヲナセリ

該會談ハ少佐ノ事務所ニ於テセルカ、當時渡邊憲兵大尉及鮮人通譯一名臨席シアリタリ、其他尙ホ洋服ヲ纏ヘル者一名室内ニ來リ、前記通譯ト同行他出セルカ、予ハ其者ノ鮮人ナリシヤ將タ日本人ナリシヤ判明セス、彼ハ遂ニ一語ヲモ發セサリキ予ハ挨拶ヲ述ヘ名刺ヲ交換シタル後、來訪ノ目的ヲ陳述セリ。

予ハ英國臣民ニシテ己ニ永年宣教師トシテ鮮人間ニ働キ居リシコト予ノ仕事ハ主トシテ界限村落ノ教會事業ニアルコト而シテ予ハ本事業ヲ繼續シテ行フ希望アルモ、夫レ等ニ村落ニ通スル道路上ニハ日本兵アルヲ以テ萬一彼等ノ誤解ヲ受クルカ如キコトナカラン爲メ、指揮官ニ旅券若クハ類似ノ物ノ交附ヲ請ハンカ爲メ來レルナリト述ヘタリ。渡邊大尉ハ聊カ英語ヲ解シ、予ニ「何地ニ行カント欲スルヤ」ヲ問ヘリ予ハ「時々龍井村ヲ發シ地方ヲ旅行セント欲ス」ト答フ。渡邊大尉ハ予カ故國(加奈陀)ニ歸ラント欲スルヤト諮ネ予ハ之ニ對シ「否龍井村附近ノ地方ニ行カント欲スルナリ」ト答ヘタリ。大尉ハ「會寧ニ行カント欲スルヤ」ト問ヒ、予ハ「該道路ニテハ爾ク遠方迄行クヲ欲セス、又其道路ノ方面ノミニモアラス」ト答フ。渡邊大尉ハ重ネテ予カ三峯停車場迄行カント欲スルヤト質問シ、予ハ「己ニ再三御答ヘ致シタル如ク、予ハ間島ヲ去ランカ爲メ旅券ヲ請求スルニハアラス間島内ヲ旅行センカ爲旅券ノ下附ヲ乞フ也」ト答ヘタリ。

本會話中、渡邊大尉ハ時々其要旨ヲ指揮官ニ通シタルニ初メ彼ハ明カニ予カ間島ヲ去ラントスルモノト思惟シ、喜色面ニ溢ルルカ如カリシモ、渡邊大尉カ漸ク予カ間島内ノ教會堂ヲ往訪センカ爲旅券ヲ請求セル意味ヲ覺リ、之ヲ通シタルニ彼ハ

急チ其手帖ヲ懷中ニシ、荒々シク返答シテ室ヲ去レリ。

渡邊大尉ハ頗ル愉快ラシキ笑ヲ滿ヘツツ予ニ向ヒテ、目下龍井村ヲ立出ツルコトハ予ニ採リ極メテ危険ナルヘシト思考スル旨ヲ語り、次テ如何程遠方迄行カント企圖スルヤヲ問ヘルヲ以テ予ハ「今後三週間内ニ三回旅行ヲ實施致シ度シ、但シ龍井村ヲ距ル四十哩以上ノ地點迄赴クコトハ豫想シアラス」ト述ヘ重ネテ「予ハ宣教師ナルヲ以テ當地方ノ教會ヲ往訪スル希望ヲ有スルナリト繰返シ置ケリ。

當時指揮官ハ己ニ事務所ニ歸還シアリテ、渡邊大尉ト若干談話ヲ交フ、斯クテ渡邊大尉ハ予ノ往訪セント欲スル村落ヲ諮問セルヲ以テ予ハ村名ヲ舉タルニ、大尉ハ鮮語モ支那語モ解セサルヲ以テ、通譯ヲ召喚シテ之ヲ通シテ日本名ヲ知得セリ。

指揮官ハ「當該道路上ニハ到ル所日本兵駐屯シアルヲ以テ旅行ハ危険ナラント」語レルヲ以テ予ハ「予ハ當地到ル所日本兵ノ駐屯シアル熟知スル所ナリ、彼等ヨリ万一誤解ヲ受クルコトナカラシカ爲メニ、彼等ノ司令官ヨリ旅券ノ交付ヲ受ケント欲スルモノ、實ニ此故アルニヨル。即チ其旅券ヲ開示スルコトニヨリ通過ノ安全ヲ求メントスルニ外ナラス」ノ旨陳述セリ。

然ルニ指揮官ハ答ヘテ曰ク「彼等兵卒カ貴下ニ對シ爲セル行爲ニ對シテ予ハ其責

ニ任スル能ハス貴下ハ彼等カ機嫌悪シキ時、彼等ニ遭遇スルコトアルヤモ知レヌ
然ル時ハ射殺ノ危害ニ接スルコト無シトセサルナリ」

予ハ之ニ對シ答ヘテ曰ク

予カ旅券ヲ請求シタル理由ハ、司令官ノ與ヘタル旅券ハ、其麾下ノ何レノ軍隊ニ對
シテモ予ノ安全ヲ保證スルモノナリトノ感想ヲ保有シ得ルカ故ナリ」

彼曰ク

「予ハ何等ノ責任ヲモ負フ能ハス何トナレハ我兵卒中無學予ハ之ヲ以テ彼カ旅券
ヲ讀ミ能ハサルノ意味ヲ表ハセルモノト解セリ」ニシテ人民ノ不良階級ニ屬スル
者若干アルヲ以テナリ、若シ貴下ニシテ出張サレンカ其結果ハ憂慮スヘキモノア
ラン、即チ萬一貴下カ射殺セラレタル場合ニハ山々シキ問題惹起セラレ、而モ其事
件ハ當地方ハ勿論兩國政府間ニ重大ナル紛議ヲ生スルニ至ラン」

右ノ會話ハ鮮人通譯ヲ通シテ行ハレタルナリ。渡邊大尉ハ茲ニ於テ指揮官ト若干
ノ會話ヲ交ヘタル後曰ク「指揮官ハ貴下カ當分龍井村ヲ去ル事ナキヲ希望ス。暫ク
經過セル後ナラハ彼モ亦貴下ノ教會訪問ニ同意ヲ表シ、且護衛兵ヲモ提供スヘシ」
予ハ如何程待タハ出張シ得ルヤヲ諮ネタルニ指揮官ハ答ヘテ曰ク、

二十日モ待タハ護衛兵ト同行シ旅行シテ安全ナラン元來貴下ノ安全ニ就テハ予ノ部下カ信頼シ能ハサル點ノミニ止ラス支那人強盜或ハ又不逞鮮人ニモ遭遇スルコト無シトセサルナリ

右ニ對シテ予ハ予ノ行カント欲スル地方ニハ支那人強盜ナト皆無ニシテ又予ハ朝鮮西伯利及間島ノ鮮人間ニ二十有餘年間徘徊シタルモ、彼等ノ懇切ヲ盡セル待遇以外ノ何物ニモ遭遇シタルコトナカリシ旨ヲ語リ得ヘカリシモ、敢テ答ヲ爲ササリキ。斯カル陳述ヲ爲シタレハトテ何等ノ初果ナカリシナラン予ハ指揮官カ機嫌一層佳良ナル如ク見受タルヲ以テ予ハ之レ予ノ要望ニ耳ヲ貸サレタル好意ヲ謝スヘキ好機ナリト信シ、別辭ヲ述ヘ、兵卒、小銃、銃劍ノ列ノ間ヲ渡邊大尉ニ送ラレツツ、街路ニ出テタリ。

ダブリユ、イー、フート (自署)

(丙)

聖書行商人「キ、クン、シク」及同村鮮人四名慘殺

十月廿九日早朝、日本兵約四十名ノ一隊ハ龍井村ヲ距ル僅々五里ノ「支那里」スタル「r」(Sutchgio)村ニ到リ聖書行商人「キ、クン、シク」カ隣家ニテ坐談アル際、同人ヲ捕縛セ

リ、同家ノ男子一名他ノ三名モ同シク逮捕セラル、捕虜ヲ縛セルニモ係ラス兵卒等ハ村民ニ恐怖スヘキ理由ナレト保證セリ。一名ノ兵卒ハ人名簿ヲ取出シテ之ヲ前記行商人ニ示シ、同人ノ姓名ノ其ノ内ニアリヤヲ諮ネ、無シトノ答ヲ得テ人名簿ハ之ヲ舊位ニ復シ一行ハ龍井村ニ向ヘリ。

捕虜ハ先ツ當地ニ設ケラルアル臨時の軍隊司令部ニ收容セラレ、吾人ノ知り得ル範圍ニテハ、一回ノ審問モ行ハルル事ナク、間モ無ク、過去數ヶ月ニ亘リ政治的囚人ヲ監禁シアル領事館内監獄ニ投セラレ、同所ニ抑留中、午前一時ニ至リ兵卒ノ一隊ハ同所ニ到リ、彼等ヲ龍井村ヲ距ル約ク三哩ノ「アルチゴ」村附近ノ高地上ニ連行セリ。高地ノ頂ニハ一箇ノ大ナル凹孔アリテ村落又ハ道路上ヨリ之ヲ望ムヲ得ス、凹孔ノ一側ハ砂利孔ノ一側ノ如ク崩壊シ易キ絶ヘス土ノ崩落シツアル地質ヨリ爲ル、捕虜ハ此ノ底部ニ据坐セシメラル、軍刀ヲ以テ斬殺セラレタルナリ。一目撃者ノ言ニ據レハ軍刀ハ振折レシ爲銃劍ヲ以テ恐怖スヘキ仕事ヲ完了セラレタリトノ事也。然ル後、上方ヨリ崩土ヲ投落シ、切り離サレタル屍體ヲ覆ハレタリ。逮捕ノ行ハレタルハ金曜日ニシテ、越ヘテ土曜日朝、行商人ノ倅ハ父ノ衣類ヲ携ヘテ龍井村ニ訪ネ來リ、領事館ニテ父ハ同所ニ在リシモ、目下不在ナリトノ答ヲ得、更

ニ同日晩ク重ネテ訪問シ父ヲ何所ニ誘ヘルヤヲ諮ネタルニ、領事館ニテ知合ノ一
 鮮人ハ「知レル限リニテハ同人ハ何レカニ行キテ不在ナリ」トノミ答ヘタリ。

同日更ニ領事館ヲ訪問セシニ、今回ハ「兵卒等ハ同日朝嶺巖洞ニ赴ケルヲ以テ、或ハ
 同所ニ連レ行カレタルヤモ知レス、同所ニ行キテ問合スニ如カス」トノ答ヲ得タリ
 此ノ友情アル鮮人徴ツセハ彼ハ遂ニ領事館ニテ如斯情報ヲスラ得ル能ハサリシ
 ナラン、同人ハ仍テ翌日曜日早朝出發シ嶺巖洞ニ到リタルニ、同地ニ「之」他村ヨリ人
 々連レ込マレ同村ノ者共ニ射殺セラレタル事實ナルモ、其ノ内ニ彼ノ父ハ居ラサ
 リキ」ト告ケラレタルヲ以テ龍井村ニ歸還シ、其ノ搜索ノ無効ナリシヲ領事館ノ知
 人ニ語リタルニ「何所カ他ノ村」ブチルゴ」ニテモ捜シ見テハ如何ニト示サレタリ。此
 時迄ニ物狂シクナレル妻及家族ノ者共ハ、多分行商人ハ殺害セラレタルナラント
 想像スルノ外ナカリシモ、其ノ詳細ヲ確ムル迄ハ安キ心地セサルヲ以テ、越ヘテ月
 曜日朝、倅ハ再ヒ出發セリ、出發後「ブチルゴ」村迄三哩ノ間ニ於テ六回兵卒ニ停止ヲ
 命セラレ搜查ヲ實施セラル、斯クノ如クニシテ何時父ノ同様ノ運命ニ逢フコトナ
 ルヤ知リ得サリキ、斯クシテ進ミ且進ミ、遂ニ該村落ニ達ス。此時偶然樹下ニ最近、兵
 卒等ノ在リシ踪跡ヲ發見シ其ノ附近ニ多數ノ煙草ノ吸殻散在シアル點ヨリ同所

ニハ多數ノ兵ノ居リシ事ヲ推斷スルヲ得タリ。而シテ更ニ同地點ハ憎ムヘキ行爲
ノ實施セラレタル場所ヲ距ル速カラサルコトニ想到スルヲ得タリ。唯高地上ニ攀
登セザリシ爲、埋沒箇所ヲ發見スルニ到ラザリシノミ、彼ハ歸宅シ其ノ未タ成功ス
ルニ到ラサルヲ告ケタルニ、多數相談ノ結果、老人二名即チ被害者ノ父二名行カハ
若者ヨリモ危険ノ顧慮少クシテ一尉完全ナル搜索ヲ爲シ得ヘシトノ結論ニ達セ
リ。(三十才以下ノ青年ハ兵卒等ノ好ヲ殺害スル犠牲タルモノノ如シ)。仍テ老人等
ハ其ノ忤共ノ内ニテ何等カ遺留セラレタルモノ無キヤヲ搜索スル爲ニ出發セリ
火曜日ハ終日搜索ヲ續ケタル後、彼等ハ遂ニ高地ヲ攀登シ(傾斜ハ極メテ急峻ニシ
テ從來攀登不可能トセラレタルモノ)凹孔内ニ入り血ニ染リタル衣類ノ縁端ノ充
分埋没シ在ラサルモノヲ發見セリ。軟キ土地ヲ若干掘開セルニ屍體ノ若干現出セ
リ。然レ共同地ニテ此ノ發見ヲ爲シタルコトノ踪跡ニヨリ、更ニ面倒ノ惹起ヲ恐レ
土ヲ舊ノ如ク覆ヒテ報告ノ爲歸還セリ。翌日各家族ヨリ一名宛出タル代表者ハ、生
命ヲ堵シテ再ヒ現場ニ臨ミ、今回ハ屍體全部ヲ掘開セリ。慘殺後數日ヲ經過セシニ
係ラス、翌日行商人以外ノ屍體ハ尙之ヲ識別シ得タリ。行商人ハ其ノ顔面鮮血ヲ以
テ覆ハレ(頭首ハ体ヨリ殆切斷セラル)、身体ハ切り苛マレ、纔ニ衣類ノミニヨリテ識

別スルヲ得タリ。聖書行商人及少クモ他ノ二名ハ逮捕當時其ノ財布内ニ餘程ノ金員ヲ所有シ、行商人ハ其ノ他證券若干ト尙貴重ナル商用書類ヲ所有シアリシコト判明セルモ屍体發掘ノ際ニハ皆空虚ナリキ。即チ慘殺ノ犯行以外強盜ノ行爲サヘ追加セラレタルコトヲ明示スルモノナリ。最初屍体ヲ龍井村ニ移シ同地ニテ適當ナル耶蘇埋葬式ヲ施行スル希望ナリシモ、之ニ依リ生存者ニマテ危害ヲ及ホス憂慮ヨリ遂ニ現地ヲ以テ實際ノ墳墓トナスコトニ決定セラレ、埋没ノ上兇惡薄ラクノ日、墓地ヲ移轉シ得ル爲適當ノ標識ヲ設置セラレタリ。

筆者ハ四名ノ死者ノ經歷ニ就キ殆知ル所ナク唯其ノ一名ヲ除ク外ハ皆基督教信者ニアラサリキ。其ノ一名ト云フハ男系ニヨリ九代モ繼續セル一門ノ唯一ノ後繼者ニシテ彼ニハ男子ナカリキ。眞ニ鮮人ノ心中ニハ此ノ上ナキ悲劇ナリキ。

聖書行商人ハ年齡五十五才、同人ノ死後家ニハ其ノ死ヲ哀ム寡婦ト息五名娘一名アリ、彼ノ耶蘇教ニ入レル經歷ハ朝鮮ニ於ケル耶蘇教布教ノ當初ヨリ初マレリ、即チ彼ハ基督教信者トナリテヨリ己ニ二十有八年ヲ閱スルナリ。

同人ハ外人間ニ「幸アル日」ナル異名ヲ以テ知ラレ愛サレ居タリキ。其ノ理由ハ彼ノ容貌ノ常ニ幸福ラシク愉快ケナルニヨルナリ。

彼ハ我宣教事業ノ開始セラルル以前ニ、北長老派宣教團ノ「ゲール」博士及「スウオー
 ル」博士ヨリ初メテ福音ヲ聞ケルナリ。而シテ「フート」氏カ「ウオンサ」ニ於テ宣教
 ヲ開始スルヤ、彼ハ氏ノ旅行ニ随伴シ、千九百年一月一日ヨリ元山地方ニテ聖書ノ
 行商及福音ノ傳導ニ從事シ先ツ元山ヨリ會寧、間島ニ及ヒ、前後十八年ニ亘リ其ノ
 職務ヲ忠實ニ履行セリ。元山教會堂ノ設立前ニハ、自宅ニ於テ禮拜ヲ施行シ、而シテ
 彼ハ全テノ者ヨリ司會者トシテ敬愛セラレキ。約二年前、彼ハ聖書行商人トシテ家
 庭ト常ニ離レ居ル事ハ其ノ成育中ノ兒童等ノ爲宜シカラス而モ自己ノ第一位ノ
 義務ハ家庭ノ爲ニアルヲ感シ、職ヲ辭シテ龍井村ヲ距ル數里「支那里」ノ「ス・デルゴ」村
 ニ移住セリ。移轉後ト雖、信徒ハ日曜日毎ニ禮拜ノ爲彼ノ宅ニ集リ、彼ハ村内ノ指導
 者トシテ認メラレキ。

彼ノ死ハ、家族ハ勿論一般基督教社會ヨリ痛歎セラルル事大ナルヘシト雖、必スシ
 モ悲歎ノ涙ニノミ搔幕ルル要ナカルヘシ、何トナレハ彼ハ己ニ審問ヤ迫害ナトノ
 無キ境、日々ハ「幸アル日」ナル彼方ヘ赴ケルヲ以テナリ。

エムマ、エム、ペールソープ (自署)

譯者註、ペールソープハ中年ノ加奈陀婦人ニシテ龍井村長老派濟昌病院ノ看護

婦主任、タリ。院長、マ・チン」ト共ニ間島討伐中各地ヲ巡視シ、衣類等ヲ以テ被害者ヲ慰問セル排日宣教師團ノ一名トス

(丁) 嶺洞屠殺事件

左ニ記述スル事實ハ、之ヲ支那、吉林省南部ノ間島全地區ヲ通シ適應ノ例證タリ。日本ハ支那ノ極メテ頑強ナル抗議ニ耳ヲ藉スコトナク爲シ得レハ全耶蘇教信徒特ニ全青年ヲ掃滅スヘキ企圖ヲ以テ本地方ニ一萬五千ノ兵ヲ出動セリ。村落ハ次ヨリ次ヘト毎日、組織的ニ燒却セラレ、青年ハ射殺セラレタリ。故ニ目下予ノ住ヘル町ハ其ノ周圍ニ燒却或ハ全員屠殺セラレタル村落而モ通常兩者ノ難ヲ併セ蒙リタル村落ヲ以テ圍繞セラレアル景況ナリト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ。以下記述スル事項ハ絕對ニ眞實ニシテ現ニ筆者自ラ英人ノ友人ト共ニ目撃セルモノ也。

予等ハ十月三十一日(日曜日)拂曉ト共ニ北京馬車ニ乗シテ龍井村ヲ出發シ、同地ヲ距ル十二哩、小嶺ノ谷底ニ位置セル嶺洞ニ向ヘリ。當日ハ日本ノ天長節ナリシ爲途上日本ノ兵卒警官等ニ煩ハサル事ナク、恰モ遊獵ニテモ見掛ル折ノ如キ心地セリ。本道ヨリ離ルルカ間モナク遠キ山々ニ煙霧深ク重リ合ヘルヲ望見セリ、之レ

即チ我目的地オルヲ示スモノ也、以下十月三十日ニ當村ニ於テ實際發生セル事項ヲ多數目撃者ノ見聞通リ記述セントス。

拂曉、武裝セル日本歩兵ノ一隊ハ耶蘇教村ヲ漏ナク包圍シ、谷ノ奥ノ方向ニアリシ藁麥等ノ堆高ク積スルモノニ放火シ、村民一同ニ屋外ニ出ツルヨトヲ命セリ。村民ノ出來ルヤ父ト云ハス子ト云ハス目ニ觸ルル毎ニ之ヲ射撃シ其ノ半死ノ儘ニテ打倒ルルヤ焰々タル乾草類ヲ覆ヒ冠セ、忽識別シ得サル程度ニ燒カラルナリ。此間母モ、妻モ、又子女モ、村内成年男子全部ノ處刑ヲ強制的ニ目撃セシメラレタリ。家屋ハ全部燒拂ハレ、界限ハ煙ヲ以テ覆ハレ、當市(龍井村)ヨリ其ノ燎煙ヲ明カニ望見スルヲ得タリ。日本兵ハ斯クシテ該地ヲ引揚ケ、谷地ト本街道間ニアル村落中基督教徒ノ家屋ヲ全部燒拂ヒタル後、天長節祝賀ノ爲歸途ニ就ケル也。

予等ハ同村附近ノ村落ニ近接スルヤ、出遇フ者ハ悉婦人小兒ニアラスンハ白髮ノ老人ノミカリキ。

背ニ嬰子ヲ負ヘル女共ハ哀哭シツツ、附近ヲ徘徊シアリテ、予等ノ近ツクラサヘ氣附カサル程方キ、第一ニ予等ノ視目ニ映シタルハ尙所々焰上シツツアル一大鮮人家屋ノ殘骸オリキ。周圍ニ濃々タル黒煙ノ圍繞シツツアルハ三箇年分ノ貯藏糧

食ヲ示スモツ也。

三箇ノ新墳墓前ニ据坐シツアルハ脊ニ赤子ヲ負ヘル婦人ト八才ノ娘竝ニ新調ノ白色喪帽ヲ戴ケル老人ノ三名ニテアリキ。

予等ハ燒跡ヲ撮影シタル後、此ノ老人ハ有名ナル耶蘇教徒ナルヲ知ルヲ得タリ。彼ハ四ヶ所射撃ヲ受ケ、彼ノ悴ハ二名共射殺セラレ、兄弟三名ハ皆燃エツツアル家屋ノ火焰中ニ投セラレタリ。

予ハ傍ノ數名ヲシテ或屍体ニ附着セル土ヲ拂ハシメタルニ、身体ニ數箇所ノ射撃ヲ受ケ、四肢屈縮セル老人ノ黒焦屍体顯ハレタリ。燒却ヲ免レタルハ頭部ノミニシテ純白ノ頭髮ヲ以テ覆ハレ居タリキ。予等ハ屍体及他ノ墳墓二箇ヲ撮影シタル後、谷端ニ向ヘリ。谷端ニテハ火災三十六時間ヲ繼續シタルニ係ラス尙肉体ノ燒ケツツアル臭氣及家屋ノ棟梁ノ燒ケ墜ツル音響アリキ。隅角附近ニテ嬰子ヲ負ヘル婦人四名遭遇セシカ、彼等ハ皆新墓前ニ据坐シ、哀ミ泣ケル有様モ憐レニシテ、予等ノ在ルヲモ氣附カサル程ナリキ。

予等ハ次ニ燒跡十九軒ヲ撮影セルカ、其ノ間、老人ニシテ悲哀ノ極、頭髮ヲ引ムシリツツ泣ケルモノ、母ヤ娘共ノ眼ハ煙ニ燃焼サレ、燃焼シツツアル家屋ヨリ屍体クニ

部ヤ焼残リノ財寶ヲ集メツツアルヲ見タリ。予ハ一名ノ老人ヲ撮影シタル後親切ナル言葉ヲ以テ慰メタルニ彼ハ忽チ悲哀ニ打タレ、氣狂ヘルカ如クナリキ。予ハ其ノ一群中重立タル者ニ禮拜スル故人々ヲ集メヨト命セリ。此ノ者ハ逃レテ日本領事館ニ至リ自己ノ村落ハ政治的事柄ニハ關係シアラサルヲ以テ宥恕アラシム事ヲ乞ヘルニ、其ノ村ハ己ニ燒ケツツアリトノ答ナリキ。斯カル間ニ予ハ異教徒共ノ手助ニテ焼跡ヨリ一屍体ヲ運ヒ來リテ、之ヲ新シキ藁疊ノ上ニ横ヘタリ。屍体中一脚及一足、不足ナリシカ之ヲ搜シ當テ、相當位置ニ横ヘ之ヲ四回撮影セリ。此ノ間、多數ノ婦人ハ號泣シ、予モ亦斯カル有様ヲ目撃シテ憤怒禁スル能ハス。隨テ濃煙中ニテ必要ナル撮影時間中寫真器ヲ嚙ト保持シ得サル程ナリキ。燒ケツツアル家屋ノ殘骸ノ空地ニ、道路ヲ挟ミ、一側ニハ約五十名ノ婦人及娘ヲ、他ノ一側ニハ十乃至十五名ノ老人小兒ヲ据坐セシメ、予等ハ『イエスハ予ヲ愛シ給ヘリ。予ハ之ヲ知ル』ノ讚美歌ヲ合唱セリ。彼等ハ之ヲ記憶シ居ルヲ以テ也。了リテ、老人共ハ祈ヲ捧ケ、女子ハ彼等ノ愛スル者ノ墓前ニ哀悼シツツ座シ異教ノ支那人鮮人等ノ大群集ヘ頭ヲ下ケ眼ニ涙ヲ湛ヘツツ見守リツツアリキ。大樹ノ下ニアリシ教會堂ハ今ヤ一塊ノ灰燼ト歸シ、二棟ヨリ成ル學校ノ大建物モ同シ運命ヲ蒙リヌ。予ハ次ニ墳墓ヲ教ヘ

タルニ、三十一個アリキ、各戸ハ其ノ死者ヲ家ノ傍ニ埋没シス。

焼ケル屍体ヲ引出シテ之ヲ埋葬スル爲終日ヲ費セリ、之等ハ皆婦人小兒等カ自ラ行ヘルナリ予ハ彼等ト別レテ告ケ、尙家ヲ焼カレ、人々ヲ射殺セラレタル他ノ二村ヲ往訪スルコトトセリ、途上人々ハ予ニ負傷セルモ幸死ヲ免レタル者ヲ見舞ハシコトヲ乞ベリ、予ハ總計焼却家屋十九軒、墓竝ニ屍体三十六個ヲ目撃セリ、予ノ龍井村ニ歸着セルヤ日本兵ノ泥酔セル者ニ出遇ヒ、又市ハ日本國旗ニテ覆ハレナルヲ見タリ。

本日鮮人家屋ニシテ日章旗ヲ揚ケサルモノハ悉ク騎馬兵ノ記帖ニ上セラレタリ、彼等ハ近ク龍井村ノ一部ニシテ河ノ彼岸ニ位置シ支那人家屋百戸ヲ有スルニ村落ヲ焼拂シ豫定ナル由ニテ青年等ハ同地ヲ逃レ當市ニ入込ミツツアリ蓋シ、當市ニハ日本家屋散在シアルヲ以テ總燒打ヲ免レ得ヘケレハ也。

明日「ペールシーナ」嬢「ホアイトセー」嬢「看護婦長」及予ハ再ヒ獐巖洞ヲ往訪シ、傷者ノ手常及喪心者ノ慰問ヲ爲サントス。

一九二〇年十月三十一日

エス、エチ、マーチン（エム、ピーシー、エム學位）

2222

譯者註「マーチン」ハ龍井村、加奈陀長老派宣教團所屬濟昌病院長ニシテ年齡三十
餘才、宣教團中「バーカー」ニ次ク排日宣傳者也。加奈陀ノ産ニシテ最初ハ無線電信
技手タリシカ、後醫學校ヲ卒業シ思フ所アリテ宣教團ニ身ヲ投シ己ニ數年龍井
村ニ居住ス妻子アリ

附錄第十三

辨駁資料

甲ニ對スルモノ

「ナム、ゴアツ」クセイトシ「東道講

地點ノ所在明カナラス特ニ同地方ニハ支那名朝鮮名アリ又俗稱トモ稱スヘキ名稱
アルヲ以テ今茲ニ的確ニ具體的辨明ヲナスヲ得サルヲ遺憾トス

基督教信徒ノ家若クハ教會ト稱スルモノ燒カレタリトアルモ我軍ノ討伐行動ハ國
家ノ自衛上朝鮮ノ治安ヲ擾亂スヘキ不逞者ヲ膺懲スルニアリテ其宗教ノ何タルヲ
擇ハス苟クモ良民タルニ於テハ一視同仁ニ之ヲ庇護シ不良者タルニ於テハ一律ニ
之ヲ糾彈シ從來屢不逞者ノ集會ニ利用サレタルノ証跡確實ナルモノハ其ノ家屋ヲ
モ燒却セルモノアリ而シテ其不良ノ識別ニ對シテハ特ニ意ヲ用ヒ殊ニ該地ニ關係
ナキ敦朴ナル鮮人ヲモ軍隊ニ同行セシメ家宅ノ搜索抑留者ノ審問等ニ依リ公平ニ
其ノ不良分子ヲ摘出シ之ニ懲戒ヲ加ヘタルモノナルコトヲ諒セラレンコトヲ望ム
ミユンドン(明東)

十月二十日大拉子守備隊ニ於テ「ミユンドン」學校煉瓦造校舍及不逞鮮人馬晋ノ家屋

附錄第十三 辨駁資料

三五五

ヲ燒却シタル事實アリ

元來該學校ハ不逞團ノ巢窟ニシテ常ニ陰謀ノ根源タリ大正八年三月龍井ニ於ケル騷擾ハ該校ノ職員及生徒其首謀者タリシハ明ナル所ニシテ其後モ同校職員生徒ニシテ良民ヲ威嚇シテ金錢ヲ強徵シ或ハ不逞輩ヲ使喚シ若クハ其團中ニ在リテ良民ニ迫害ヲ加ヘ兇行ヲ逞ウセシヲ以テ支那官憲ニ於テモ該學校長金躍淵ヲ局子街ニ拘置シ該校ノ閉鎖ヲ命セリ而シテ該學校ハ其教授用圖書其他裝飾等ニ至ル迄我帝國ニ反抗シ瞭然我治安ヲ妨害スヘキモノナルノ證左歴然タルモノアリ

我守備隊ハ同縣知事王銘紳ノ承認ヲ受ケ同地支那巡官趙景和亦學校ノ不良燒却ノ承認ヲ與ヘタルヲ以テ禍亂ノ根據ヲ一掃スル目的ヲ以テ斷然之ヲ燒却シタルモノナリ

又馬晋ノ家屋ヲ燒却シタルハ其ノ家宅搜索ニ依リ得タル書簡及書類ニヨリ彼レカ絶ヘス不逞團ト連絡シ又支那側ニ拘禁セラレアル前記金躍淵等ト關係シ兇行ノ首謀者タリシ事實ヲ發見シ同地鮮人亦其不逞輩タルコトヲ言明シアリタリ且該家屋燒却ノ兩三日前迄彼ハ我守備隊ノ人員小數ナルヲ以テ其警戒網ヲ潜リ歸還シテ陰謀ヲ策シ我軍ニ危害ヲ加ヘントシツツアルヲ探知シ陰謀ノ根據ヲ覆滅センカ爲メ

其家屋ヲ燒却セルモノナリ彼ニシテ若シ「フー」氏ノ言ノ如ク長老ナリトセハ會々以テ耶蘇教徒中ニ不逞者ノ首領アルコトヲ證スルモノト謂ハサルヘカラス
ノーペイ及カンチルンアム

「カムチャンアム」ナル名稱不明ナルモ其月日及事實ニ依リ判斷スルニ吾人ノ所謂ノ
ーペイ(獐巖)ト同一地區ノ一事件ヲ別記シタルモノナルヘシト思考ス

本件ニ關シテハ獐巖洞事件別冊ヲ參照セラレンコトヲ望ム

ヲヨンサン(青山里)

十月二十一日山田大佐ノ率ユル一隊ハ該地附近ニ於ケル武裝セル不逞鮮人團ト戰
闘シ約三十名ヲ殲シタルハ事實ナリ當時賊徒ハ該部落民ト共ニ村落内ニ陣地ヲ構
成シ我軍ニ抵抗セリ爲ニ我軍亦數名ノ死傷者ヲ生スルニ至レリ殺害セラレタル鮮
人ハ益々此戰鬪ノ結果ニ依ルモノトス

燒却家屋ニ關シテハ村落内戰鬪ノ結果兵燹ニ罹リタルモノ及賊徒ノ退却ニ際シ森
林ニ放火セル爲メ類焼セルモノ竝我軍ノ急進ニ依リ敗殘兵ノ占據抵抗セル爲メ己
ムヲ得ス之ヲ燒却セルモノ等ニシテ故意ニ鮮民ヲ苦メントシテ燒却セルカ如キ事
實ハ全然之ヲヤコトヲ明言ス

又氏ノ所謂生キナカラ住民ヲ燒殺スルカ如キ慘虐ナル行爲ハ吾人帝國軍人ノ夢想
タモゼサル所ナリ

ウントンヂヤ

地點明瞭ナラス且全村舉テ基督教村落ナルモノヲ聞カス且時日不明ナルヲ以テ之
カ辯明ヲナズ能ハサルヲ遺憾トス

唯八十名ノ多數部落民ヲ射殺セルカ如キ事實ハ絶對ニ之レナキコトヲ明言ス

乙ニ對スルモノ

十一月二日筒井少佐トノ會談ニ關スル記事ハ同少佐ハ間島ニ於ケル日本軍隊指揮
官ニアラスシテ龍井村ニ於ケル兵站司令官タリシナリ此誤解ト通譯ノ不熟練ニ依
リ意志ノ疏通十分ナル能ハサリシトノ二原因ハ「フート」氏ヲシテ遂ニ不快ヲ感セシ
ムルニ至リタルモノナルヘシ

會談中同少佐ノ許ニ洋服ヲ纏ヘルモノ一名來リタルハ同地居住日本人ノ有力者ニ
シテ軍隊ノ宿營ニ關スル件ノ打合せニ來リタルモノナリシナリ其會談中司令官ノ
手帖ヲ懷ニシテ室ヲ去リシハ毫モ不快ノ感情ヨリセルニアラスシテ前記洋服ヲ纏
ヘル者トノ要務ヲ辨センカ爲メ出テタルモノナリ兵站司令官ノ業務繁忙ナル屢々

斯ノ如キコト起ルヘキハ何人モ想像シ得ル所ナルヘシ

其後再ヒ入り來リシ際同少佐ノ言トシテ「フート」氏ノ旅行ヲ欲スル道路上ニハ到ル所日本兵駐屯シアルヲ以テ旅行ハ危険ナランハ通譯ノ誤リナルヘク同少佐ハ日本兵駐屯シアル地點ハ危険ナルヘキモ唯途中萬一ノ事アル場合ヲ憂慮シテ暫時延期ヲ勸メタルモノニシテ決シテ他意アルニアラス又同少佐ノ言トシテ「彼等兵卒カ貴下ニ對シテ爲セル行爲ニ對シテ余ハ其ノ責ニ任スル能ハス云々」ト云ヘルハ元來同少佐ハ一兵站地ノ司令官ニシテ軍隊ノ指揮官ニアラサルコトヲ説明シタルト夜間等言語ノ不通ヨリ「フート」氏ノ誤解ヲ受クルカ如キコトナキヤヲ注意セル意味ナリ最後ニ同少佐カ約二十日モ經ハ護衛兵ヲ附シ旅行ノ安全ヲ期スルヲ得ヘキ意ヲ述ヘタルハ當時一般ノ情況上是等兵卒ヲ割リ能ハサリシト雖モ二十日モ經過セバ兵力ヲ集中スルノ見込十分ナリシヲ以テ好意的ニカク答ヘタルモノナリ

支那人強盜及不逞鮮人等ニ對スル「フート」氏ノ感想ハ當時ニ於ケル各自ノ判斷ニ依ルモノニシテ唯見解ノ相違ト稱スルノ外ナシ

又「フート」氏ノ司令部ヲ去ルニ際シ兵卒小銃銃劍ノ列ノ間ヲ出テタリト記サレアルモ是レ我兵站司令部ニ於ケル衛兵ニシテ決シテ同氏ノ來レル爲ニ特ニ警戒ヲ加ヘ

タルモノニアラサルコトヲ茲ノ明言ス
丙ニ對スルモノ

聖書行商人「キ、クン、シク」李根植等斬殺ノ件

是等鮮人ノ捕縛及斬殺ノ事實ハ之ヲ認ムト雖モ李根植ハ單純ナル神ノ道ヲ傳フル
聖書行商人ニ非ラスシテ審査ノ結果彼等ハ不逞鮮人ノ團體タル國民會ノ領袖梁遂
憲ノ密偵及通信員ヲ勤メ我軍ノ行動ヲ偵知シツツアリシコト明白ニシテ梁ハ當時
獐巖洞ニ在リトノ情報ニ接シ我軍隊ハ該地ノ事情ニ精通シアル李以下四名ヲ道案
内トシテ獐巖洞ニ迎ヘルニ彼等ハ途中逃走ヲ企テタルノミナラス却テ極力抵抗ス
ルニ至レルヲ以テ已ムヲ得ス之ヲ「アチルゴ」(新明村)附近ニ於テ斬殺シタルモノナリ
一回ノ審問モ經ス慘殺セシ如キ行爲ハ斷シテナシ

該行商人ノ子領事館ニ就キ父ノ所在ヲ尋ネタル如ク記載セラレアルモ彼ハ領事館
ニ就キ正式ニ之ヲ尋ネタルニアラスシテ同所ニアリシ知合ノ一鮮人ニ就キ之ヲ尋
ネタルニ過キサルヲ以テ該鮮人ノ個人的ニ斯ノ如キ返事ヲナセルモノナリ

之ヲ要スルニ李根植ハ彼カ多年聖書ノ行商及福音ノ傳導ニ從事シタルコトハ「ベ
ルソー」氏ノ記述ニ依リ之ヲ知得セルモ之アルカ故ニ彼ノ間諜的ノ行動ヲ許容ス

ルヲ得サルハ明白ナルヘシ
丁ニ對スルモノ

獐巖洞事件

「マーチン」氏ハ誇大感情的ニ記載セラレアル本文冒頭ニ於テ獐巖洞事件ヲ以テ間島全地區ヲ通シテ適應ノ例證タリト稱セルモ斯ノ如キハ誇大モ甚シキ言辭ニシテ我軍ニシテ若シ同氏ノ言ノ如ク日々焼却射殺ヲ事トシタランニハ間島一帯ハ數日ニシテ焼土ト化シ老幼ノ外何者ヲモ認ムルモ能ハサルニ至リシナラン然レトモ此言ノ無稽ナル一度足ヲ北朝鮮ヨリ間島ニ入ルルモノ誰人モ明言シテ憚ラサル所ナリ獐巖洞ニ於ケル出來事ハ其家族ニ對シテハ同情禁スル能ハサルモノアリト雖モ彼等不逞行動ヲ敢テセル鮮人團討伐ニ伴フ自然ノ結果ニシテ避クヘカラサルモノトス其詳細ハ別冊ヲ參照セラレタシ

結 言

之ヲ要スルニ甲乙丙丁共ニ誇大ノ筆ヲ振ヒテ我軍ノ殘虐行爲ヲ喋々シ我軍事行動ヲ中傷シアリト雖モ事實ハ全ク之ニ反シ我軍ノ出動ニ依リ不逞鮮人團四散シ其大

部西伯利方面ニ近竄スルヤ間島地方ハ許證ニ歸シ治安ハ良好ニ維持セラレ鮮民一
般ニ喜悅シアルハ事實ノ證明スル所ナリ近ク我派遣部隊撤退ノ議アルヤ駐兵希望
ノ聲ハ間島到ル處ニ起リ遂ニ委員ヲ選定派遣シラ極力之ヲ當局ニ請願シツツアル
現況ニ徴スルモ我軍ノ行動ハ正義ニ基キ如何ニ一般鮮民ノ信頼ヲ受クルニ至レル
カラ確證スルモノト謂フヘシ

附錄第十四

獐巖洞附近ノ討伐情況

一、獐巖洞ト不逞行動トノ關係

延吉縣勇智社獐巖洞ハ由來樺田社墟門洞ト共ニ同方面ニ於ケル不逞鮮人ノ巢窟ト稱セラレ同地永新學校及樺田社培英學校等ヲ不逞行動ノ劃策場トナシ來リシナリ而シテ同方面ニ於ケル居住鮮人ノ大半ハ耶蘇教信者ニシテ而カモ不逞行動ノ主腦者ハ多ク是等信徒ナリ而シテ不逞行動ノ陰謀ハ此等不逞者等ニヨリテ遠ク以前ヨリ劃策セレッツツ來リシカ大正八年三月獨立騷擾勃發ニ會シ時到レリトナシ奮然起テ間島一圓ノ同志ト聯合シ龍井村ニ於ケル韓族獨立宣言式暴舉ヲナスニ力與テ大ナルモノアリタリ爾來不逞團ハ同地方面ノ住民ト一体トナリテ其行動愈々露骨トナリ凶暴トナリ屢々我在間島帝國總領事館南陽坪派出所ヲ脅威セリ之カ爲同地ニ於ケル市場ハ開市スルコト能ハサリシコト一再ニ止マラスシテ同地住民ノ蒙リシ苦痛言語ニ絶スルモノアリタリ加之不逞團ハ獐巖洞附近ヲ一時根據地トシテ大舉龍井村ヲ襲ヒ我官民ヲ壓殺セント揚言以テ脅威スルニ

附錄第十四 獐巖洞附近ノ討伐情況

至レリ斯ノ如キ情態ナルノ一面ニハ耶蘇教徒ヲ殆ト會員トセル不逞團體タル國民會ハ獐巖洞ニ同會第二東部地方會第四支會ヲ設置シテ部落民ノ殆ント全部ヲ會員タラシメ以テ不逞行動ヲ損ニシテ來リシナリ今彼等ノ不逞行動ヲ例示セハ

- 1、大正八年三月獨立騷擾勃發以前間島地方不逞鮮人カ局子街ニ於テ寄附金其他ノ謀議ヲ凝ラスニ當リ獐巖洞永新學校教師等之ニ參加シタル事實アリ

- 2、大正八年三月十三日間島龍井村ニ於ケル韓族獨立宣言式暴舉ニ際シ獐巖洞永新學校教師生徒等ヲ始メ部落民多數之ニ參加シタリ

- 3、大正八年三月十三日龍井村ニ於ケル韓族獨立運動首謀者等ハ同夜獐巖洞ニ逃ケ直ニ議事會ヲ開キ龍井村ニ於ケル獨立宣言祝賀會ノ狀況報告及今後ニ於ケル聯絡關係竝方針ニ付打合セラナセル事實アリ

- 4、大正八年六月獐巖洞永新學校内ニ於テ同地ニ於ケル首領株嚴柱喆外數名ハ通行人三名ヲ日本領事館ノ密偵ト稱シテ亂打重傷ヲ負ハシメタル事實アリ

- 5、大正八年六月獐巖洞ニ國民會東部地方會第四支會ヲ設置シ左ノ如ク役員ヲ任命シ不逞行動ヲ敢行シ來レル事實アリ

一、支會長

韓國 龍

- 二、警護區長兼書記 嚴 柱 詰
- 三、警護員 南 東 彬、李秉順等五、六名
- 四、通信部長 金 子 用
- 五、通信員 南 泰 世 外四名
- 六、外交員 朴 士 文
- 七、財務員 韓 東 憲
- 八、書記 李 秉 郁
- 九、事務所 支會長宅ニ假置セリ
- 6、大正九年二月警護區長嚴柱詰ハ東部地方會長梁道憲ヨリ多數ノ拳銃ヲ受領シ之ヲ部下其他ニ分配セシ事實アリ
- 7、大正九年四月樺田社ニ於テ國民會警護隊大會ヲ開催シ不逞行動ニ關スル陰謀ヲ疑ラモシトキ獐巖洞ノ警護部長嚴柱詰以下之ニ參加セル事實アリ
- 8、同年同月崔明錄一派十六名爆彈ヲ携帯シ鮮地隱城方面ニ侵襲セン爲獐巖洞ヲ通過セル際之ヲ援助セル事實アリ
- 9、同年同月樺甸子獐巖洞附近ニ義軍府一派約百名集合シアリシニ拘ラス之ヲ

朝鮮第十回 朝鮮開港場ノ發達状況

三六六

我軍艦ヲ申傳セサルノミナラス大ニ之ヲ援助セルノ事實アリ

10 同年五月龍井村附近ニ於テ獐巖洞ノ永新學校教師李忠烈逮捕シタルニ同人等ハ大韓學生光復團ヲ組織シ地方民ヨリ金品ヲ強要シツツアル旨ヲ自白セ
ル事實アリ

11 大正九年六月獐巖洞支會警護員李秉順及南東彬ノ二名ハ地方會長ノ命ニ依
リテ羅子溝方面ヨリ他ノ者ト共ニ多數ノ武器ヲ運搬シ東部地方會長梁道憲
ニ引渡シ同年七月頃歸還セル事實アリ

叙上ノ如ク事例ヲ舉クレハ數フルニ暇アラス就中軍資金其他軍需品ノ提供ニ在リ
テハ彼等部落民ノ年中行事タルノ實情態ナリキ

二、我軍隊討伐ノ情況竝其ノ後ノ處置

十月二十八日我總領事館南陽坪派出所長ヨリ總領事館警察署長宛報告ノ要旨國
民會南部第一地方會長馬龍河ノ部下竝他團ノ不逞鮮人等數百名ハ南陽坪北方約
一里半ノ獐巖洞ニ集合シ同地耶蘇教小學校ニ於テ南陽坪襲撃ニ關スル謀議ヲナ
シツツアリト依テ云々又一情報ニ依レハ獐巖洞附近ニ不逞鮮人數百名集合シ近
日中ニ南陽坪ノ兵站ヲ襲撃スヘシト揚言シ同地小學校ニ於テ其ノ熟議中ナリト

彼上ノ情勢ニ依リ在龍井村大岡歩兵大隊長ハ鈴木大尉以下七十餘名ヲ憲兵以下三名並警察官二名ト共ニ獐巖洞附近ノ討伐ヲナサシムヘク前日抑留シアリタル鮮人五名ヲ案内者トシテ十月三十日夜深更出發セシメタリ同隊ハ南陽坪ヲ經テ三十一日拂曉獐巖洞ニ到著同部落ヲ包圍シテ討伐ヲ開始セントスルヤ賊徒ハ我企圖ヲ察知シ三々伍々ノ狀態ニテ先ツ西南方大墟門洞方向ニ退散シ次テ約三十名ノ賊徒ハ北方東山村方向ニ一列縱隊ヲ以テ退却セルニ對シ我討伐隊ハ射撃ヲ加ヘタリシニ賊徒ニ多少ノ死傷者ヲ出セルモノ如ク列ヲ亂シテ退却セリ此間討伐隊ノ一部ハ憲兵警察官ト協力シテ同部落内ノ搜索ヲ行フヤ賊ノ殘黨ハ我行動ヲ妨害シ敢テ我ニ抵抗ヲ企テントシタルヲ以テ之ヲ殺セリ本討伐ニ於テ獲タル物次ノ如シ

1. 爆 彈 (龜ノ甲型) 一
 2. 拳 銃 (米國製) 一
 3. 大 旗 (大) 一
 4. 獨立軍兵卒用冬衣袴 一着
- 其ノ他、不逞行動ニ關スル不穩文書類多數アリ

我討伐隊ハ賊徒徒ノ陰謀場タリシ家屋焼失家屋中ニハ永新學校アリタリト云フ
ヲ焼却シ賊ノ死体ハ我國風ニ由リテ火葬ニ附シ部落ノ生存者ヲ集メ我軍隊討伐
ノ趣旨ヲ懇諭シ將來ニ於ケル不逞行動ヲ戒飭シテ同地ヲ引揚ケタリ其ノ後死体
ノ火葬ニ不十分ナル點アルヲ知リ軍隊警察ハ所要ノ人員ヲ派遣シ協力シテ之ヲ
完全ナラシメ死体及遺骨ハ之ヲ遺族知已若クハ部落ノ代表者ニ下附シテ其受領
證ヲ徴シタリ

三、討伐ノ結果ニ對スル嶺嚴洞及其ノ附近部落民ノ意向、嶺嚴洞住民韓國虎同地國
民會支會長韓國龍ノ實第以下十數名ハ連署シテ歸順ノ意ヲ表シ從來ニ於ケル洞
民一同ノ不心得ヲ陳謝シ日本軍隊討伐ノ結果死シタル者ハ彼等自己ノ前非ニ對
スル膺懲ナレハ止ムヲ得サルナリ吾等生存者ハ自今恭順ヲ以テ帝國臣民ノ本分
ヲ盡スヘク嘆願シ來レリ尙附近部落民タル南陽坪居住民ハ左ノ如キ請願書ヲ提
出シ我軍隊ノ討伐行動ニ對シ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ彼等賊徒ノ後難ヲ懼レ我
駐兵ヲ請願セリ

請願書 (譯文)

大正八年三月以來間島ニ在住スル朝鮮人ノ一派ノ者ハ日本官憲ニ極力反對スル傾

向ヲ生シ此等ノ者ハ團結シテ兇器ヲ携ヘ韓族獨立若クハ民族自決等ノ言句ヲ弄シ
 テ諸方ニ宣傳シ當南陽坪市場ノ如キ處ハ日本官憲ノ保護下ニアリテ民會ヲ設立セ
 ル部落ト認メ恰モ讐敵ノ如ク思ヒ或ハ獨立資金ノ寄附ヲ強要シ又或時ハ獨立軍軍
 需品ノ充當等ノ名ノ下ニ物資ヲ強要スルノ暴狀ハ日ヲ逐テ益々甚シク本年七月ニ
 至リテハ彼等ハ日本官憲ニ接近セント注目セル當地民會議員ヲ脅迫シテ總辭職セ
 シメ將又生命財產ニ危害ヲ加ヘント威嚇シ來リ銃器ヲ携ヘタル一團ハ百乃至二百
 名ノ多數ヲ糾合シテ南陽坪居住鮮人議員八名ヲ始メ相當資産ヲ有スル者ニ對シテ
 ハ銃器ヲ擬シテ脅喝シ遂ニ餘裕ナキ金品ヲ強奪シ去ル等ノ行爲ヲナシタリ當時唯
 一ノ物資集散ノ市日ニ來ル商賣ニ對シテモ脅迫ヲ加ヘ一時當部落ノ市場ハ開市以
 來ノ沈寂ニ陥リ部落民ハ物資ノ需給ノ途ヲ杜絶セラレ此缺乏セル困苦ハ今日ニ及
 フヘク而シテ常ニ是等不逞團ノ襲來セル策源地ト目スヘキ地ハ當地ヲ距ル一里半
 ノ獐嚴村ナリ同村ノ住民ノ總テハ根底ヨリ排日思想ヲ抱持シ不逞團ト協同動作ヲ
 爲シ來レリ十月三十一日朝日本軍隊ノ討伐ニ因リ主ナル不逞輩ハ死刑ニ處セラレ
 當地ノ禍根ヲ殲滅セラレタリ是レ素ヨリ其ノ身ニ歸セル當然ノ結果ナリ然レトモ
 寛大ナル日本軍隊ノ未タ全部彼等ノ余孽ヲ盡ササルニ付遺憾ナカラ天誅ヲ免カレ

逃走セル徒眾モ亦尠カラス而シテ我南陽坪部落民ノ安危ハ一變シテ殆ント彼等ノ
 跋扈ノ跡ヲ絶チタルカ如キ感アリテ爾來定例市日ニハ四方ノ部落民蟄集シ來ル爲
 空前ノ盛況ヲ來シタリ是レ偏ニ日本軍隊ノ宜シキヲ得タル措置ノ實ナリト部民一
 同歡喜ニ堪ヘサル處トス然レトモ未タ彼等ノ全部ヲ殲滅セサルハ安心スルコト能
 ハス若シ此際ニ軍隊ヲ撤退スレハ再舊態ニ復スルハ蓋シ想像スルニ難カラリルヘ
 シ故ニ冀クハ日本軍隊ハ永ク此地ニ駐屯シテ再彼等餘孽ノ跋扈侵入ヲ防キ部民ノ
 生命財産ノ安固ヲ保護セラレンコトヲ切望スル所以ナリ茲ニ部落民連署ヲ以テ永
 久完全ノ保護ヲ得ンコトヲ懇請ス

大正九年十一月 日

南陽坪居住民一同連署

附録第十五

吉林督軍公署來翰抄録ニ對スル調査表

第十九師團司令部

第一 羽入支隊及其通信班兵站部隊等ノコトニシテ我師團於面ニアラス事實調査困難ナリ

第二 斯カル行爲絶体ニナシ周到調査ノ上處置シツツアリ唯タ逃走ヲ企テ到底逮捕シ得サル者ニ對シテハ止ムヲ得ス小銃ヲ以テ射殺セリ之レ當然ノコトナリ

第三 十月四日馬賊再襲ニ當リ我安部大隊陣地正面ヲ通過セシ爲我ノ流彈ニ命中セルモノナリ

第四 支那人紙幣ヲ掠奪ノ件十一月十五日横田少佐ノ指揮スル歩騎兵隊四道溝ヲ剿討セシモ日本軍人ハ斯カル行爲ヲ敢テスルモノニ非ス支那人カ損害賠償ニテ私服ヲ肥サントシテ故意ニ捏造セルモノト判斷ス嚴重調査ノ要アリ
四道溝附近ノ燒却十月十七日田代騎兵少尉ノ一隊賊ノ兵舎ト共ニ賊徒ノ巢窟トナリ在リシ民家數戸ヲ燒却セリ

附録第十五 吉林督軍公署來翰抄録ニ對スル調査表

三七二

附録第十五 吉林軍公署來翰抄録ニ對スル調査表

三七二

吳在英外五名ヲ捕獲セル件十月十七日慶興守備隊出動ノ際排日學校ヲ經營シ盛ニ不逞行動ヲナシ在リシ黒頂子附近不逞者首魁吳在英外五名ヲ逮捕セリ

牧討伐隊(第一回)ニ於テ不逞行動ニ參畫セル確實ナル證據ヲ有スルモノ左記十四名ヲ射殺セリ

蔣洪極 柳興石 崔成錄 崔成律 朴元益 高應南 朴元模

南容淳 崔李龍 張義天 方成俊 金成鉉 朴某 崔某

第五
第六
十月十九日成田中佐ノ指揮スル會軍ノ守備隊剿討ノ際不逞團員タルノ確證有リシ左記十四名ヲ射殺セリ

池啓舜 張成五 李鴻來 崔鴻澤 金龍寬 李容喆 金相逸

金相潤 金七亨 林學旭 朴龍勳 池龍芳 金相元 不明一

第七
十月二十一日上三峰兵站守備隊長(橋本中尉)不逞鮮人通信部長姜永三ヲ射殺シタリ

第八
十月二十三日成田中佐ノ指揮スル會軍守備隊西來洞討伐ニ非サルカ
學校ハ不逞團養成及募損隊員宿泊所ニ充當シアリシヲ以テ燒却セリ射殺者

ハ總テ不逞行動ヲ爲シタルコトハ會事憲兵隊ノ調査ニ依リ明ナルモノノミ
ニシテ左記人名ナリ

陳允極 金安三 金英石 金德鉉 金尙烈 李雲日 崔 峴
金洛圭

第九 東支隊ナランモ地名不明

第二 土門子支隊ニ屬スル部隊ニシテ師團ニ關係ナシ

第二 山田討伐隊ナランモ時日不明

第三 時日及地名不明

第四 十月二十八日小野寺大尉ノ指揮スル鍾城守備隊

募損隊員曹強植以下ヲ射殺セルモノニシテ不逞團員タルコト確實ナリ

第五 月日地名

第六 木村支隊十月二十四日ヨリ同月三十日ニ亘ル則討ニ於テ不逞團員ヲ射殺シ

彼等不逞團ノ巢窟ヲ燒却セリ

第七 歩隊山邊大尉ノ指揮スル會寧守備隊十月二十七日鶴栖洞附近ノ則討ニ不逞
鮮人十名ヲ射殺セルモノニシテ會寧憲兵分隊ニテ調査シタルモノニ依ル

附錄第十五 吉林省軍公署巡檢地緣ニ對スル調査表

附録第十五 吉林督軍公署來報抄録ニ對スル調査表

三七四

劉京化 吳如玉 崔文七 許進吉 金君化 鄭丙洛 金道鉉

李希允 鄭中甫 許周京

第六 歩75石橋大尉ノ指揮スル會寧守備隊十月十三日瓶峰洞附近剿討者ニヲ射殺

ス

李鶴川(逃走セルヲ以テ)

崔南明(逃走ヲ企圖シ我ニ抵抗セリ)

第九 地點不明

第三 地點不明時日不明

第三 十月十五日ハ山田支隊龍井村歸着ノ日ニシテ日本軍カ該地方面ニ行動セス

十月十四日廟嶺公立勸學所一民家三不退團巢窟タルノ確認ヲ得テ之ヲ焼却セリ

第三 第七重復セルモノノ射殺者ハ不退者ナリ

第三 大拉子兵站守備隊剿討ノ際

馬普ノ經營セル不退者養生學校及馬普並ニ校長金躍淵ノ居宅ヲ焼却セリ

第五 75南陽派遣隊長大島少尉ハ十一月三日東京洞及鶴岩洞ヲ剿討シ不退團員ニ

シテ日本軍出動以來各地ニ轉戦シ後良民ヲ裝ヒ歸來シアリタル韓陽郁韓景瑞崔昌燮崔丙玉崔成年趙甫景吳錫興吳道淵ヲ射殺シ彼等ノ居宅十一戸ヲ燒却セリ

第百 局子街兵站守備隊ナラン詳報ナシ

第百 川上砲兵少佐ノ指揮スル局子街討伐隊ハ西溝附近ニ於テ不逞者二名ヲ射殺シ七名ヲ逮捕シ不逞團ノ使用セシ學校一家屋七ヲ燒却セリ

第百 川上砲兵少佐ノ指揮スル局子街討伐隊ハ新民團幹部崔虎權其他ノ家屋四戸及彼等ノ巢窟タル學校一ヲ燒却セリ

射殺 地方會長金元弼 副會長張鳳儀

逮捕者 吳敏如 李炳順 鄭學姪 宋斗洪 姜若海 申順七 李正烈

第百 十月二十日大拉子兵站守備隊ニ於テ首魁馬晉ノ居宅及明東學校ヲ燒却セリ

第二三ト重複セルモノナリ

第百 十一月二日慶興守備隊長(大尉杉政父)回龍峯及金塘村ニ於テ警信總會長韓奎

良以下七名ヲ射殺シ吳英ノ經營セル不逞養成學校ヲ燒却セリ

(以下之ヲ省ク)

附録第十六

齋藤大佐ニ宛テタル吉林督軍公署公函

第二八八號

至急以書面申上候陳者各方面ノ報告ニヨレハ日本軍力延理等各處ニ於テ支那人、聖民ヲ殺害シ家屋ヲ燒却スル等ノ事有之候由ニ候元來日本軍行動區内ニ於テハ支那人ノ生命財産擔保シ些シモ傷害スルコトヲ得サルノミナラス之カ爲兩國人之感情ヲ傷フカ如キ事ヲ免ル様ニスヘキ事ナルニモ拘ハラヌ今日本軍力肆マニ燒却ヲナシ又無辜ヲ傷クルコト誠ニ慘酷ノ極ニシテ人道ニ背クモノト存候己ニ陸續延吉道尹ニ電達シテ嚴重ニ交渉制止ヲナスヘキ様命シタルモノ各項ヲ抄録シテ貴官ニ通報致候何卒日本軍ニ通告シ再ヒカカル行爲ナキ様御取計ヒ相成度候也

抄録

第一 日本軍ハ東寧ニ於テ無線電線ヲ設立シ又軍用電話ヲ設ケ強ヒテ商人民家ヲ占領シ財料ヲ購フテ内部ヲ改築セリ

第二 日本軍ハ延吉縣ニアル處ノ朝鮮人ノ村落ハ不退鮮人タルノ證據ノ有無ニ論ナク又良莠ヲ區別セス燒却擄殺シテ荒土ト成サントセリ從テ山邊ニ雜居ス

ル支那人亦連累ヲ被ムリ同シク掠劫ノ危ニ遭ヘリ

第三 日本軍ハ琿春縣城ノ西ニ於テ支那人郎令齡郎、良路氏秀文祥ノ三名ヲ擊斃シ郎姓ノ女一名ヲ傷ケタリ

第四 日本軍ハ琿春ノ四道溝ニ於テ支那商藥五思ノ日本露國ノ紙幣數萬元ヲ持チ行キ太平溝ニテハ支那人高振手、徐文法ノ小銃彈藥等ヲ携帶シ去レリ土門子ノ王家燒鍋ニテ王振安、李天佑、趙鴻芳三名ヲ擊斃シ孫姓ノモノ一名ニ斬リ傷ヲ付ケタリ墾民ニシテ擊斃セラレタルモノハ荒溝ノ金南極、梁丙七、金夏昇三名塔子ニシテ方成俊、金成鉉、張汝佐、黃正德ノ母等四名馬溝塔ニテハ尤蓋、崔蓋ノ二名四道溝ニテハ金雲峰一名墾民ノ小銃彈藥、財物及國籍ニ入リタル照明証ヲ多ク披索シテ持チ去ラレタリ家屋ニシテ燒カレタルモノハ塔子溝ノ林長機、曹王機等二戸、四道溝ニテ二十二戸又里頂子ニテ朝鮮國境ノ日本軍カ墾民吳在英等六名ヲ捕縛シ去レリ

第五 日本軍ハ和龍縣暗靈杜北犂洞村ノ村長李容默及墾民張煥斗、申周鉉、金宗敏等ヲ捕獲シ風皮嶺ノ上ニ於テ銃殺直ニ埋没セリ

第六 日本軍ト和龍縣四茂社、松堰屯ニテハ戸毎ニ披査シ墾民陳享甫、金相羽、金相允

林學有、金工津等五名ヲ捕ヘ又茂官屯ニテハ、聖民崔江澤、金龍官、李仁來、張承日、池孝龍等五人ヲ捕ヘ皆銃殺ノ上、石油ヲカケ屍身ヲ燒ケリ

第七

日本軍ハ三峯ノ對岸支那領ニテ聖民姜永三ヲ逮捕シ即時銃殺ノ上埋メタリ

第八

日本軍ハ和龍縣四對社、對山屯、對川屯等ノ處ヲ各戸披査シ聖民崔丙烈、金洛奎及姓名不詳ノ者一名計三人ヲ銃殺シ家屋數ヶ處ヲ燒キ又和龍縣公立第十三學校亦日本軍ノ爲メ焚カレ一鮮人(姓名不詳)ヲ捕ヘ去レリ又對陽屯地方ニテハ鮮人趙孟禹ヲ會寧ニ連レ行ケリ

第九

日本軍ハ延吉縣鴉鴿砬子ニテ鮮人學校一、鮮人家屋二十餘家ヲ燒キ學校監視モ亦之レヲ救フコト許サレサリキ

第二〇

日本軍ハ露領ヨリ老黑山ニ赴ク途中東土門子ヲ經過シ誤テ支那人三名ヲ斃シタリ

第二

日本軍ハ和龍ノ二道溝ニテ支那人二名ニ銃傷ヲ負ハシメ聯莊會ノ勇兵地方ノ保衛ニ任スル新設ノ部隊(三名)ヲ捕ヘ去レリ

第三

日本軍ハ和龍ノ光宗屯三洞浦地方ニテ聖民申秉南、張斗立、許雲峯、南承汝、朴姓、張姓等七軒ヲ燒ケリ

附録第十六 吉林督軍公署公函

三八〇

第三 日本軍ハ和龍縣光德屯ニテ黎民二名ヲ捕去リ黎民許金吉、金京世、金京龍等ノ三軒ヲ焼ケリ

第四 日本軍ハ和龍ノ馬牌鎮ニテ黎民全仕極曹興錫、朴允權、曹強植、曹秉植、韓洙興、朴興福等七名ヲ捕ヘ去レリ

第五 日本軍ハ和龍晴霞社四屯ノ黎民劉尙善ノ家ノ麥三百捆、穀子約二千五百餘捆ヲ焼キ家ノ中ニアル物ヲ盡ク搗毀シ黎民金永學ノ傭人崔昌範一名ニ擊傷ヲ與ヘタリ

第六 日本軍大江清溝附近ニ於テ朝鮮人家屋五十餘戸ヲ焚キ二十餘人ヲ擊斃シ又支那人二名ヲモ擊斃セリ

吉林督軍公署公函

(第二九九號)

(前略) 茲ニ憲兵ノ報ニヨレハ日本軍ハ延吉ノ四對社上下南湖等ノ處ニテ前キニ報告セル以外ノ左ノ件ヲ發見セリ更ニ日本軍ニ轉告シカカル事ナキ様ニセラレタシ

抄 録

第七 日本軍歩兵四十餘名十月三十七日午前十時渡シ場ヲ越ヘ四對社上下南湖等

ノ處ニ至リ戸別搜索ヲナシ聖民金道亨、知希允、鄭丙洛、鄭春永、許承世、吳如玉、崔
 文士、許周享、金君下、劉京化等十人ヲ悉ク銃殺シ尙ホ柴ヲ以テ燒ケリ又聖民ノ
 家屋ヲ燒クコト五ヶ處日本人設立ノ普通小學亦焚カレタリ午後四時ニ至リ
 始メテ食事ニ歸レリ

第六

日本軍歩兵百七十六名憲兵三名ハ十月三十日四對社對陽屯ヨリ我カ方ニ越
 ヘ該村落ニ至リ直チニ萬前調査ヲナシ聖民二名(一名ハ李龍永一名ハ姓名不
 詳)ヲ銃殺シ復燒キ午後一時日本軍始メテ食事ニ歸ル

第五

日本軍三十餘名十一月三日午前五時下鉾夫北溝裏ニ至リ聖民洪京津ノ字ヲ
 燒キ延燒五ヶ處ニ達セリ總テノ穀物業草等ハ之レカ爲メ一炬ニ付セラレタ
 リ聖民洪有司、吳如萬、池滿水、蔡京玉四人ハ六道溝ニ連レ行カレタリ

吉林督軍公署第三三九號

第三

日本軍ハ外郎溝(和龍縣)ニテ鮮人討伐中支那人姪振冠ノ家ノ燒キタリ
 日本軍ハ十月十五日和龍縣廟嶺地方ニテ沈學仁、蔡順明、金丙號ノ三人ノ家ニ
 十室ヲ焚キ又夾皮溝地方ニ赴キ該處ノ教員申翔威ヲ捕ヘ歐打シ又其ノ學生
 金仁孫カ之ヒヲ救フントセル故之レト同地人金希欽ヲ四道溝ニ連レ行ケリ

又其ノ他ノ鮮人家屋五ヲ燒ケリ

第三

日本軍ハ十月二十一日江ヲ渡リ開文屯ニ至リ良莠ヲ區別スルコトナク各戸ヲ披査シ鮮民金昌鳳姜永三姜永六ヲ銃殺シ又開運屯ニ至リ朴春化朴安無金斗福金學俊金正路金屋成ヲ銃殺セリ合計九名

第三

日本軍ハ十月二十日和龍縣ヨリ明東學校ニ至リ該校ノ瓦葺七室板葺三室草葺三室ヲ燒ケリ(前號ニ通告セルモノ支那側ニテ忘レルタルモノナラン)

第三百十號

第二

日本軍ハ十一月一日延吉ノ西北十支里朝陽河地方ノ金恒硯ノ家ヲ燒キ其ノ鄰聖民黃玄天ノ家ニ延燒セリ

第二

日本軍ハ十一月三日延吉ニテ下艾葦甸子地方ノ各戸ヲ搜查シ聖民吳道賢韓陽玉吳楊興趙福景崔丙玉崔成連崔昌變韓京世等八人ヲ射殺シ且該處ノ聖民韓京玉金亨振韓民弘姜元赫韓陽烈李自一李成世李昌落李成律李成七李昌順李世一李春什金弘順南姓ノ十五家ヲ室内ノ衣物圍ヒノ内ノ穀物等ヲ一炬ニ付セリ

第二

日本軍ハ十一月三日延吉東北十餘支里徐家溝地方ニテ聖民吳敏洙十六室姜

第三

九四(八室)李秉順(六室)金元鐘(六室)金永吉(六室)張鳳義(三室)徐昌順ノ穀子三百捆
小麥三百捆、私立國民學校一所、室數未詳ヲ燒キ、竝該處ノ聖民十名ヲ捕ヘ小營
子滯ニテ銃殺セルモノ二名、張鳳義、金元弼(他ノ八名)金元鐘、姜載絃、玄吉男、許祿
徐泰鉉、崔秉環、鄭學孫、李根兩ハ延吉ノ領事館ニ兵ヲ付ケテ送レリ

日本軍ハ十一月三日延吉正東十餘支里小營子地方ニテ聖民李春洙、崔亨甚、金
小史、崔鳳學、李相華、太明載六人ノ家及私立國民學校共ニ四十三室ヲ焚燒セリ

吉林督軍公署公函

第三百〇四號

第三

譯文(前略)警務處(吉林)ヨリノ報ニヨレハ十月二十日午後日本軍二十餘名來リ
鮮人家屋ヨリ不逞鮮人ノ文書憑據等ノ物件ヲ拔出シ此ノ家ヲ不逞鮮人ノ巢
窟ト認メ放テ鮮人馬俊房ノ家十餘間全部ヲ燒キ火勢蔓延シテ附近ノ明東學
校ノ樓ヲモ燃燒セシメタリトノ事アリ何卒日本軍ニ向ヒカカル事ヲ再ヒス
ル事ナキ様又如何ナル處置法ヲトリシヤ取調ヘ回答ヲ乞フ云々
右ノ文章ヲ例ノ支那一流何レノ點ニ就テ回答ヲ求ムルヤ不明ナルモ要スル
ニ明東學校ヲ延燒セシメタルニ付キ説明ヲ求メ來リシモノト考ヘラル

吉林督軍公署公函

第貳九六號

附錄第十六

吉林督軍公署公函

三八三

第三

附録第十六 宣統皇帝金鑒

三八四

(前略)又報告云、十一月二日午前七時日本軍杉政父大尉兵五十名警察十名ヲ率ヒ江ヲ渡リ、墾民韓坂良、朴炒奎、金丹奎、朴仁權、金承世、金龍淵、金洪喜等七名ヲ捕ヘ三道正福カ此ノ日圈兎河ヨリ車ヲヒキ家ニ歸クシトスル時日軍補助員金基厚ハ二個ノ木箱アルカ爲メ之ヲ引キツケシ言語不通ノ爲メ日本兵ノ爲メ擊殺サレ屍首ヲ江南ニ持テ去レリトノ事アリ爾後再ヒカカル事ナキ様轉告セラレタレ云々

附録第十七

水町大佐ノ龍井村外人宣教師ニ與ヘタル覺書

予カ敬愛スル

君

日本陸軍省カ今回予ヲ常問島ニ派遣シタル目的ハ(一)目下此地方ニ於テ不逞鮮人ノ討伐ニ從事シツツアル日本軍ト當地方在住ノ諸外國トノ間ノ連絡將校タルコト(二)及兩者ノ間ニ生シタル諸種ノ誤解ヲ解クト共ニ將來ノ誤解ヲ防キ能ク兩者意志ノ疎通ヲ圖ルニアリ以下述フル處ハ即チ前記後段ノ目的ヲ達セントスル趣旨ニ外ナラス

1 予ハ第一ニ外國宣教師諸君カ此ノ寒村僻地ニ來リ多年我鮮民ノ教化ニ盡瘁セラレ或ハ病院ヲ設ゲテ不幸ナル我臣民ヲ救護セララル崇高ナル事業ニ對シ諸君ノ勞ヲ多トシ其熱誠ニ對シ深ク感激スルモノナリ

抑々東洋永遠ノ平和ヲ圖リ且一視同仁鮮民ノ安寧幸福ヲ増進スルコトハ我帝國政府不變ノ政策ナリ開國以來事大思想ヲ有スル鮮人自身ニヨリ爲サレタル朝鮮ノ獨立カ常ニ東洋平和ノ禍根タリシコトハ少シク東洋ノ歴史ニ通スルモノハ何

附録第十七

水町大佐ノ龍井村外人宣教師ニ與ヘタル覺書

三八五

人モ直チニ首肯スル處ナリ而シテ地理的關係ヨリシテ朝鮮カ日本以外ノ強國ノ勢力下ニ入ルコトハ我日本ノ國防ニ至大ナル脅威ヲ及ホスモノトス日本カ曩キニ國運ヲ賭シテ日清日露ノ兩戰役ヲ敢テシタル所以亦實ニ茲ニ存ス此ノ脅威的關係ハ恰モ獨逸ノ白耳義占領カ英國ニ及ホス脅威ト獨逸ノ墨其西哥占領カ米國ニ及ホス脅威ト其趣ヲ同クス日本ハ如何ナル犠牲ヲ拂フモ將來決シテ斯ル脅威ヲ再ヒ甘受スルモノニ非ス換言セハ日本ハ斷シテ朝鮮ノ獨立ヲ許スヘキモノニアラサルナリ

然ルニ日鮮合併以來不逞ノ徒アリ(多クノ耶蘇教徒ヲ含ム)支那統治ノ力甚微弱ナル間島地方ニ根據ヲ構ヘ公然朝鮮ノ獨立ヲ企テ支那馬賊ト相結托シテ當地方ニアル善良ノ日本臣民タル鮮人ヲ脅迫シ在間島三十萬ノ鮮人ノ大部ヲ驅テ不逞ノ徒タラシムルノ勢ヲ馴致シ鮮内不逞ノ徒就中耶蘇教徒ト内外相呼應シテ朝鮮安寧秩序ヲ害スルコト甚シキニ及ヒ帝國政府ハ再三支那政府ノ注意ヲ喚起シ此等不逞ノ徒ヲ取締ルヘク要求スル所アリシモ支那政府ハ何等有効ナル手段ヲ講セサルノミナラス出先ノ支那官憲ハ不逞ノ徒ト陰ニ妥協シ剩ヘ支那軍隊ノ一部ハ不逞鮮人及馬賊ト連合シテ遠ニ最近ニ於ケル珲春ノ日本領事館燒打及日本人虐

殺事件ヲ生スルニ至リシコトハ既ニ諸君ノ熟知セル明確ナル事實ナリトス支那ノ主權ヲ尊重シ正義ヲ旨トシ陰忍自重久シキニ及ヒタル帝國政府モ事茲ニ至リテハ帝國ノ自衛上已ムヲ得ス自ラ兵力ヲ以テ此地方ノ禍根ヲ一掃スルノ決心ヲ取リ今回ノ出兵ヲ見ルニ至レリ此出兵ニ對スル責任ハ全然支那政府ノ負フヘキハ言ヲ俟タス

斯ノ如キ出兵ハ不完全ナル國家ヲ其ノ此隣ニ有スル國ニ於テ屢々見ル所ニシテ一例ヲ舉クレハ米國カメキシコ國境ニ於テ又英國カアフガン國境ニ於テ既ニ之カ先例ヲ示セル處ニシテ敢テ異トスルニ足ラサルナリ

我討伐軍出動ノ結果トシテ多數ノ家ヲ燒キ多數不逞ノ徒ヲ銃殺シタルヲ認ム是レ討伐上必然ノ結果ニシテ敢テ怪シムニ足ラス唯燒毀家屋中ニハ宗教關係ノ家屋及學校等アリシハ甚タ遺憾ナリ然レトモ此等ノ建物ハ何レモ皆不逞ノ徒ノ巢窟ニ利用セラレ宗教又ハ教育的建物トシテ夙ニ其資格ヲ喪失セシモノナリ我討伐隊ニ於テハ燒クヘキ確實ナル證據ヲ認メ且所在地住民多數ノ證言ニ依リ萬止ムヲ得サルモノニ限り燒毀シタルモノトス又不逞ノ徒ヲ銃殺スルニ當リテモ亦同様ニ殺スヘキ確實ナル證據ヲ認メ且所在住民ノ證言ニ基キ罪狀重キモノニ限

附錄第十七

水野大佐ノ龍井村外人宣教師ニ與ヘタル提書

三八七

附錄第十七

水町大佐ノ龍井村外人宣教師ニ與ヘタル覺書

三八八

リ止ムヲ得ス其場ニ於テ銃殺セリ而シテ吾人ハ銃殺セラレタル者ノ中ニ多少ノ良民之ナキヲ保セサルヲ遺憾トス然レトモ在間島三十萬ノ鮮民ノ大部カ殆ント不逞ノ徒ト化シ否ヲサルモ不逞ノ徒ニ直接間接ノ好意ヲ表シタル情勢ニ於テハ不逞ノ徒ト良民トノ判別スルハ極メテ困難ナルコトニ屬ス又多數不逞ノ徒ト戰闘ヲ遂行スル際ニ當リ平時ニ於ケルカ如ク裁判所又ハ軍法會議ニ於テ司法上ノ手續ヲ履ミ慎重ニ審理シタル後一々彼等ヲ處斷スルカ如キ緩慢ナル方法ハ實際ニ於テ行ハルヘキモノニ非ス若シ之ヲ敢テセンカ大部ノ不逞ノ徒ハ遠ク逸走シテ禍根ヲ將來ニ貽シ我カ討伐ノ目的ヲ達セサルニ至ルヘシ

茲ヲ以テ我討伐隊カ現狀ニ於テ確實ナル證據トナルヘク所在住民ノ證言ニヨリ單簡ナル審理ヲ以テ之ヲ處刑ニ附シタルハ勢止ムヲ得サル處ニシテ又多少ノ良民ヲモ誤殺スルコトアルヘキハ蓋シ免レ難キコトナリトス然レトモ是決シテ日本軍ノ本意ニ非ス又朝鮮軍司令官カ討伐ノ實行ニ當リ昨年英國ノグアイヤー將軍ノ印度 Amisnor ニ於テ行ヒタルカ如キ無辜ノ多數ノ良民ヲ虐殺シタルカ如キコトナカラシメンカタメ最善ノ注意ヲ拂ヒタルコトハ其十月十六日ニ於ケル告示及兵卒ニ與ヘタル注意書及第十九師團長ノ告示ニ照スモ明ナリ人或ハ我討伐隊カ

單簡ナル審理ヲ以テ不逞ノ徒ヲ處刑シタル事實ヲ以テ人道ニ反スル所左ナリト
 イフモノアリ斯クノ如キハ當時ニ於ケル不穩狀態ト日本人ノ損害トヲ藐視シ我
 討伐隊ノ必理狀態ヲ解セスシテ單ニ皮想ノ觀察ニヨリ徒ニ人道ノ名ヲ以テ自己
 ノ利益ノタメ日本ヲ誹ルモノト云ハサルヘカラス

又良民ト雖モ我討伐ノタメ或ハ類焼ヲ受ケ或ハ不測ノ危害ヲ受ケタルコトニ對
 シ我討伐隊ノ行動ヲ非難スルニ先チ彼等カ事前ニ間島全土ヲ擧ケテ不逞ノ徒ノ
 横行ニ委ネ其巢窟タラシムルニ直接間接ノ援助ヲ與ヘタルコトヲ反省シ先ツ自
 己ノ責任ヲ自覺スベキナリ

予ハ茲ニ獐巖洞附近ノ出來事ニ付キ特ニ一言セサルヘカラス即チ我討伐隊カ全
 村ニ於テ半燒ノ屍体ヲ放置シタルコトニ付或外國人ハ之ヲ以テ日本軍ノ殘虐行
 爲ノ證據ト稱シ之カ寫眞ヲ撮リ廣ク世界ニ宣傳セントシツツアリト聽ク是事實
 ヲ捏造セルモ亦甚タシキモノトス其真相ハ當日十月三十一日我兵卒ハ所屬中隊
 長ノ命令ニヨリ我國風ニ從ヒ醜骸ヲ遺サランカ爲メ銃相サレタル屍体ヲ火葬
 ニ附シタルモ燃料充分ナラス且當日ハ天皇陛下ノ天長節祝日ニ當リシヲ以テ同
 兵卒ハ祝意ヲ表スルカ爲メ中隊ニ歸ルヲ急キ屍体ノ完全ニ燒キ終ルヲ見届ケス

附錄第十七 水町大佐ハ龍井村外人宣教師ニ與ヘタル覺悟

シテ其場ヲ立去リタルカタメ半焼ノ儘放置セラレタルモノニシテ決シテ殘虐行爲ト見做スヘキモノニアラサルナリ然ルニ之ヲ以テ日本軍ノ殘虐行爲ト誹ルカ如キハ是即チ日本ニ對スル惡意ノ宣傳ト云ハサルヘカラス

11 諸君ハ皆神ノ福音ヲ人類ニ授クルヲ以テ天職トセラルモノニシテ其ノ信徒ヲ愛スルノ餘リ苟ニモ宗教ノ範圍ヲ脱シ他國ノ政治的煩累ヲ助長スルカ如キコトハ絶對ニ之ナキコトヲ予ハ信シテ疑ハス

又日本ニ對シ不逞ノ志ヲ有スル其信徒ニ對シ諸君カ精神的又ハ物質的ノ如何ナル援助テモ直接間接ニ與フルコトハ諸君ノ屬スル本國ト日本ノ友誼的關係ヲ破壞スルモノニシテ斯ノ如キコトハ宗教家タル諸君ノ斷シテ爲スヘカラサルモノナルコトハ常識ニ富メル諸君カ夙ニ孰知セラルヘキハ予ノ信シテ疑ハサル處ナリ

諸君ノ本國政府及諸君ノ同胞ノ大多數ハ諸君カ神ノ意志ニ反シ宗教ノ範圍ヲ脱シ明カニ政治的罪惡タル此種ノ煽動又ハ宣傳ハ斷シテ爲シツツアラサルコトヲ信シ又爲ササラジコトヲ要望シアルコトモ亦信シテ疑ハサル處ナリ然ルニ不幸ニシテ日本國民ノ多數ハ諸君ノ行動ニ對シ予カ諸君ニ對スル此信言

ヲ裏切ルカ如キ感想ヲ抱キツツアルコトハ事實ニシテ其結果日本ト諸君ノ本國
トノ國交圓滿ヲ缺カントスルノ憂ナキニシモアラス是予及日本有識階級者ノ頗
ル遺憾トスル處ナリ茲ニ於テカ予ハ諸君カ世界ノ民族就中強固ノ統治下ニアル
文化ノ程度低キ多數民族ノ大戰後ニ於ケル思想ノ變動ト共ニ之ニ對スル諸君ノ
行動トヲ一考セラレンコトヲ要望セサルヲ得ス

諸君ノ本國領土内ニハ多數ノ異民族アリテ動モスレハ諸君ノ本國ニ對シ反逆ヲ
企テントスルモノアルコトハ事實ナリ一例ヲ舉クレハ印度ニ於ケル最近ノ Non
Cooperation Movement (非協同運動)ノ如キハ則チ之ナリ此運動ハ實ニ將來英國ノ印度
統治上一大禍根ナリトス萬一諸君ニシテ鮮人ノ朝鮮獨立運動又ハ排日思想ニ對
シ有形又ハ無形の援助ヲ與フルコトアリトセヨ然ルトキハ我日本ノ佛敎家モ亦
印度ノ Non Cooperation Movement ニ對シ反英的援助ヲ與フルコトノ正當ナル理由ヲ
見出スニ至ルヘシ愛蘭問題ニ對シモ亦同様ナリ

凡ソ此種ノ惡意アル宗教家等ノ行動カ日英兩國ノ國交ヲ害スルノミナラス世界
人類ノ平和ニ極メテ有害ナルコトハ敢テ多言ヲ要セス
日英兩國ハ共ニ困難ナル民族的問題ヲ有スルコトニ對シ吾人ハ諸君ト共ニ互ニ

同情ヲ表シ各其本國ノタメニ有害トナルヘキ言動ヲ絶對ニ避ケ互ニ隔意ナキ協同動作ヲ爲スコトハ實ニ各自國ノ利益トナルノミナラス是雖テ吾々個人利益ヲモ招徠スルコトトナルヘシ

今之ヲ實際問題ニ付例示セハ假リニ諸君カ鮮内外ニ於テ毫モ政治ニ關與セス只管宗教的ノ事業ヲ以テ終始シ能ク日本官憲同國民ト協力シ眞ニ日本臣民トシテ忠誠ナル鮮民ヲ育成スルニ於テハ日本政府及國民ハ此宣教師ニ對シ滿腔ノ謝意ヲ表スルト共ニ其布教事業ノ發展ニ對シ百般ノ補助ト援助トヲ與フルニ吝カナルモノニアラス如斯誠意ヲ予ニ披瀝セラルル者アラシキハ個人トシテ今直チニ出來得ル限りノ物質的援助ヲ提供シ度キ意志ヲ有スルコトヲ茲ニ宣言ス又如斯教化ヲ受ケタル鮮民ハ日本内地又ハ朝鮮ニ於テ必スヤ優遇ヲ受ケ政治的ニモ社會的ニモ社會的ニモ極メテ満足ナル地位ヲ得幸福ニシテ平和ナル生活ヲ遂ケ得ヘキハ予ノ信シテ疑ハサル處ナリ若シ夫レ諸君ノ行動力之ニ反スル場合ニ於テハ其布教事業ハ到底發展ノ見込ミナク惡化セル鮮人ノ生涯ハ極メテ悲慘ナルモノアルヘキハ最近ノ實例之ヲ證シテ餘リアルヘシ

8. 如斯事理明白ナル事柄ニ對シ常識ニ富メル諸君ハ既ニ充分正當ナル理解ヲ有セ

ラルルコトト信ス實ニ諸君ノ鮮内外ニ於ケル布教事業ノ盛衰ハ一ニ諸君カ日本政府及國民ト協同動作ヲナスヤ否ヤニ關ス
 諸君カ日本政府及國民ノ立場ニ同情シ友誼的精神ヲ披瀝シ吾人ト相提携シ日本臣民トシテ眞ニ忠誠ナル臣民ヲ育成セラルルニ於テハ諸君ノ事業ハ益々發展ヲ遂ケ其ノ教化ヲ受ケタル鮮民ノ安寧幸福期シテ俟ツヘキナリ是實ニ神ノ眞意ニアラサルナキヤ敢テ諸君ノ考慮ヲ乞フ
 以上予ノ卑見ニ對シ足下ノ感想ヲ書面ヲ以テ披瀝ヒラルルコトハ予ノ最も熱望シテ止マサル處ナリ
 敬具

一千九百二十年十一月廿八日

於 龍井村

大 佐 水 町

2261

附錄第十八

一九師間副第五九號

歸順者取扱ニ關スル規程改訂ノ件達

隸下一般

十一月五日一九師間副第五五號歸順者取扱ニ關スル規程ハ本書ノ通改訂ス
大正九年十一月九日

第十九師團長子爵 高島友武

附錄第十八
歸順者取扱規程

三九五

歸順者取扱規程

第一條 不逞鮮人ニシテ日本軍隊(憲兵兵站司令部ヲ含ム)ニ對シ自由若ハ其ノ他ノ方法ニ依リ歸順ヲ申出ツルモノアル時ハ支隊長ニ報告シ身柄ハ支隊長指定ノ場所ニ送致シ其ノ監處ヲ受クヘシ

第二條 支隊長ハ成ルヘク速ニ之ヲ取調ヘ概ネ左記方針ニ準據シ處分ノ決定ヲ爲スヘシ

一、巨魁者及之ニ類スル中心人物ニ對シテハ討伐ノ本旨ニ鑑ミ斷然タル處分ヲ爲シ其ノ他ノ末輩ニ對シテハ努メテ感化主義ヲ採リ成ルヘク寛大ナル處分ヲ爲ス

二、巨魁者及此ニ類スル中心人物ト雖改悛ノ狀顯著ニシテ將來良民タルノ見込確實ナル者若ハ他ノ巨魁ノ所在或ハ武器彈藥等ノ陰匿場所ヲ申告シ或ハ我軍ノ嚮導等ニ從事シ其ノ功績顯著ナル者又ハ特別ノ事情ニ依リ寛大ナル處分ヲナスヲ政策上特ニ有利ト認ムルモノハ將來ニ於ケル取締ノ方法ヲ講シ一時之ヲ釋放スルコトヲ得

三、斷然タル處分ヲ要スルモノニ就テハ適確ナル證據書ヲ具備シ且之カ處分ノ方

法並時機等ハ大ニ考慮ヲ拂ヒ將來物議ヲ醸ササルノ準備アルヲ要ス

四、歸順者ニシテ不逞行爲以外ニ重大ナル刑事犯人タル證據明瞭ナル者ハ之ヲ所轄領事ニ引渡シ其ノ事由ヲ師團長ニ報告スヘシ(鮮内ニ在リテハ警察官)

第三條 支隊長歸順者取調ノ爲領事館員及其ノ他所要ノ人員ヲ加ヘ委員ヲ組織シ之ヲ審理ニ任セシムヘシ

第四條 前條ニ依リ釋放スヘキ者ハ銃器彈藥ヲ提出シ恭順ノ意ヲ誓約(附錄第一樣式)セシメ且本人居住ノ部落民五名以上ノ保證ヲ立テシメタル後師團司令部ノ發行スル歸順ノ証附錄第二樣式ヲ附與シテ之ヲ釋放スルモノトス

但シ微罪者ニシテ其ノ人員多數ナル時ハ連名簿トナシ誓約書ニ承認ヲ與書(附錄第三樣式)シ之ヲ其ノ代表者ニ交付スルモノトス

第五條 支隊長ハ歸順者ノ處分ヲナシ若ハ是等處分ヲ猶豫シタル者並釋放者住所氏名年齡不逞行爲ノ概要ヲ領事館(分館)ニ送付スルモノトス

第六條 釋放シタル歸順者ノ將來ニ於ケル監視ニ就テハ主トシテ所轄領事之ヲ擔任スルモノトス

支隊長ハ特ニ領事ヨリ監視上必要ナル事項ニ對シ本人ニ示達方依頼シ來ル場合

ニ在リテハ本人ニ傳達スヘシ

第七條 支隊長ハ領事ヨリ特ニ釋放者身柄引渡ノ要求アル時狀況許ス限リ其ノ要求ニ應スルモノトス又領事ノ要求ナキモ支隊長ニ於テ必要ト認ムルモノハ意見ヲ附シテ領事ニ交付スルコトヲ得

前項ニ依リ身柄ヲ領事ニ引渡ストキハ第四條ノ書類ヲ添ベテ所要ノ護衛兵ヲ附シ之ヲ送付スルモノトス

第八條 直接領事ニ申告シタル歸順者ハ領事ヨリ其ノ身柄ヲ支隊長ニ送付スルモノトス

支隊長ハ前項ノ身柄ヲ受領セハ前諸條ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第九條 支隊長歸順者ニ對シ斷然タル處分ヲ爲シタル時ハ速ニ詳細ナル事由ヲ附シ其ノ都度師團長ニ報告スヘシ

特ニ必要ナル者ニ對シテハ豫メ處分ニ關スル意見ヲ具申シ師團長ノ承認ヲ受クヘシ

前項處分者ニ對シテハ將來ノ爲證據書類ヲ整備シ特ニ必要ナルモノハ其ノ都度報告スヘシ

第十條 支隊長ノ釋放セル歸順者ニ就テハ不逞行爲及處分ノ概要ヲ書類ヲ以テ師團長ニ報告スヘシ

第十一條 江岸ニ近接スル地方ニ在リテハ其ノ附近ニ在ル守備隊長タル中隊長之ニ任シ其ノ結果ヲ師團長ニ報告シ關係支隊長及領事ニ通報スルモノトス
但シ直接憲兵並警察官ニ申告シタル歸順者ハ第八條ニ準シ取扱フモノトス

附錄第一様式

誓 約 書

注意 (本誓約書ハ朝鮮文ニ譯シタルモ
ノヲ本人ニ交付スルモノトス)

- 一、日本臣民トシテ法令ヲ遵守シ恭順ノ誠意ヲ盡スコト
- 二、將來匪賊ニ粗シ若ハ我良民ニ對シ不法行爲ヲ敢ラセサルコト
- 三、正業ニ就キ其ノ職業ニ勤勉ナルコト
- 四、一定ノ場所ニ住所ヲ定メ所轄領事館ニ届出ツルコト轉居ノ場合モ亦同シ
- 五、日本官憲ノ呼出ヲ受ケタル時ハ直ニ指定ノ場所ヘ出頭スルコト右ノ條々堅ク相守リ決シテ違反セサルコトヲ誓約ス若シ違反シタルトキハ嚴罰ニ處セララルモ何等異存ナシ

年 月 日

住 所

氏

名 ⑩

年 齡

右誓約書ノ通履行セシムルコトヲ堅ク保証シ若シ違反セルトキハ連帶其ノ責ニ任ス

年 月 日

2922

附録第十八

隨順者取扱規程

住	住	住	住	住
氏	氏	氏	氏	氏
所	所	所	所	所

名	名	名	名	名
印	印	印	印	印

四〇一

8922

(表)

附録第二様式

附録第十八 歸順者取扱規程

四〇二

(甲)第	號	歸順之證	住	氏	年	齡	名
			所				
右歸順者タルコトヲ證明ス							
大正 年 月 日							
第十九師團司令部印							



6922

徴	特	疵	鬚	鼻	丈	人 相 書 (可成寫眞ヲ提出スルモノトス)
			音	口	顔	
			齒	目	耳	

一、用紙ハ厚紙トス
 二、番號ノ(甲)(乙)(丙)ハ測計計畫ニ基ク支隊號トス
 附録第十八 歸順者取扱規程

四〇三

附錄第三樣式

誓 約 書

私共儀

從來不逞行動ニ關係シタルハ恐縮至極ニ御座候就テハ今後本洞里居住民一同ハ日
本官憲ノ御指示ヲ遵奉シ敢テ不良ノ言動ヲ爲ササルハ勿論今後本洞里住民ヨリ不
良者ヲ出シタル場合ハ一同ニ對シ如何ナル御處分相成候共異議申立マシク誓約件
ノ如シ

年 月 日

間島何縣何社何洞(里)

代 表 者 氏

名 印

洞 民 氏

名 印

洞 民 氏

名 印

洞 民 氏

名 印

洞 民 氏

名 印

右 承 認 ス

1422

附錄第十八

隨順者取扱規程

年

月

日

於問島龍井村

陸軍歩兵中佐

何

某

印

四〇五

附錄第十八 歸順者取扱規程
 內訓第三三五號

四〇六

第三部長
 各警察署長

歸順者取扱ニ關スル件

彈春及間島奥地ノ討伐ト共ニ對岸一帯ニ於ケル賊徒ノ剿討ニ伴ヒ對岸良民等ハ個人又ハ部落民連合シ我警察ニ保護ヲ求メ或ハ不逞輩ニシテ我警察ニ自首シ歸順ヲ願出ツル者漸ク多カラムトシ不逞輩ノ根滅ヲ見ルモ又遠キニアラサルヘク歸順者取扱ニ關シテハ概ネ左記各項ニ依リ處理シ歸順ヲ願出ツル者アルトキハ從來ニ於ケル罪狀ヲ詳細調査シ其許否ヲ決シ寬嚴宜シキヲ得テ不逞匪賊ノ絶滅ヲ圖ルヘシ右内訓ス

大正九年十一月十二日

成銳 北道知事

記

一 不逞鮮人ニシテ自首若クハ其他ノ方法ニ依リ歸順ヲ願出ツル者アルトキハ兵器彈藥其他所持ノ物件ヲ一切提共セシメ且從來ノ行動ヲ具體的ニ記述セル自首申告書ヲ提出セシムルコト

二、歸順ヲ願出ツル者ニシテ其罪狀重ク後害ヲ生スル虞アリト思料スル者(各団体ノ首魁幹部等中心人物類)ハ歸順ヲ許サス直ニ處斷スルコト

但シ不逞團ノ掃蕩又ハ討伐ニ功勞ヲ立ツル見込アル者ニ對シテハ此ノ限ニ非ス前項以外ノ末輩ニ對シテハ寛大ノ處置ヲ採リ歸順ヲ許可スヘシ

三、歸順ヲ許シタル時ハ恭順ノ意ヲ誓約(附錄第一號様式)セシメ相當信用アル者ノ保證書又ハ部落民一同ノ保證書ヲ提出セシムルコト

四、歸順者ニハ歸順証(附錄第二號様式)ヲ附與シ假良民トシテ注意シ月三回以上改悛ノ意ヲ表明セシムル爲メ警察署ニ出願セシメ住所移轉ノ場合ハ所轄警察署ニ届出テシメ常ニ其行動ヲ監視シ改悛ノ情顯著ナル者又ハ功績アル者ニ對シテハ監視ヲ免除シ良民トシテ處遇スルコト

五、歸順シタル者ハ其ノ住所氏名年齢及歸順年月日竝不逞行爲ノ概要ヲ記載シタル歸順者名簿ヲ備付ケ尙名簿ニ餘白ヲ設ケ其監視顛末ヲ記載シ置クコト

六、歸順者ニシテ不逞行爲以外ニ刑事犯人タルノ證據明瞭ナル者ハ司法處分ニ附スルコト

七、自首者ヲ處斷シタルトキ又ハ歸順ヲ許シタルトキハ速ニ其狀況ヲ報告スルコト

(附錄第一號様式)ノ一

警 約 書

原 籍 道 郡 面 里 洞 番 地

現住所

族 籍 氏

年 齡

名

本人儀從來不逞行動ニ參加シ國憲ヲ犯シタルハ其罪輕カラス然ルニ今回前非ヲ悔
ヒ歸順願出タル處寛大ナル御措置ヲ以テ特ニ處分御猶豫被下候ニ就テハ爾今改心
シテ正業ニ就キ國法ヲ遵奉シ御指示ニ從ヒ敢テ不良ノ言動ヲ致シ申間敷萬一本誓
ニ違反シタル場合ハ如何ナル嚴罰ニ處セラルルモ何等異存ナシ右謹テ誓約ス

年 月 日

右 氏

名 ⑩

保證人 氏

名 ⑩

警 察 署 長 宛

(附錄第一様式)ノ二

誓約書

何某儀今回別紙誓約書ノ通歸順致候ニ就テハ今後同人ノ言動ハ御指示ニ從ヒ監視
申告致スヘク一切本洞里居住民一同ノ連帶責任ヲ以テ之ヲ保證シ順良ニ指導致ス
ヘキハ勿論今後同人ニ於テ不良ノ言動ヲ敢テシ又ハ本洞里居住民ヨリ不良者ヲ出
シタル場合ハ一同ニ對シ如何ナル嚴罰ニ處セラルルモ何等異存ナシ

右謹ンテ誓約ス

年 月 日

道縣(郡)洞里民一同(又ハ代表者)

保証人 氏

名 氏 印

氏

名 氏 印

氏

名 氏 印

警察署長 宛

2276

(表)

第 號	歸 順 証	住 氏 所	年 名 齡
右歸順者タルコトヲ證明ス			
年 月 日	何 警 察 署 印		

(附錄第二號様式)ノ二

附錄第十八 歸順者取扱規程

(用紙厚紙)

四一〇

2277

附錄第十八

隨順者取扱規程

四二

(裏)

微	特	鼻	尖
		口	顔
		目	耳
		齒	鬚
		疵	音
			書
			人
			相

(附録第二號様式)ノ二

歸順証ニ添付事項

- 一、正業ニ就キ業務ニ精勵スルコト
- 二、一定ノ住所ヲ定メ警察官ニ届出ツルコト轉居ノ場合亦全シ
- 三、警察官ノ指令アリタルトキハ直ニ出頭スルコト
- 四、本証ハ常ニ携帯シ警察官ノ命アリタルトキハ直ニ提示スヘシ
- 五、本証ハ絶對ニ他人ニ貸與シ又ハ保管ヲ委ヌヘカラス

6422

附錄第十九
間發第八號

警備規定ノ件達

間島派遣隊警備規定別冊ノ通り定ム

大正十年一月一日

隸下一般

間島派遣隊司令官 磯 林 直 明

附錄第十九 間島派遣隊警備規定

四二三

間島派遣隊警備規定

第一、總則

- 一、本規定ハ間島派遣隊警備ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス
- 二、各派遣部隊ハ本規定ニ準據シ警備規定ヲ作爲スヘシ警備規定ヲ作爲セハ派遣隊司令官ニ報告スヘシ
- 三、龍井村ニ於ケル警備ハ歩兵大隊長ノ擔任トス但シ防禦計畫其他警備規定ハ派遣隊司令官ノ認可ヲ受クヘシ

第二、警備

- 四、警備ニ就テハ概テ左記區分ニ依リ之ニ應スル如ク計畫シ置クモノトス
 - 1、急遽還ク出動ヲ要スル場合
 - 2、附近村落不穩ノ形勢ヲ呈シ警戒ヲ嚴ニスヘキ場合
 - 3、不意ニ急襲セラレタル場合
 - 4、賊ノ侵襲ヲ蒙リ永ク孤立シテ防禦スヘキ場合(防禦計畫ヲナシ置クヲ要ス)
- 五、各派遣部隊長ハ相隣接スル各派遣部隊及領事館ト緊密ナル連絡ヲ保持シ情報ヲ

交換シ努メテ地方ノ情況ニ精通シアルヲ要ス

六、警急ニ際シ龍井村ニ在リテハ各直屬部隊ハ命令受領者ヲ派遣隊司令部ニ出スモ
ノトス

七、各派遣部隊ノ警備區域ハ別ニ之ヲ定メス其ノ駐屯地附近一帯トス

八、不逞鮮人ノ所在ヲ諜知シタルトキハ領事(分館主任ヲ含ム以下同シ)ニ交渉シ領事
警察ニ依リ逮捕スル如ク努ムルヲ要ス憲兵所在地ニ在リテハ憲兵ニ通報シ處置
セシム

九、不逞武裝團體ニ對シテハ帝國官民ノ保護ノ爲メ必要已ヲ得サル場合ノ外妄リニ
討伐行動ヲ取ラサルヲ本旨トシ努メテ支那側ヲシテ討伐ヲ實施セシムルヲ要ス
而シテ已ヲ得ス討伐行動ヲ探ル際ニ於テモ事急ヲ要スル場合ノ外豫メ司令官ノ
認可ヲ受クルモノトス

一〇、(中)尉ノ指揮スル派遣部隊ハ教育上ノ便ヲ圖リ警備勤務ヲ妨ケサル限リ概ネ左
ノ標準ヲ以テ交代スルモノトス

派遣隊長 二箇月

下士以下 一箇月

附錄第十九 間島派遣隊警備規程

四一五

附錄第十九 間島鐵道警備規定

四一六

二、宿泊行軍ヲナサントスル時ハ順序ヲ經テ司令官ニ報告スルモノトス

三、警備部隊出勤若クハ演習行軍等ノ爲メ守備地ヲ離ルルトキハ少クモ其地直接ノ警備ニ必要ナル人員ヲ殘留スルモノトス

三、各派遣部隊ハ概ネ左ノ書類ヲ備フルモノトス

警備規定

警備記録

情報綴

第三 調査

四、各派遣部隊ハ記録ヲ調製シ置クヘシ其記載スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一、警備關係事項

部隊配置移動賊徒ノ情況示威行軍等

二、地方民情

從來ト現今トノ變化、不退鮮人ノ動靜等

三、地理

道路改修河川ノ景況通信網ノ増設

四、教育上當該派遣地特殊ノ參考資料
五、軍隊ノ行動ニ關スル研究ノ結果殊ニ嚴寒時雨期等ニ關スル事項
六、經理、衛生、關係事項

地方物資ノ多寡運搬ノ便否物價ノ廉否並軍隊及地方ノ衛生狀態等

附錄第二十

日支國境會巡暫定辦法(案)

目次

- 第一款 兩國派員會同國境巡察規定
 - 第二款 巡察方法
 - 第三款 武裝匪徒ニ對スル巡察辦理條規
 - 第四款 監督官吏及實行官吏ノ責任
 - 第五款 國境船舶及渡船取締條規
 - 第六款 附則
- 以上

附錄第二十 日支國境會巡暫定辦法案

日支國境會巡暫定辦法案

第一款 兩國派員會同國境巡察規定

第一條 日支兩國ハ協同シテ相互ニ接壤セル地方ニ於ケル匪徒ヲ取締ルモノトス

第二條 前記接壤地方ハ之ヲ二段ニ分チ第一段ハ奉天省ト朝鮮第二段ハ吉林省ト

朝鮮ノ各接壤地方トス

第三條 前記記載ノ二段ニハ日支兩國ヨリ各監督官吏ヲ任命シ本辦法實施ヲ指揮監督ス

第四條 前記記載ノ監督官吏ハ朝鮮側ニ在リテハ第一段平安北道管内ハ同道知事
同段咸鏡南道管内ハ同知事咸鏡北道管内ハ同道知事第二段咸鏡北道管内ハ同道
知事ヲ以テ之ニ當ツ支那側ニアリテハ第一段ハ安東道尹第二段ハ延吉道尹ヲ以
テ之ニ當ツ

第五條 本辦法ノ實行官吏ハ朝鮮側ノ第一段中平安北道區域ニアリテハ新義州、昌
城、高山鎮、中江鎮、惠山鎮、三長面ニ第二段ハ會寧、穩城、慶源ニ駐在セシム支那側ハ第
一段ニ在リテハ安東、寬甸、輯安、臨江、長白、安圖各縣ニ第二段ハ和龍、延吉、汪清、琿春各

縣ニ駐在セシム

但シ前項實行官吏ハ日本側ニ於テハ當該道警察部長又ハ警察署長(支署長ヲ含ム)トシ支那ニ於テハ當該各縣知事及當該縣警察署長(巡察署長、支署長ヲ含ム)トス

第六條 日支兩國實行官吏ノ駐在地ハ相互ニ電話或ハ電信ヲ以テ聯絡ス

第二款 巡察方法

第七條 國境ノ巡察ハ兩國警察協力シテ之ヲ行フ

第八條 各所ノ巡察官署及支署ハ國境ノ通衢ニシテ國境兩邊ヨリ相望ムヲ得ル場所ヲ選定シ相互ノ聯絡ニ便スヘシ

巡察官署及支署ヲ設クヘキ箇所及人員ハ兩國監督官吏商議ノ上之ヲ定ム

第九條 兩國巡察官署(支署ヲ含ム)及自國巡察官署間ニハ可成速ニ電話或ハ電信ヲ架設シテ聯絡シ以テ隨時通信ニ便スヘシ

第十條 兩國當局ハ事務ノ聯絡便宜ヲ計ル爲メ相互ニ聯絡員ヲ派遣スルモノトス

第三款 武裝匪徒ニ對スル巡察辦理條規

第十一條 兩國ハ匪徒ノ行動ニ付テハ相互ニ情報ヲ交換シ匪徒ノ搜查逮捕ニ關シ機宜ノ措置ヲ執ルヘシ

第四款 監督官吏及實行官吏ノ責任

第十二條 日支兩國ノ實行官吏ニシテ本辦法ニ規定セル職分ヲ遵奉セサルモノアレハ即チ日本側ニアリテハ道知事支那側ニアリテハ道尹ヨリ互ニ查明ヲ行ヒ各本國ニ於ケル處罰ヲ擬定シテ相手國ニ通知スヘシ但シ本國ノ律例ヲ按シテ處理スヘキモノトス

第十三條 實行官吏ヲ指揮監督スヘキ道知事又ハ道尹ニシテ本辦法ニ規定セル職分ヲ遵奉セサル者アレハ朝鮮側ニ於テハ朝鮮總督支那側ニ於テハ奉天省長又ハ吉林省長ヨリ相互ニ查明ヲ行ヒ各本國ニ於ケル處罰ヲ擬定シテ相手國ニ通知スヘシ但各本國ノ律例ヲ按シテ辦理スヘキモノトス

第五款 國境船舶及渡船取締條規

第十四條 國境河川ヲ航行スル船舶ハ其船籍ヲ有スル國ノ官憲ニ於テ規定セル證明書ヲ携ヘ日支兩國巡察官ノ検査ニ應スヘシ

第六款 附 則

第十五條 本辦法ハ調印ノ日ヨリ効力ヲ生ス

以上

日支會巡暫定辦法案

說明概要

本案ハ中越邊界章程ノ成例ニ倣ヒ之ヲ立案セルモノナルモ實際ノ狀況ニ顧ミ餘リニ詳細ニ規定スルヲ不利トセルヲ以テ討議ノ結果可成條項ヲ簡單ニシ支那側トノ交渉ヲ容易ナラシムルト共ニ將來變更ヲ必要トスル場合ヲ慮リテ暫定的ノモノトシタリ然レトモ支那側ト折衝ノ結果如何ニ依リテハ尙改變シ得ル餘地ヲ存シ置ケリ

第一款說明

一、本辦法當局者ヲ全部文官トシタルハ支那ノ承認ヲ容易ナラシムル爲メニシテ朝鮮側ニ於ケル憲兵ト警察トノ關係ニ付疑問アリタルモ全部警察官ヲ以テ充當スルコトニ諒解ヲ經タリ

一、本辦法ノ適用區域ヲ明定セサルハ實際上ノ運用ニ因リ我方ヲ有利ナラシメンカ爲ナリ

一、第六條規定ノ電信ハ速成ヲ期スル爲メ我方ノ費用ヲ以テ之ヲ架設スルモ差支ナシトノ諒解ヲ經タリ

一、支佛間ノ對汎辦法中ニハ護照ノ規定アルモ滿鮮國境ノ地利ニ鑑ミ事實上有害無益ニ付之ヲ削除シ「ブラツクリスト」ヲ交換スルノ案アリタルモ是又時宜ニ適セサルモノナリトテ全然削除セリ但シ支那側ヨリ提議アリタル場合ハ妥協的規定ヲ設クルモ差支ナキ諒解ヲ經タリ

第二款說明

本款ヲ簡單ニシタル所以ハ實際ノ折衝ニ因リテ我方ニ便益ナラシメントセルニ基クモノナリ

第九條規定聯絡員ノ交換ハ之ニ因リ支那側ニ我警察顧問ヲ入レタルト同様ノ效果ヲ舉ケントスルモノニシテ相當ノ機密費ヲ與ヘ有爲ノ人物ヲ配置シ本辦法ノ巧妙ナル運用ヲ期スルモノナリ

第三款說明

本款ヲ簡單トナセルハ越境ニ關スル支那側ノ承認ヲ取付クルコト困難ナル爲メ條文ヲ曖昧ト爲シ漠然ト之ヲ規定シ以テ現在已ニ實行シ居ル越江活動ニ支障ナカラシムルタメナリ

第四款說明

本款罰則ニ依リ支那側官憲ヲ督勵スル爲メナリ
第五款説明

第十四條ノ船舶中ニハ海關ノ關係上汽船ヲ含マス

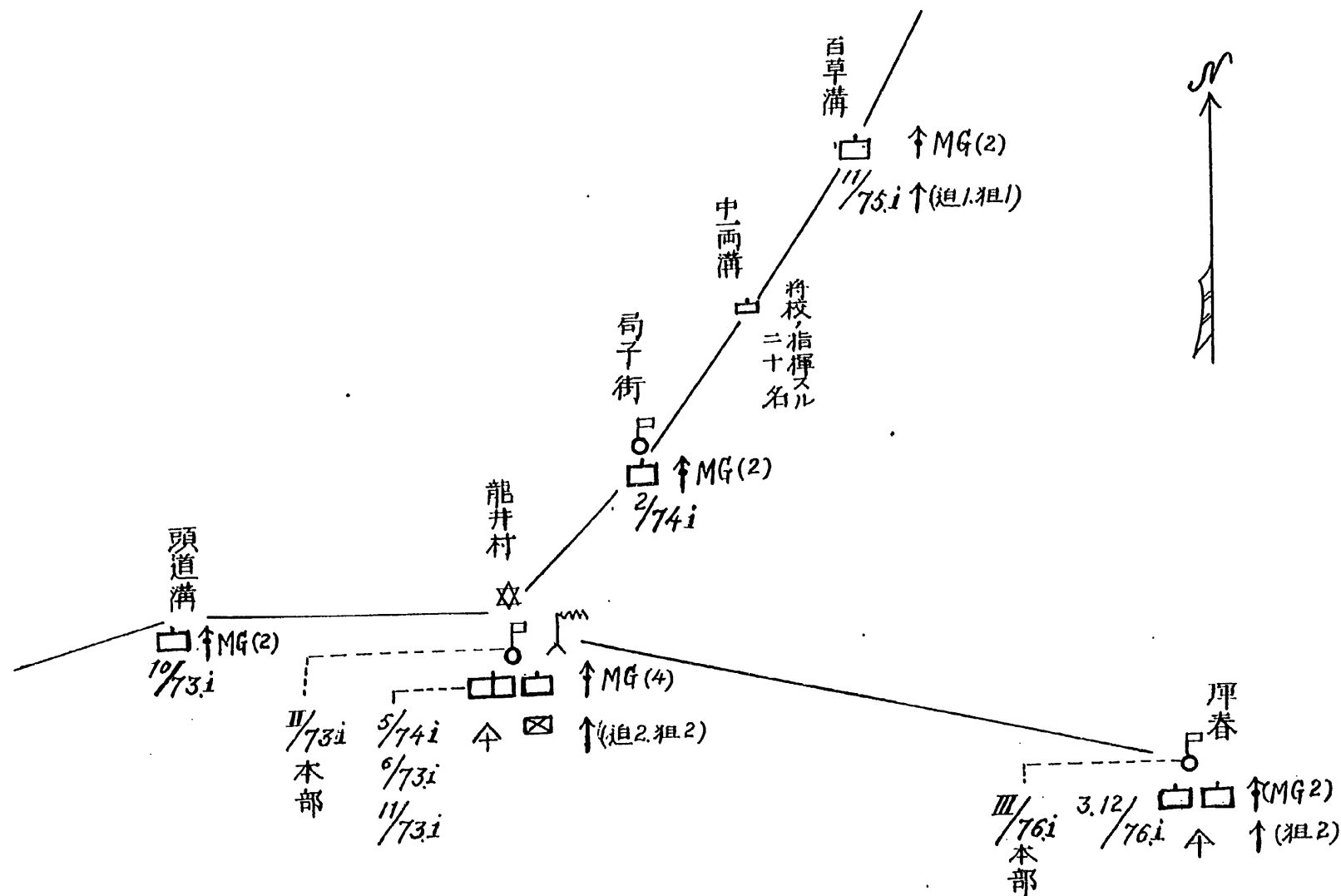
1622

間島派遣隊配置圖

大正十一年一月十一日

附圖第

今ハ患者療養所ヲ示ス



附錄第二十一其一
參謀本部作命第六二號

訓令

一、朝鮮軍司令官ハ現ニ瑯春及間島地方ニ在ル部隊ヲ逐次朝鮮内ニ歸還セシムヘシ
二、細部ニ關シテハ陸軍大臣、參謀總長ヲシテ指示セシム

大正十年三月二十四日

奉 勅

朝鮮軍司令官 大庭二郎殿

參謀總長男爵 上 原 勇 作

附錄第二十一其一 訓令

四二七

附録第二十一其二 訓令

附録第二十一其二

參謀本部命第五三四號一

指示

作命第六十二號訓令ニ基キ左ノ指示ヲ爲ス

一、撤退ノ時期方法等ハ駐兵ノ趣旨ニ鑑ミ支那軍隊ノ増加並帝國警察機關ノ増置等

ニ伴ヒ軍司令官ニ於テ決定スヘキモノトス

之カ爲特ニ關係帝國官憲ト連絡スルヲ要ス

二、撤退ニ際シテハ特ニ帝國軍隊ノ態度ヲ公明正大ニシ以テ支那側及珲春間島在住

ノ外人ヲシテ懷疑ノ餘地ナカラシムルコトニ注意スルヲ要ス

大正十年三月二十四日

參謀總長男爵 上 原 勇 作

朝鮮軍司令官 大庭 二郎 殿

四二八

附錄第二十一其三

陸密第九五號

間島殘置部隊撤退ニ關スル件達

陸軍一般

間島殘置部隊撤退ニ關シ左ノ通り定ム

大正九年陸密第二〇二號及同年陸密第二七五號ハ之ヲ廢止ス

大正十年四月一日

陸軍大臣男爵 田 中 義 一

一、當分ノ内朝鮮軍司令部及朝鮮憲兵隊司令部ニ別表ノ人馬ヲ増加配屬ス

二、大正九年陸密第二〇二號ニ依リ朝鮮憲兵隊司令部ニ増加配屬セル憲兵將校以下

(乘馬ヲ含ム)ハ前項ニ依ル司令部ノ增加人馬ニ充當ス

前項以外ノ人馬ノ轉屬ニ關シテハ將校同相當官ニ在リテハ辭令ヲ用キ下士以下

ニ在リテハ各其ノ所屬長官ニ於テ之ヲ舊所屬部隊ニ復歸セシムルモノトス但シ

計手ノ轉屬ニ關シテハ別ニ之ヲ示達ス

三、鳩及其附屬通信器材ハ軍用鳩調査委員長ノ管理ニ移シ大正九年西發第一二〇八

附錄第二十一其三 訓 令

四二九

附錄第二十二其三 訓令

四三〇

號ニ依リ第十九師團ニ分置スヘキモノニ充當スルモノトス

四、歸還部隊ノ使用セシ建物及臨時構築物中借入ノモノハ契約ヲ解キ所有主又ハ管

理者ニ返還シ其ノ他ノモノハ師團長ニ於テ適宜處分シ其結果ヲ陸軍大臣ニ報告

スルモノトス

五、增加人馬ノ給與竝本作ニ關シ特ニ要スル經費ハ臨時軍事費ノ支辨トス

9622

別表

間島事件ノ爲増加スヘキ定員外人員表							
階級	部隊		朝鮮軍司令部		朝鮮憲兵隊司令部		考
	人馬	員	乘馬	人	員	乘馬	
大(中)尉		八		憲兵	二		一、本表ニ依ル軍司令部増加配屬人員ハ間島方面ニ於ケル諜報勤務ニ任セシムルモノトス 二、本表ニ依ル憲兵將校以下及其ノ馬匹ハ朝鮮憲兵隊定員(數)ノ欠員(數)補充ニ充當シ漸次之ヲ整理減少スルモノトス
佐官		一	一	憲兵			
下士				憲兵	三〇		
上等兵				憲兵	二〇〇	二八	

大正九年十月二十二日調
第十九師團司令部

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

附表第二

間島事件使用作戦用通信器材等品目員數表

品目	員數	摘要	品目	員數	摘要
ソリットバック	三〇	以下半永久通信器材	紐付小刀	三〇	
電工用機	一五		尺三横鋸	一五	
十一番	三三三		鐵鎚	一五	
亞鉛鍍鐵線	五四、八〇〇		八吋ペンチ	三〇	
十六番鐵線	五四、八〇〇		二十人用	二	
曲柄二重碼子	四、七〇〇		電信柱交換機	四一六	「七五〇」ハ返納見込
茶壺碼子	七五〇		電信柱支柱用	一五〇	「一五〇」ハ返納見込
眞棒座鐵共	二一、五〇〇		眞棒十吋	一五〇	「一五〇」ハ返納見込
鹽化亞鉛液	三九		火壺	五	
松脂入盤陀	八、〇〇〇		二吋鼓形碼子	二四〇	
燒鍍	六		十四番	一、六四二	斤
中形曲柄	二二五		堅引銅線	約八里	分
大立翁	五		調線桿	七	
立翁	一〇		電鈴式電話機	一〇	舊制式(工次式)品ト
中線卷匣	九	以下被覆線建築ニ要スル通信器材	中絡車胴	二六	
中線被覆線	二四、五〇〇	(四十卷)	中接續線	二〇	
中線除胴	二四、五〇〇	(四十卷)	不制式	二〇	
中絡車	三〇		同被覆線絡車	七〇	
同被覆線絡車	二六		線出線掛	一〇	

備考 一、本表ノ員數ハ間島事件ノ爲通信網稱成用トシテ龍支羅山ヨリ受領セシ合計員數トス

二、本表ノ兵器ハ兵器支廠作戦用及總豫備兵器トス

三、本表ノ兵器中ヨリ遞信局ニ交付セルモノナシ

四、無線電信通信器材ヲ他ノ部隊ニ流用セシモノナシ

6622

附表第三

第十九師團工兵作業間島電話網建設費調書

一金四千八十四圓

内 譯

金二千九百十一圓	輝春、慶源、訓戎間建設費
金二百五十四圓	會 寧、龍井村間建設費
金百七十九圓	龍井村、局子街間建設費
金二百四十七圓	龍井村、頭道溝間建設費
金四百九十三圓	頭道溝、銅佛寺間建設費

附表第四

遞信局依托工事及三月末迄ノ維持費調書

一金十二萬八百三十四圓

内 譯		月 日		陸軍省通牒		金	額	事 項
計	十月二十九日	陸	四八九	一七、〇〇〇	〇〇〇	一、慶源訓戎間及會寧局子街間軍用電線架設費		
	十一月二十九日	陸	普 第五、二八一	二二、六三四	〇〇〇	二、慶源、訓戎間軍用線 三、會寧、局子街間軍用線 四、龍井村、頭道溝間及龍井村鐘城間軍用線 五、羅南ヨリ清津、古茂山、會寧、北蒼坪ヲ 經テ稔城、慶源ニ至ル軍用線 六、古茂山ヨリ茂山ヲ經テ西江ニ至ル軍用線		
	十二月二十日	陸	六二四	八一、三〇〇	〇〇〇	一、慶源、瑯春間鐘城、龍井村間電信線新設費 二、龍井村頭道溝間電話線新設費 三、會寧、清津、羅南間、會寧、北蒼坪慶源、北蒼坪、稔城間、古茂山、西江間電信線添架諸費 四、以上ノ外既設軍用線ノ補修費		
		計		一一〇、八四〇		五ヶ月間維持費		

0082

附表第五

間島出動部隊患者表

(歩兵第二十八旅團及江岸守備隊)
(ノ出動部隊ヲ含ム)

備考	計	病名未定	傳全										病類名別										新患	計	治療日數	治療	死亡	轉送	事故	後遺																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			赤痢	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	腸室扶私	流行性感冒	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞									麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞	麻刺利亞

附表第六

間島出動間各特設衛生機關收容患者表

衛生機關	區分	收容患者總數	轉歸別			
			原隊復歸	屯營歸還	入院	死亡轉送
甲號衛生班		七六	二三	一四	一六	二四
乙號衛生班		一一五	三五	三六	四	七
丙號衛生班		三三	八		一〇	六
丁號衛生班		四				四
戊號衛生班		三〇	二三		六	二
第一患者輸送班		一八六	二〇	六六	六三	三七
第二患者輸送班		四一			四一	
涼水泉子患者療養所		一三	一二		一	
局子街患者療養所		六八	二四	四	一	三九
龍井村患者療養所		七七	八	二四	二二	八
上三峰患者療養所		二三九		一三八	一三八	

考

備

- 一、本表ハ收容患者日報又ハ旬報ニヨリ調製セシモノトス
 二、收容患者總數ト轉歸數トノ符合セサルハ報告漏等ノ爲トス

彈春間島出動中戰死傷者病名別部隊別一覽表

死傷名	隊別							
		步七三	步七四	步七五	步七六	步七八	騎二七	計
右下腿貫通銃創				一				一
右大腿軟部貫通銃創		一						一
左腹部盲管銃創		一						一
右上膊擦過銃創		一						一
左腓腸部擦過銃創	(一)							一
頭部貫通銃創	1	1				1		3
頸部貫通銃創 兼胸部貫通銃創	1							1
翠丸銃創							一	一
右上膊貫通銃創						一	一	二
右臀部盲管銃創							一	一
右大腿擦過銃創							一	一
左膝部貫通銃創							一	一
胸部貫通銃創			一					一
右大腿貫通銃創		一				一		二
胸部前膊右中指擦過銃創		一						一
左下腿擦過銃創	(一)				一			二
左腰部盲管銃創							1	1
頭部頸部擦過銃創							(一)	一
顎部銃創							1	1
顔面及腹部貫通銃創							1	1
左前膊貫通創兼右上膊盲管銃創					一			一
頭部穿通盲管銃創(粉碎骨折)					1			1
左下顎部擦過銃創						一		一
右上膊骨頭盲管銃創血管損傷			1					1
左側腰軟部貫通銃創			一					一
頰部貫通銃創	一							一
左耳擦過銃創	(一)							一
腰部擦過銃創							(一)	一
身長軸銃創			1					1
腹部貫通銃創					一			一
右小指擦過銃創					(一)			一
右前膊下部貫通銃創						(一)		二
右耳後部擦過銃創								一
左臀部盲管銃創兼右下腿貫通創	1							1
計	34	16	22	15	14	87	28	111

備考

一、亞刺比數字ハ戰死若クハ戰傷後死亡セル者ヲ括弧内數字ハ輕傷ニシテ入院治療ヲ要セス治癒シタル者ヲ其他ハ入院加療セル者ヲ示ス「内ニ示セルハ將校ニシテ歩兵少尉井田君平トス

二、戰死傷者内譯戰死ハ八、傷死三、後入院加療二、入院セサル輕傷七

附表第八

事件出動部隊病馬表

病類	病名	番號	病馬	快復	中絶	轉送	預託	轉症	廢役	斃死	撲殺	歸計	後遺	治療日數	休業日數
傳染病	炭疽(疑似)	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三	三
	其ノ他ノ傳染病	一〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二
呼吸器病	鼻加答兒	一六	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	五七	五七
	氣管支加答兒	一七	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	二八	二八
消化器病	其ノ他ノ呼吸器病	一九	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三八	三八
	痛	二一	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	九	九
皮膚病	疥癬	二二	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	九	九
	計	二四	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	〇	〇
運動器病	骨軟症	三五	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三
	骨折	三八	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	一	一
其他	脫臼及轉振	三九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四	四
	飛節内腫	四〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	〇	〇
蹄病	蹄葉炎	四四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六	六
	蹄冠傷	四五	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	八	八
外傷	挫創及刺傷	五一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	六	六
	咬創及咬傷	五三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	四	四
不慮	鞍傷	五五	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	六	六
	帶傷	五六	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
慮	其ノ他ノ馬具傷	五八	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	一四	一四
	其ノ他ノ外傷及不慮	六〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	四八	四八
疲勞及瘦削	計	六二	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	一〇	一〇
	總計	六二	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	一〇	一〇

備考
一、本表中舊患四ハ山砲第二中隊第一小隊ノ後遺ヲ受ケタルモノトス
二、表中骨軟症ノ廢役一ハ地方豫託ノ儘廢役トナリタルニヨリ〇ヲ附セリ
三、本表外ニ廢役三頭斃死一頭アリ

2304

出動部隊馬匹獸醫材料並軍馬衛生機關配屬一覽表

[illegible]

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	1 2
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

附表第十一

兵站司令部編成表

兵站司令部	區分						
		司令官 (佐官)	部員 (佐官)	下士	兵卒	通譯	計
會	寧	主計 一 軍醫 ケ	主計 ケ 一 看護長 ケ	一 五	一 五	二	四五
穩	城	主計 一 軍醫 ケ	主計 ケ 一 看護長 ケ	一 三	一 〇	二	二七
軍	春	主計 一 軍醫 ケ	主計 ケ 一 看護長 ケ	一 三	一 〇	二	二七
龍	井村	主計 一 軍醫 ケ	主計 ケ 一 看護長 ケ	一 三	一 〇	二	二五
考	備	一、部員並各部下士兵卒ノ個數實令辛ミテ士兵卒ハ司令部ノ下ノ部隊ヨリ差 スモノトス 二、ケハ兼務△ハ欠員ニシテ要員到著後充足スヘキモノ工ハ看護卒及同修業兵ヲ示ス 三、通譯ハ司令部官ニ於テ適宜雇傭スルモノトス 四、佐官ハ乘馬一馬丁一ヲ携行スルモノトス					
		主計ハ師團經理部及工 兵大隊ヨリ軍醫並看護 長ハ工兵大隊ヨリ兼勤 主計計手ハ師團經理部 ヨリ兼勤 主計計手ハ師團經理部 ヨリ看護長ハ慶源守備 隊ニアリヲ兵站支部業 務ヲ各兼任軍醫ハ慶源 守備隊ヨリ配屬 主計計手ハ師團經理部 ヨリ兼勤					

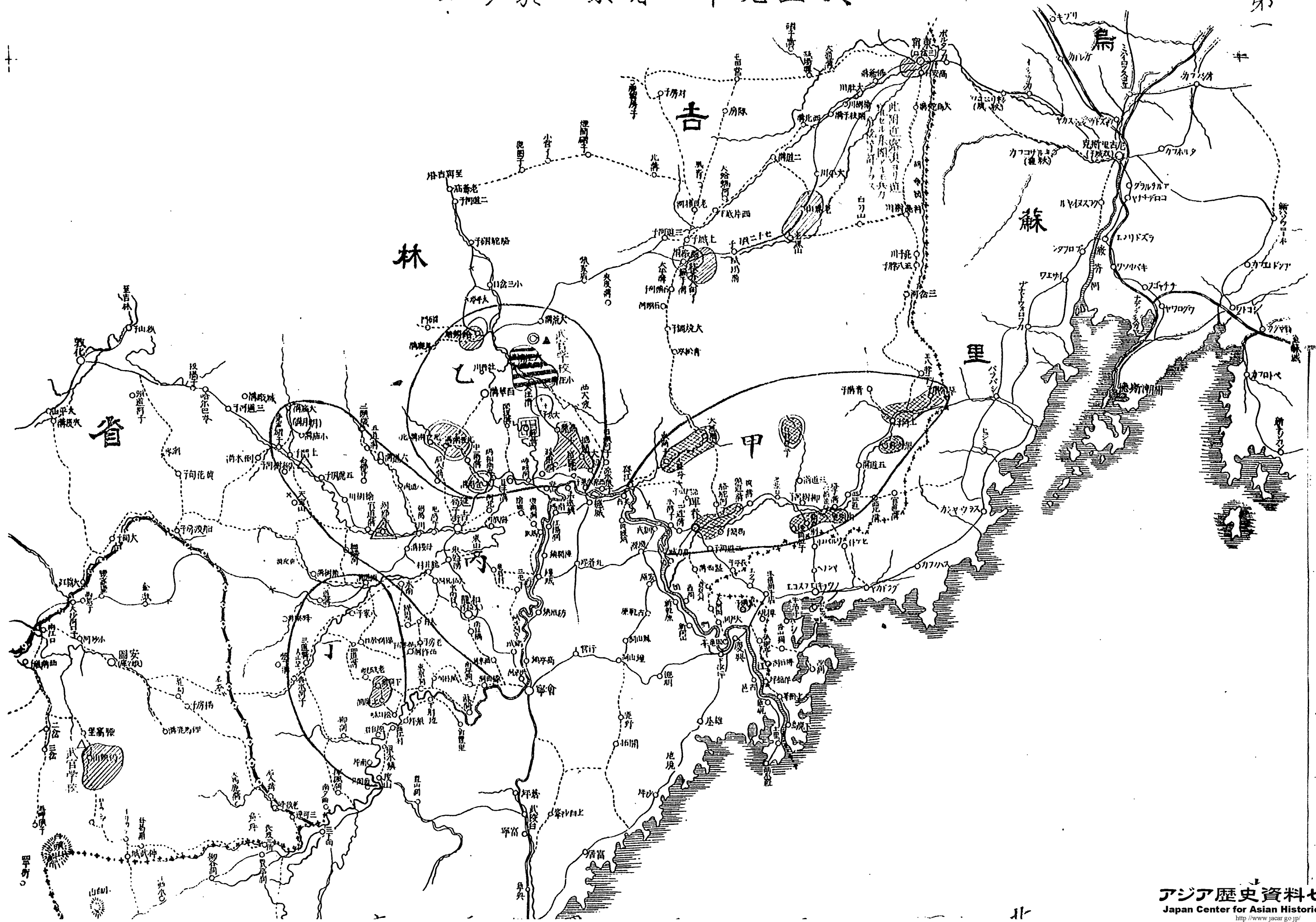
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	2 1
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

間島地方不逞人概況圖

大正九年五月末於此

圖第一



備考

彈春方面

一、韓民會軍務部

彈春縣下、諸團體ヲ合併シタルモノ

黃内吉(死亡)李明等、蓋正國崔慶大等之カ牛耳ヲトル

步兵四中队機關銃隊ヲ以テ一大隊ヲ編成スト云フ

兵力、兵員一千五百(二月間短期訓練、後大部分、宣誓歸郷セシム)

小銃五百、機關銃十二、彈藥十萬發、拳銃百餘、爆彈若干

北間島方面

總兵力

(兵員二千七百餘、小銃千三百二十、機關銃四、五月中旬上海政府ニ報告セルモノニシテ、彈藥十七万三千三百、拳銃二百餘、爆彈百餘、小銃教、於テ各項合計ト綜合セリル所アリ)

一、軍政署

大倭教徒ノ主体トシ最急進過激思想ヲ有シ軍備比較的完備セルモノ

徐ノ首領ト人副總裁玄天黙、軍司令官金在鎮、參謀長羅仲照トス

兵力、兵員六百、小銃八百、彈藥一銃ニ付二百

(機關銃二、拳銃、爆彈若干)

二、獨五軍(都督府)

旧暴徒派ニ屬シ武力ヲ以テ韓國、獨立ヲ企圖スルモノニシテ勢力範圍最廣汎ナリ

洪範圖ノ首領トシ穩健對岸附近ニアリテ崔明錄之カ牛耳ヲトル

兵力、兵員一千餘、小銃約一千、彈藥一銃ニ付五十乃至百

(機關銃、拳銃、爆彈若干)

三、國民會

耶穌教徒ノ主体トシ上海臨時政府ノ系統ニ屬ス稍穩和ナル獨立派ナリ

具春先ノ首領ト人副會長姜九禹、軍司令官安武、參謀長金圭燦トス

兵力、兵員三百、小銃二百五十、彈藥一銃ニ付四十、拳銃百、爆彈若干

五、新民團

李海軍一派、シテ金聖倫、洪斗極等之カ牛耳ヲトル

兵力、兵員二百、拳銃百五十、彈藥一銃ニ付五十

六、義民團

聖理教徒ノ主体トスルモノ、勢力微弱ナリ

金準根ノ團長トス、勢力微弱ナリ

朝鮮

天主教徒ノ主体トスルモノニシテ創設日淺ク内容詳ナラス

註記、二重輪廓、本部所在地ヲ示ス

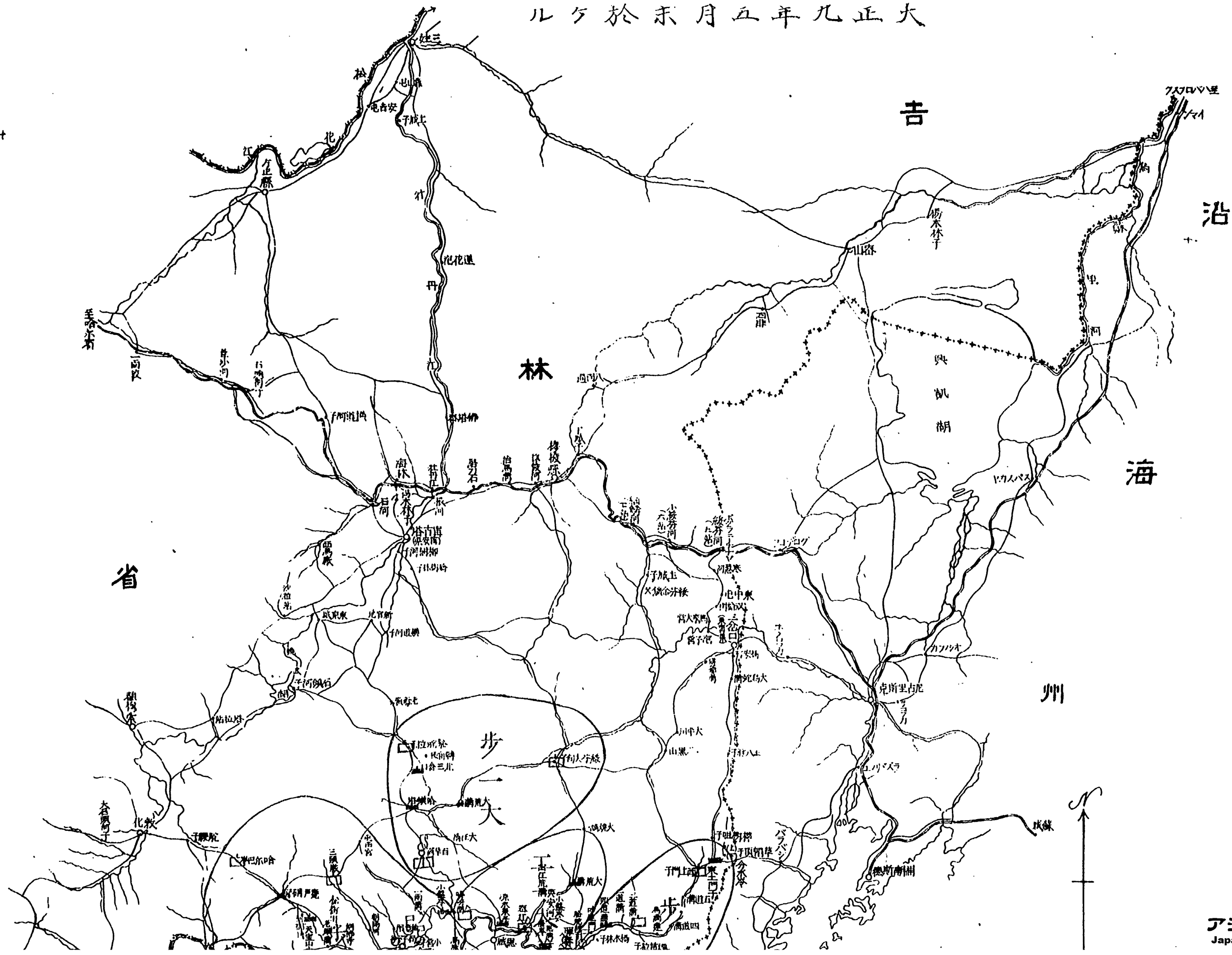
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>2</td></tr><tr><td>1</td></tr></table>	2	1
2			
1			
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため		
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 			

延輝地方支那軍隊配置要圖

大正九年五月末於ル

附圖第二



海

州

步

省

1
1500,000

備考

白ハ中隊
ハ小隊

總兵力
吉林第一混成旅第二團(長上校孟富德)ヲ
主力トスル步兵四大隊工兵一大隊(三中隊)騎
兵一小隊トス

朝

鮮

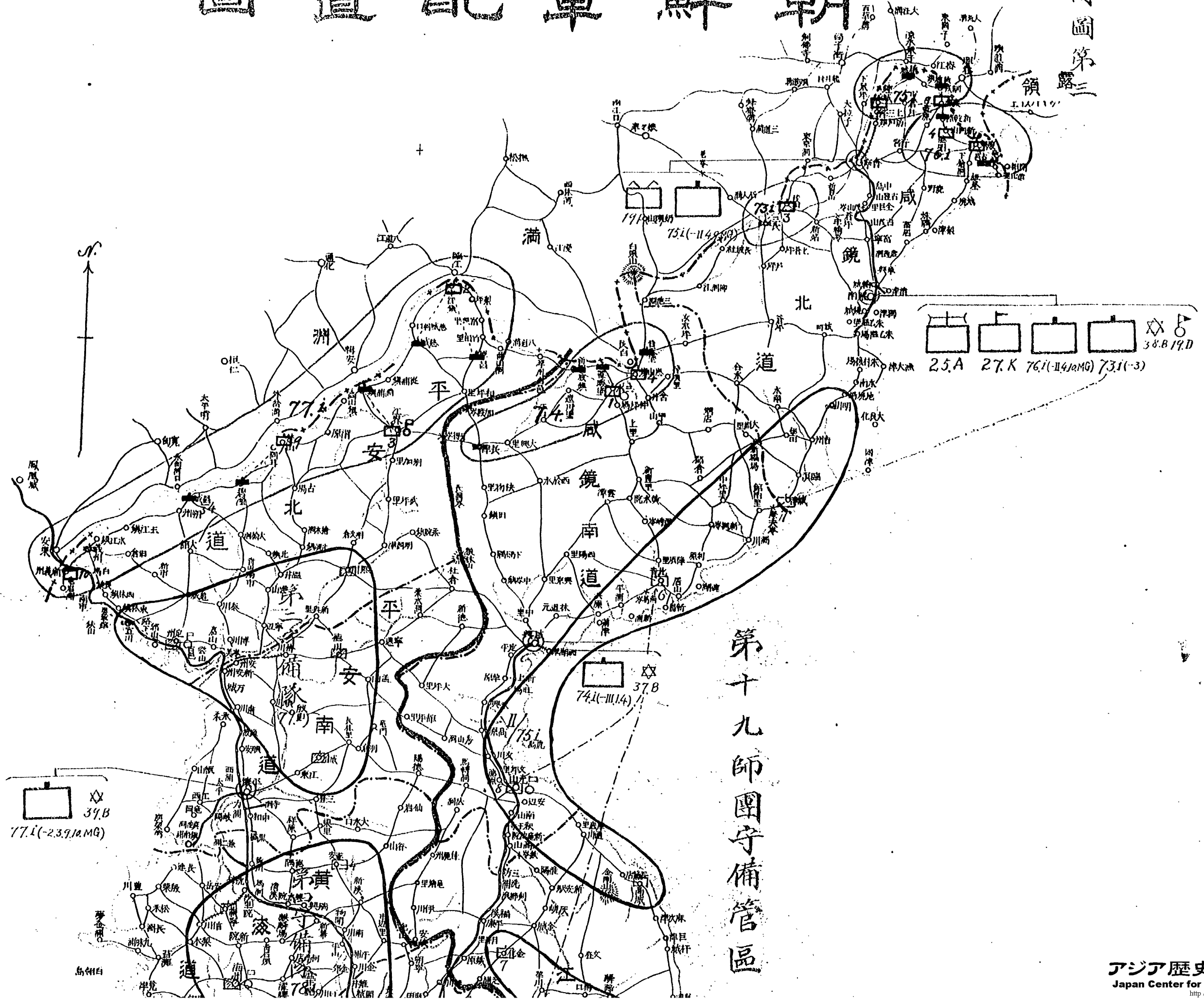
2812

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>3</td></tr><tr><td>2</td></tr><tr><td>1</td></tr></table>	3	2	1
3				
2				
1				
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため			
上記のとおり分割撮影したことを 証明する				
7 年 8 月 10 日				
主務者又は				
撮影立会者 坂根嘉和 				

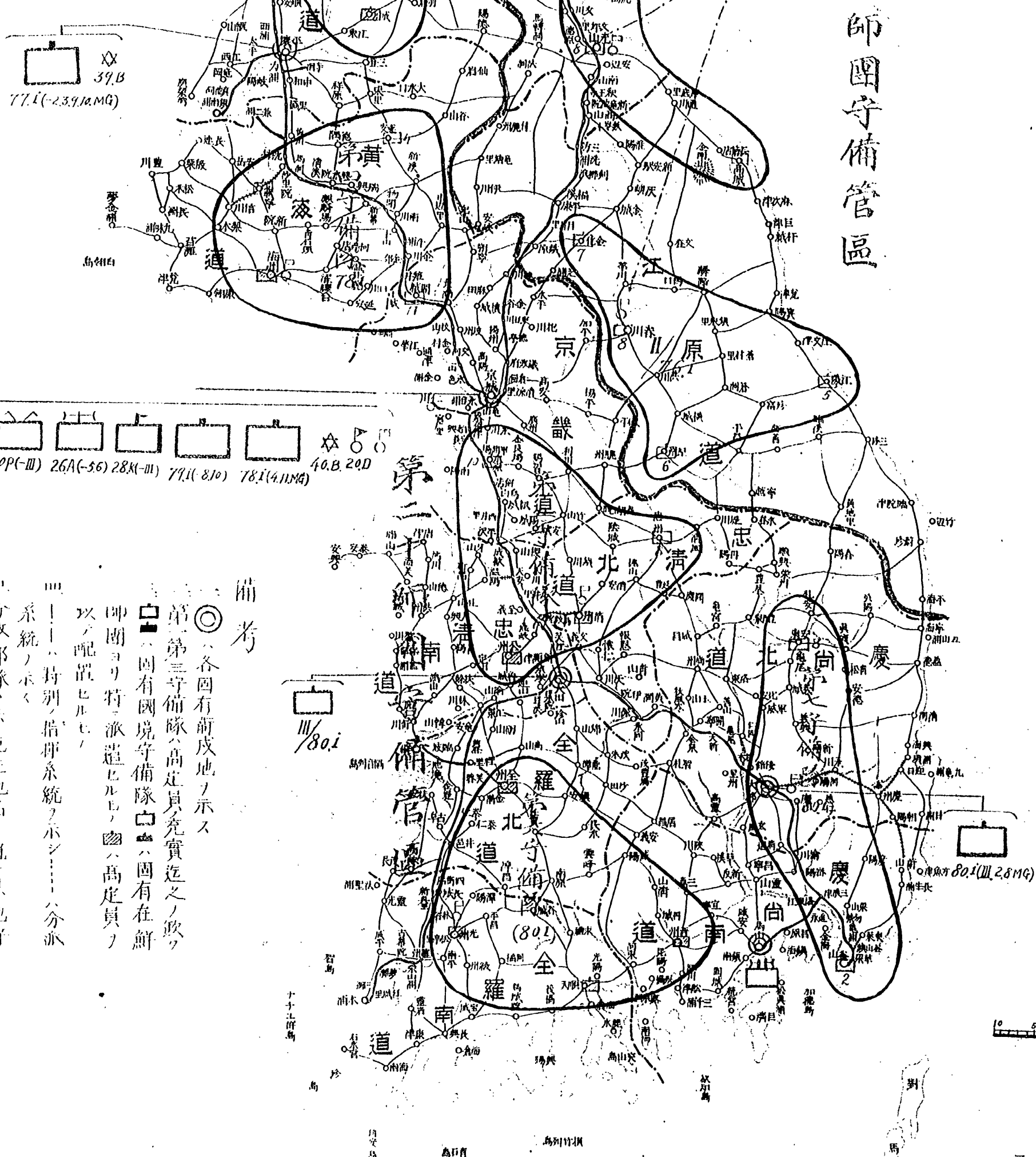
朝鮮軍配備圖

附圖第三



第十九師團守備管區

師團守備管區



XX 39.B
77.1(-239.1a.MG)

6182

20P(-III) 26A(-56) 28K(-III) 77.1(8.10) 78.1(4.11MG) 40.B.20D

備考
◎ 各固有前成地ノ示ス
第第三守備隊ノ高定員充實迄ノ取
□ 固有國境守備隊ノ固有在鮮
師團ヨリ特派遣ヒルヒ、固有高定員ノ
以テ配置ヒルヒ、
—— 特別ノ指揮系統ヲ示シ、ハ分派
系統ノ示シ
分隊部隊ハ其屯在地名ヲ冠シ某地守
備隊ト稱ス

朝鮮軍司令部

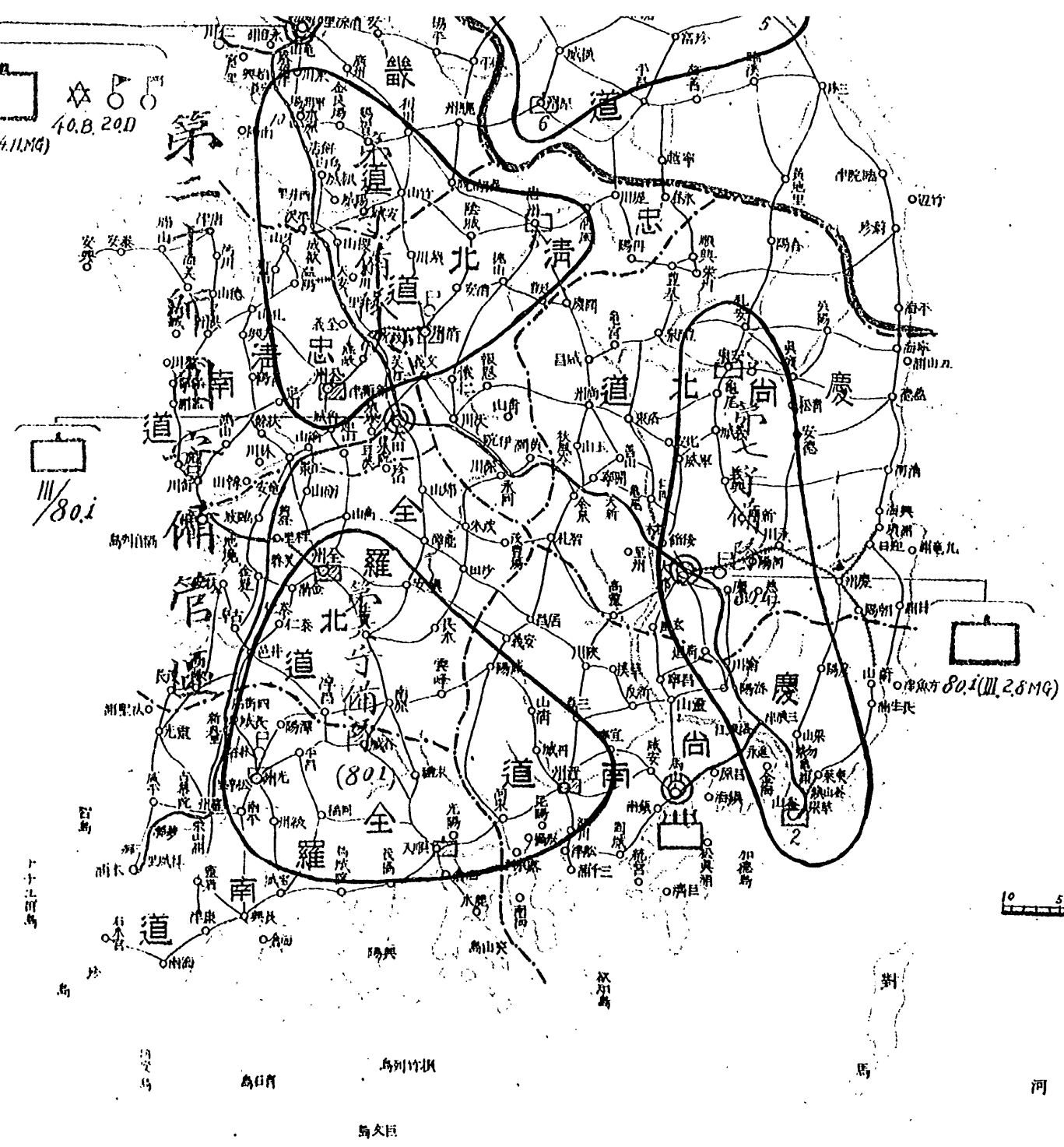
一分万百二尺俵
里 木 日
0 5 10 20

河道國都道輕鐵例
便
川界界邑路道道

20P(-III) 26A(-3.6) 28K(-III) 77.1(8.10) 78.1(4.11MG) 40.B. 20D

備考
 ◎、各固有前成地ノホス
 第一守備隊ハ高足員充實迄ノ政
 〇、固有國境守備隊ハ固有在簡
 師團リリ特派遣ルルハ高足員ノ
 以テ配置ヒル
 四、一、特別指揮系統、ホシ……ハ分派
 系統ノホス
 分隊部隊ハ其在地名ノ冠ニ是地守
 備隊ト稱ス

朝鮮軍司令部

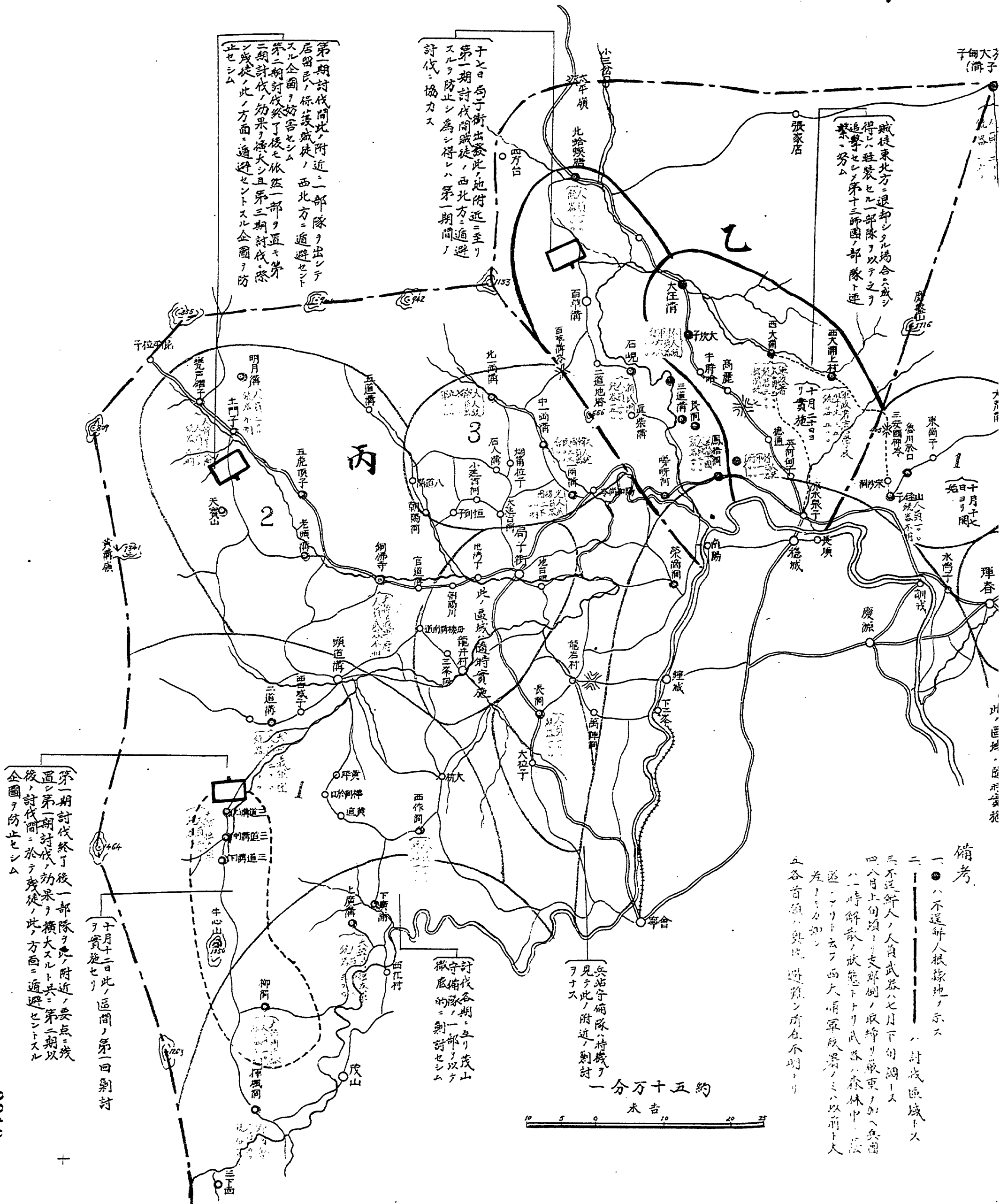


2315

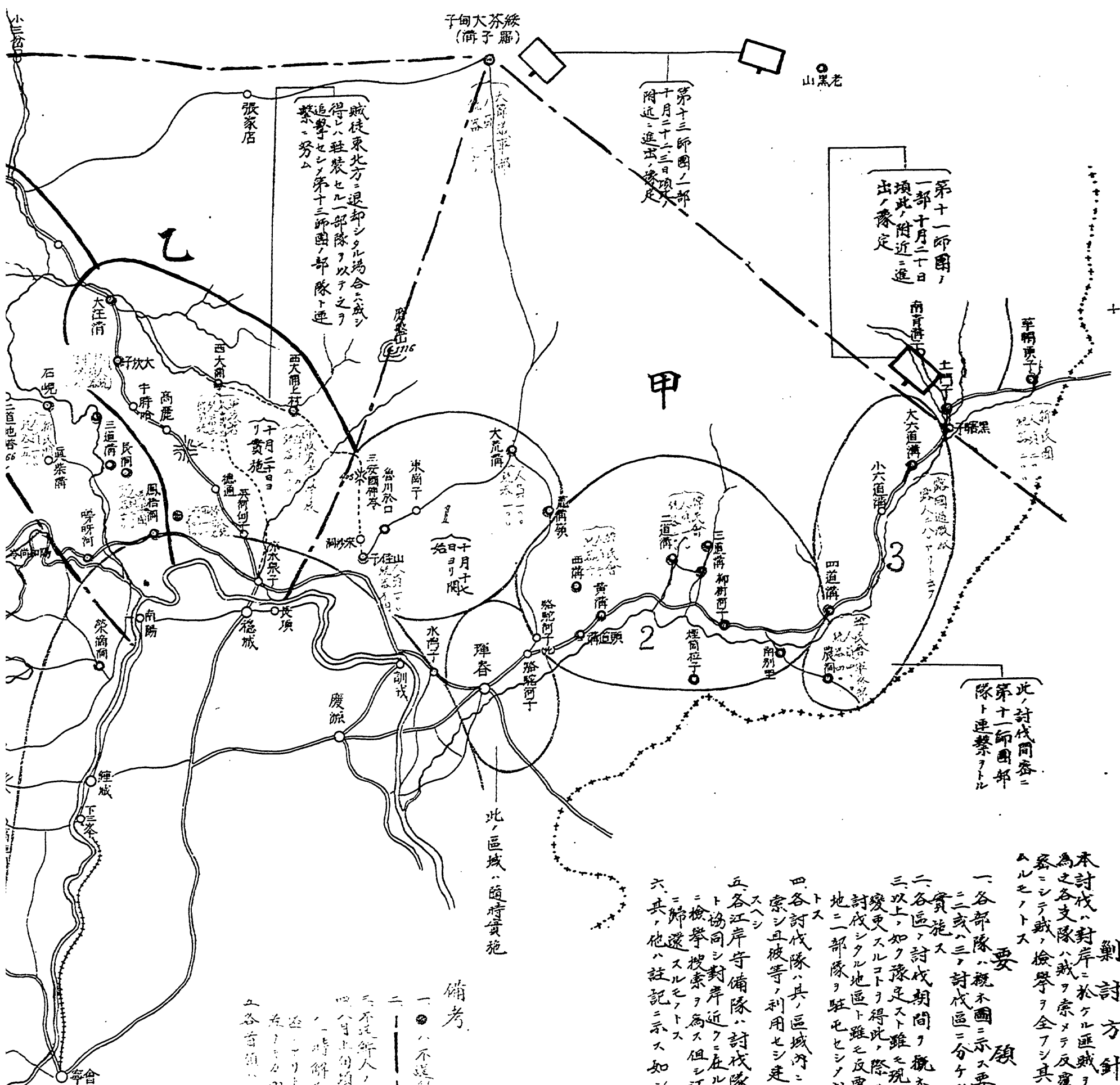
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	2 1
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

遲人討伐計畫圖



不逞鮮人討伐十



本討伐ハ對岸ニ於ケル匪賊ヲ徹底的ニ剿討セムコトヲ期ス
爲之各支隊ハ賊ヲ索メテ反覆討伐ヲ實施シ搜索ヲ周
密ニシテ賊ヲ檢挙ヲ全フシ其ノ資源ヲ覆滅スルコトニ努
ムルモノトス

要 願

要領

一、各部隊ハ概ネ圖ニ示ス要領ニ從ヒ其ノ討伐區域ヲ更ニ或ハ三ノ討伐區ニ分ケ數字ノ示ス順序ニ從ヒ討伐ヲ實施ス

二、各區ノ討伐期間ヲ概ネ十日間トス

三、以上ノ如ク豫定スト雖モ現況ニ應ジ各支隊長ニ於テ適宜變更スルコトヲ得此ノ際ハ機ヲ失セス報告スヘシ又既に討伐シタル地區ト雖モ反覆剿討スルモノトス爲之各要地ニ一部隊ヲ駐屯セシメ討伐ノ効果ヲ擴大セシムルモノトス

四、各討伐隊ハ其ノ區域内ニアル匪賊ヲ徹底的に檢挙搜索シ且彼等ノ利用セシ建物軍需諸品等ヲ破壞燒却スヘシ

五、各江岸守備隊ハ討伐隊ノ行動ニ連繫シ憲兵警察官ト協同シ對岸近クニ在ル賊ノ根據地ヲ剿討シ徹底的に檢挙搜索ヲ爲ス但シ江岸守備隊ハ夜間各守備地ニ歸還スルモノトス

六、其ノ他ハ註記ニ示ス如シ

備考

- 一 ● 八不逞解人根據地ノ示ス
二 一 八不逞解人ノ人自武器ハ七月下旬調リ入
四 ハ月上旬頃ニ支那側ノ取締リ嚴重ノ故ニ香港
ハ一時解散ノ状態トナリ武器ハ森林中ニハ
盜ニテリト云フ西大埔區賊黨ノミハ堅固ト人
知リタル如シ
五 各首領ハ奧地ニ避難シ所在不明トナリ

一兵站守備隊八特機

約十五萬分一

求 吉



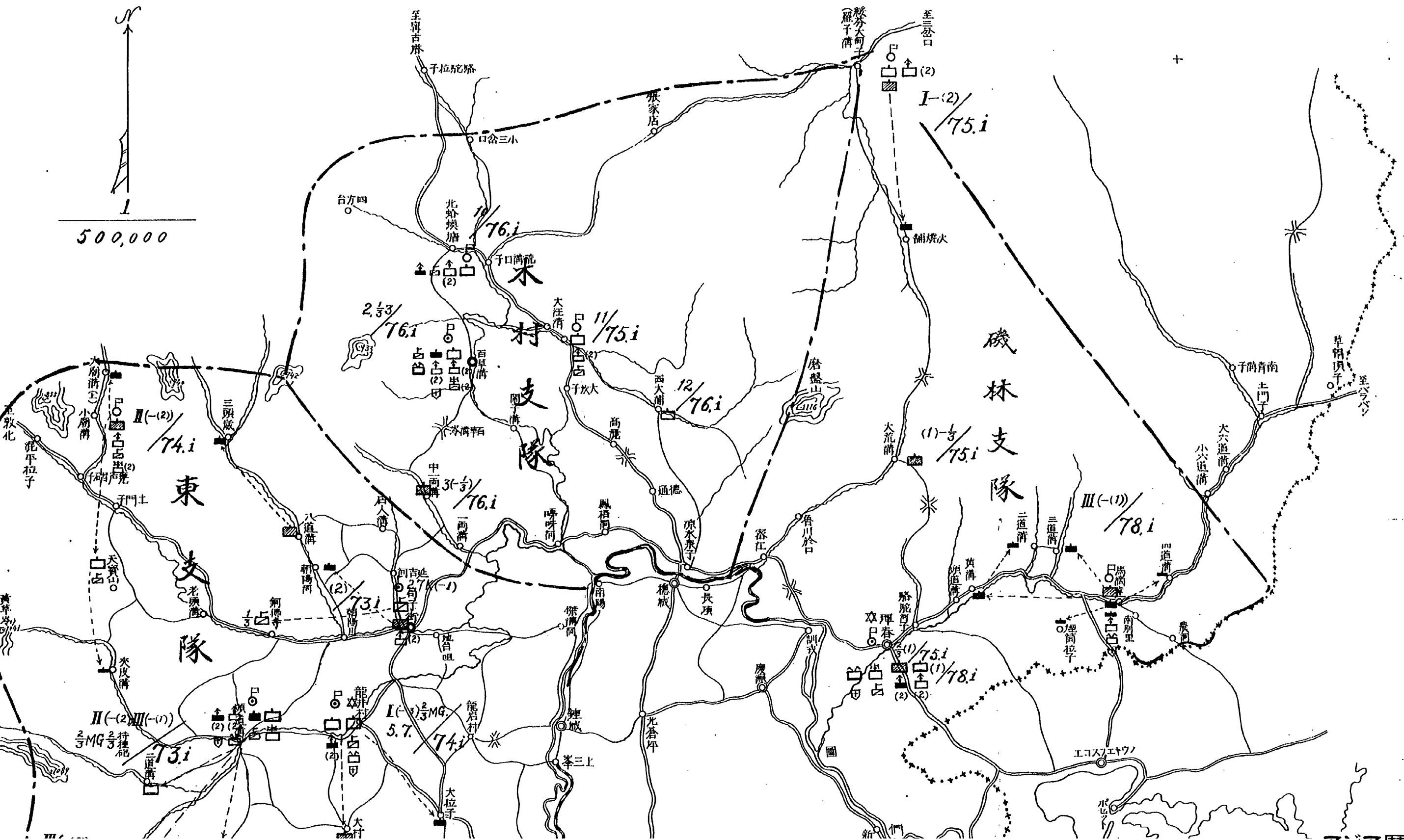
0 10 20 25

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため				
上記のとおり分割撮影したことを 証明する					
7 年 8 月 10 日					
主務者又は					
撮影立会者 坂根嘉和 					

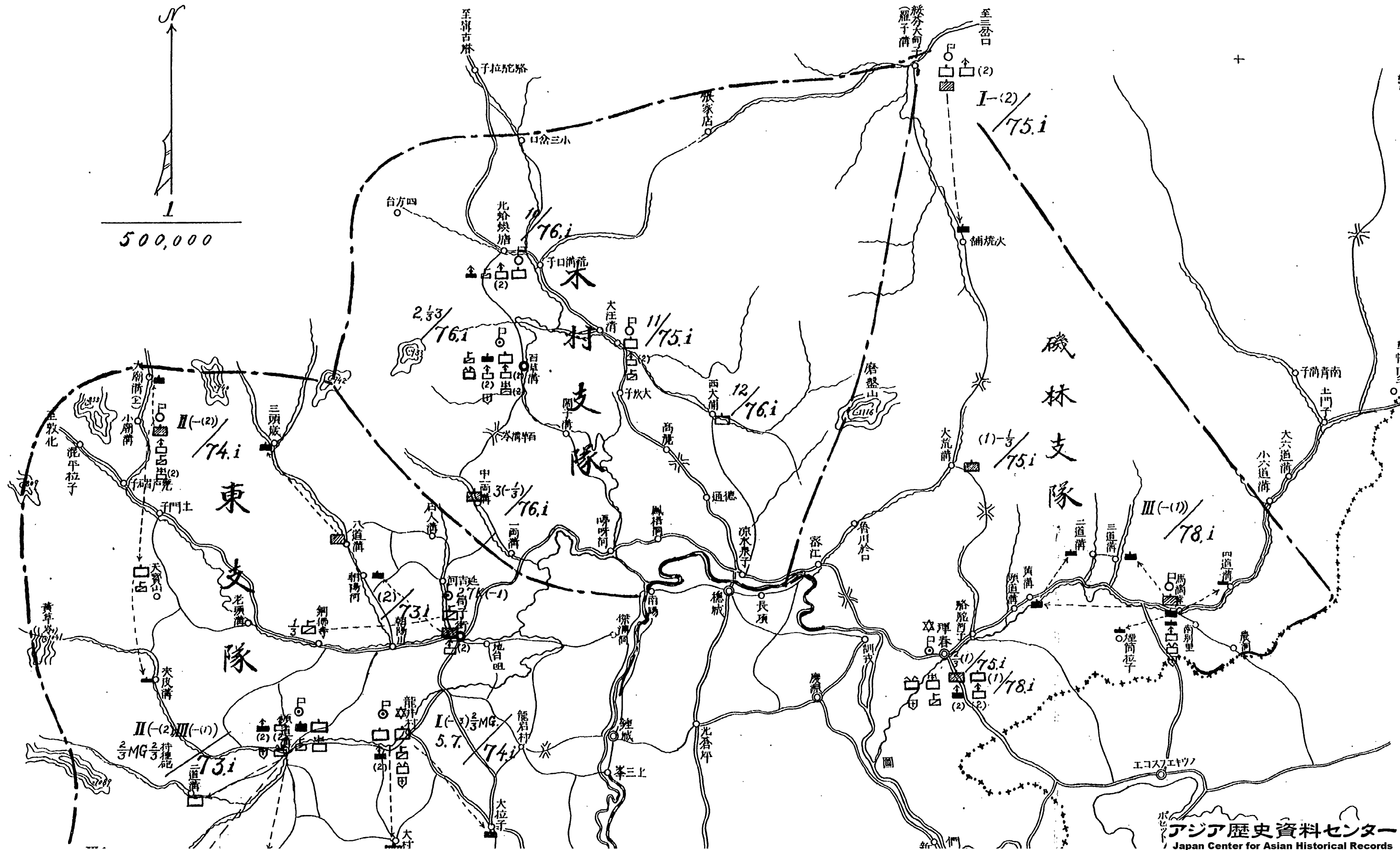
圖要置配散分隊伐討島間春琿

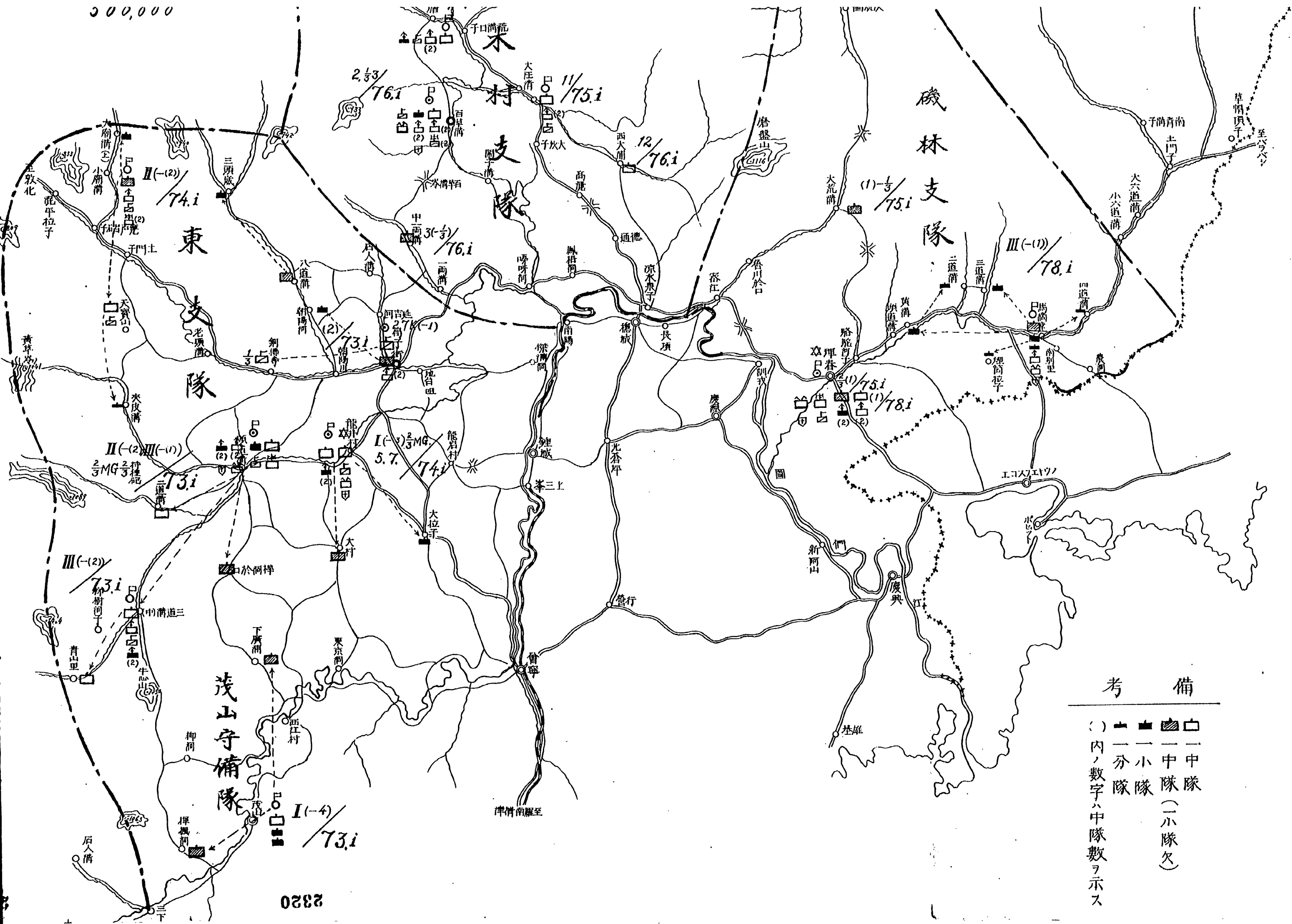
(ルヲ於=旬下月一十年九正火)



圖要置配散分隊討島間春琿

(ルヲ於 = 旬下月一十年九正大)

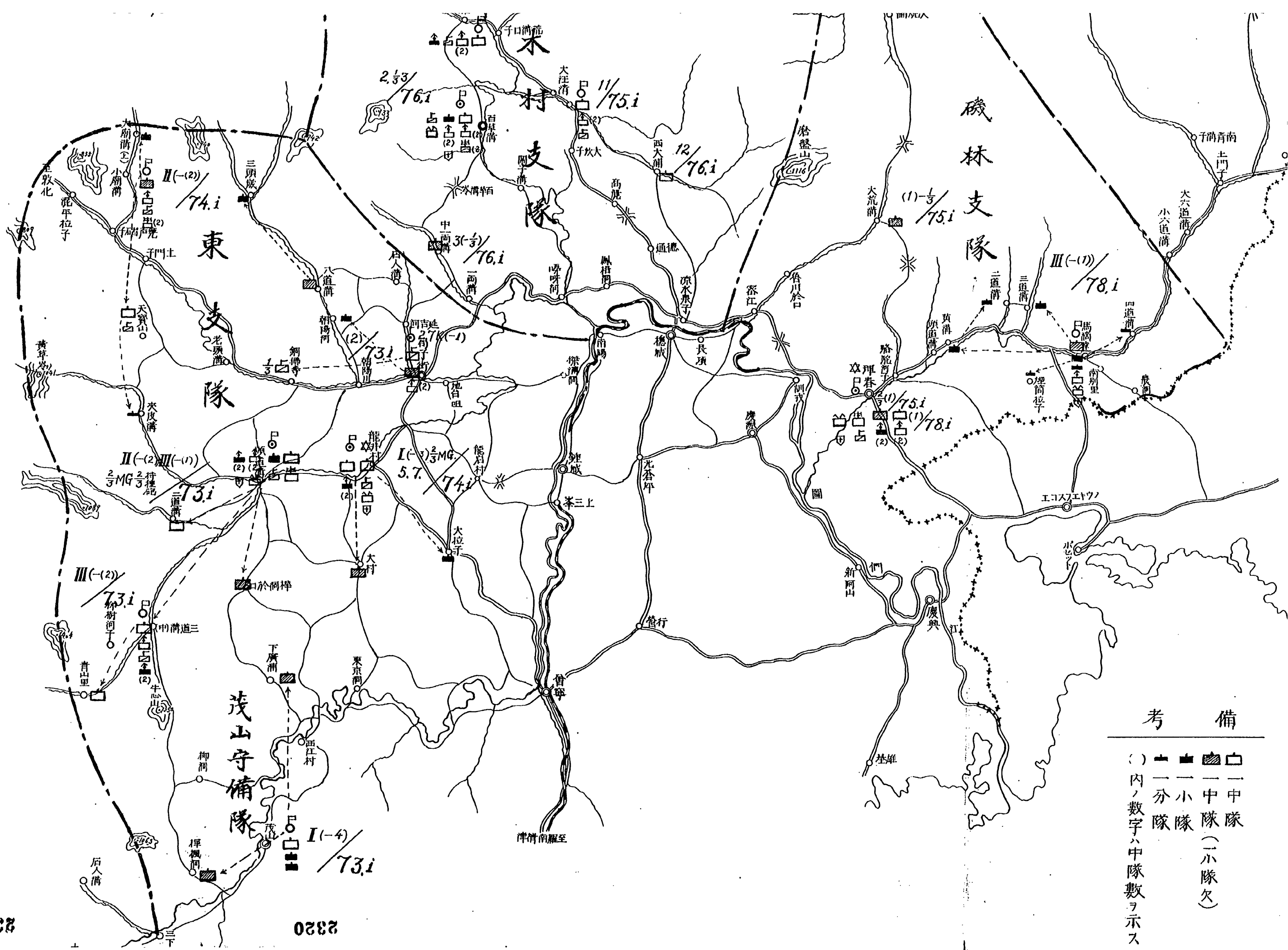




考 備

() 内ノ数字ハ中隊數ヲ示ス

■	中隊
■	中隊 (二小隊欠)
■	小隊
■	一分隊



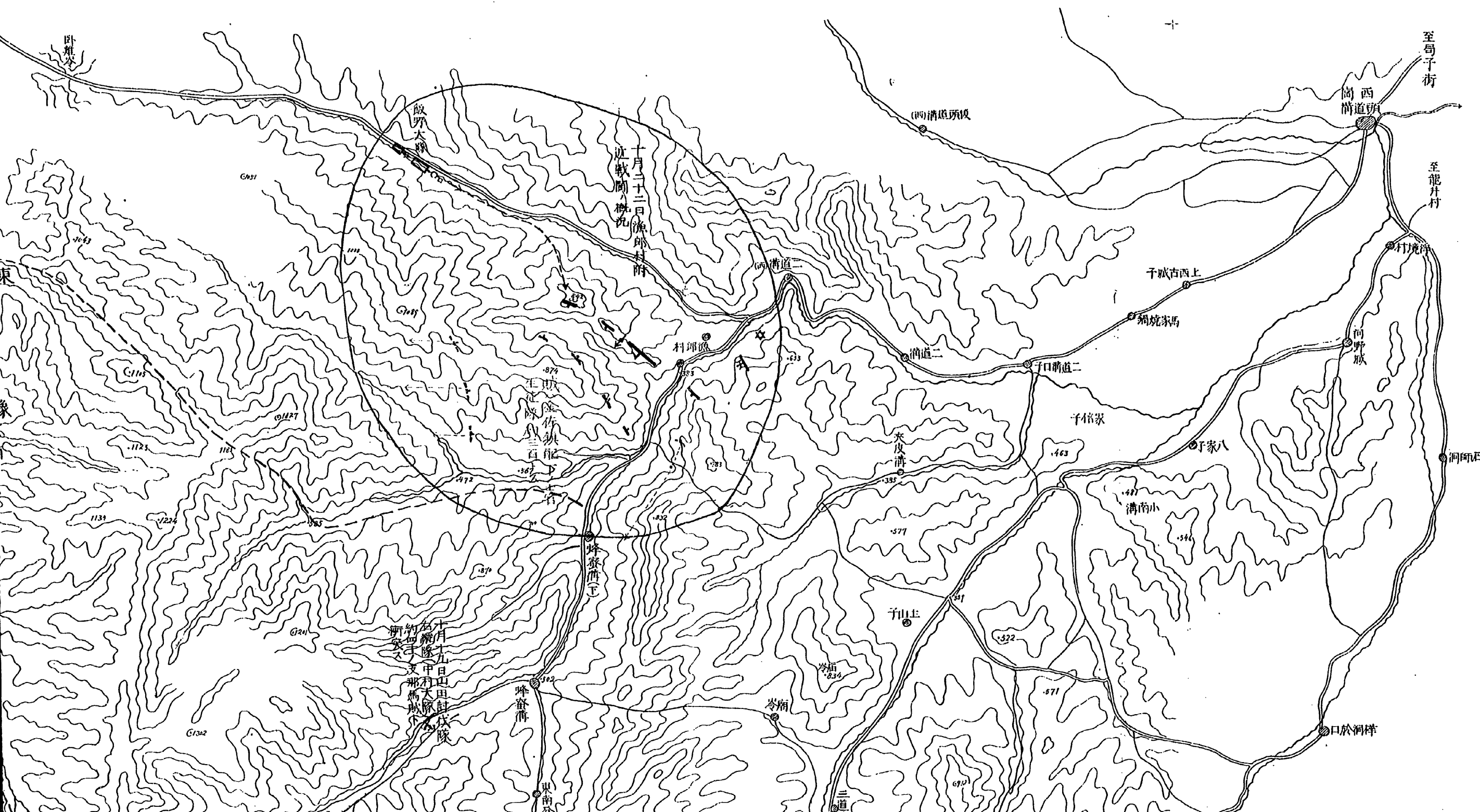
考 備

- () 内ノ数字ハ中隊數ヲ示ス
- 一中隊
 - 一中隊 (二小隊欠)
 - ▣ 一小隊
 - △ 一分隊

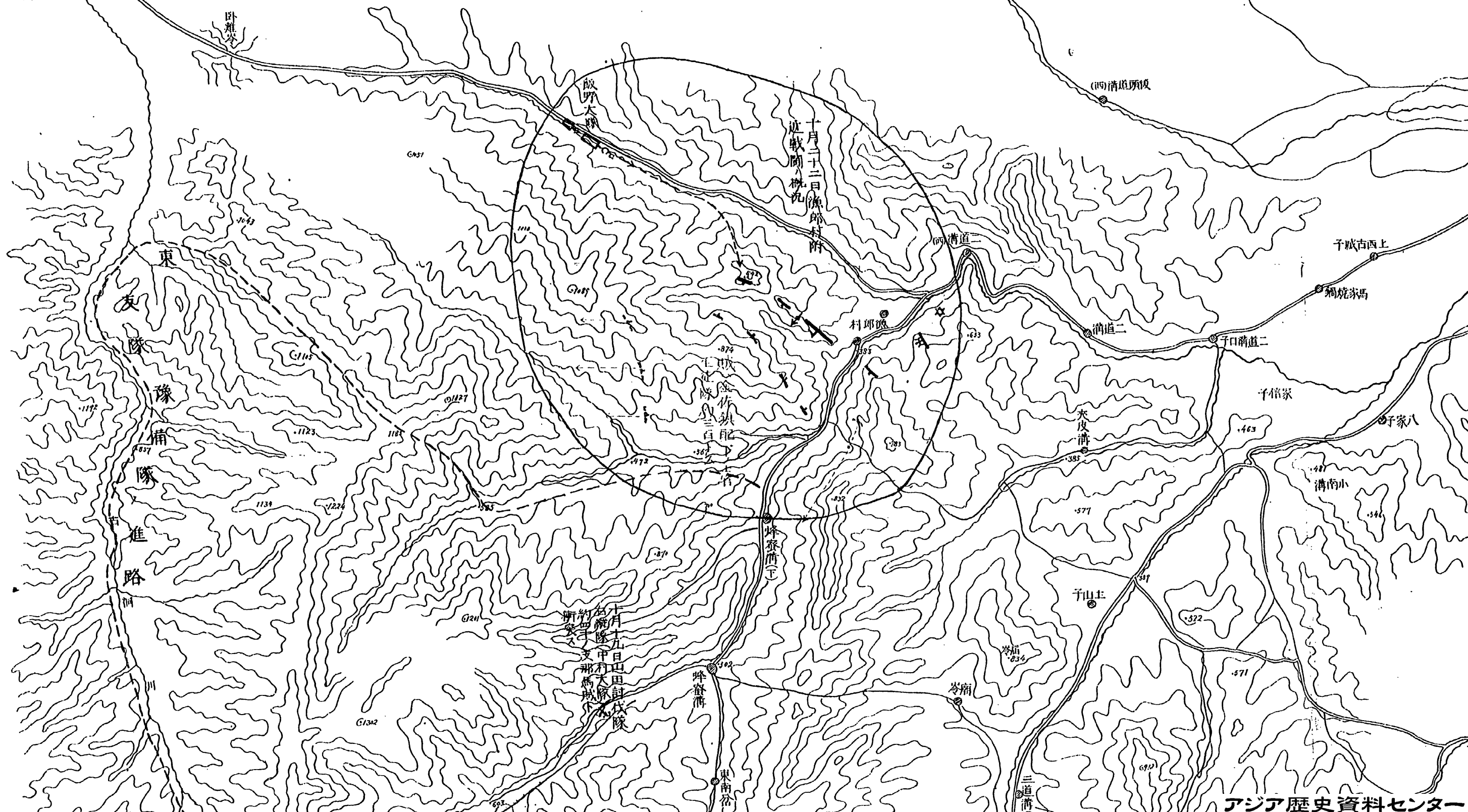
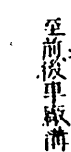
分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	<table border="1"><tr><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>1</td><td>2</td></tr></table>	3	4	1	2
3	4				
1	2				
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため				
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 					

凡於於 = 旬下月十



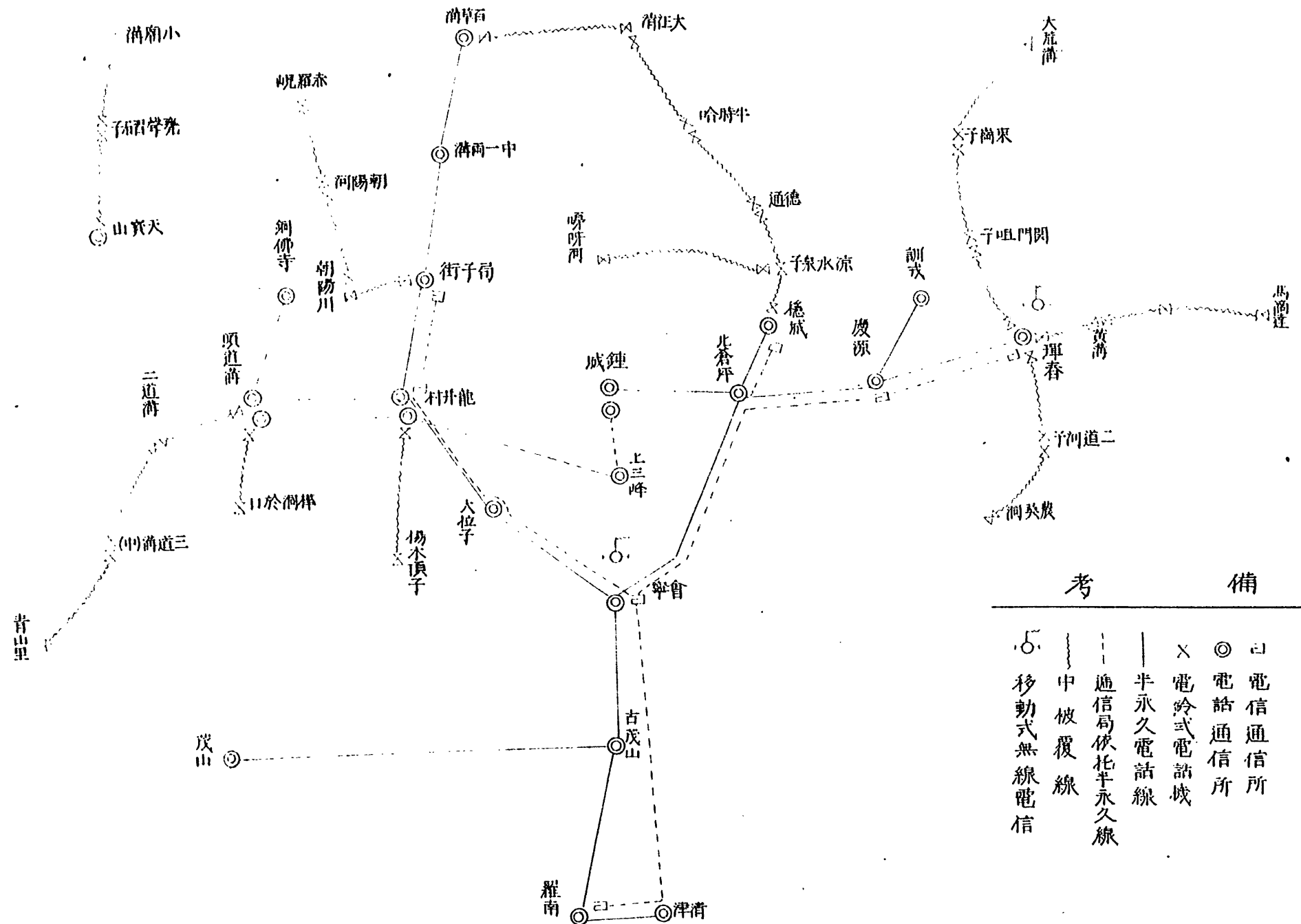
凡於於 = 旬下月十



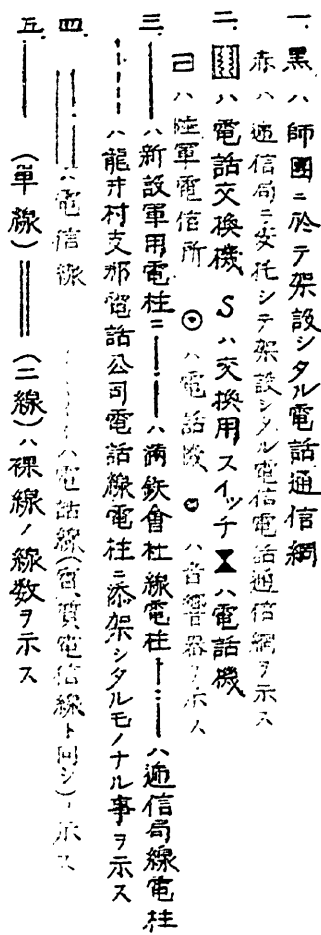
分散配置計劃之通信回線圖

(十一月十八日以後之於ル)

附圖第七

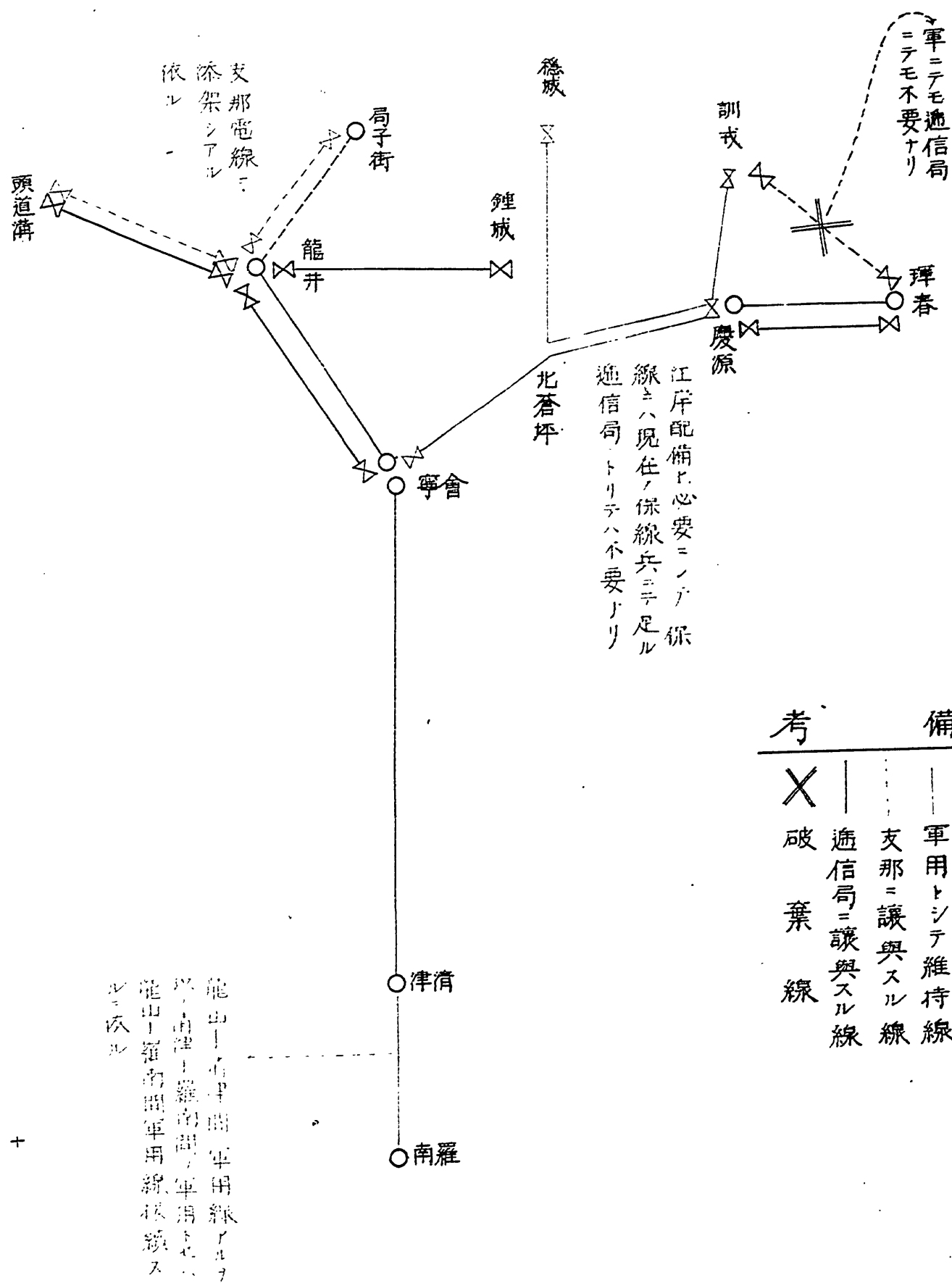


(在現日五十月一年十正大)

 $\wedge$ 

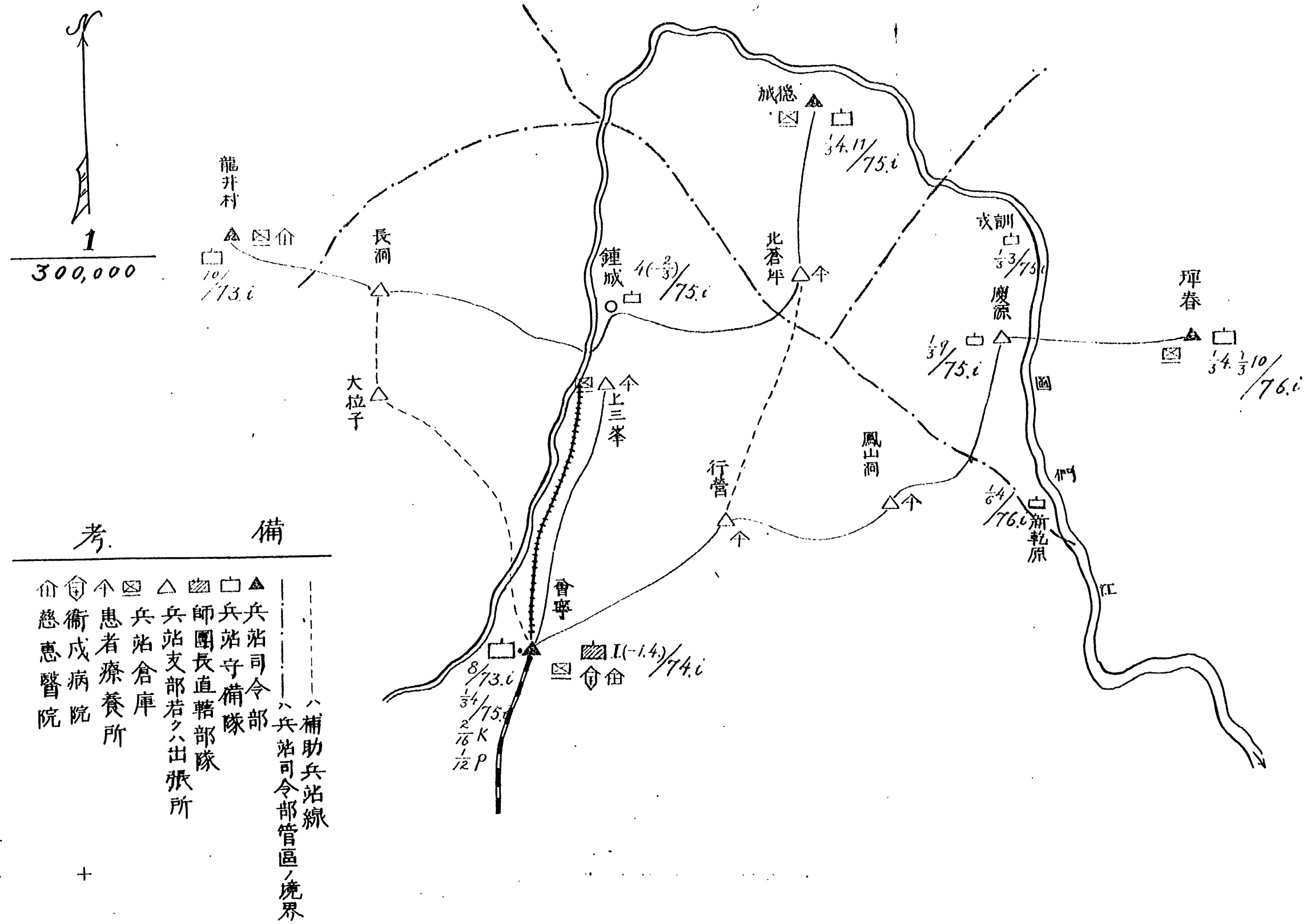
附圖第九

圖、案方理處線用軍後結終件事



緊急出兵時に於ける兵站施設要圖

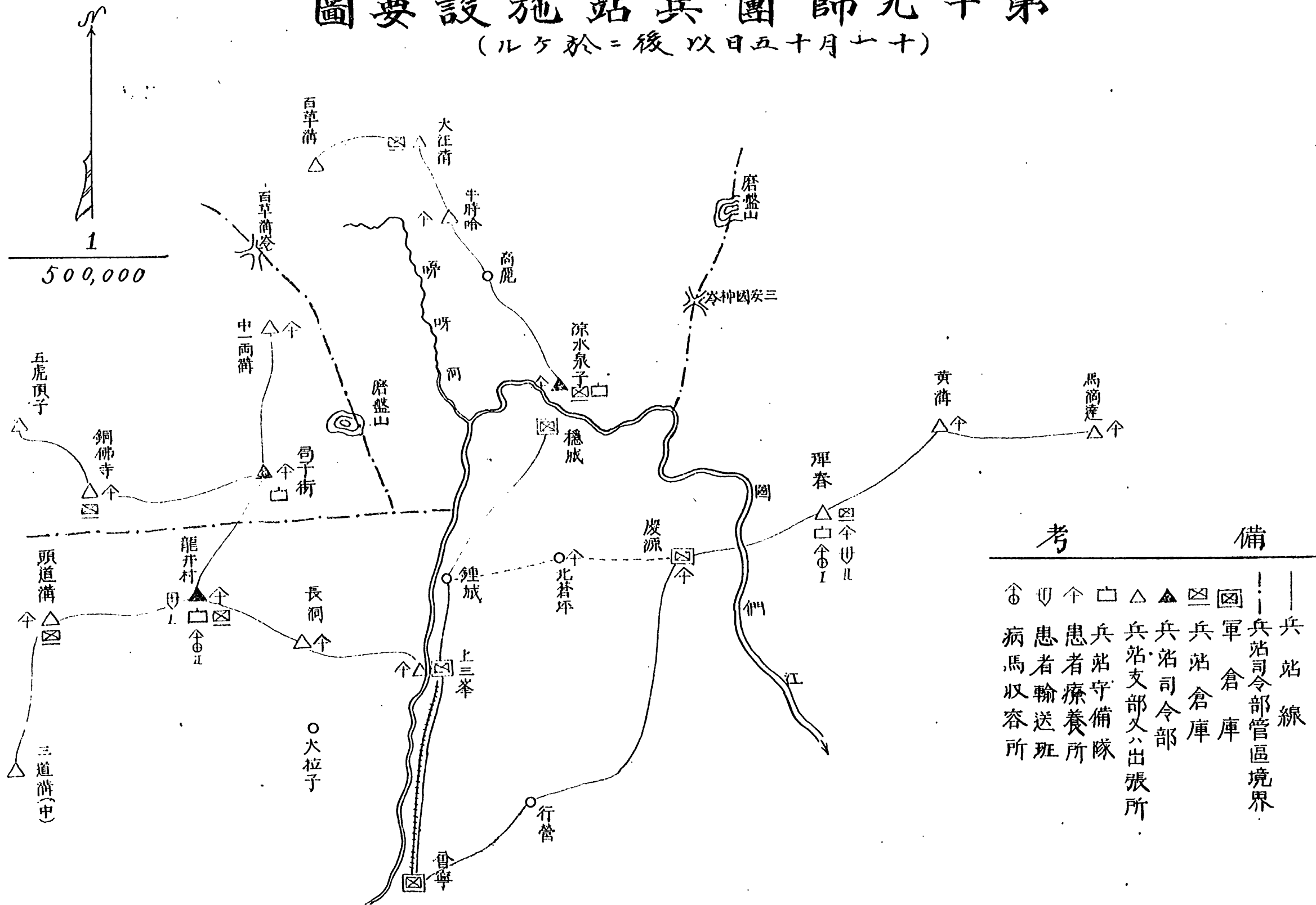
附圖第十



第十師團兵站施設要圖

(十一月十五日以後之状況)

附圖第十一



分割撮影ターゲット

分割した
部分の撮
影 順 序

3	4
1	2

分割撮影
した
理 由

A 3 判以上のため

上記のとおり分割撮影したことを
証明する

7 年 8 月 10 日

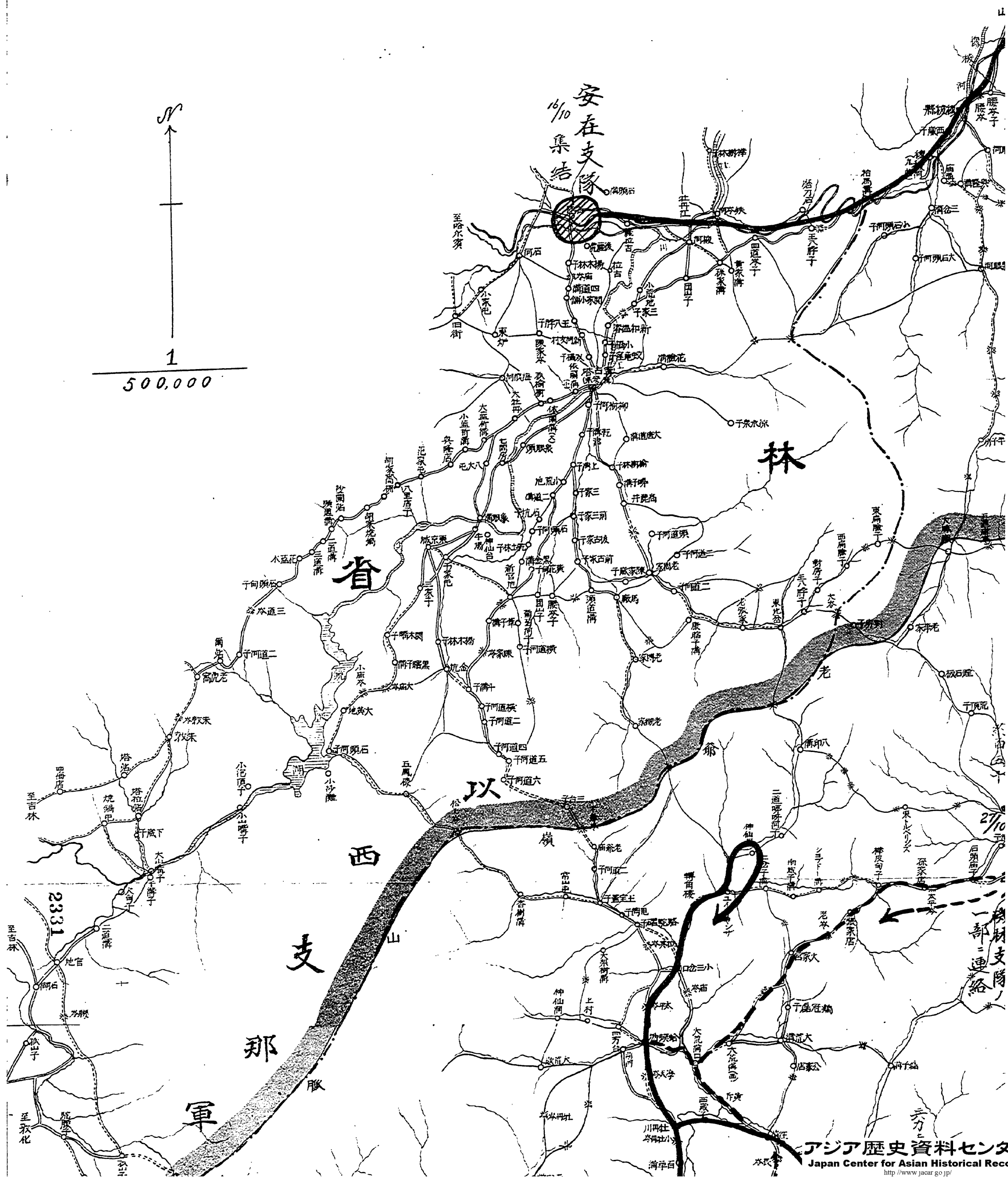
主務者又は

撮影立会者

坂根嘉和 

隊行動概見圖

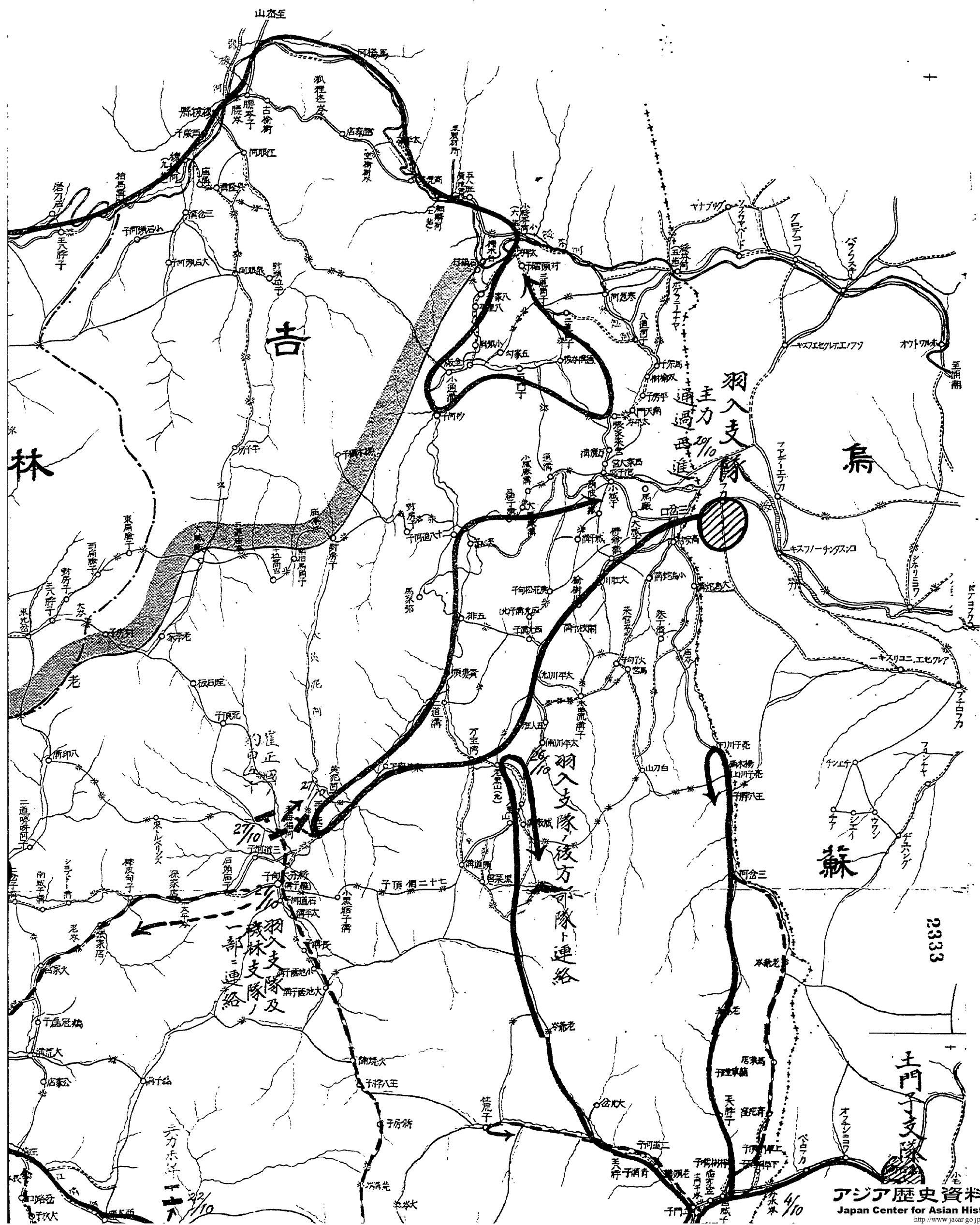
九月十年至同二十年二月

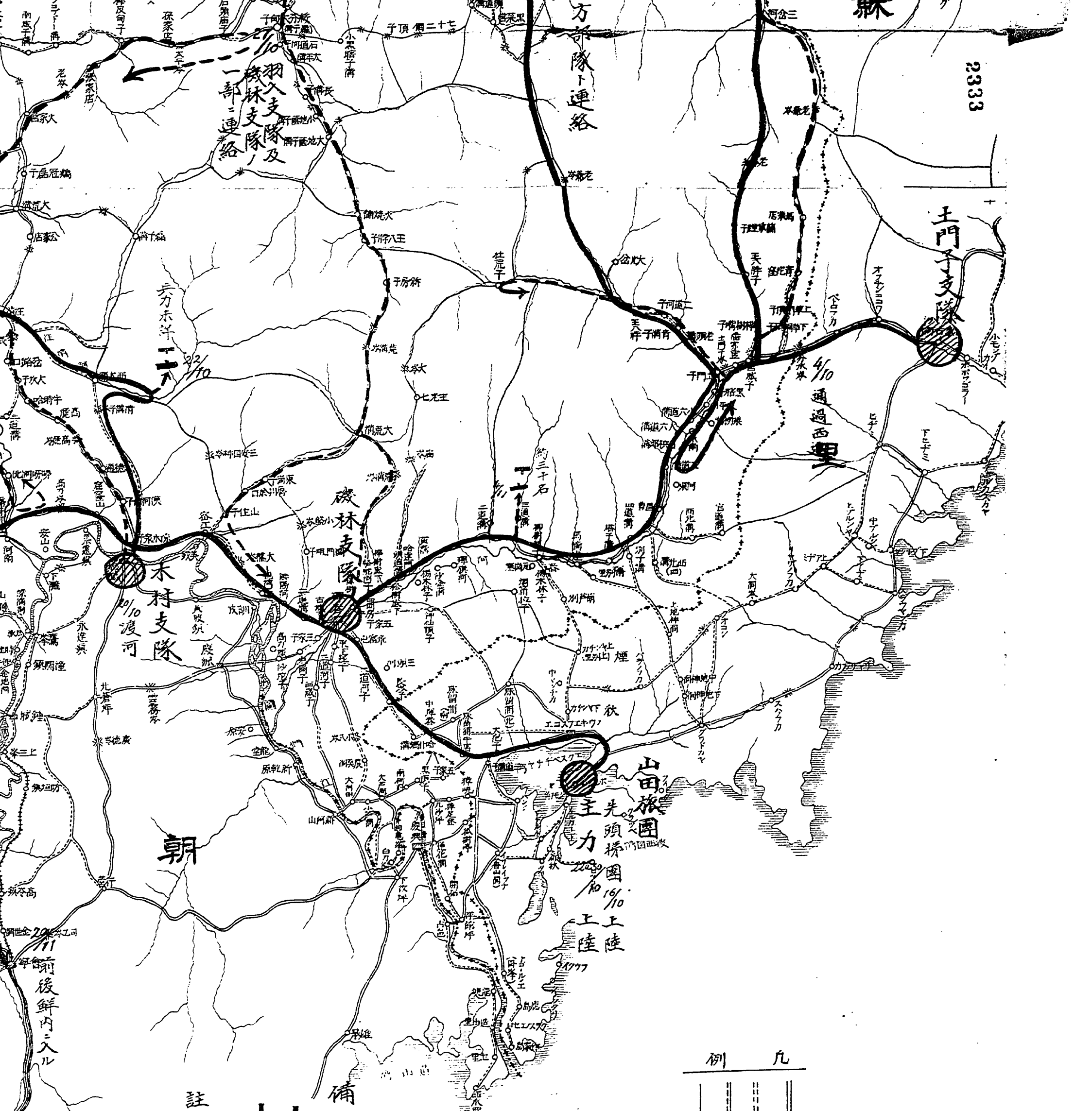


剿討部隊行動

自大正九年十月至同年

附圖第十二

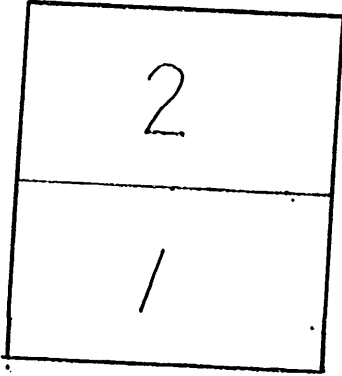




註記
 22/10 八十月二十二日ヲ示ス他ハ之ニ準ス
 備考
 八第十九師團ノ部隊ノ経路ヲ示ス
 八浦潮派遣軍ノ部隊ノ点線ハ支隊一部ノモトス
 色ハ賊ヲ示ス

例	凡
	野砲ヲ通シ得ル道路
	野砲通過ノ為修理ヲ要スル地點
	輕車輛ヲ通シ得ル道路
	駄馬若クハ徒步者道

分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影したことを 証明する 7 年 8 月 10 日 主務者又は 撮影立会者 坂根嘉和 	

大正十年五月末於今

附圖第十三

